

Beautiful Line

スリムダクト

設計・施工資料

RD



# ⚠ 注意事項

「スリムダクトRD」を正しくご使用いただくために、本書「RD設計・施工資料」をよくお読みの上、適切な設計・施工を行ってください。

## スリムダクトRD全般に関する注意事項

- ご使用前に本書「RD設計施工資料」や取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。  
記載内容と異なるご使用や施工によって生じた事項に関しては責任を負いかねます。
- 製品に関するお問い合わせは、当社因幡電工カンパニーの各営業所までお問い合わせください。
- 本製品は防水構造ではありません。防水性を必要とする場合は、接続部や嵌合部などに必ずコーキング処理やパテ埋めなどを施し、防水処理を行ってください。
- 許容荷重を超える負荷を与えないでください。破損や落下の原因になります。
- ボルトやナットなどはしっかりと確実に、なめないようにていねいに締めてください。  
緩みや落下、発錆の原因になります。

## RDダクト(歩路用)について

- RDダクト(歩路用)は、室外機のメンテナンス時に歩路として使用する事を目的に開発されており、通常の通路としてのご使用は避けてください。
- 歩行の際は安全の為、必ず手袋・ヘルメットなどの着用を行ってください。
- 取付架台は、直線ダクトおよび各パーツの指定された位置にて取り付けを行い、床面に対ししっかりと固定を行ってください。またジョイントパーツ使用部での取り付けはしないでください。
- ジョイントパーツ使用部およびダクトエンド部付近は歩路として使用しないでください。

## スリムダクトRD-ZAについて

- 溶融亜鉛めっき仕上げ(HDZ)と同様に白錆びが発生しますが、白錆びが保護皮膜として働きますので、耐食性を著しく低下させる事はありません。
  - 溶融亜鉛めっき仕上げ(HDZ)と同様に黒変現象が発生しますが、耐食性を低下させることはありません。
  - ダクト内面側のナット溶接部における黒色のスス、酸化を促進させるものではなく、使用上の問題ははありません。
  - 端面部は、鋼素地が露出しているため初期の赤錆が発生しますが、施工後数ヶ月で平面部のめっき層から溶け出したアルミニウム、マグネシウムを含む緻密な亜鉛系保護皮膜が端面部を覆うことにより、優れた耐食性を発揮すると同時に、色も徐々に灰色～灰黒色に変化していきます。(端面部の耐食性発現機構は、【5.2】参照)
  - 表面処理を行っていませんので切断端部が露出しております。ケガをする恐れがありますので、必ず作業着や手袋などを着用したうえで施工を行ってください。
  - 製品加工上やむを得ず加工痕がつく事がありますが、鉄素地が露出する事はなく耐食性能を低下させることはありません。
  - 現場での切断加工を行った際には、必ずジンクリッチ(Zn-Al)系の塗料による補修処理を行ってください。
- ZAタイプの外観変化について
- 高耐食性溶融亜鉛めっき鋼板の表面は、
1. マグネシウム含有の亜鉛-アルミニウム系保護皮膜
  2. マグネシウム含有亜鉛系保護皮膜
- の二重構造の緻密な酸化皮膜を形成し、めっき表面の保護皮膜としてはたります。
- この保護皮膜は非常に薄いことから光を透過して下地亜鉛の光沢が見えますが、時間の経過および環境の影響で酸化皮膜は厚くなり光が透過しなくなり、光沢を失い灰黒色を呈します。これを黒変および黒化といえます。
- ZAタイプの白錆について
- 高耐食性溶融亜鉛めっき鋼板は、めっき層に鉄よりモイオン化傾向
- が大きい亜鉛を含有していますので、めっき鋼板の切断端面部やキズによる欠陥が生じた表面部分は、犠牲防食作用が働き、亜鉛の水酸化物(白錆び)により鉄素地の腐食を抑制します。
- また、めっき鋼板の表面は、空気中の二酸化炭素と水と反応し、表面に亜鉛の水酸化物(白錆び)が形成され、その皮膜により腐食の進行を抑制します。この、亜鉛の水酸化物(白錆び)は、めっき鋼板の表面上にほぼ均一に発生しますが、結露などにより、亜鉛の水酸化物(白錆び)の生成が促進された場合や、めっき層が損傷した場合に、2時間程度の短時間で局部的に発生するケースもあります。よって、施工時に表面の保護皮膜を出来るだけ損傷させないようにすることが長期的な耐食性能を維持させるために重要となりますので、取り扱いおよび保管には十分注意してください。
- 取り扱い時の注意事項
- 1) 表面に損傷を与えないこと。
  - 2) 仮置きする場合は地面に直接に置かないこと。  
(木材以外の材料で隙間を取る)
  - 3) 積み重ねた状態での雨中の荷役を避けること。
  - 4) 施工時もしくは施工後に酸性およびアルカリ性の薬液(洗浄液含む)を使用する場合は、シートなどで覆い薬液の飛沫がからないように養生を行うこと。
  - 5) 施工前もしくは施工後に銅などの配管などの切断加工などを行う場合もシートなどで覆い、金属粉末がからないように養生を行うこと。
- 保管時の注意事項
- 1) 通風のよい室内に保管すること。
  - 2) 屋外保管では、水はけのよい場所に地面との隙間をあけておくこと。
  - 3) 屋外保管の場合、雨天時は完全にシートで覆い、晴天になったら速やかにシートをはずすこと。海上輸送、岸壁保管などでは海水の飛沫がからないようにすること。
  - 4) 積み重ねての保管については、部品毎の隙間を木材以外の緩衝材で十分とり、地面と隙間はそれ以上に取ること。

## スリムダクトRD-SUSについて

- ステンレスはサビにくい材質ですが、塩害地域や異種金属との接触、ならびに強酸性の環境においてサビが発生する場合があります。

## 「RD設計施工資料」使用上のご注意

- 本書「RD設計施工資料」の内容は、編集時点の内容に基づきます。より良い製品を作っていくため、製品の仕様・価格などは予告なく逐次変更となる場合がございますのであらかじめご了承ください。また、それに伴い施工内容が変更になる場合がございますので、お手持ちの「RD設計施工資料」が最新版であるかどうか、ご確認いただいた上でご利用ください。
- ご使用になられている「RD設計施工資料」が最新版かどうかのご確認は、当社ウェブサイト(inaba-denko.com)のデジタルカタログのページをご覧ください。当社因幡電工カンパニーの各営業所までお問い合わせください。
- 本書に掲載されている寸法は、特に断りが無い限り、誤差を含まない呼称寸法(規準寸法)です。

## データ 利用条件(使用許諾契約)

- 本書に掲載されているデータご利用になる前に、以下の条件を十分お読みください。もし、この条件についてご同意頂けない場合は、データのご利用はお控えください。
- データをご利用された場合は、この利用条件をご承諾頂いたものとさせていただきます。
- 本書に掲載されているデータは、当社商品をお使い頂く製品・設計などの検討のみにご使用ください。  
上記目的以外での本データの使用は禁止いたします。

- 本書に掲載されているデータは当社商品の仕様を保証するものではありません。  
これらデータを使用したことによって生じた損害については、理由の如何に関らず一切保証致しません。
- この本書に掲載されている図・表などから抽出される値については、実際の商品と一致することを保証するものではありません。
- 商品改良等のために、予告なしにデータの内容を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
- 掲載されているデータを因幡電機産業(株)の許可無く、改竄、転載および配布する事を禁じます。
- 本書のご利用は自己責任でお願いします。

快適環境を創造する  
多系統エアコン配管ダクト

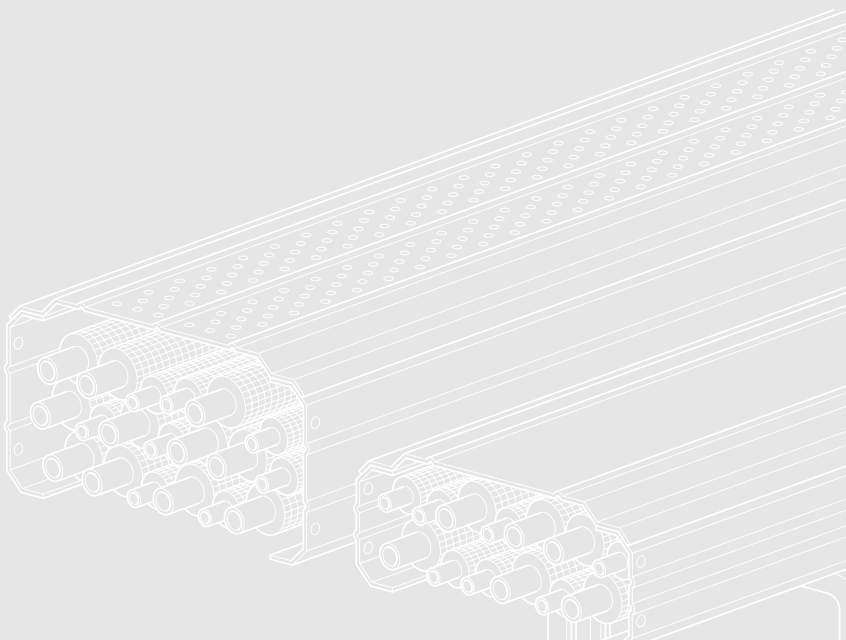
# Beautiful Line スリムダクトRD

## 設計・施工資料

設計編 ..... P1~P65

施工編 ..... P67~P149

資料編 ..... P151~P157



設計編	施工編	資料編		
仕様	PSおよび壁貫通	RD-ZAタイプの耐食性について		
			架台	積雪に関する考え方
ダクト	接続	銅管		
			PS及び壁貫通	コーナーパーツ
接続方法	底板	その他		
			架台	底板
コーナー	底板	その他		
			底板	その他
その他のパーツ	その他	その他		
			全体の設計	施工手順
個別設計	その他	その他		

## 設計編

1 仕様	1	3.3 接続方法	29
1.1 製品構成	2	3.3.1 接続方法の選定表	29
1.1.1 商品一覧	2	3.3.2 ジョイントレス接続	30
1.1.2 製品バリエーション	3	3.3.3 RSJ 固定ジョイント	30
1.1.3 各部名称	3	3.3.4 RFJ フリージョイント	30
1.2 仕様	3	3.3.5 RSS スライドジョイント	32
1.2.1 材質	3	3.3.6 RR 異径ジョイント	32
1.3 製品重量	4	3.3.7 900/900Hのコーナーパーツ接続	33
1.3.1 ダクト	4	3.3.8 900/900Hのジョイント(1) RXJ	33
1.3.2 パーツ	5	3.3.9 900/900Hのジョイント(2) RXR	33
1.3.3 架台	5	3.4 架台	34
1.4 耐荷重および強度	6	3.4.1 製品構成	34
1.4.1 ベース(親桁+子桁)の許容荷重	6	3.4.2 耐荷重	34
1.4.2 フタ強度(許容荷重)	6	3.4.3 150タイプの架台選定表(床置き)	34
1.4.3 取付架台耐荷重(許容荷重)	6	3.4.4 150タイプ以外の架台選定表(床置き)	35
1.5 収納能力	7	3.4.5 壁面施工の架台選定表(基本施工例)	35
1.5.1 ビッグタイホルダー(チャンネル用)BHC使用時	7	3.4.6 取付可能箇所事例	36
1.5.2 配管固定を行わない場合の配管収納系統数目安表 (保温材厚=液管:10mm×ガス管:10mm)	8	3.4.7 取付可能箇所	37
1.5.3 配管固定を行わない場合の配管収納系統数目安表 (保温材厚=液管:10mm×ガス管:20mm)	9	3.4.8 標準設置間隔	38
1.5.4 配管固定を行わない場合の配管収納系統数目安表 (3本配管システムの場合)	10	3.4.9 架台設置事例	39
2 全体設計	11	3.4.10 RZC 立面用架台固定板	40
2.1 基本的な設計の流れ	12	3.4.11 RBK-B 子桁用補助金具	40
2.2 設置方法・床置き	14	3.4.12 RBK-A 親桁用補助金具	40
2.2.1 架台を使った設置	14	3.4.13 RZY 架台2段用ガイド	41
2.2.2 H鋼/溝形鋼を使った設置	14	3.4.14 RDY 配管保持台	41
2.2.3 チャンネルを使った設置	14	3.4.15 RKT RD形鋼止め金具	41
2.3 設置方法・壁面	15	3.4.16 RCT RDチャンネル止め金具	42
2.3.1 壁面(縦引き)施工の種類	15	3.4.17 固定(床施工)	42
2.3.2 タイプ別壁面施工法の可否	15	3.5 コーナー	43
2.3.3 壁面取り付け条件(直付)	16	3.5.1 コーナーパーツの種類	43
2.3.4 壁面取り付け条件(浮かし)	17	3.5.2 RE 平面コーナー90°	44
2.4 設置方法・天吊り	18	3.5.3 RF 平面コーナー45°	45
2.4.1 天吊り上の留意点	18	3.5.4 RFS フレキシブルコーナー	47
3 個別設計	19	3.5.5 RT T字型分岐ジョイント	48
3.1 ダクト	20	3.5.6 RXN/RX 十字型分岐ジョイント	49
3.1.1 製品構成	20	3.5.7 RCF 立面コーナー45°	51
3.1.2 耐荷重	20	3.5.8 RC/RCI/RCO 立面コーナー90° (150~600H)	54
3.1.3 ダクトの選定	20	3.5.9 RCI/RCO 立面コーナー90° (900/900H)	57
3.1.4 壁面/天吊り施工について	20	3.5.10 立面コーナーへの架台取付	59
3.1.5 架台の取り付け箇所(床置き)	21	3.6 底板	60
3.1.6 設計上の注意点	21	3.6.1 底板施工の種類	60
3.1.7 ダクトの切断	21	3.6.2 底板使用可能箇所	61
3.2 PSおよび壁貫通	22	3.6.3 底板施工の使用パーツ一覧	62
3.2.1 PSおよび壁貫通の施工例(屋外床置き)	22	3.7 その他のパーツ	63
3.2.2 RWP ウォールプレートを使用した工法	23	3.7.1 RXH フタ補強板	63
3.2.3 RSP/RSPR 止水プレートを使用した工法	24	3.7.2 RSK RDダクト仕切金具 - Hタイプ用	63
3.2.4 RSB 止水スリーブを使用した工法	24	3.7.3 RDK RD子桁セット	64
3.2.5 RSPC 止水プレート保護カバーの取り付け	25	3.7.4 REC エンドキャップ	64
3.2.6 CB チャンバーボックスを使用した工法(正面取り出し)	26	3.7.5 RPH PD保持金具	65
3.2.7 CB チャンバーボックスを使用した工法(下面取り出し)	27	3.7.6 KW キャットウォーク	65
3.2.8 チャンバーボックスを使用した工法(自作)	28		
3.2.9 壁貫通工法(屋内)	28		

## 施工編

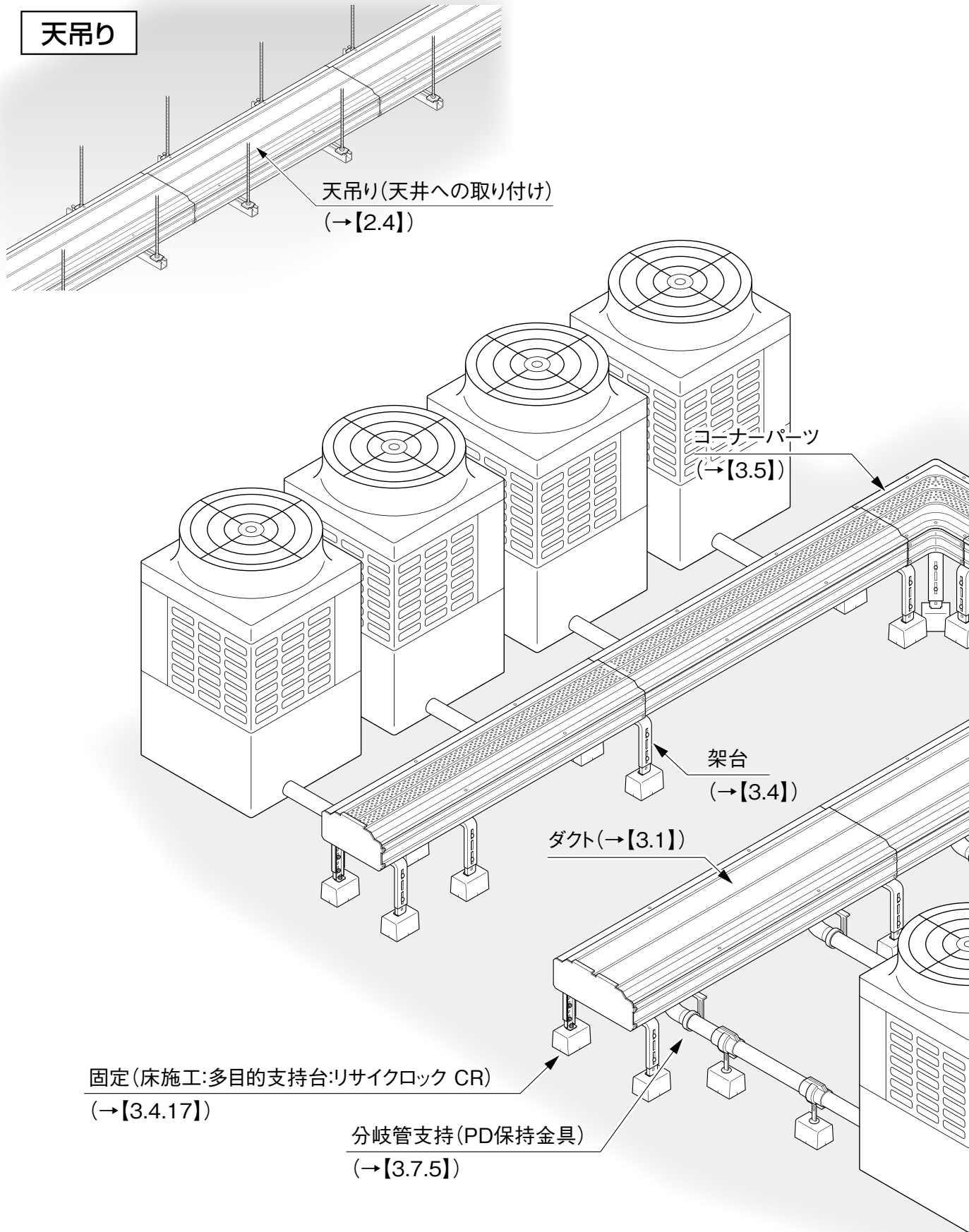
4 施工手順	67	4.6 コーナーパーツ	108
4.1 施工の進め方	68	4.6.1 コーナーパーツ一覧	108
4.1.1 施工の進め方	68	4.6.2 RE 平面コーナー90°	109
4.1.2 組立用工具	68	4.6.3 REW 平面コーナー90°(歩路用)	111
4.2 PSおよび壁貫通	69	4.6.4 RF 平面コーナー45°	112
4.2.1 工法一覧	69	4.6.5 RFW 平面コーナー45°(歩路用)	114
4.2.2 RWP ウォールプレート	70	4.6.6 RFS フレキシブルコーナー	116
4.2.3 RSP 止水プレート	71	4.6.7 RFSW フレキシブルコーナー(歩路用)	118
4.2.4 RSB 止水スリーブ	73	4.6.8 RT T字型分岐ジョイント	120
4.2.5 RSPC 止水プレート保護カバー	74	4.6.9 RTW T字型分岐ジョイント(歩路用)	122
4.2.6 CB チャンバーボックス	75	4.6.10 RXN/RX 十字型分岐ジョイント	123
4.3 架台	78	4.6.11 RXNW/RXW 十字型分岐ジョイント(歩路用)	125
4.3.1 架台用パーツ一覧	78	4.6.12 RCI 立面コーナー90°(立上り)	127
4.3.2 RZ(RZM+RZB) RD取付架台 (300~900用)	79	4.6.13 RCO 立面コーナー90°(立下り)	129
4.3.3 RZ-150、RZW RD取付架台(150用)	81	4.6.14 RC 立面コーナー90°(150)	132
4.3.4 RZC 立面用架台固定板	83	4.6.15 RCF 立面コーナー45°	133
4.3.5 RZY 架台2段ガイド	84	4.7 底板	135
4.3.6 RDY 配管保持台	85	4.7.1 底板一覧	135
4.3.7 RZH RD架台補強板	85	4.7.2 RDB RDダクト底板セット	136
4.3.8 FL-B-Z クロスロックBタイプ(屋外仕様)	86	4.7.3 REB 平面コーナー90°底板セット	139
4.3.9 RBK-B 子桁用補助金具	86	4.7.4 RFB 平面コーナー45°底板セット	140
4.3.10 RBK-A 親桁用補助金具	87	4.7.5 RTS T型分岐ジョイント用底板セット	141
4.3.11 RKT 形鋼用止め金具	88	4.7.6 RDBJ ジョイント用底板	142
4.3.12 RCT RDチャンネル止め金具	88	4.7.7 RJB 後付け用ジョイント底板	143
4.3.13 CR リサイクロック ー 多目的支持台	89	4.7.8 RNB ネット底板	144
4.3.14 PB 樹脂製基礎型枠	90	4.8 その他	145
4.4 RDダクト(直管)	91	4.8.1 その他の部材一覧	145
4.4.1 RD ダクト	91	4.8.2 REC エンドキャップ	146
4.4.2 RDW ダクト歩路用	92	4.8.3 RPH PD保持金具	147
4.4.3 RD/RDW 組付例	93	4.8.4 RDK RD子桁セット	148
4.4.4 RD/RDW ジョイントレス接続<簡易組付方法>	94	4.8.5 RSK RDダクト仕切金具 ー Hタイプ用	148
4.5 接続	95	4.8.6 KW キャットウォーク	149
4.5.1 接続方法およびパーツ一覧	95	4.8.7 KWT キャットウォーク用手摺	149
4.5.2 ジョイントレス接続	96		
4.5.3 RSJ 固定ジョイント	97		
4.5.4 RFJ フリージョイント	99		
4.5.5 RR 異径ジョイント(ジョイント型)	102		
4.5.6 RR 異径ジョイント(プレート型)	103		
4.5.7 RXR 900(H)タイプ コーナーパーツ用異径ジョイント	104		
4.5.8 RXJ 900(H)タイプ コーナーパーツ用ジョイント	105		
4.5.9 RSS スライドジョイント	106		

## 資料編

5 資料	151	5.3.2 RDにおける積雪荷重計算(例)	154
5.1 国土交通省仕様	152	5.3.3 その他の留意点	155
5.1.1 国土交通省機械設備工事標準仕様書	152	5.4 銅管	156
5.1.2 国土交通省機械設備工事監理指針	152	5.4.1 銅管規格表	156
5.2 RD-ZAタイプの耐食性について	153	5.4.2 配管重量(参考値)	156
5.3 積雪に関する考え方	154	5.5 SI単位	157
5.3.1 建築基準法	154	5.5.1 SI単位表	157
		5.5.2 SI単位換算表	157

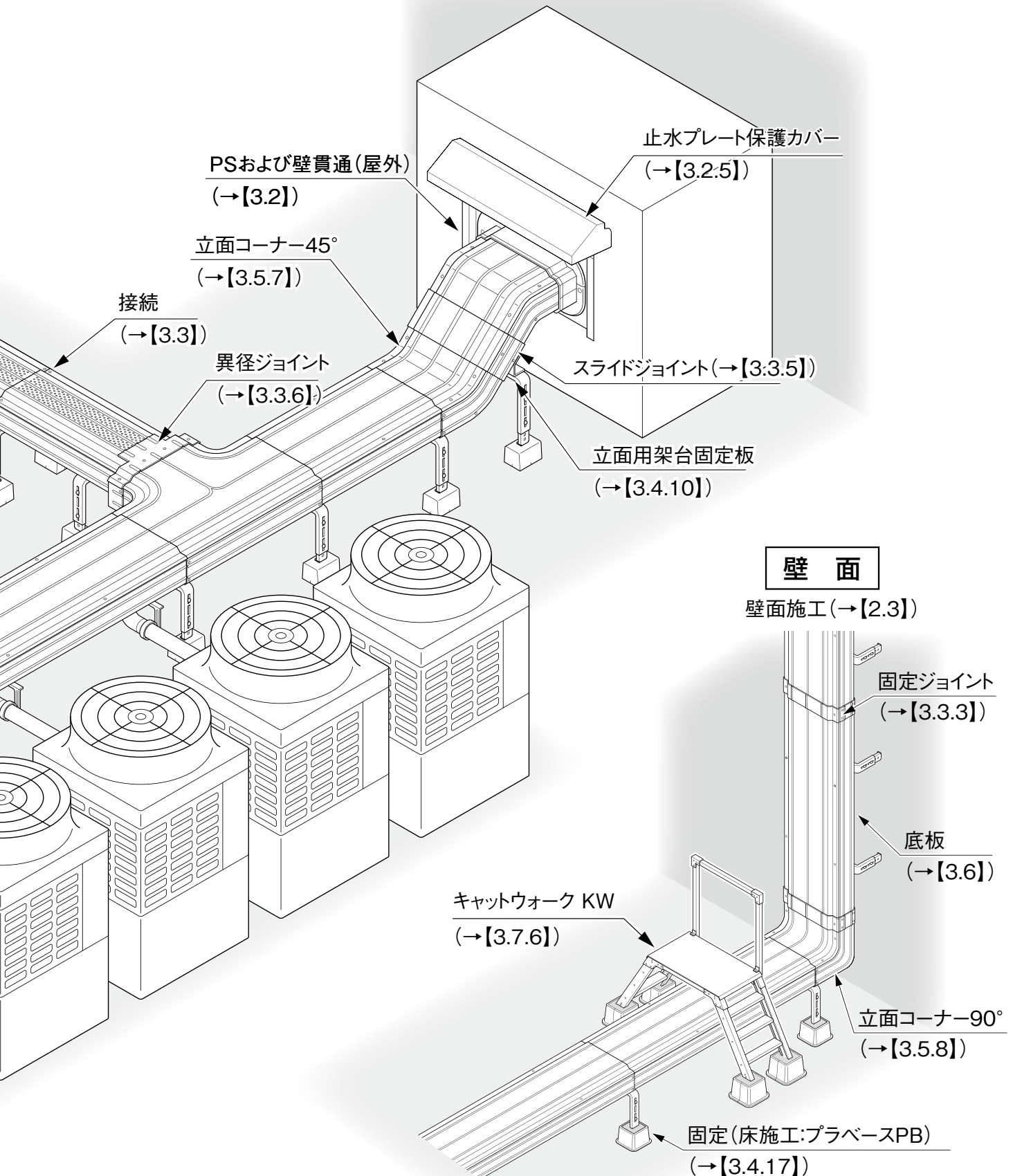
# 施工イメージ

## 天吊り



# 施工イメージ

スリムダクトRDは、主に空調用の被覆銅管の多系統収納及びその保護を目的とした配管化粧カバーです。スリムな形状による美観性、十分な耐候性・耐久性を有する性能、特殊な工具を使わず接続部材無しに組み立て可能な施工性を備えた製品です。シリーズ発売以来、多種多様なパーツの開発・改良などを重ねることによりビル空調用冷媒配管ダクトのスタンダードとして様々な現場でご使用いただいております。



# 特長

美  
Beauty

## スリムな仕上がり、きれいに収納

### 美しい仕上がり

直線と曲線のラインを組み合わせたスリムな仕上がりで、きれいに配管を収納します。



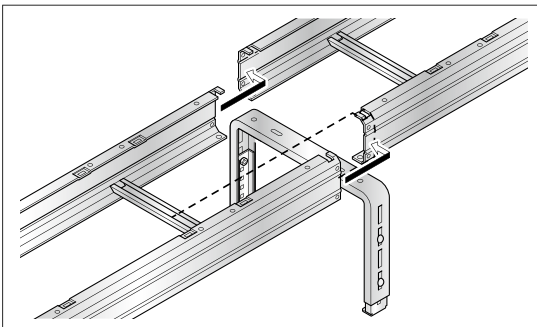
機能  
Function

## 優れた施工性

### 接続部材無しに接続可能な構造

一般的なダクト施工において必要な接続部材を使用せずにダクトの接続が可能。ダクト同士を直接ボルト・ナットで固定するため施工が簡単です。\*

\*一部サイズを除く。



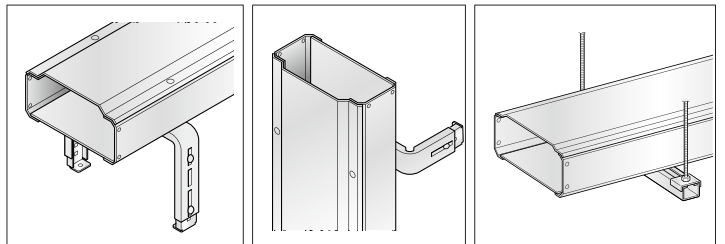
### 簡単な施工設計

部材の接続・ダクトの組み立ては特殊な工具を必要とせず、納入日から施工を始められます。

### 多様な据付方法

床置き、壁付、天井吊りなど多様な取り付け方法がおこなえ、工事内容にあわせて自由に設計計画ができます。\*

\*一部サイズを除く。

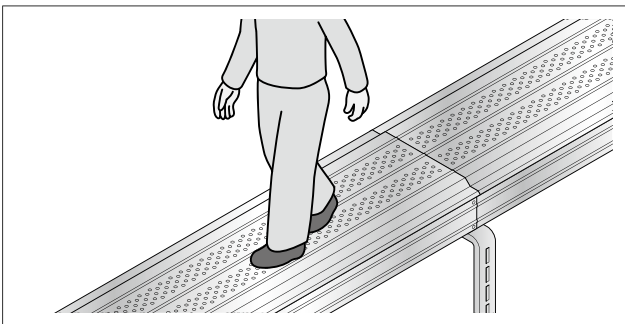


強靱  
Tough

## 優れた耐荷重性・耐久性・耐候性・耐疵付性

### 荷重に強い

室外機などのメンテナンス時にダクトの上を歩行できる歩路タイプや、耐荷重性に優れた各種架台を用意いたしました。



### 優れた耐久性、耐候性

素材は耐久性・耐候性に優れた、高耐食性溶融亜鉛めっき鋼板\*1とステンレス鋼板\*2(受注生産)の2種類をご用意いたしました。

特に高耐食性溶融亜鉛めっき鋼板は、ステンレス(SUS304)が使えない重塩害地域でも使用可能なほどの耐候性を有しています。

\*1 JIS G 3323 SGMCC-SNC K27 適合品

\*2 JIS G 4305 SUS304 適合品

### 優れた耐疵付性

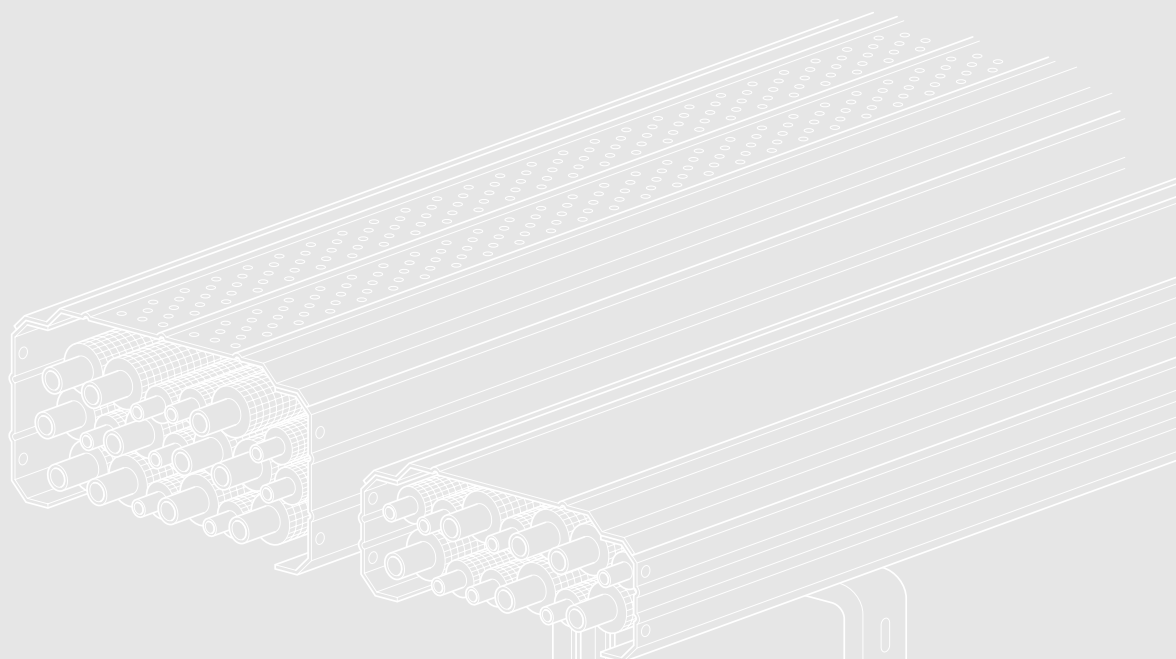
高耐食性溶融亜鉛めっき鋼板は、めっき層に含まれるマグネシウムの効果により、ガルバリウム鋼板や溶融亜鉛めっき鋼板にくらべてめっき層が硬く、優れた耐疵付性があります。

また、キズがついても数ヶ月で亜鉛系保護皮膜がキズを覆い、優れた耐食性を発揮します。

# 設計編

## 1 仕様

製品構成	.....	P2
仕様	.....	P3
製品重量	.....	P4~P5
耐荷重および強度	.....	P6
収納能力	.....	P7~P10



設計編

仕様  
製品構成  
仕様重量  
耐荷重及び  
強度

仕様  
収納能力

設計の流れ  
基本的な  
設計の流れ

設置方法  
（床置き）

設置方法  
（壁面）

設置方法  
（天井）

ダクト

壁貫通  
PS及び

接続方法

個別設計  
架台

コーナー

底板

その他の  
パーツ

## 1.1 製品構成

### 1.1.1 商品一覧

<表1.1.1-1>

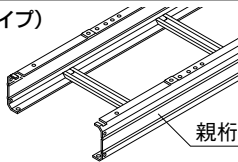
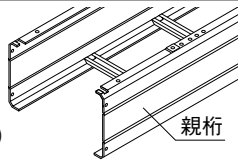
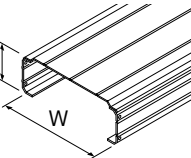
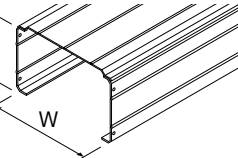
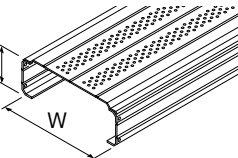
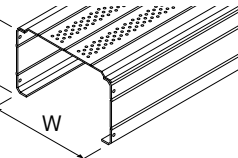
品目	品名	型番(ダクトサイズ省略)	関連項目	
			設計編	施工編
直管	RDダクト	RD	【3.1】	【4.4】
	RDダクト(歩路用)	RDW	【3.1】	【4.4】
エルボ	平面コーナー 90°	RE	【3.5.2】	【4.6.2】
	平面コーナー 90°(歩路用)	REW	【3.5.2】	【4.6.3】
	平面コーナー 45°	RF	【3.5.3】	【4.6.4】
	平面コーナー 45°(歩路用)	RFW	【3.5.3】	【4.6.5】
	フレキシブルコーナー	RFS	【3.5.4】	【4.6.6】
	フレキシブルコーナー(歩路用)	RFSW	【3.5.4】	【4.6.7】
	立面コーナー 45°	RCF	【3.5.7】	【4.6.15】
	立面コーナー 90°(立上り)	RCI	【3.5.8】	【4.6.12】
	立面コーナー 90°(立下り)	RCO	【3.5.8】	【4.6.13】
	立面コーナー 90°(150用)	RC	【3.5.8】	【4.6.14】
チーズ	T字型分岐ジョイント	RT	【3.5.5】	【4.6.8】
	T字型分岐ジョイント(歩路用)	RTW	【3.5.5】	【4.6.9】
十字継手	十字型分岐ジョイント	RXN/RX	【3.5.6】	【4.6.10】
	十字型分岐ジョイント(歩路用)	RXNW/RXW	【3.5.6】	【4.6.11】
レデューサ	異径ジョイント(ジョイント型)	RR	【3.3.6】	【4.5.5】
	異径ジョイント(プレート型)	RR	【3.3.6】	【4.5.6】
ジョイント	固定ジョイント	RSJ	【3.3.3】	【4.5.3】
	フリージョイント	RFJ	【3.3.4】	【4.5.4】
	スライドジョイント	RSS	【3.3.5】	【4.5.9】
	900タイプコーナーパーツ用ジョイント	RXJ	【3.3.8】	【4.5.8】
	900タイプコーナーパーツ用異径ジョイント	RXR	【3.3.9】	【4.5.7】
端末カバー	エンドキャップ	REC	【3.7.4】	【4.8.2】
PS・貫通部	RDウォールプレート	RWP	【3.2.2】	【4.2.2】
	止水プレート	RSP	【3.2.3】	【4.2.3】
	止水スリーブ	RSB	【3.2.4】	【4.2.4】
	止水プレート保護カバー	RSPC	【3.2.5】	【4.2.5】
	チャンバーボックス	CB	【3.2.6/3.2.7/3.2.8】	【4.2.6】
ダクト内仕切	RDダクト仕切金具	RSK	【3.7.2】	【4.8.5】
配管保持	配管保持台	RDY	【3.4.14】	【4.3.6】
架台	RD取付架台	RZM,RZB,RZ,RZW	【3.4】	【4.3】
	RD型鋼止め金具	RKT	【3.4.15】	【4.3.11】
	RDチャンネル止め金具	RCT	【3.4.16】	【4.3.12】
	子桁用補助金具	RBK-B	【3.4.11】	【4.3.9】
	親桁用補助金具	RBK-A	【3.4.12】	【4.3.10】
	立面用架台固定板	RZC	【3.4.10】	【4.3.4】
	架台2段用ガイド	RZY	【3.4.13】	【4.3.5】
	底板	RDダクト底板セット	RDB	【3.6】
ジョイント用底板	RDBJ	【3.6】	【4.7.6】	
後付け用ジョイント底板	RJB	【3.6】	【4.7.7】	
平面コーナー90°用底板セット	REB	【3.6】	【4.7.3】	
平面コーナー45°用底板セット	RFB	【3.6】	【4.7.4】	
T字型分岐ジョイント用底板セット	RTS	【3.6】	【4.7.5】	
ネット底板	RNB	【3.6】	【4.7.8】	
底板用樹脂ブッシュ	RDB-B	【3.6】	【4.7】	
枝管分岐保持	PD保持金具	RPH	【3.7.5】	【4.8.3】
子桁	子桁セット	RDK	【3.7.3】	【4.8.4】
フタ補強	フタ補強板	REH/RFH	【3.1/3.5.2/3.5.3】	【4.4/4.6.2/4.6.4】
	フタ補強板(900タイプ用)	RXH	【3.7.1】	【4.6.5】
ブリッジ	キャットウォーク	KW/KWT	【3.7.6】	【4.8.7】

# 1.2 仕様

- 1.1.2 製品バリエーション
- 1.1.3 各部名称
- 1.2.1 材質

〔設計編〕

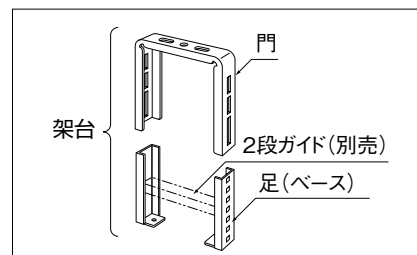
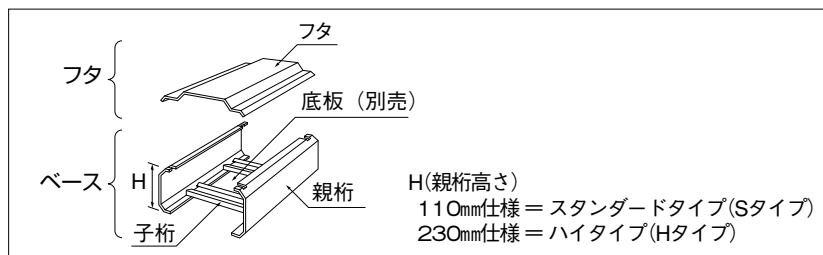
## 1.1.2 製品バリエーション

親桁 フタ	スタンダードタイプ(Sタイプ)		ハイタイプ(Hタイプ) 450H/450H-1 600H/600H-1 900H/900H-1 は開閉式(折りたたみ式)		
	標準タイプ	W : 150・300・450・600・900*1 高さ ZA:134 SUS:131 (150のみ111) 鋼板タイプ(ZA) ステンレスタイプ(SUS)		W : 300・450・600・900*2 高さ 254 (SUS 450Hのみ251) 鋼板タイプ(ZA) ステンレスタイプ(SUS)	
	歩路タイプ	W : 300・450・600・900 高さ 134 鋼板タイプ(ZA)		W : 300・450・600・900 高さ 254 鋼板タイプ(ZA)	

\*1 W600・900タイプはZAのみ

\*2 W300・900タイプはZAのみ

## 1.1.3 各部名称



# 1.2 仕様

## 1.2.1 材質

### ■金属製品

タイプ	材質	表面処理	耐塩害性	呼称めっき付着量	引張強さ	伸び	
鋼板タイプ	高耐食性溶融亜鉛めっき鋼板 (溶融亜鉛-6%アルミニウム-3%マグネシウム) JIS G 3323	標準品	-	耐重塩害仕様	片面190g/m <sup>2</sup> 以上	274.6N/mm <sup>2</sup> 以上 (28kgf/mm <sup>2</sup> )	28%以上
ステンレスタイプ	ステンレス鋼板 JIS G 4305 SUS304	受注生産	-	ヘアライン仕上げ	-	519.8N/mm <sup>2</sup> 以上 (53kgf/mm <sup>2</sup> )	40%以上

### ■樹脂製品

品名	型番	材質	色調	使用可能温度範囲
ネット底板	RNB	PE(ポリエチレン)	ブラック	-20~70℃
底板用樹脂ブッシュ	RDB-B	PA6(6-ナイロン)	ブラック	

**注意** 使用可能温度範囲の(-)温度以下の環境下で使用した場合、樹脂本来の機械的強度は低下しますが、外部からの応力が掛らない限り破損する事はありません。

### 防水性に関するご注意

RDは、吸水性の極めて低いポリエチレンフォームなどの保温材を使用する事を前提としており、防水性能を有していません。

配管取出部など、防水(雨水の浸入防止)が必要な場合は、ダクト底板(RDB)や止水プレート(RSP)、止水スリーブ(RSB)をご使用の上、必ずコーキングなどの防水処理を施してください。

参照 [3.2] PSおよび壁貫通

設計編

製品構成  
仕様重量

仕様  
耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

全体設計

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天井吊り)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計

架台

コーナー

底板

その他の  
パーツ

設計編

仕様構成  
仕様重量

仕様  
耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天井)

ダクト

壁貫通

接続方法

個別設計  
架台

コーナー

底板

その他の  
パーツ

## 1.3 製品重量

### 目次

1.3.1	ダクト	4
1.3.2	パーツ	5
1.3.3	架台	5

### 1.3.1 ダクト

<表1.3.1-1> ダクト重量

(単位:kg)

標準品	歩路用						
	型番	ベース部	フタ部	合計			
RD-150-□	7.0	3.0	10.0	-	-	-	-
RD-150-1-□	3.5	1.5	5.0	-	-	-	-
RD-150-05-□	2.3	0.6	2.9	-	-	-	-
RD-300-□	8.0	5.0	13.0	RDW-300-□	8.0	6.1	14.1
RD-300-1-□	4.2	2.5	6.7	RDW-300-1-□	4.2	3.2	7.4
RD-300-05-□	2.3	1.3	3.6	RDW-300-05-□	2.3	2.0	4.3
RD-300-03-□	1.5	0.7	2.2	RDW-300-03-□	1.5	1.3	2.8
RD-300H-□	13.3	5.0	18.3	RDW-300H-□	13.3	6.1	19.4
RD-300H-1-□	6.8	2.5	9.3	RDW-300H-1-□	6.8	3.2	10.0
RD-300H-05-□	2.7	1.3	4.0	RDW-300H-05-□	2.7	2.0	4.7
RD-300H-03-□	2.3	0.7	3.0	RDW-300H-03-□	2.3	1.2	3.5
RD-450-□	8.5	7.6	16.1	RDW-450-□	8.5	9.1	17.6
RD-450-1-□	4.6	3.5	8.1	RDW-450-1-□	4.6	4.8	9.4
RD-450-05-□	2.6	1.8	4.4	RDW-450-05-□	2.6	3.0	5.6
RD-450-03-□	1.8	1.0	2.8	RDW-450-03-□	1.8	1.8	3.6
RD-450H-□	13.8	7.6	21.4	RDW-450H-□	13.8	9.1	22.9
RD-450H-1-□	7.2	3.5	10.7	RDW-450H-1-□	7.2	4.8	12.0
RD-450H-05-□	3.0	1.8	4.8	RDW-450H-05-□	3.0	3.0	6.0
RD-450H-03-□	2.5	1.1	3.6	RDW-450H-03-□	2.5	1.9	4.4
RD-600-□	9.0	10.5	19.5	RDW-600-□	9.0	13.5	22.5
RD-600-1-□	4.8	5.6	10.4	RDW-600-1-□	4.8	8.2	13.0
RD-600-05-□	2.9	3.2	6.1	RDW-600-05-□	2.9	5.3	8.2
RD-600-03-□	2.0	2.2	4.2	RDW-600-03-□	2.0	3.1	5.1
RD-600H-□	14.3	10.5	24.8	RDW-600H-□	14.3	13.5	27.8
RD-600H-1-□	7.6	5.6	13.2	RDW-600H-1-□	7.6	8.2	15.8
RD-600H-05-□	4.3	3.2	7.5	RDW-600H-05-□	4.3	5.3	9.6
RD-600H-03-□	2.8	2.2	5.0	RDW-600H-03-□	2.8	3.1	5.9
RD-900-□	9.6	18.2	27.8	RDW-900-□	9.6	21.3	30.9
RD-900-1-□	5.3	9.2	14.5	RDW-900-1-□	5.3	13.5	18.8
RD-900-05-□	3.6	5.7	9.3	RDW-900-05-□	3.6	8.1	11.7
RD-900-03-□	2.6	5.3	7.9	RDW-900-03-□	2.6	5.3	7.9
RD-900H-□	14.9	18.2	33.1	RDW-900H-□	14.9	21.3	36.2
RD-900H-1-□	7.9	9.2	17.1	RDW-900H-1-□	7.9	13.5	21.4
RD-900H-05-□	4.9	5.7	10.6	RDW-900H-05-□	4.9	8.1	13.0
RD-900H-03-□	3.6	5.3	8.9	RDW-900H-03-□	3.6	5.3	8.9

※製品重量は、高耐食鋼板タイプ、ステンレスタイプともにほぼ同一です。  
 ※□には、A・B・Cなどのタイプ表示が入ります。

# 1.3 製品重量

- 1.3.2 パーツ
  - 1.3.3 架台
- 〔設計編〕

## 1.3.2 パーツ

<表1.3.2-1> パーツ重量(コーナー)

(単位:kg)

標準品		標準品	
型番	重量	型番	重量
RE-150-□	1.9	RCO-450-□	8.0
RE-300-□	6.5	RCO-450H-□	12.2
RE-300H-□	9.0	RCO-600-□	10.2
RE-450-□	9.2	RCO-600H-□	15.8
RE-450H-□	11.4	RCO-900-□	20.7
RE-600-□	12.8	RCO-900H-□	25.2
RE-600H-□	16.0	RCF-300-□	5.6
RF-300-□	5.7	RCF-300H-□	6.7
RF-300H-□	7.2	RCF-450-□	6.1
RF-450-□	7.7	RCF-450H-□	7.5
RF-450H-□	9.7	RCF-600-□	9.2
RF-600-□	9.9	RCF-600H-□	13.5
RF-600H-□	12.3	RCF-900-□	14.8
RFS-300	2.5	RCF-900H-□	17.8
RFS-300H	3.1	RT-150-□	2.3
RFS-450	4.0	RT-300-□	8.2
RFS-450H	4.7	RT-300H-□	10
RFS-600	5.8	RT-450-□	12
RFS-600H	6.6	RT-450H-□	14
RFS-900	8.8	RT-600-□	18.7
RFS-900H	9.9	RT-600H-□	21.6
RCI-300-□	5.3	RXN-300-□	7.1
RCI-300H-□	7.7	RXN-300H-□	9.0
RCI-450-□	6.9	RXN-450-□	10.2
RCI-450H-□	10.3	RXN-450H-□	12.1
RCI-600-□	8.8	RXN-600-□	13.6
RCI-600H-□	13.3	RXN-600H-□	15.5
RCI-900-□	21.4	RX-900-□	28.1
RCI-900H-□	26.2	RX-900H-□	31.2
RCO-300-□	5.9	REW-300-□	7.0
RCO-300H-□	8.9	REW-300H-□	9.5

歩路用		歩路用	
型番	重量	型番	重量
REW-450-□	11.1	RFW-300-□	6.2
REW-450H-□	13.3	RFW-300H-□	7.7
REW-600-□	15.8	RFW-450-□	9.5
REW-600H-□	19.0	RFW-450H-□	10.5
RFW-300-□	6.2	RFW-600-□	11.8
RFW-300H-□	7.7	RFW-600H-□	14.2
RFW-450-□	9.5	RFSW-300	2.5
RFW-450H-□	10.5	RFSW-300H	3.1
RFW-600-□	11.8	RFSW-450	4.0
RFW-600H-□	14.2	RFSW-450H	4.7
RFSW-300	2.5	RFSW-600	6.6
RFSW-300H	3.1	RFSW-600H	7.4
RFSW-450	4.0	RFSW-900	10.1
RFSW-450H	4.7	RFSW-900H	11.2
RFSW-600	6.6	RTW-300-□	9.0
RFSW-600H	7.4	RTW-300H-□	10.8
RFSW-900	10.1	RTW-450-□	14.4
RFSW-900H	11.2	RTW-450H-□	16.4
RTW-300-□	9.0	RTW-600-□	22.6
RTW-300H-□	10.8	RTW-600H-□	25.5
RTW-450-□	14.4	RXNW-300-□	8.8
RTW-450H-□	16.4	RXNW-300H-□	10.7
RTW-600-□	22.6	RXNW-450-□	14.5
RTW-600H-□	25.5	RXNW-450H-□	16.4
RXNW-300-□	8.8	RXNW-600-□	21.7
RXNW-300H-□	10.7	RXNW-600H-□	23.5
RXNW-450-□	14.5	RXW-900-□	37.4
RXNW-450H-□	16.4	RXW-900H-□	40.5
RXNW-600-□	21.7		
RXNW-600H-□	23.5		
RXW-900-□	37.4		
RXW-900H-□	40.5		

※製品重量は、高耐食鋼板タイプ、ステンレスタイプともほぼ同一。

## 1.3.3 架台

<表1.3.3-1> パーツ重量(架台)

(単位:kg)

型番	重量	型番	重量	型番	重量
RZM-300-S-□	0.6	RZM-300-MS-□	0.7	RZM-300-MM-□	0.8
RZM-450-S-□	0.8	RZM-450-MS-□	0.9	RZM-450-MM-□	1.0
RZM-600-S-□	0.9	RZM-600-MS-□	1.0	RZM-600-MM-□	1.1
RZM-900-S-□	1.9	RZM-900-MS-□	2.1	RZM-900-MM-□	2.2
RZM-300-M-□	1.0	RZM-300-L-□	1.3	RZB-S-□	0.4
RZM-450-M-□	1.1	RZM-450-L-□	1.4	RZB-M-□	0.7
RZM-600-M-□	1.3	RZM-600-L-□	1.6	RZB-ML-□	1.0
RZM-900-M-□	2.5	RZM-900-L-□	3.0	RZB-L-□	1.6

※製品重量は、高耐食鋼板タイプ、ステンレスタイプともほぼ同一です。

※□には、A・B・Cなどのタイプ表示が入ります。

設計編  
製品構成  
仕様重量  
耐荷重及び  
強度  
収納能力  
基本的な  
設計の流れ  
設置方法  
(床置き)  
設置方法  
(壁面)  
設置方法  
(天吊り)  
ダクト  
PS及び  
壁貫通  
接続方法  
架台  
コーナー  
底板  
その他の  
パーツ

# 1.4 耐荷重および強度

- 1.4.1 ベース(親桁+子桁)の許容荷重
- 1.4.2 フタ強度(許容荷重) (設計編)
- 1.4.3 取付架台耐荷重(許容荷重)

## 1.4 耐荷重および強度

### 概要

ここでは製品の耐荷重について示します。  
積雪や特殊な環境においてはそれらを考慮して設計してください。

参照 【5.3】 積雪に関する考え方

### 1.4.1 ベース(親桁+子桁)の許容荷重

RDダクト2mおよび1mにおけるベース部の許容荷重(配管重量)。

項目	RDダクト(2M当り)の許容荷重	
	RDダクト2M(子桁3本による配管支持)	RDダクト1M×2(子桁4本による配管支持)
ダクトサイズ		
RD-150	9387N(958kgf)	12548N(1280kgf)
RD-300	3929N(401kgf)	5281N(539kgf)
RD-450	2546N(260kgf)	3448N(352kgf)
RD-600	1837N(187kgf)	2513N(256kgf)
RD-900	1102N(112kgf)	1552N(158kgf)
RD-450H	2494N(255kgf)	3396N(347kgf)
RD-600H	1785N(182kgf)	2461N(251kgf)
RD-900H	2231N(228kgf)	3076N(314kgf)

※許容荷重は鋼板タイプ、ステンレスタイプともに同等。  
※実質は(組み付け状態の)子桁許容荷重になります。

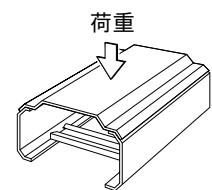
### 1.4.2 フタ強度(許容荷重)

フタをベース(親桁+子桁)に組み付けた状態でのフタ強度(復元する荷重)。  
ただし、W600~900Hサイズおよび歩路タイプはフタ補強板取付時。

<図1.4.2-1>

仕様	フタ強度		
	1m <sup>2</sup> 当たり	荷重板(200mm×100mm)にて負荷時	
標準タイプ	鋼板タイプ	4,903N/m <sup>2</sup> (500kgf/m <sup>2</sup> ) 以下	98N(10kgf) 以下
	ステンレスタイプ		
歩路タイプ	鋼板タイプ	49,030N/m <sup>2</sup> (5,000kgf/m <sup>2</sup> ) 以下	980N(100kgf) 以下

<図1.4.2-1>

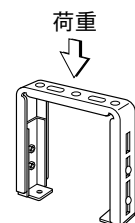


### 1.4.3 取付架台耐荷重(許容荷重)

固定ボルトを4本使用し、ボルトの締め付けトルクが19.6N・m(200kg・cm)の場合、架台のズレ開始荷重は6,374N(650kgf)です。<図1.4.3-1>

ボルト締め付けトルク	ズレ開始荷重(固定ボルト4本)
19.6N・m(200kg・cm)	6,374N(650kgf)

<図1.4.3-1>



## 1.5 収納能力

### 目次

1.5.1 ビッグタイホルダー(チャンネル用)BHC使用時	7
1.5.2 配管固定を行わない場合の配管収納系統数目安表(保温材厚=液管:10mm×ガス管:10mm)	8
1.5.3 配管固定を行わない場合の配管収納系統数目安表(保温材厚=液管:10mm×ガス管:20mm)	9
1.5.4 配管固定を行わない場合の配管収納系統数目安表(3本配管システムの場合)	10

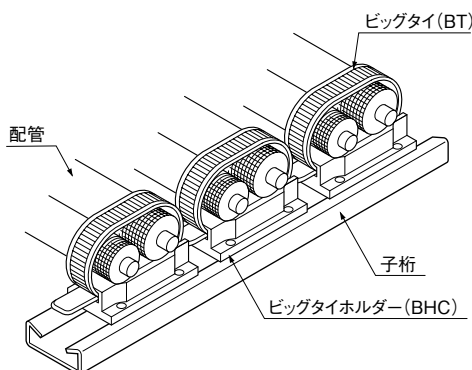
### ご注意

記載の配管収納系統数表は参考値であり、  
収納能力を保証するものではありません。

特に、配管固定を行わない場合の配管収納系統数は、施工状況で異なります。  
下記収納系統数目安表はなまし管(軟質銅管)の蛇行などを考慮し、安全を見てダクト有効断面積の75%程度にて算出を行っています。  
コーナー部分の曲がりなども考慮して、収納系統数目安表を設定しておりますが、縦方向への曲がりが生じる場合、余裕を持った配管収納系統数にすることをお奨めします。

### 1.5.1 ビッグタイホルダー(チャンネル用)BHC使用時

<図1.5.1-1>



ダクト別最大取付可能個数									
型番	RD-150	RD-300	RD-300H	RD-450	RD-450H	RD-600	RD-600H	RD-900	RD-900H
BHC-1	1	3	3(6)	5	5(10)	7	7(14)	10	10(20)
BHC-2	1	3	3(6)	4	4(8)	6	6(12)	8	8(16)
BHC-3	1	2	2(4)	4	4(8)	5	5(10)	8	8(16)

**注意** ・ 取付個数の( )内は、RSK(ダクト仕切り金具)使用の場合。但し大口径配管はダクト内寸法で制限され、BHCの取付可能数と、収納できる配管系統数は異なる場合があります。  
縦引きや壁面横引き、天井吊り(逆吊り)などビッグタイに荷重がかかる状態での使用はできません。

設計編  
製品構成  
仕様重量  
仕様重量  
強度  
耐荷重及び  
収納能力  
基本的な設計の流れ  
設置方法(床置き)  
設置方法(壁面)  
設置方法(天井吊り)  
ダクト  
PS及び壁貫通  
接続方法  
個別設計  
架台  
コーナー  
底板  
その他のパーツ

# 1.5 収納能力

• 1.5.2 配管固定を行わない場合の配管収納系統数目安表 (設計編)  
(保温材厚=液管:10mm×ガス管:10mm)

## 1.5.2 配管固定を行わない場合の配管収納系統数目安表

※ 止水プレート(RSP)および止水スリーブ(RSB) 使用時も同一の収納能力となります。

■ 保温材厚=液管:10mm、ガス管:10mm (管径9.52以下は8mm厚、50.80以上は15mm厚)

管径 (液管×ガス管)	サイズ								
	150	300	300H	450	450H	600	600H	900	900H
6.35 × 9.52	5	10	27	17	45	25	60	38	92
6.35 × 12.70	4	8	22	14	36	23	48	33	72
6.35 × 15.88	4	8	22	13	32	21	43	26	64
9.52 × 12.70	4	8	22	13	33	21	44	31	67
9.52 × 15.88	4	8	22	12	30	19	40	25	60
9.52 × 19.05	4	8	22	11	27	17	37	24	54
9.52 × 22.22	3	7	16	10	25	15	34	20	50
9.52 × 25.40	2	6	13	10	21	14	29	20	42
9.52 × 28.58	2	5	11	10	21	13	28	20	42
12.70 × 15.88	3	7	16	11	27	16	36	24	54
12.70 × 19.05	3	7	16	10	23	14	32	23	46
12.70 × 22.22	3	6	13	10	22	14	31	19	44
12.70 × 25.40	2	5	11	9	20	13	28	19	40
12.70 × 28.58	2	5	11	9	19	13	27	18	38
12.70 × 31.75	2	4	10	7	17	11	23	15	34
12.70 × 34.92	2	4	9	6	16	10	21	13	32
12.70 × 38.10	1	3	9	5	16	10	21	11	32
15.88 × 19.05	3	6	13	9	21	13	30	22	44
15.88 × 22.22	3	5	11	8	20	13	28	18	42
15.88 × 25.40	2	5	11	8	19	12	25	18	38
15.88 × 28.58	2	5	11	7	18	12	24	16	36
15.88 × 31.75	2	4	10	7	17	10	22	14	32
15.88 × 34.92	1	3	9	5	15	9	20	12	30
15.88 × 38.10	1	3	9	5	15	9	20	11	30
15.88 × 41.28	1	3	7	5	13	7	17	10	26
19.05 × 25.40	2	5	11	7	17	11	23	17	35
19.05 × 28.58	2	5	11	7	16	11	22	15	33
19.05 × 31.75	2	4	10	6	15	10	20	14	30
19.05 × 34.92	1	3	9	5	14	9	19	11	28
19.05 × 38.10	1	3	9	5	14	8	19	10	28
19.05 × 41.28	1	3	7	5	12	7	16	9	25
19.05 × 44.45	1	3	7	4	12	7	16	9	24
19.05 × 50.80	1	2	4	3	8	4	10	6	16
19.05 × 53.98	1	2	4	3	7	4	10	6	14
22.22 × 31.75	2	3	10	5	14	9	20	13	29
22.22 × 34.92	1	3	9	5	13	8	18	10	27
22.22 × 38.10	1	3	7	5	12	8	18	10	24
22.22 × 41.28	1	3	7	5	12	6	15	8	24
22.22 × 44.45	1	3	7	4	11	6	15	8	22
22.22 × 50.80	1	2	4	3	8	4	10	6	16
22.22 × 53.98	1	2	4	3	7	4	9	6	14
25.40 × 38.10	1	3	7	5	11	7	16	9	23
25.40 × 41.28	1	2	5	4	11	5	14	8	22
25.40 × 44.45	1	2	5	4	11	5	14	7	21
25.40 × 50.80	1	2	4	3	7	4	10	6	14
25.40 × 53.98	1	2	4	3	7	4	9	6	14
28.58 × 44.45	1	2	5	3	10	5	14	7	20
28.58 × 50.80	1	2	4	3	7	4	10	6	14
28.58 × 53.98	1	2	4	3	7	4	9	6	14
31.75 × 50.80	1	2	4	3	6	3	9	6	12
31.75 × 53.98	1	2	4	3	6	3	9	6	12

※表に無いサイズは一回り大きい配管サイズの項をご参照ください。

# 1.5 収納能力

● 1.5.3 配管固定を行わない場合の配管収納系統数目安表 (設計編)  
(保温材厚=液管:10mm×ガス管:20mm)

## 1.5.3 配管固定を行わない場合の配管収納系統数目安表

※ 止水プレート(RSP)および止水スリーブ(RSB) 使用時も同一の収納能力となります。

■ 保温材厚=液管:10mm(管径9.52以下は8mm厚)、ガス管:20mm

管径 (液管×ガス管)	サイズ								
	150	300	300H	450	450H	600	600H	900	900H
6.35 × 9.52	3	6	12	9	21	12	28	19	43
6.35 × 12.70	2	6	12	9	20	11	27	19	40
6.35 × 15.88	2	5	10	9	18	10	25	19	38
9.52 × 12.70	2	5	10	9	19	10	25	18	38
9.52 × 15.88	2	5	10	9	18	10	24	18	36
9.52 × 19.05	2	4	8	8	16	9	21	16	32
9.52 × 22.22	2	4	8	7	15	9	20	15	30
9.52 × 25.40	2	4	8	7	14	8	18	15	28
9.52 × 28.58	1	3	6	7	13	8	17	14	26
12.70 × 15.88	2	5	10	7	17	9	23	15	34
12.70 × 19.05	2	4	8	7	15	9	19	15	30
12.70 × 22.22	2	4	8	7	15	9	18	15	30
12.70 × 25.40	1	3	6	7	13	8	16	14	26
12.70 × 28.58	1	3	6	6	12	7	16	13	24
12.70 × 31.75	1	3	6	4	11	7	15	9	22
12.70 × 34.92	1	2	4	4	11	6	15	8	22
12.70 × 38.10	1	2	4	3	10	5	13	6	20
15.88 × 19.05	2	4	8	7	13	9	18	14	27
15.88 × 22.22	1	4	8	7	13	8	17	14	26
15.88 × 25.40	1	3	6	7	12	8	15	14	24
15.88 × 28.58	1	3	6	6	11	7	15	12	23
15.88 × 31.75	1	2	4	4	10	6	14	8	21
15.88 × 34.92	1	2	4	3	10	5	14	7	21
15.88 × 38.10	1	2	4	3	9	5	12	6	19
15.88 × 41.28	1	2	4	3	8	5	11	6	17
19.05 × 25.40	1	3	6	6	11	7	15	13	23
19.05 × 28.58	1	3	6	6	11	7	15	12	22
19.05 × 31.75	1	2	4	4	10	6	14	8	20
19.05 × 34.92	1	2	4	3	10	5	14	7	20
19.05 × 38.10	1	2	4	3	9	5	12	6	18
19.05 × 41.28	1	2	4	3	8	4	10	6	16
19.05 × 44.45	1	2	4	3	8	4	10	6	16
19.05 × 50.80	1	2	4	3	7	4	9	6	15
19.05 × 53.98	1	2	4	3	6	3	8	6	14
22.22 × 31.75	1	2	4	3	10	5	13	7	20
22.22 × 34.92	1	2	4	3	10	5	13	7	20
22.22 × 38.10	1	2	4	3	9	4	12	6	18
22.22 × 41.28	1	2	4	3	8	4	10	6	16
22.22 × 44.45	1	2	4	3	7	4	9	6	15
22.22 × 50.80	1	2	4	3	7	4	9	6	14
22.22 × 53.98	1	2	4	3	6	3	8	6	13
25.40 × 38.10	1	2	4	3	8	4	11	6	16
25.40 × 41.28	1	2	4	3	7	4	10	6	15
25.40 × 44.45	1	2	4	3	7	4	9	6	15
25.40 × 50.80	1	2	4	3	7	4	9	6	14
25.40 × 53.98	1	2	4	3	6	3	8	6	12
28.58 × 44.45	1	2	4	3	7	4	9	6	14
28.58 × 50.80	1	2	4	3	6	3	8	6	12
28.58 × 53.98	1	2	4	2	6	3	8	4	12
31.75 × 50.80	1	2	4	2	6	3	8	4	12
31.75 × 53.98	1	1	3	2	6	3	7	4	12

※表に無いサイズは一回り大きい配管サイズの項をご参照ください。

設計編  
製品構成  
仕様重量  
耐荷重及び  
強度  
収納能力  
基本的な  
設計の流れ  
設置方法  
(床置き)  
設置方法  
(壁面)  
設置方法  
(天吊り)  
ダクト  
PS及び  
壁貫通  
接続方法  
個別設計  
架台  
コーナー  
底板  
その他の  
パーツ

# 1.5 収納能力

- 1.5.4 配管固定を行わない場合の配管収納系統数目安表 (設計編)  
(3本配管システムの場合)

## 1.5.4 配管固定を行わない場合の配管収納系統数目安表

※止水プレート(RSP)および止水スリーブ(RSB) 使用時も同一の収納能力となります。

### ■ 3本配管システムの場合のRDダクトサイズ選定表

●保温材厚=10mm×10mm×10mm

管径	サイズ								
	150	300	300H	450	450H	600	600H	900	900H
9.52×15.88×19.05	2	4	10	6	17	10	23	13	34
9.52×19.05×22.22	2	4	9	6	13	9	19	13	27
12.70×19.05×22.22	1	3	8	6	12	8	17	12	25
12.70×19.05×25.40	1	3	8	5	12	7	16	11	24
12.70×22.22×25.40	1	3	7	5	11	7	16	11	23
12.70×22.22×28.58	1	2	7	4	11	6	15	10	23
12.70×25.40×28.58	1	2	6	4	11	5	15	9	22
15.88×22.22×28.58	1	2	6	4	11	5	15	9	22
15.88×25.40×28.58	1	2	6	4	10	5	14	9	21
15.88×25.40×31.75	1	2	6	3	9	5	13	8	20
15.88×28.58×31.75	1	2	6	3	9	5	13	8	20
15.88×28.58×38.10	1	1	4	3	8	4	11	6	17
19.05×22.22×28.58	1	2	6	3	10	5	14	8	21
19.05×25.40×31.75	1	2	6	3	10	5	13	8	20
19.05×28.58×31.75	1	2	5	3	9	5	13	8	19
19.05×28.58×38.10	1	1	4	3	8	4	11	6	16
19.05×31.75×38.10	1	1	4	3	7	4	10	6	15
22.22×28.58×38.10	1	1	4	2	7	3	10	5	15

※表に無いサイズは一回り大きい配管サイズの項をご参照ください。

●保温材厚=10mm×20mm×20mm

管径	サイズ								
	150	300	300H	450	450H	600	600H	900	900H
9.52×15.88×19.05	1	1	5	3	7	4	11	7	15
9.52×19.05×22.22	1	1	5	3	7	3	10	6	14
12.70×19.05×22.22	1	1	4	3	7	3	10	6	14
12.70×19.05×25.40	1	1	4	2	7	3	9	5	14
12.70×22.22×25.40	1	1	4	2	7	3	9	5	14
12.70×22.22×28.58	1	1	4	2	7	3	9	5	14
12.70×25.40×28.58	—	1	4	2	6	3	8	5	13
15.88×22.22×28.58	—	1	4	2	6	3	8	5	13
15.88×25.40×28.58	—	1	3	2	6	3	8	5	12
15.88×25.40×31.75	—	1	3	2	5	3	7	5	11
15.88×28.58×31.75	—	1	3	2	5	3	7	4	11
15.88×28.58×38.10	—	1	3	2	5	3	6	4	10
19.05×22.22×28.58	—	1	3	2	5	3	7	4	12
19.05×25.40×31.75	—	1	3	2	5	3	7	4	11
19.05×28.58×31.75	—	1	3	2	5	3	7	4	11
19.05×28.58×38.10	—	1	3	2	5	3	6	4	10
19.05×31.75×38.10	—	1	3	2	5	3	6	4	10
22.22×28.58×38.10	—	1	3	1	5	2	6	4	10

※表に無いサイズは一回り大きい配管サイズの項をご参照ください。

設計編  
仕様  
仕様の構成  
仕様の重量  
耐荷重及び強度  
収納能力  
基本的な設計の流れ  
設置方法(床置き)  
設置方法(壁面)  
設置方法(天井)  
ダクト  
PS及び壁貫通  
接続方法  
架台  
コーナー  
底板  
その他のパーツ

# 設計編

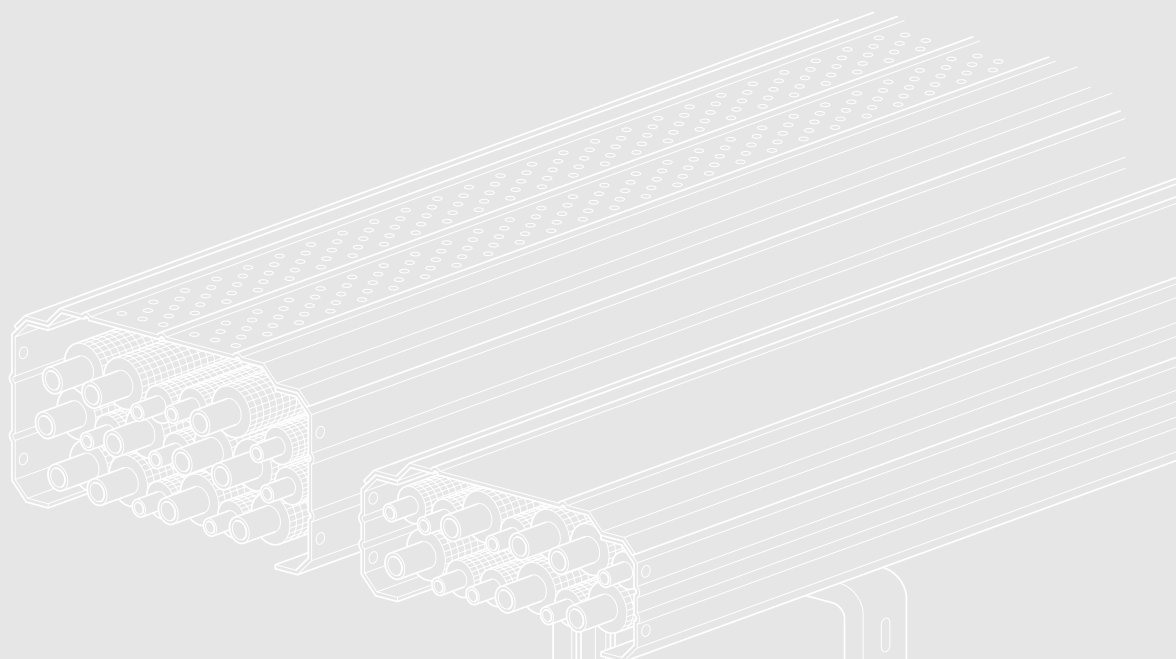
## 2 全体設計

基本的な設計の流れ…… P12~P13

設置方法・床置き …………… P14

設置方法・壁面 …………… P15~P17

設置方法・天吊り …………… P18



## 2.1 基本的な設計の流れ

### 1 ダクトサイズ選定

配管サイズと本数からPS部や機器配置部のダクトサイズを選定します。<図2.1-1>

参照 [1.5] 収納能力

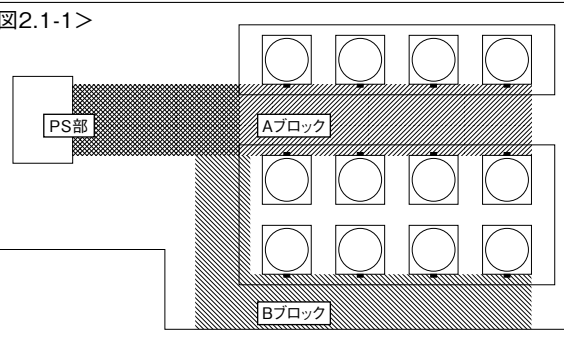
事例 15.88×25.4 (保温材厚 10mm)

PS部 = 12系統 → RD-600タイプ

Aブロック = 8系統 → RD-450タイプ

Bブロック = 4系統 → RD-300タイプ

<図2.1-1>



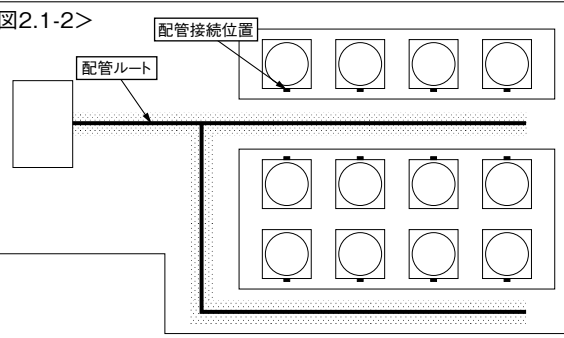
### 2 配管ルートの設定と配管サイズの確認

PSおよび機器の配置や配管サイズ、メンテナンス用の歩路を設定し、配管ルート、配管サイズと本数を確認します。

また、機器の配管接続位置も合わせて確認しておきます。

<図2.1-2>

<図2.1-2>



### 3 1m当たりの荷重確認と架台設置数設定

① 1m当たりの配管および製品の重量と環境重量 (積雪など) から配管ルート (ブロック) ごとに1メートル当たりの荷重を確認します。

② 1m当たりの架台設置数を設定します。(0.5~2本)

※ パーツや場所によって架台の数は変動します。

参照 [1.3] 製品重量

[1.4] 耐荷重および強度

[3.4] 架台

事例 配管重量 14.04kg (1系統当たり=0.45+0.72=1.17kg)×12系統

製品重量 15.8kg (RDW-600-□-1-ZA)

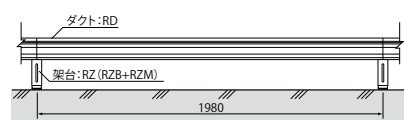
積雪重量 252kg (ダクト面積 0.6m<sup>2</sup>、雪の重量 =200kg/m<sup>3</sup>、積雪2m[m加算 0.1])

合計 281.84kg

架台耐荷重 650kg/本 → 1メートル当たりの基本架台設置数=0.5本/m → 架台基本設置ピッチ=2m

※ 雪の重量や加算値 (計算方法) は地域によって異なります。参照 [5.3] 積雪に関する考え方

<図2.1-3> 0.5本/m 事例 (2mピッチ施工)



### 4 PSと架台高さ設定

PS部の貫通部の方法を確認し、PSと機器や障害物の高さから架台の高さを設定します。

<図2.1-4.1/4.2>

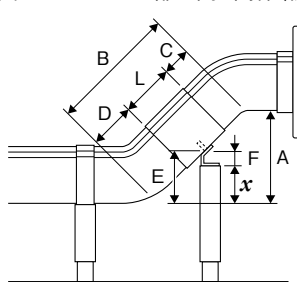
※ 架台が対応できる高さで設定してください。

※ 段差は、立面コーナーやスライドジョイントなどで調節できる高さになるように設定してください。

参照 [3.2] PSおよび壁貫通

[3.4] 架台

<図2.1-4.1> PS部の高さ関係 (例)



$$B = A \times \sqrt{2}$$

$$L = B - C - D$$

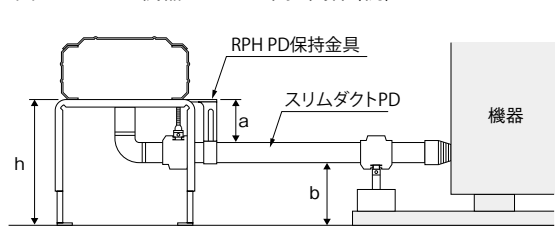
$$E = (L \div 2 + D) \div \sqrt{2}$$

$$x = E - F$$

$$\sqrt{2} \approx 1.41$$

※ スライドジョイントは架台取付穴がセンターになるように取付けてください。

<図2.1-4.2> 機器とダクトの高さ関係 (例)



$$h = a + b + 2r$$

※ 水平に施工した場合、rはPDの半径

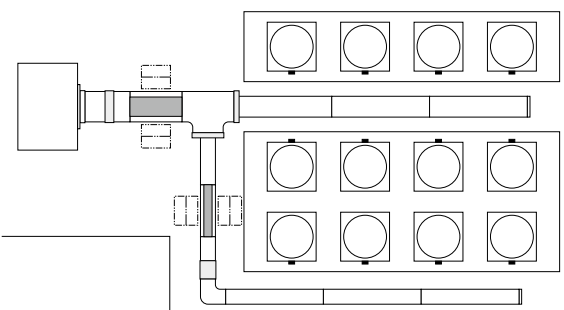
## 5 パーツの配置

ダクト、コーナーパーツ、ジョイント、エンドキャップなどを配置します。  
ジョイントパーツには長さ調整用のスライドジョイントやダクトサイズ変更用の異径ジョイントなどがあります。<図2.1-5>

※ウェブサイトでCAD用テンプレートファイルを公開していますのでご利用ください。  
※パーツや接続方法によって接続シロが変わりますのでご注意ください。

参照 [3.3] 接続方法

<図2.1-5>



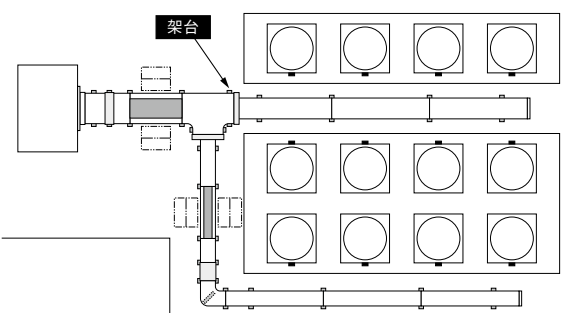
## 6 架台の配置

コーナーパーツの種類や各部の接続方法を確認し、架台の設置箇所を設定します。

※コーナーパーツの種類や接続方法によって必要な架台の数は変わります。

参照 [3.4] 架台  
[3.5] コーナー

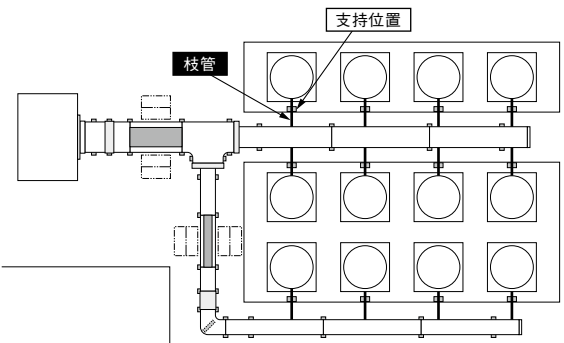
<図2.1-6>



## 7 機器との接続

機器周囲の障害物を考慮して最終的な機器との接続用配管(枝管)の経路と支持位置を設定します。

<図2.1-7>



設計編

製品構成  
仕様重量

仕様

耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

全体設計

設置方法  
(床置き)

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天井吊り)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計

架台

コーナー

底板

その他の  
パーツ

# 2.2 設置方法・床置き

- 2.2.1 架台を使った設置
- 2.2.2 H鋼/溝形鋼を使った設置〔設計編〕
- 2.2.3 チャンネルを使った設置

## 2.2 設置方法・床置き

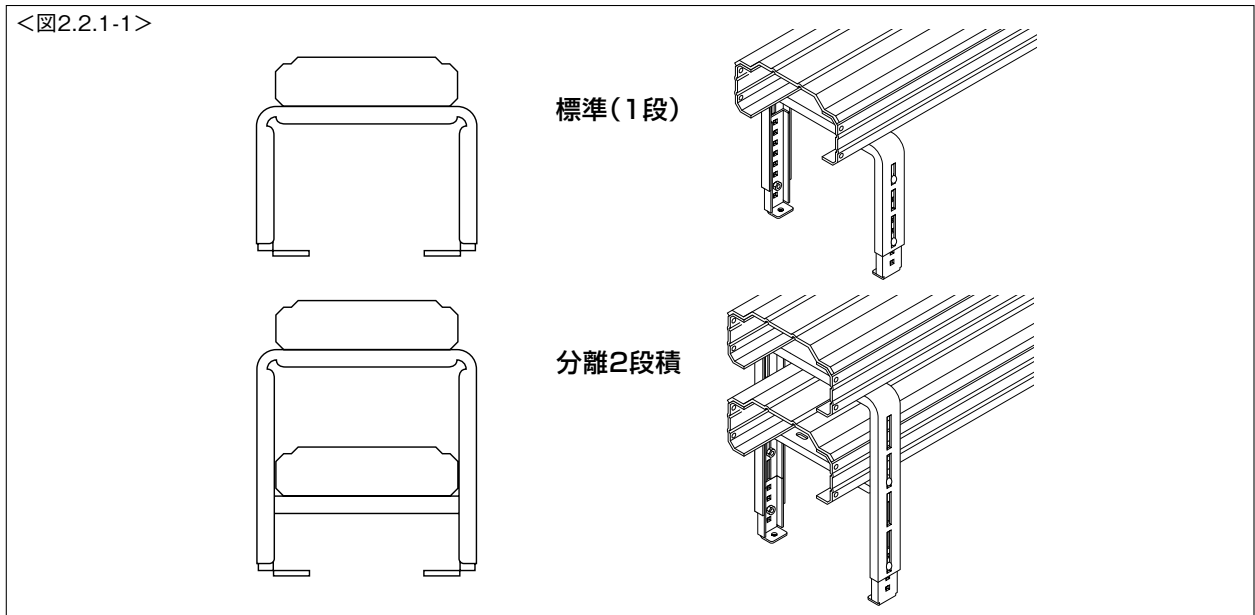
### 2.2.1 架台を使った設置 <図2.2.1-1>

ダクトの設置パターンは

- ・ 1段施工
- ・ 2段施工(分離2段) ※300~600Hのみ があります。

ただし、2段施工は立体的な動きや曲がりの処理が難しくなります。

**参照** 架台の詳細は、「[3.4] 架台」をご参照ください。



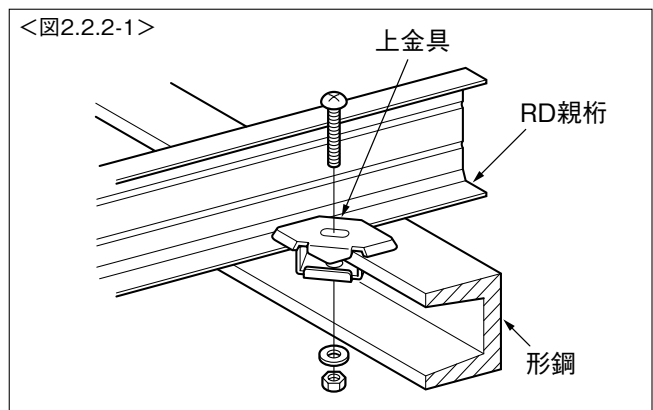
### 2.2.2 H鋼/溝形鋼を使った設置 <図2.2.2-1>

H鋼や溝形鋼を配置し、その上にRDダクトを設置する方法があります。

RDダクトとH鋼/溝形鋼との接続は、ボルト止めするか、RD形鋼止め金具を使用して固定する方法があります。

ボルト止めの場合は、架台を止める箇所と同じ箇所をボルト止めします。

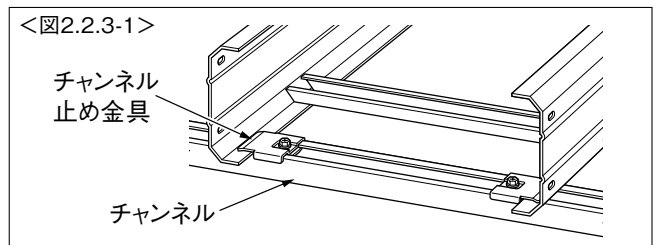
**参照** 歩路用は壁面、振動や揺れが伴う場所では使用できません。  
RD形鋼止め金具を使用する場合の詳細は「[3.4.15] RKT RD形鋼止め金具」をご参照ください。



### 2.2.3 チャンネルを使った設置 <図2.2.3-1>

チャンネルにRDダクトを設置する方法があります。  
チャンネル止め金具を設置して、ビスで締めます。

**参照** 歩路用は壁面、振動や揺れが伴う場所では使用できません。  
RD形鋼止め金具を使用する場合の詳細は「[3.4.16] RCTチャンネル止め金具」をご参照ください。



## 2.3 設置方法・壁面

目次	警告	15
	2.3.1 壁面(縦引き)施工の種類	15
	2.3.2 タイプ別壁面施工法の可否	15
	2.3.3 壁面取り付け条件(直付)	16
	2.3.4 壁面取り付け条件(浮かし)	17

**警告** スリムダクトRDは、壁面に取り付けることも可能ですが、一部制限事項があります。

**壁面施工の場合は、ボルトのゆるみ防止のための処理が必要です。**

●フタの取り付けには「壁面用フタビスセット RD-HB」を使用してください。

※セット明細

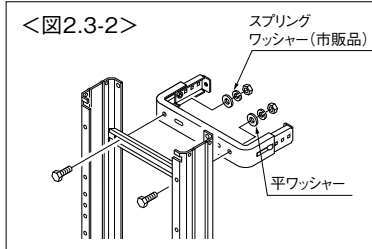
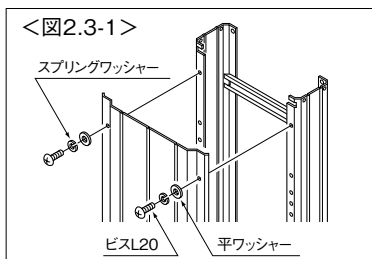
- M6ビス×20L SUS
- M6スプリングワッシャー SUS
- M6平ワッシャー SUS

※製品付属のフタビスは使用できません。

●壁面浮かし施工する場合は、以下の処理が必要です。

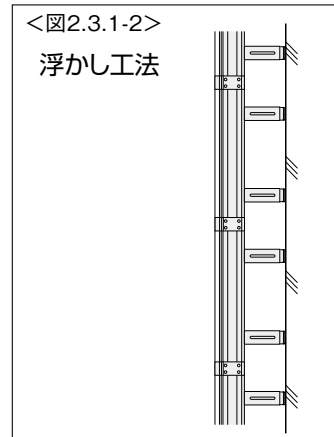
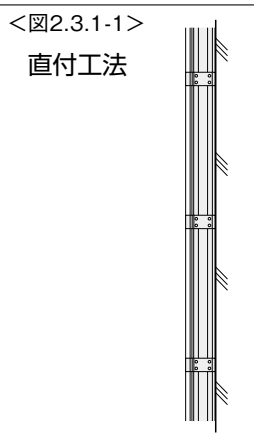
- ダクト内部から風圧がかかりダクトが破損するケースがありますので、必ず底板を取り付けてください。
- ダクトと架台の接続に市販の「ステンレス製W3/8スプリングワッシャー」を使用してください。(RZW-150を除く)

※製品付属のボルトセットに加えて固定してください。



### 2.3.1 壁面(縦引き)施工の種類

スリムダクトRDの壁面施工方法としては、「直付工法」と「浮かし工法」の2工法が行えます。  
<図2.3.1-1、2>



### 2.3.2 タイプ別壁面施工法の可否

スリムダクトRDタイプ別の壁面施工方法の可否を<表2.3.2-1>に示します。  
×印の施工は、強風時に最悪の場合、落下などが懸念されるため絶対に行わないでください。

<表2.3.2-1>

タイプ	壁面直付工法	壁面浮かし工法
150	○	○
300	○	○
300H	○	○
450	○	○
450H	○	○
600	○	○
600H	○	×
900	△	×
900H	(コーナーパーツは×)	×

設計編  
製品構成  
仕様重量  
仕様  
強度  
収納能力  
基本的な設計の流れ  
設置方法(床置き)  
設置方法(壁面)  
設置方法(天井吊り)  
ダクト  
PS及び壁貫通  
接続方法  
架台  
コーナー  
底板  
その他のパーツ

## 2.3.3 壁面取り付け条件(直付)

スリムダクトRDを壁面施工(直付)する場合、以下の条件を守ってください。

### 1 接続は、ジョイント工法※を使用してください。

※上端および下端には、フリージョイントおよび異径ジョイントは使用できません。 **参照** 【3.5.8】 立面コーナー 90°

### 2 フタ補強板は脱落の恐れがあるため使用できません。

600、600H、900、900Hタイプおよび一部コーナーパーツに標準で付属するフタ補強板は取り外してください。

(フタ補強板は、平面施工時のフタたわみ防止を目的とするパーツで壁面施工時にはなくても問題ありません)

### 3 固定方法

壁面取付用の専用パーツを利用して「ステンレス製W3/8またはM10のアンカー」で取り付けます。取付可能箇所は、製品によって異なりますのでご注意ください。

#### 1. 通常タイプのダクトおよびコーナーパーツ

アンカーは子桁用補助金具 RBK-Bを使用して子桁に取り付けます。<図2.3.3-1>

※150以外の2mタイプおよび1mタイプのダクトは開閉式ダクトと同様に親桁金具を使用した施工も可能です。

バランスを考慮して4箇所以上に取り付けてください。<図2.3.3-2>

平面コーナー90° RE-300~600H は、補助子桁の外R側(6)を含む5箇所以上での支持を推奨。

<図2.3.3-3>

#### 2. 開閉式のダクト

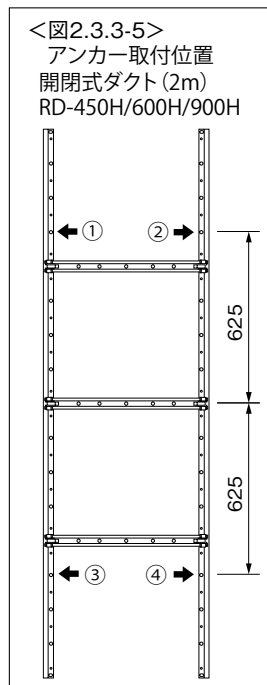
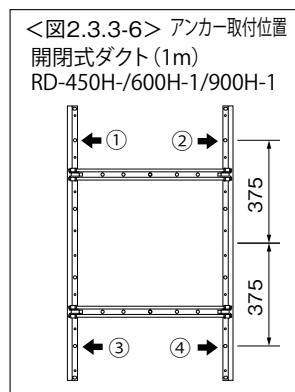
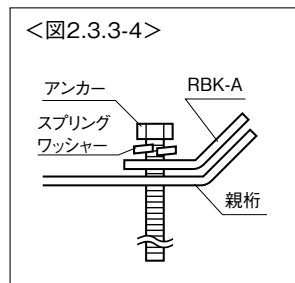
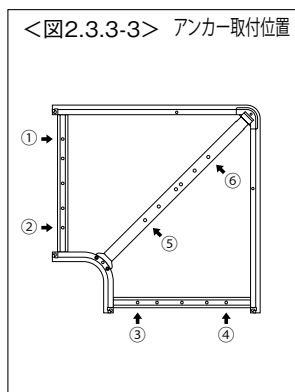
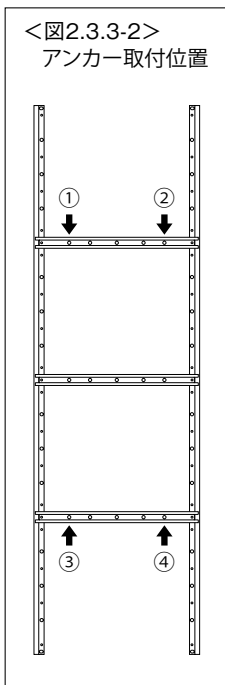
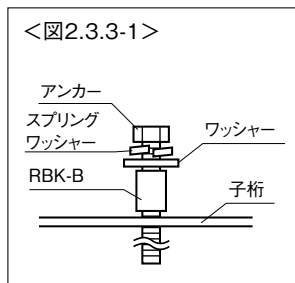
RD-450H/RD-450H-1/RD-600H/RD-600H-1/RD-900H/RD-900H-1が該当します。

アンカーは親桁用補助金具 RBK-Aを使用して親桁に取り付けます。<図2.3.3-4>

指定位置の4箇所以上に取り付けてください。

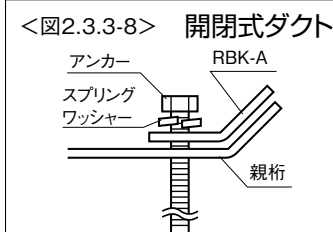
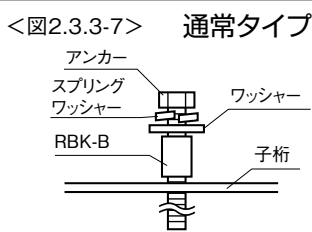
<図2.3.3-5、6>

子桁に配管荷重がかかる場合は、通常タイプと同様に子桁にもアンカーを追加することを推奨。



#### 設計上の注意

アンカー(メス)は、W3/8またはM10を使用し、アンカー箇所に応じて親桁用補助金具RBK-Aまたは子桁用補助金具RBK-Bを使用して固定してください。



## 2.3.4 壁面取り付け条件(浮かし)

スリムダクトRDを壁面施工(浮かし)する場合、以下の条件を守ってください。

### 1 接続は、ジョイント工法※を使用してください。

※フリージョイントおよび底板が取り付けられないジョイント(異径ジョイントの一部など)は使えません。【参照】【3.5.8】立面コーナー 90°  
※上端および下端には、フリージョイントおよび異径ジョイントは使用できません。

### 2 フタ補強板は脱落の恐れがあるため使用できません。

600タイプおよび一部コーナーパーツに標準で付属するフタ補強板は取り外してください。  
(フタ補強板は、平面施工時のフタたわみ防止を目的とするパーツで壁面施工時にはなくても問題ありません)

### 3 固定方法

RD取付架台を壁面に固定し、それに取り付けます。

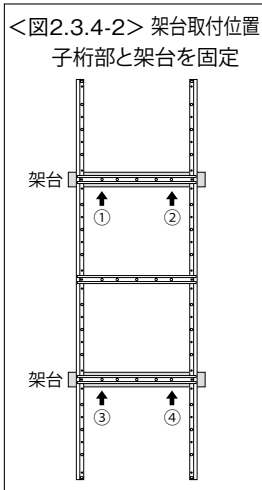
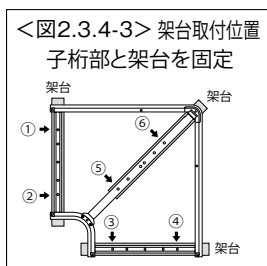
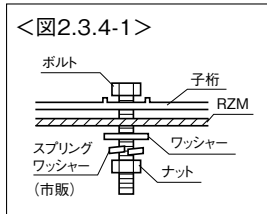
150タイプは「RZW-150」を使用し、その他のサイズは「RZM-S+RZB-S」を使用します。【参照】【3.4】架台  
RD取付架台は「ステンレス製W3/8またはM10のアンカー」で取り付けてください。

架台の取付可能箇所は、製品によって異なりますのでご注意ください。

ジョイント部での架台取付は落下の危険がありますのでおやめください。

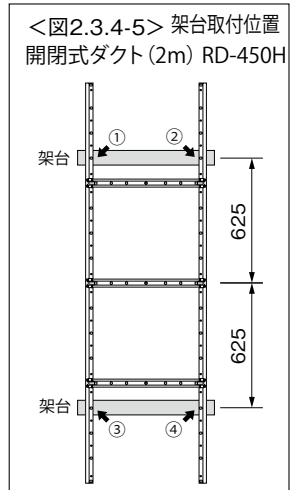
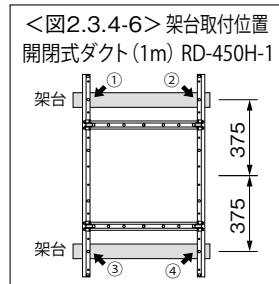
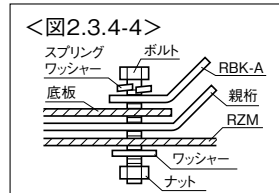
#### 1. 通常タイプのダクトおよびコーナーパーツ

架台は、架台に付属しているボルトセット以外に、市販のスプリングワッシャーを使用して子桁に取り付けます。<図2.3.4-1> ※RZW-150を除く  
※150以外の2mタイプおよび1mタイプのダクトは開閉式ダクトと同様に親桁用補助金具RBK-Aを使用した施工も可能です。  
バランスを考慮して2箇所以上に取り付けてください。<図2.3.4-2>  
コーナーパーツの架台取付数は、各コーナーパーツのページをご確認ください。<図2.3.4-3>



#### 2. 開閉式のダクト

RD-450H/RD-450H-1が該当します。  
架台は、親桁用補助金具 RBK-Aを使用して親桁に取り付けますが、同時に底板も取り付けてください。その際、底板に穴開け加工が必要です。<図2.3.4-4>  
指定位置の2箇所以上に取り付けてください。<図2.3.4-5, 6>  
子桁に配管荷重がかかる場合は、通常タイプと同様に子桁にも架台を追加することを推奨。



### 4 必ず底板を取り付けてください。(先付け)

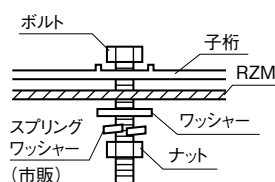
※RCOを使用する場合は、直近の水平部(50cm以上)にも底板を取り付けることを推奨。【参照】【3.5.7】および【3.5.8】立面コーナー 90°

#### 設計上の注意

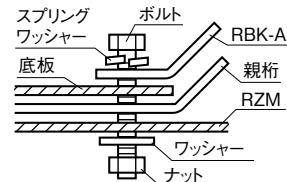
開閉式ダクトは親桁用補助金具RBK-Aを使用し、それ以外は市販のスプリングワッシャーを使用して、図のように固定してください。

※RZW-150を除く

#### <図2.3.4-7> 通常タイプ



#### <図2.3.4-8> 開閉式ダクト



設計編

製品構成  
仕様重量

仕様

耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

全体設計

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天井吊り)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

架台

個別設計

コーナー

底板

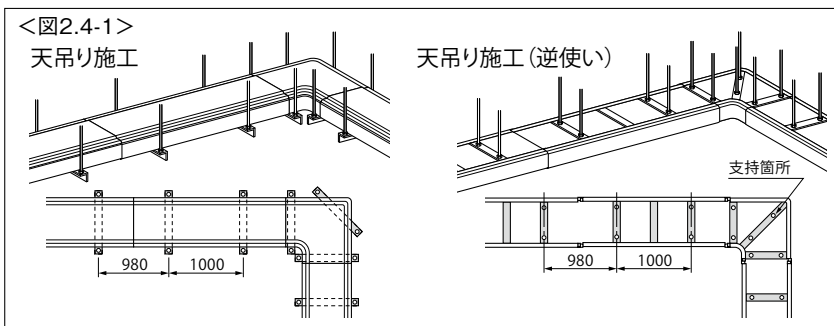
その他の  
パーツ

## 2.4 設置方法・天吊り

### 概要

天井面への取り付けは、チャンネルや全ねじボルトなどを使用して天井から吊り下げます。

この際、フタの向きが天井方向へ向く場合の取り付け方法とフタの向きが床方向へ向く取り付け方法があります。



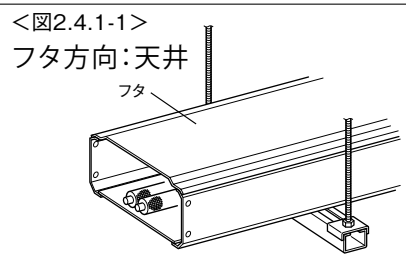
### 2.4.1 天吊り上の留意点

#### 1 天吊り全般

1. 接続 … フリージョイントは使用できません。
2. 支持 … ダクト1本およびコーナーパーツ1個毎につき4箇所以上で支持を行ってください。コーナーパーツの支持箇所は、架台取付箇所に準じてください。(例:架台数が3本なら6箇所で支持) コーナーパーツの架台取付数は、各パーツのページをご確認ください。

#### 2 フタ方向:天井 <図2.4.1-1>

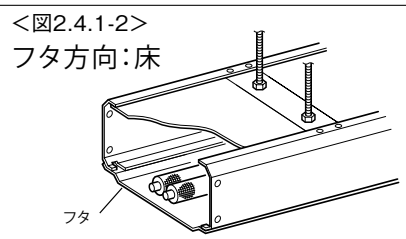
1. 支持 … ダクト1本およびコーナーパーツ1個毎に2箇所以上の子桁にチャンネルなどの支持具を取り付けてください。取り付け位置などは床面における架台取り付け位置と要領などは変わりませんが、配管やフタの取り付けを考慮して天井とダクトの間を広く取る必要があります。



#### 3 フタ方向:床(逆使い) <図2.4.1-2>

1. 使用ダクトの制限 … 900、900Hタイプのダクトは、フタ方向:床での天吊り施工はできません。
3. 底板 … ほこり溜まり防止の為、底板を使用してください。

**注意** ジョイントレス接続工法の場合はジョイント用底板(RDBJ)は使えません。ジョイントレス接続で施工を行う場合は別途専用底板(RDBO)が必要になりますので、当社営業所までご相談ください。

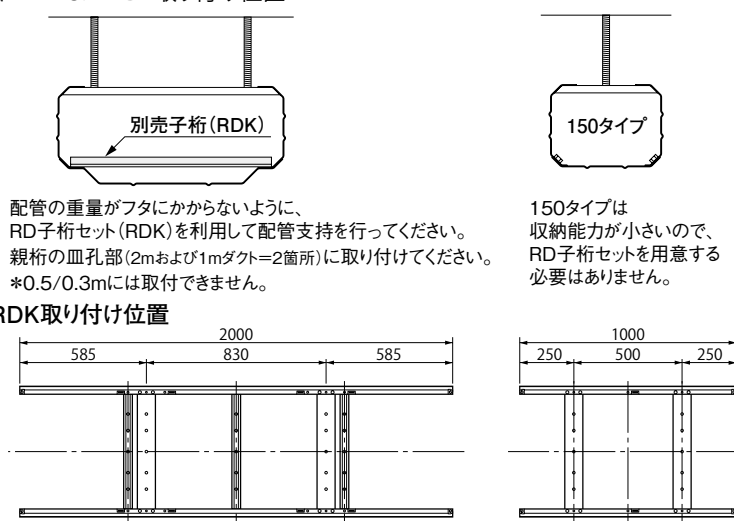


#### 4. 配管の支持 …

配管の重量がフタにかからないように、RD子桁セット(RDK)を利用して配管支持を行ってください。150タイプは収納能力が小さいので、RD子桁セットを用意する必要はありません。通常の被覆銅管であれば、フタ強度で十分支持可能です。

<図2.4.1-3>

<図2.4.1-3> RDK取り付け位置



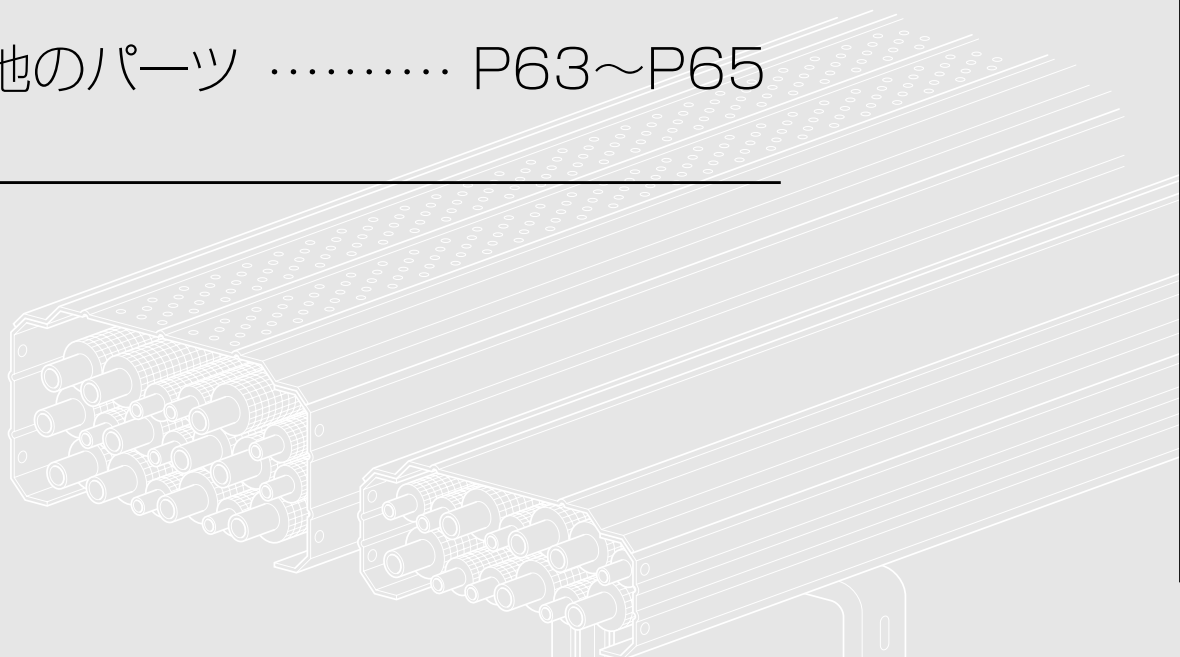
5. フタ補強板 … フタ補強板は使用できません。600タイプのダクトおよび一部コーナーパーツに標準で付属する、フタ補強板は安全のために取り外してください。

**参考** フタ補強板は平面施工時のフタたわみ防止を目的とするパーツです。

# 設計編

## 3 個別設計

ダクト	.....	P20~P21
PS及び壁貫通	.....	P22~P28
接続方法	.....	P29~P33
架台	.....	P34~P42
コーナー	.....	P43~P59
底板	.....	P60~P62
その他のパーツ	.....	P63~P65



# 3.1 ダクト

- 3.1.1 製品構成
- 3.1.2 耐荷重

- 3.1.3 ダクトの選定

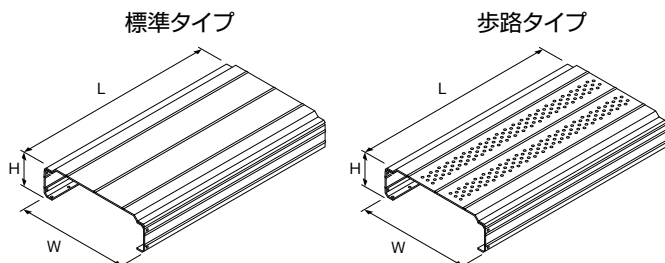
- 3.1.4 壁面/天吊り施工について

〔設計編〕

## 3.1 ダクト

### 3.1.1 製品構成

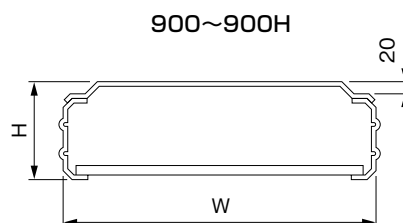
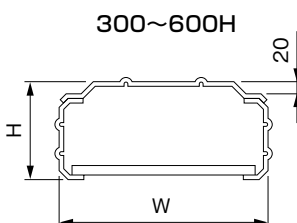
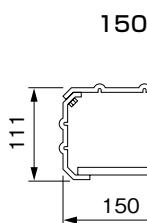
<図3.1.1-1>



単位:(mm)

タイプ	W	L	H
150	150	500/1000/2000	111
300/300H	300	300/500/1000/2000	134/254
450/450H	450	300/500/1000*/2000*	134/254
600/600H	600	300/500/1000*/2000*	134/254
900/900H	900	300/500/1000*/2000*	134/254

\*Hタイプは開閉式



### 3.1.2 耐荷重

耐荷重については【1.4】耐荷重および強度をご参照ください。

### 3.1.3 ダクトの選定

- 1 配管取出部(パイプシャフトなど)の状態、配管の径および本数、配管スペース、機器メンテナンススペース、ダクトの段積の有無などを考慮して、ダクトサイズを選定します。

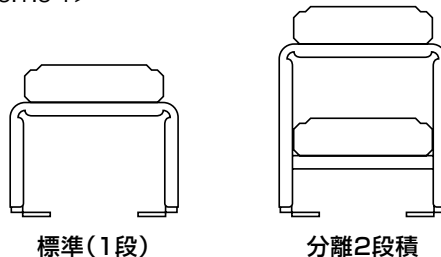
参照 【1.4】耐荷重および強度  
【1.5】収納能力  
【2.1】基本的な設計の流れ

機器のメンテナンス時を想定し、歩路用のダクト(RDWなど)の設置場所などもご考慮ください。

- 2 ダクトの設置パターンは図のように標準(1段)と分離2段積の2種類があります。<図3.1.3-1>

注意 分離2段積は、RZB-M/ML/Lに、架台2段用ガイトRZY(別売)を取り付けた場合に限りです。  
900タイプには架台2段用ガイトはありません。〔3.4〕架台を参照

<図3.1.3-1>



### 3.1.4 壁面/天吊り施工について

壁面施工については【2.3】設置方法・壁面をご参照ください。  
天吊り施工については【2.4】設置方法・天吊りをご参照ください。

## 3.1.5 架台の取り付け箇所(床置き)

<図3.1.5-1>

荷重を考慮して2箇所以上で取り付けてください。  
架台の取り付け箇所としては

### 1 子桁への取り付け

床置きおよび壁面施工時  
※壁面施工についての詳細は【2.3】設置方法・壁面を参照してください。

### 2 接続部への取り付け

(ジョイントレス接続施工または固定ジョイント\*使用時)  
床置き(平置き)施工時のみ  
※RSJ・RSS・RFJ(Aタイプ)のみ可能。

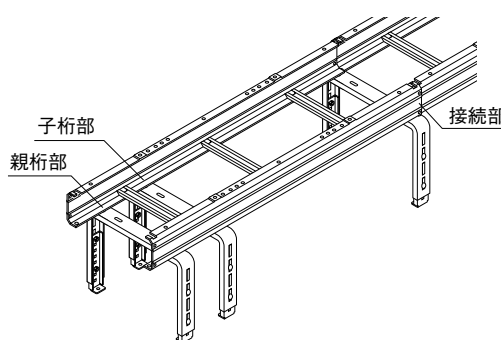
【参照】【3.3】接続方法

### 3 親桁への取り付け

親桁への架台取り付けは、子桁や接続部に取り付ける場合と比べて取り付け強度が劣るため、床置き以外は使用に制限があります。

※詳細は【3.4.7】取付可能箇所をご参照ください。

<図3.1.5-1>



## 3.1.6 設計上の注意点

### 1 架台

架台の寸法は、ダクトより幅広となっています。  
ダクトの設置には架台寸法および施工作業やメンテナンス分のスペースを考慮してください。  
(目安:周囲200mm以上) 【参照】【3.4】架台

### 2 接続部 【参照】【3.3】接続方法

<表3.1.6-1> 接続の方法 【参照】【3.3】接続方法

- ジョイントレス接続工法は接続箇所1箇所につき20mm短くなります。逆にジョイント使用工法は、ジョイントシロとしてダクト間にRSJ:20mm、RFJ:20mm、RR(ジョイント型):63mmのすき間が必要です。
- 端尺については、できるだけ定尺ダクトとスライドジョイントの組合せにてご使用ください。  
尚、ジョイントの種類は<表3.1.6-1>の通りです。

ジョイントレス接続	一般に使用する接続方法でジョイント用別部材を使用せずにダクトや一部平面コーナーの親桁同士を接続する工法。 【注意】 ・150タイプ、一部コーナーパーツ、異なるサイズ、端部を切断したダクトなどの接続はできません。 ・壁面施工は固定ジョイントで施工してください。
固定ジョイント	縦引き施工やジョイントレス接続工法が行えない場合
フリージョイント	ダクト切断部などジョイントレス接続工法または固定ジョイントが使用できない場合に利用
スライドジョイント	長さおよび高さなどの調整用 【注意】 ・150タイプにはスライドジョイントはありません。
異径ジョイント	異なるサイズのダクトやコーナーパーツの接続用

### 3 RDの設置間隔

RDを並列にならべる場合は、ダクトとダクトの間隔およびダクトと機器などの間隔は200mm以上取ってください。

### 4 歩路用タイプ

歩路用タイプは、壁面および天吊り施工には使用できません。また、ダクト端部も歩路として使用しないでください。

### 5 フタ補強板

フタ補強板は600(H)、900(H)には標準で付属。  
フタ補強板は壁面および天吊り施工には使用できません。取りはずしてください。

## 3.1.7 ダクトの切断

切断は可能な限り避け、できるだけスライドジョイントRSSをご利用ください。切断する場合は子桁が2本以上になるように切断してください。(※ただし、開閉式ダクトは子桁が減るような切断は不可)

【参照】【3.3.5】RSSスライドジョイント

切断をおこなった場合は、ジंकリッチ(Zn-Al)系の塗料による補修処理をおこなってください。  
(※コーナーパーツは切断不可)

設計編

製品構成  
仕様重量

仕様

耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

全体設計

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天吊り)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計

架台  
コーナー

底板

その他の  
パーツ

## 3.2 PSおよび壁貫通

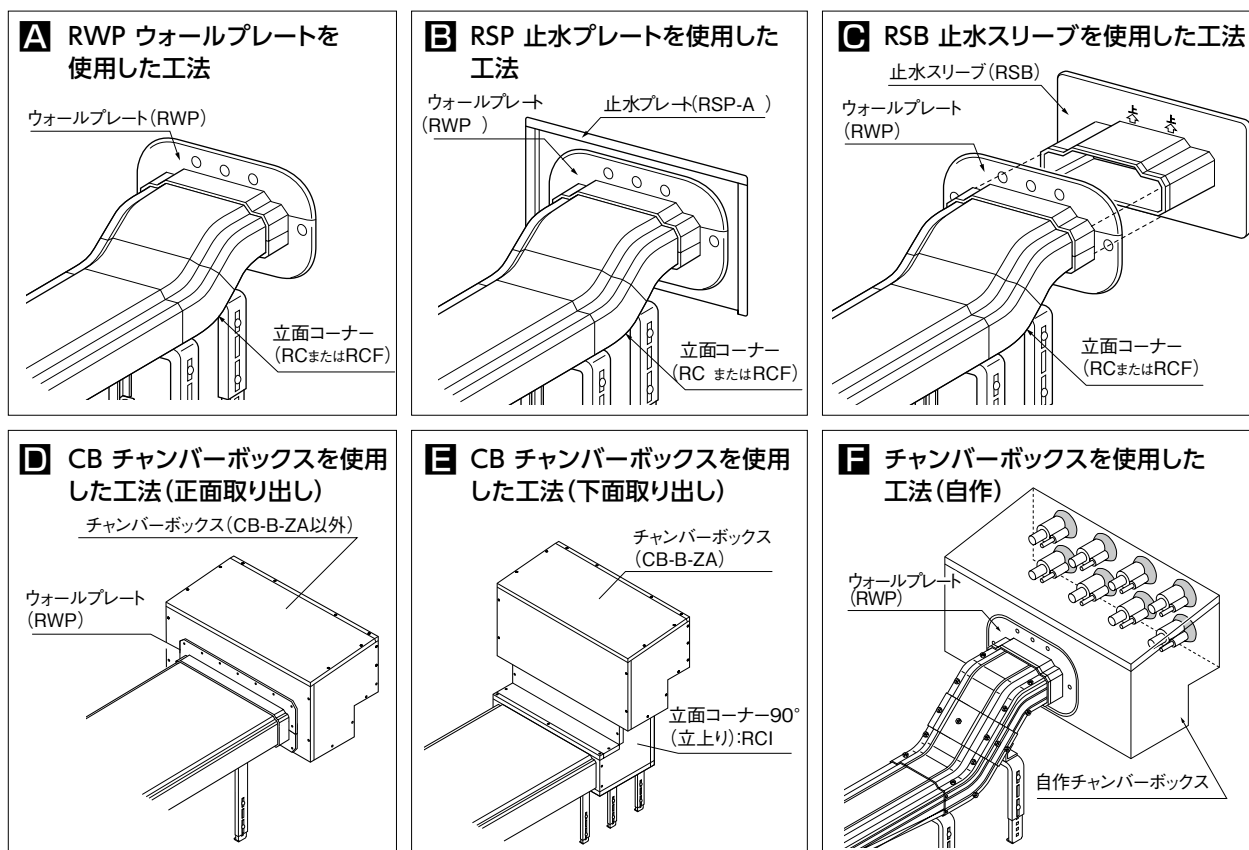
目次	3.2.1 PSおよび壁貫通の施工例(屋外床置き) .....	22
	3.2.2 RWP ウォールプレートを使用した工法 .....	23
	3.2.3 RSP 止水プレートを使用した工法 .....	24
	3.2.4 RSB 止水スリーブを使用した工法 .....	25
	3.2.5 RSPC 止水プレート保護カバーの取り付け .....	25
	3.2.6 CB チャンバーボックスを使用した工法(正面取り出し) .....	26
	3.2.7 CB チャンバーボックスを使用した工法(下面取り出し) .....	27
	3.2.8 チャンバーボックスを使用した工法(自作) .....	28
	3.2.9 壁貫通工法(屋内) .....	28

### 3.2.1 PSおよび壁貫通の施工例(屋外床置き)

屋外では止水処理が必要です。止水処理を考慮した貫通方法としては以下の方法などがあります。

**注意** ここで取り上げた施工方法はあくまでも一例です。細部は現場監督官の指導に従ってください。

<図3.2.1-1> 施工例 (PS)



<表3.2.1-1>

ダクトサイズ	施工例	掲載ページ	施工に必要な部品 (施工例における一例)					
			ウォールプレート RWP	立面コーナー 45° RCF	立面コーナー 90° RC/RCI	止水プレート RSP	止水スリーブ RSB	チャンバーボックス CB
150	<b>A</b>	P.23	○	○	—	—	—	—
300、300H 450、450H 600、600H	<b>B</b>	P.24	○	○	—	○ ※1	—	—
	<b>C</b>	P.25	○	○	—	—	○	—
900、900H	<b>B</b>	P.24	○	○	—	○ ※1	—	—
900H	<b>D</b>	P.26	○	—	—	—	—	○ ※2
全サイズ	<b>E</b>	P.27	—	—	○	—	—	○ ※3
	<b>F</b>	P.28	○	—	—	—	—	(自作) ※4

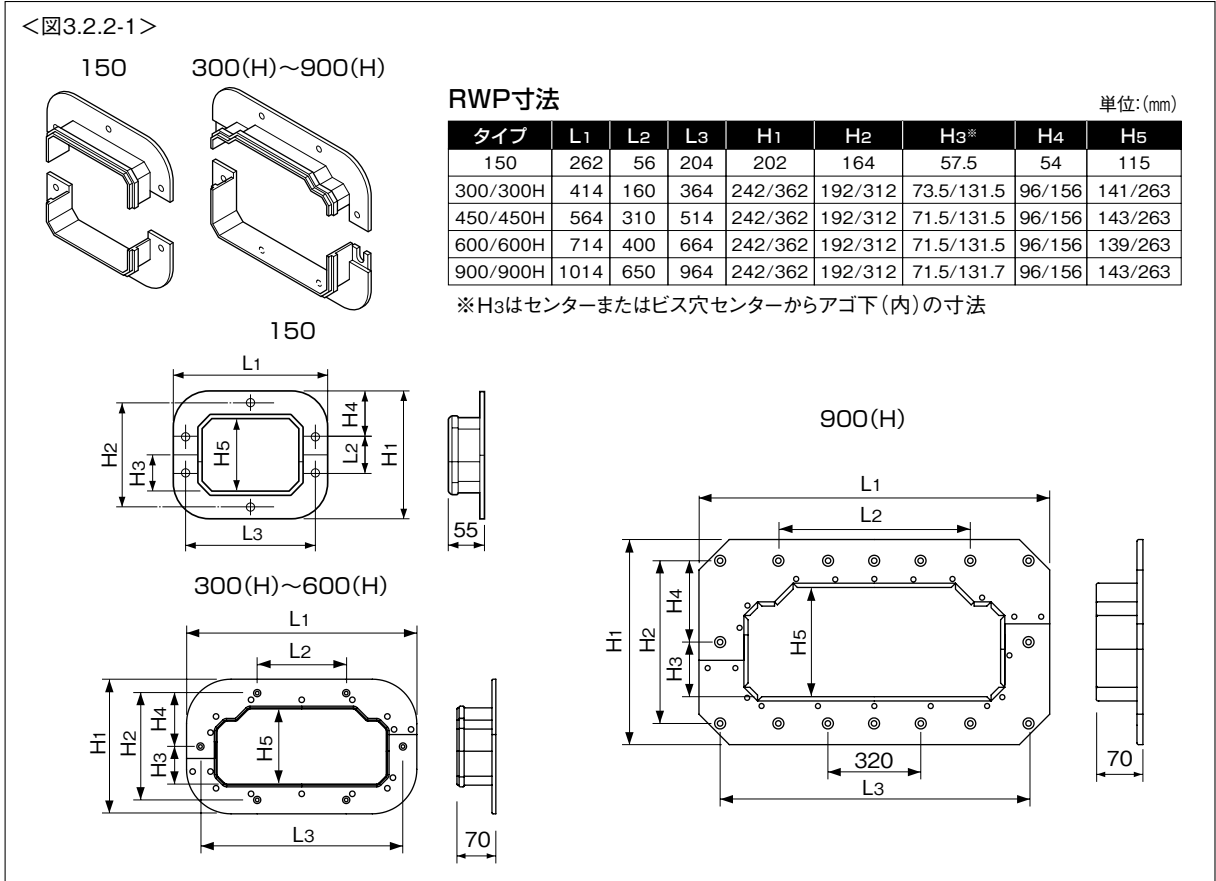
※1. RSP-A(四角コーキングタイプ)を使った工法  
 ※2. CB-B-ZA以外を使った工法

※3. CB-B-ZAを使った工法  
 ※4. 現場調達

## 3.2.2 RWP ウォールプレートを使用した工法

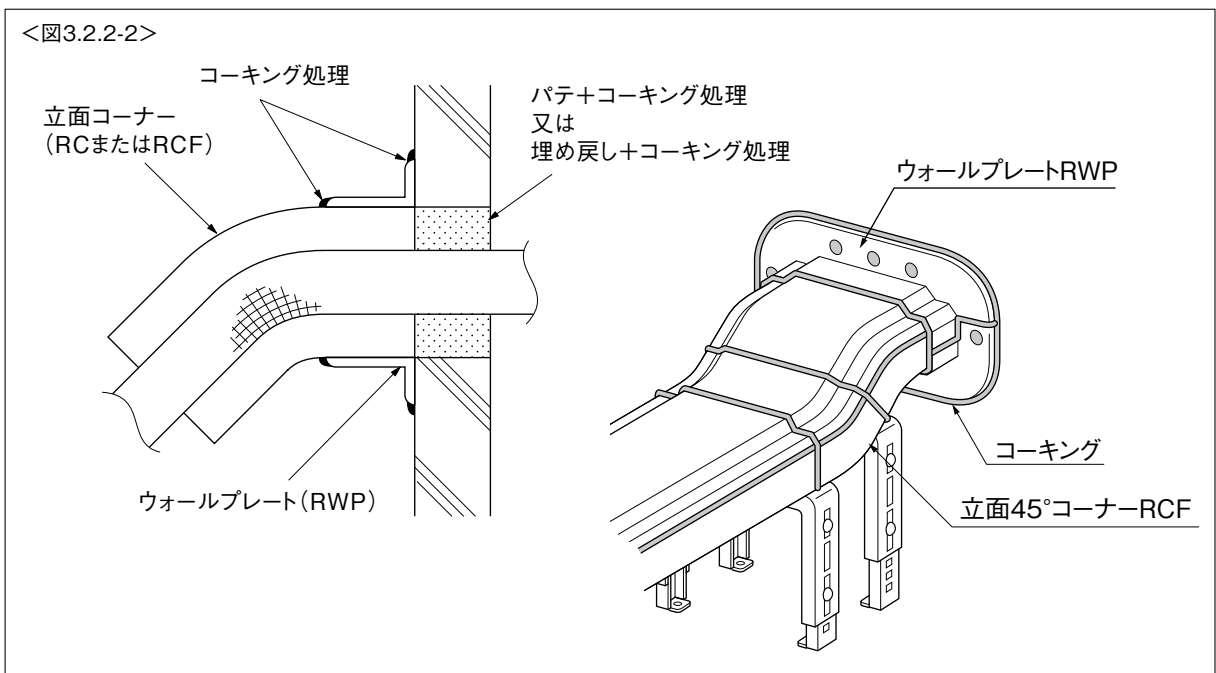
### 施工例 A

#### 1 製品構成



- 2 ウォールプレート(RWP)と立面コーナー(RC, RCF)を利用して貫通部の処理を行います。貫通部も「パテ+コーキング処理」又は「モルタル埋め戻し+コーキング処理」などで止水します。

<図3.2.2-2>



### 3.2.3 RSP/RSPR 止水プレートを使用した工法

**施工例 B** 止水プレート(RSP-A四角コーキングタイプ)、ウォールプレート(RWP)、立面コーナー45°(RCF)を組み合わせて止水処理を行います。

#### 1 製品構成

<図3.2.3-1>

サイズ	W	D	H
300/300H	467	72.3	279/399
450/450H	617	72.3	279/399
600/600H	767	72.3	279/399
900/900H	1067	71.6	279/399

単位:(mm)

#### 2 開口部寸法

<図3.2.3-2>

サイズ	W	H
300/300H	300	118/238
450/450H	450	118/238
600/600H	600	118/238
900/900H	900	118/238

単位:(mm)

#### 3 RSPおよびRWP取り付け用下穴位置

<図3.2.3-3> 貫通穴に対するビス位置

<300(H)、450(H)、600(H)>

サイズ	A	A'	B	C	D	E	E'
300タイプ	54	64	160	192	364	42	32
450タイプ			310		514		
600タイプ			400		664		
900タイプ			-		-		
300Hタイプ	117	121	160	312	364	39	35
450Hタイプ			310		514		
600Hタイプ			400		664		
900Hタイプ			-		-		

単位:(mm)

<900(H)>

#### 4 コーキング処理

<図3.2.3-4>

止水プレートRSP

コーキング処理

コーキング

ウォールプレートRWP

立面45°コーナーRCF

RSPR使用例

ビル外壁から屋上へ立ち上る場合

RSPR

### 3.2.4 RSB 止水スリーブを使用した工法

**施工例 C** 止水スリーブ(RSB)、ウォールプレート(RWP)、立面コーナー45°(RCF)を組み合わせて止水処理を行います。止水スリーブは躯体に埋め込んで処理します。

#### 1 製品構成

<図3.2.4-1>

サイズ	W	H <sub>1</sub>	H <sub>2</sub>
300/300H	391	207/327	147/267
450/450H	541	207/327	147/267
600/600H	691	207/327	147/267

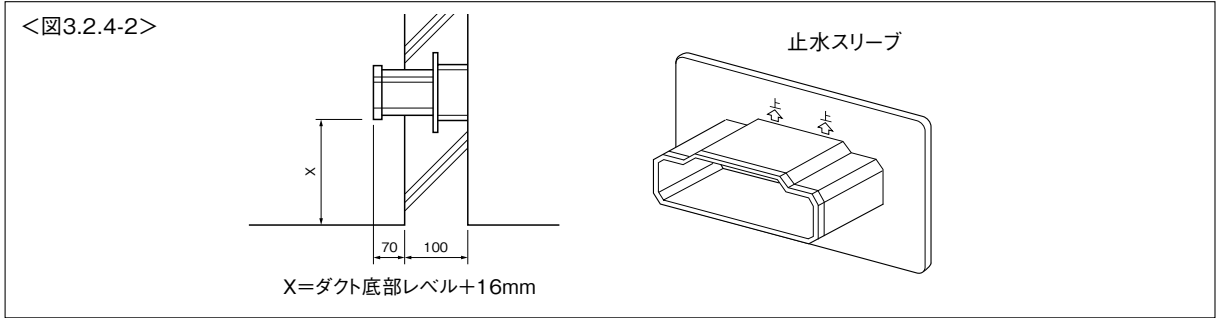
単位:(mm)

# 3.2 PSおよび壁貫通

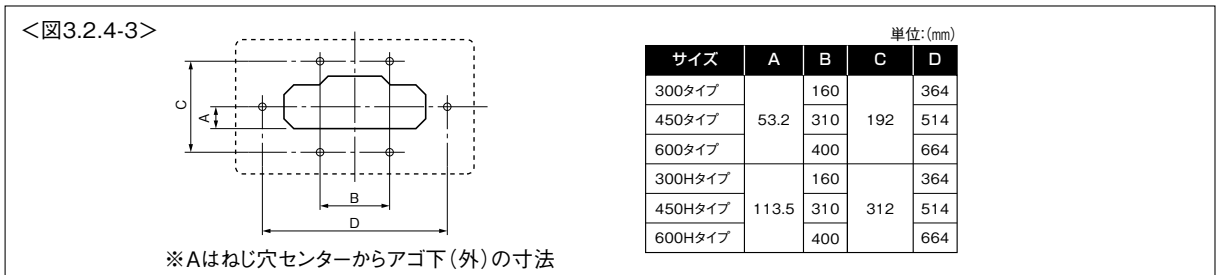
- 3.2.4 RSB 止水スリーブを使用した工法
- 3.2.5 RSPC 止水プレート保護カバーの取り付け

〔設計編〕

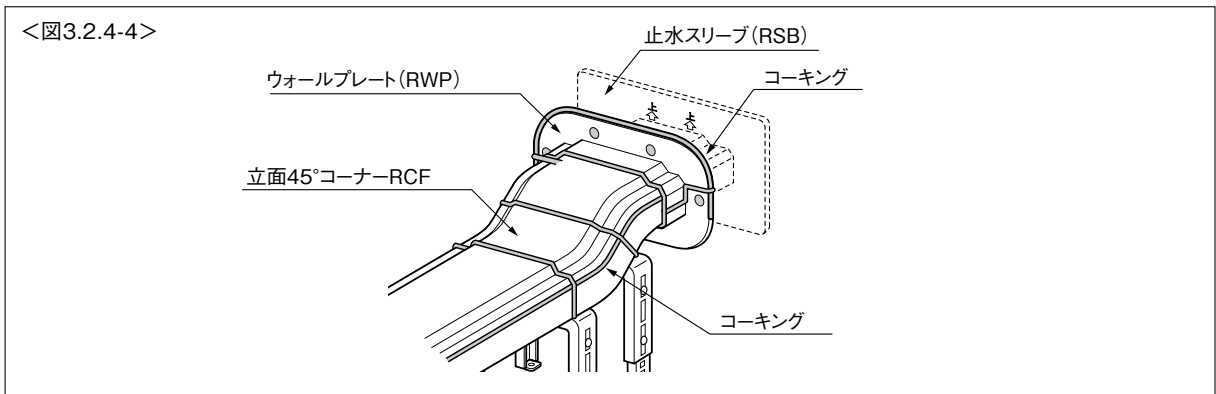
## 2 止水スリーブの躯体埋め込み寸法



## 3 ウォールプレート取り付け用のM6×45LタッピングビスもしくはM6用アンカー位置

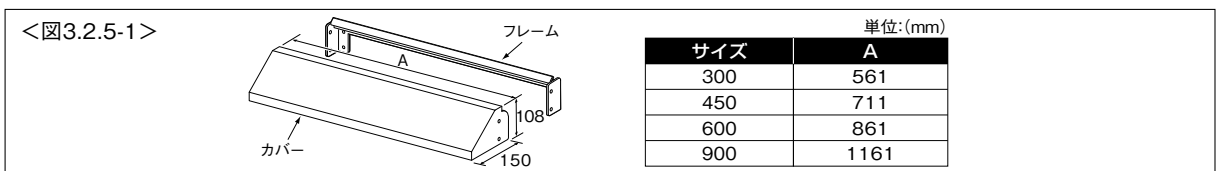


## 4 コーキング処理

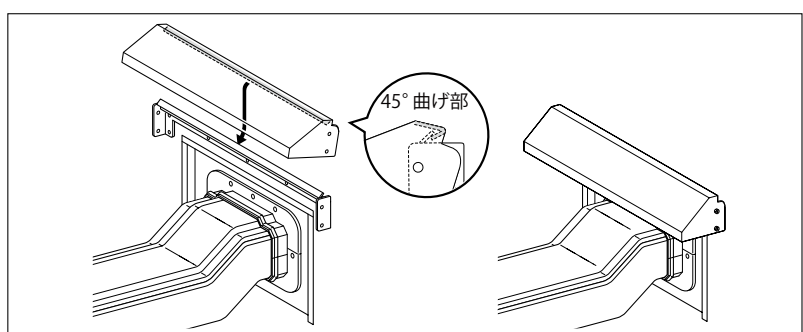


## 3.2.5 RSPC 止水プレート保護カバーの取り付け

### 1 製品構成



止水プレートのコーキングを紫外線から守るため、止水プレート保護カバーを取り付けます。天面部の45度曲げ部とカバー天面部(内面側)の45度曲げ部をかん合させることによりカバーを仮置きし、フレームにボルトで固定します。



設計編

製品構成  
仕様重量

仕様

耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

全体設計

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天吊り)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計

架台

コーナー

底板

その他の  
パーツ

## 3.2.6 CBチャンバーボックスを使用した工法(正面取り出し)

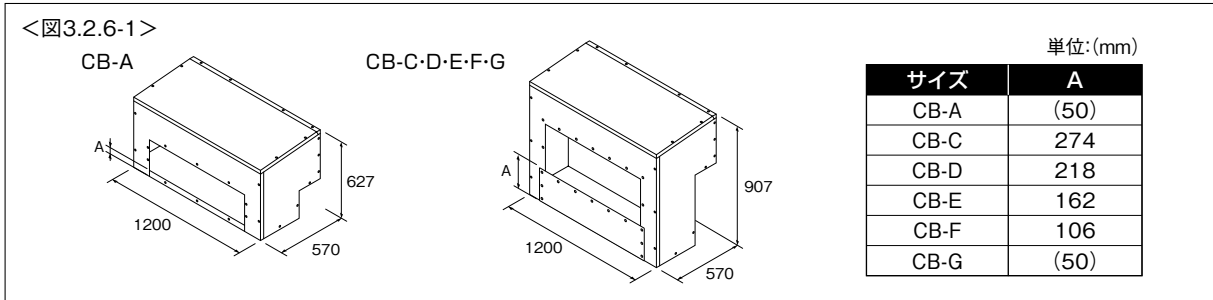
### 施工例

ウォールプレートRWPを組み合わせて施工します。

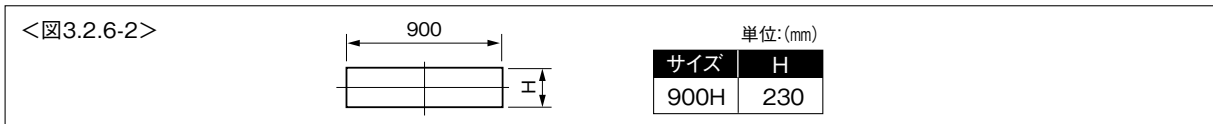
また、ダクト端部補強用のフタ補強板 RXH が別途必要です。

※チャンバーボックス(CB)は、材質・寸法などを変更した特別仕様品(特注品。価格および納期は別途打ち合わせ)を承ります。

#### 1 製品構成



#### 2 開口部寸法

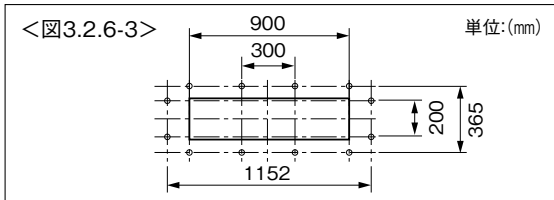


#### 3 CB用W3/8アンカーボルト取り付け位置

<図3.2.6-3>

**注意** 接続部は隙間が発生しますので、コーキング処理や、パテ埋めなどにより防水処理を行ってください。

<図3.2.6-4>



<図3.2.6-4>

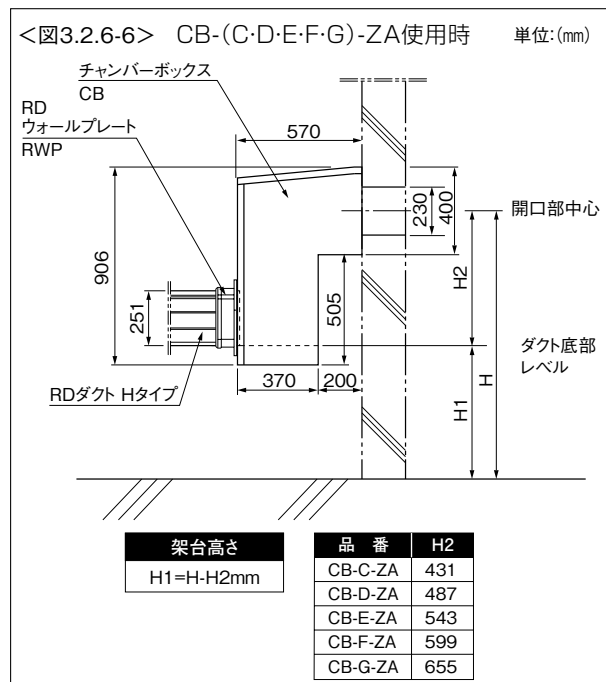
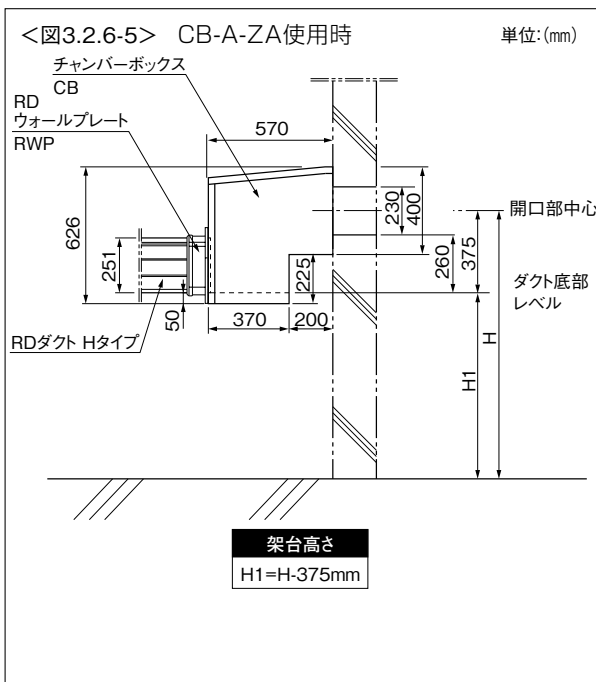
RDウォールプレート  
RWP

取付架台  
(RZM+RZB)

コーキング

※ダクト接続部に  
【3.7.1】RXHが必要です。

#### 4 RDダクト取出しレベル寸法



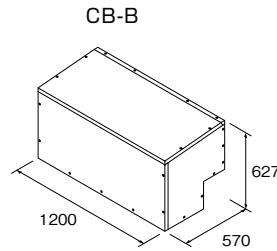
## 3.2.7 CBチャンバーボックスを使用した工法(下面取り出し)

### 施工例 目

立面コーナー90°(立上り):RCIを使用した下面取り出し施工も可能です。 <図3.2.7-2>

#### 1 製品構成

<図3.2.7-1>

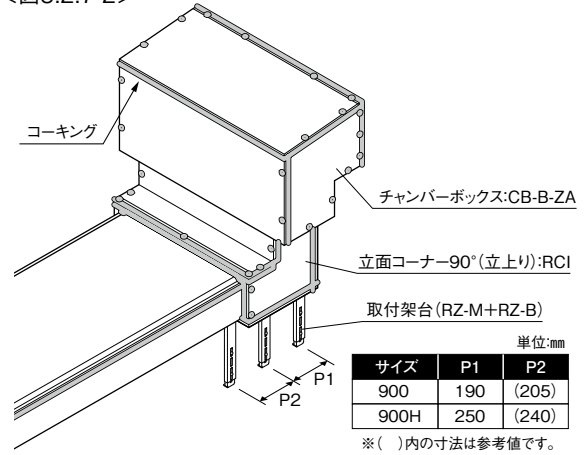


#### 2 アンカーボルト取り付けとコーキング処理

**参照** アンカー位置は【3.2.6】チャンバーボックスを使用した工法(正面取り出し)を参照。

- 注意**
- RD取付架台を必ず2本取り付けてください。
  - 接続されたRDダクトの端部についても、必ずRZを取り付けてください。
  - チャンバーボックスは受注生産です。
  - RCI-900・900HをCBにセットする際は、底板Bを取り外してください。
  - それ以下のサイズをCBにセットする際は、サイズに合わせて切り欠き加工してください。
  - RCIはCBに挿入するだけでCBとは接続しません。(下図参照)
  - 接続部は隙間が発生しますので、コーキング処理や、パテ埋めなどにより防水処理を行ってください。

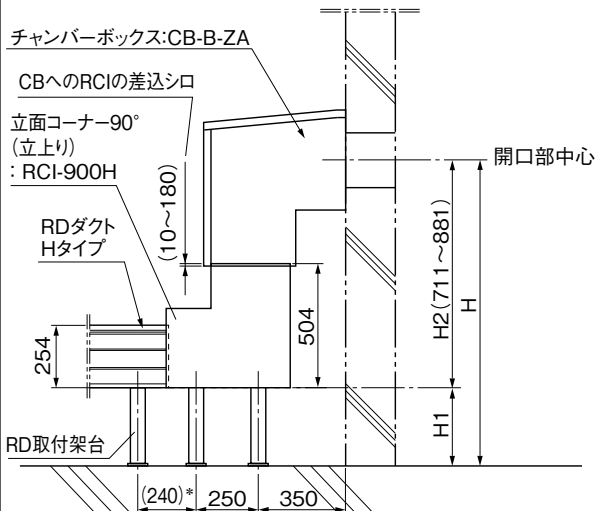
<図3.2.7-2>



#### 3 RDダクト取出しレベル寸法

<図3.2.7-3>

単位:(mm)  
CB-B-ZA+立面コーナー90°(立上り):RCI-900H使用時

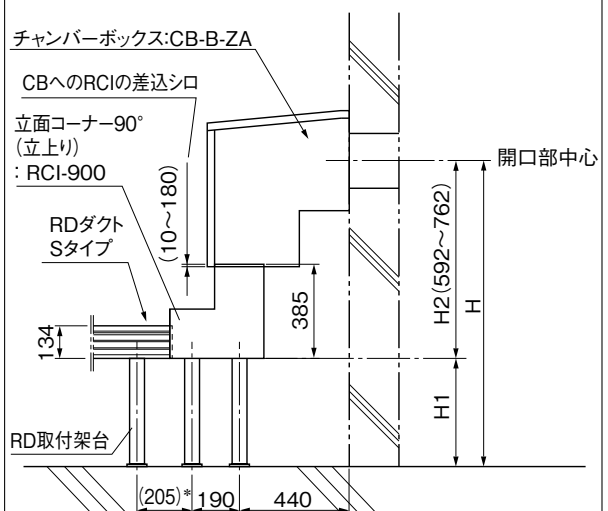


**架台高さ**  
H1=H-H2(711~881)mm

※H2はCBへのRCIの差込シロにより変動。  
711mmは最大差込180mm時  
881mmは最小差込10mm時  
\*参考値

<図3.2.7-4>

単位:(mm)  
CB-B-ZA+立面コーナー90°(立上り):RCI-900使用時



**架台高さ**  
H1=H-H2(592~762)mm

※H2はCBへのRCIの差込シロにより変動。  
592mmは最大差込180mm時  
762mmは最小差込10mm時  
\*参考値

# 3.2 PSおよび壁貫通

- 3.2.8 チャンバーボックスを使用した工法(自作) [設計編]
- 3.2.9 壁貫通工法(屋内)

## 3.2.8 チャンバーボックスを使用した工法(自作)

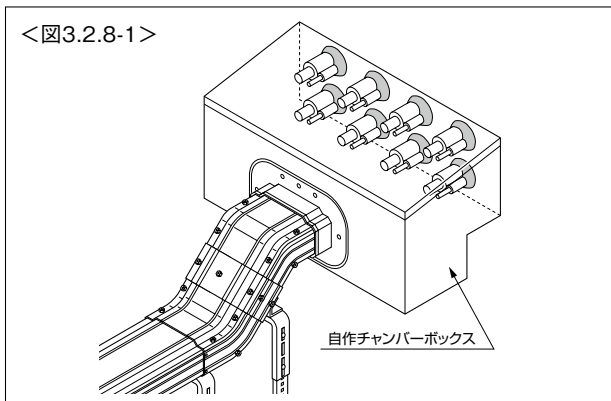
### 施工例 自作 チャンバーボックスを使用した工法(自作)

既製品では、対応できない現場などではチャンバーボックスを自作する場合があります。自作の場合は、個々の環境によって条件などが異なりますので、ここでは一例を挙げるのみとします。自作の場合は、現場監督官の指示に従って施工してください。

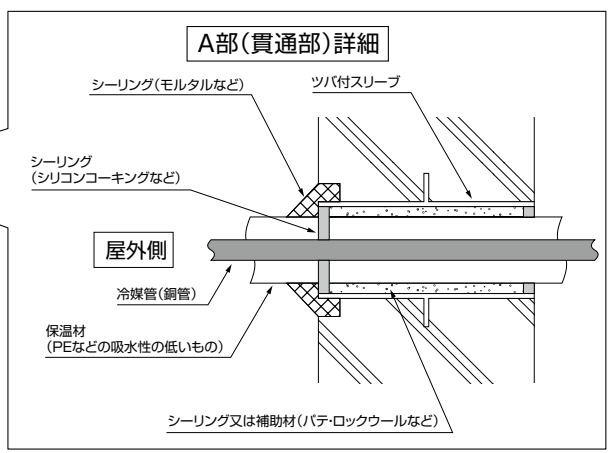
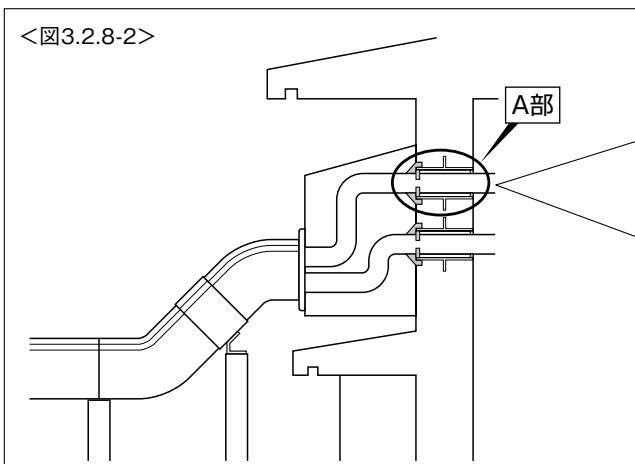
<図3.2.8-1、2>

**注意** チャンバーボックスや貫通部材などは現地調達になります。

<図3.2.8-1>



<図3.2.8-2>

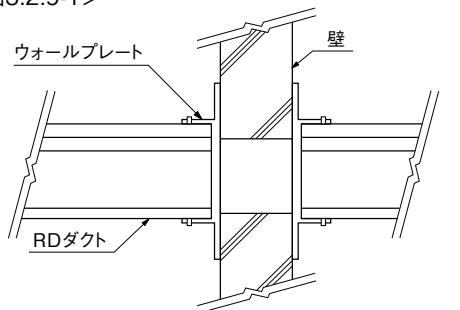


## 3.2.9 壁貫通工法(屋内)

屋内における壁貫通の工法としては、「壁面突き合わせ工法」と「壁貫通工法」があります。何れも直線ダクト(スリムダクトRD)と化粧プレート(ウォールプレート RWP)の組合せで施工しますが、「壁面突き合わせ工法」の方が後のメンテナンスが容易です。  
※RWPについては【3.2.2】参照

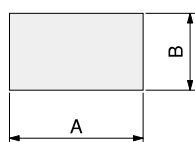
### 1 壁面突き合わせ工法

<図3.2.9-1>



単位:(mm)

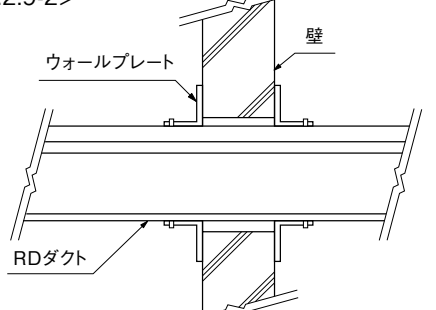
壁穴寸法



サイズ	A	B
150タイプ	110	100
300タイプ	260	
450タイプ	410	
600タイプ	560	
900タイプ	860	
300Hタイプ	260	220
450Hタイプ	410	
600Hタイプ	560	
900Hタイプ	860	

### 2 壁貫通工法

<図3.2.9-2>



単位:(mm)

壁穴寸法



サイズ	C	D
150タイプ	170	150
300タイプ	320	
450タイプ	470	
600タイプ	620	
900タイプ	920	
300Hタイプ	320	270
450Hタイプ	470	
600Hタイプ	620	
900Hタイプ	920	

## 3.3 接続方法

概要

接続方法としては、大きくわけてジョイント用部品を使わないジョイントレス接続方法とジョイント部品を使う接続方法、900/900H用パーツ専用の接続方法があります。

目次

- 3.3.1 接続方法の選定表 ..... 29
- 3.3.2 ジョイントレス接続 ..... 30
- 3.3.3 RSJ 固定ジョイント ..... 30
- 3.3.4 RFJ フリージョイント ..... 30
- 3.3.5 RSS スライドジョイント ..... 32
- 3.3.6 RR 異径ジョイント ..... 32
- 3.3.7 900/900Hのコーナーパーツ接続 ..... 33
- 3.3.8 900/900Hのジョイント(1) RXJ ..... 33
- 3.3.9 900/900Hのジョイント(2) RXR ..... 33

### 3.3.1 接続方法の選定表

接続(ジョイント)には下記の通りいくつかの種類があります。目的に合わせてご利用ください。

<表3.3.1-1>

種類	解説	接続シロ
ジョイントレス接続 参照 [3.3.2]	一般に使用する接続方法でジョイント用別部材を使用せずにダクトや一部コーナーの親桁同士を接続する工法。 <b>注意</b> 150タイプ、900(H)タイプのコーナーパーツの一部、壁面施工、異なるサイズ、端部を切断したダクトなどとの接続はできません。	差し込みシロ -20mm
ジョイント 参照 [3.3.3]、 [3.3.6]	固定ジョイント	ジョイントシロ 20mm
	フリージョイント	ジョイントシロ 20mm
	スライドジョイント	
	異径ジョイント (RXRを含む)	異なるサイズのダクトやコーナーパーツの接続用。 <b>注意</b> 立面コーナーと接続する場合は水平部のみ使用可能です。 ジョイント型は壁面浮かしおよび天吊り施工には使用できません。
900/900H パーツ用 の接続*2 参照 [3.3.8]	900/900Hタイプのコーナーパーツ同士を接続する場合に使用します。	RXJ:ジョイントシロ 10mm (RCIとRCOを 接続する場合は6mm)

\*2 RCF-900/900Hを除く。

設計編

製品構成  
仕様重量

耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(設置方法  
床置き)

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天井吊り)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計  
架台

コーナー

底板

その他の  
パーツ

# 3.3 接続方法

- 3.3.2 ジョイントレス接続
- 3.3.3 RSJ 固定ジョイント (設計編)
- 3.3.4 RFJ フリージョイント

設計編

仕様  
製品構成  
仕様重量

仕様  
耐荷重及び  
強度

仕様  
収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天吊り)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

架台

コーナー

底板

その他の  
パーツ

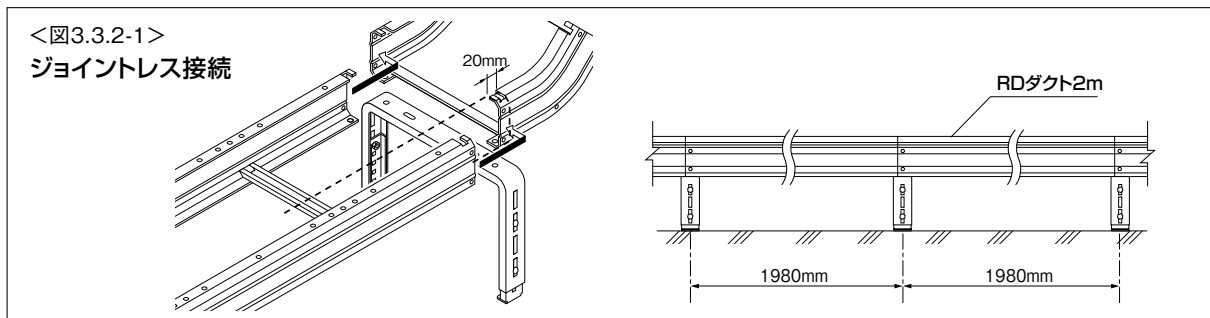
## 3.3.2 ジョイントレス接続

ダクトおよび主なコーナーパーツとの接続において、一般的に使用する接続方法でジョイント用別部材を使用せずに接続できます。

ただし、RD-150シリーズおよび、サイズ違いのダクト同士、端部を切断したダクトとの接続、壁面施工などには構造上「ジョイントレス接続工法」はできません。詳細は【3.3.1】接続方法の選定表をご確認ください。

### 1 ジョイントレス接続の接続シロ<図3.3.2-1>

ジョイントレス接続の場合、ダクトの端と端を20mm重ねて接続するため、有効寸法が短くなります。



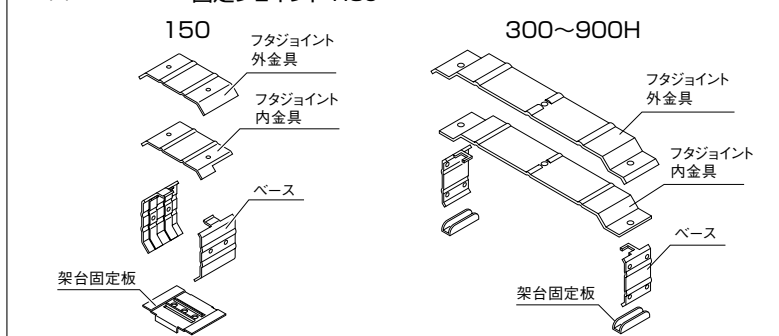
## 3.3.3 RSJ 固定ジョイント

固定ジョイントは、平置き施工と壁面施工、天吊り施工に使用できます。

固定ジョイントを使用する場合は、パーツとパーツの間に20mmのすき間が必要です。

付属の架台固定板を利用して、接続部に架台を設置することも可能です。(床置きの場合に限る)

<図3.3.3-1> 固定ジョイント RSJ



## 3.3.4 RFJ フリージョイント

フリージョイントには、フタジョイントなどが付属するAタイプと、簡易型のS/Hタイプがあり、切断したダクトを接続する際に使用します。床置き施工と壁面直付施工に使用できます。

ただし、壁面施工時の立面コーナーとの接続部には使用できません。

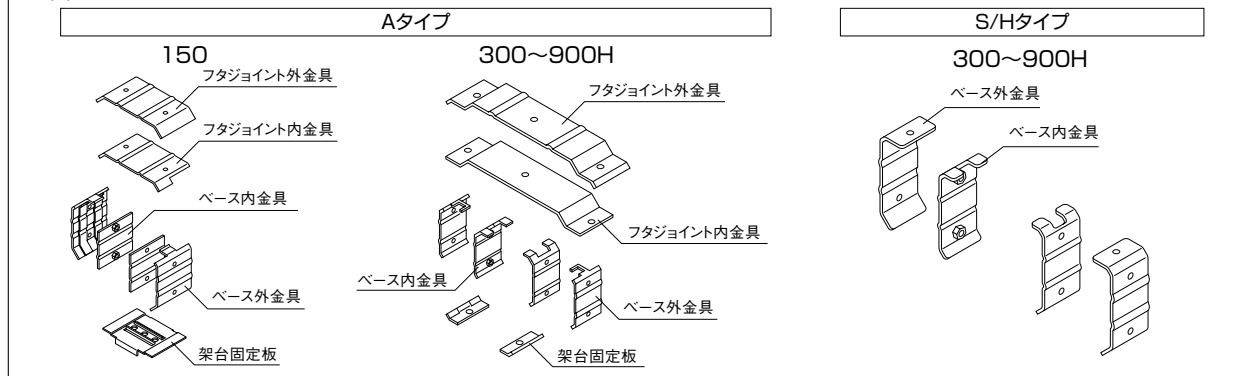
フリージョイントを使用する場合は、パーツとパーツの間に20mmのすき間が必要です。

Aタイプは付属の架台固定板を利用して、接続部に架台を設置することも可能です。

S/Hタイプはジョイントレス接続で施工した際に、フタ金具がないためフリージョイントが目立たず仕上がりがきれいです。

詳細は【3.4.7】架台-取付可能箇所を参照。 **注意** ※RDダクト 0.5m、0.3m、コーナーパーツは切断不可。

<図3.3.4-1>



### フリージョイント使用時の注意

#### 1. 親桁の切断

ダクトは子桁が2本以上残る範囲で切断して使用可能です。  
ただし、開閉式は子桁を減らす切断はできません。

#### 2. フタの切断

##### (1) S/Hタイプ

<図3.3.4-2>

親桁の切断長さが40mm以下の場合、フタは切断しません。

親桁の切断長さが40mm超の場合、親桁より40mm長くなるように切断します。

※接続相手のビスや補強板の取り付けに支障が無い場合は切断しなくてもかまいません。

##### (2) Aタイプ

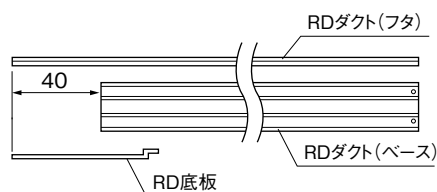
親桁と同じ長さに切断してください。

##### (3) フタビス

フタビス穴が無くなる場合は、必要な箇所に穴開け加工を行ってください。

<図3.3.4-2>

S/Hタイプのフタ および 底板の切断長さ(目安)



#### 3. 底板

##### (1) S/Hタイプ

親桁より40mm出るように切断してください。

##### (2) Aタイプ

接続部に架台を設置する場合は必要ありません。

架台を取り付けない場合は、ダクト用の底板はダクトの長さより20mm短くなるように切断し、ジョイント用底板RDJBを使用してください。

#### 4. 補修処理(ZAタイプ)

切断や加工をおこなった箇所は、ジंकリッチ(Zn-Al)系の塗料による補修処理をおこなってください。

#### 5. 取り付け時の注意

##### (1) S/Hタイプ

縦引き時は、上側のパーツのフタが上になるように取り付けてください。

立面コーナーと接続する場合は、切断していない方を接続してください。

段落しなど立面コーナーと接続が必要な場合は、切断側が下になるように取り付け、立面コーナーに架台を取り付けできるように穴開け加工を施してください。

##### (2) Aタイプ

立面コーナーと接続する場合は、切断していない方を接続してください。

段落しなど立面コーナーと接続が必要な場合は、切断側が上になるように取り付け、接続部にも架台を設置してください。

##### (3) 架台の取り付け

Aタイプは、架台固定板を使用することで接続部に架台を設置可能です。

ただし、150用は、ダクト同士の接続の場合に限ります。

S/Hタイプは、接続部に架台を設置できません。接続部の前後(近傍の子桁など)に架台を設置してください。

設計編

製品構成  
仕様重量

仕様

耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

全体設計

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天吊り)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計

架台

コーナー

底板

その他の  
パーツ

# 3.3 接続方法

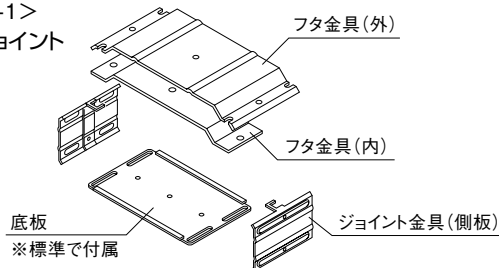
- 3.3.5 RSS スライドジョイント (設計編)
- 3.3.6 RR 異径ジョイント

## 3.3.5 RSS スライドジョイント

長さ調節機能付きの固定ジョイントです。  
 パーツとパーツの間が20~320mm開いている場合に使用可能です。  
 底部に架台を取り付けることも可能です。

- 注意**
- RSSの底板は、RDダクト2m、1mおよび立面コーナーとの接続時のみ取付可能です。
  - 歩路タイプのコーナーパーツとの接続には基本的に使用できません。(スライド調整ができません)
  - 壁面施工時の立面コーナーとの接続部には使用できません。

<図3.3.5-1>  
 スライドジョイント  
 RSS

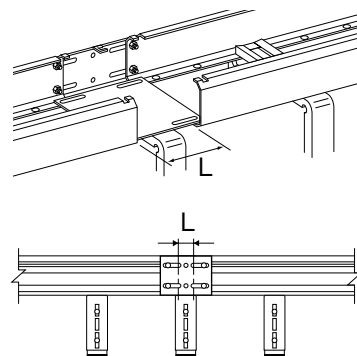


<表3.3.5-1> パーツ間寸法と対応スライドジョイント組み合わせ

パーツ間寸法 (L)	使用パーツ (ダクト長+RSS)	RSSの底板取付	備考
-20	なし(通常接続)	-	
20~120	RSS-1	○	20は固定ジョイントでも可
120~220	RSS-2	○	
220~320	RSS-3	○	260は0.3mのダクト単体でも可
300~400	0.3m+RSS-1	×	
400~500	0.3m+RSS-2	×	460は0.5mのダクト単体でも可
500~600	0.3m+RSS-3	×	
500~600	0.5m+RSS-1	×	540は0.3m+0.3mのダクトでも可
600~700	0.5m+RSS-2	×	
700~800	0.5m+RSS-3	×	740は0.3m+0.5mのダクトでも可
780~880	0.3m+0.5m+RSS-1	×	
880~980	0.3m+0.5m+RSS-2	×	940は0.5mのダクト2本、960は1mのダクト単体でも可
980~1080	0.3m+0.5m+RSS-3	×	
1000~1100	1m+RSS-1	○	
1100~1200	1m+RSS-2	○	
1200~1300	1m+RSS-3	○	1,240は0.3m+1mのダクトでも可
1280~1380	0.3m+1m+RSS-1	○	
1380~1480	0.3m+1m+RSS-2	○	1,440は0.5m+1mのダクトでも可
1480~1580	0.3m+1m+RSS-3	○	
1480~1580	0.5m+1m+RSS-1	○	
1580~1680	0.5m+1m+RSS-2	○	
1680~1780	0.5m+1m+RSS-3	○	1,720は0.3m+0.5m+1mのダクトでも可
1760~1860	0.3m+0.5m+1m+RSS-1	○	
1860~1960	0.3m+0.5m+1m+RSS-2	○	1,960は2mのダクトでも可
1960~2060	0.3m+0.5m+1m+RSS-3	○	
2000~2100	2m+RSS-1	○	
2100~2200	2m+RSS-2	○	
2200~2300	2m+RSS-3	○	

※段差寸法については、【3.5】コーナーを参照。

<図3.3.5-2>



## 3.3.6 RR 異径ジョイント

異径ジョイントRRには2つの種類があり、それぞれ施工方法と施工寸法が異なります。  
 異径ジョイント接続部には架台を取り付けることはできません。  
 前後のパーツの子桁などに架台を取り付けてください。  
 また、壁面施工時の立面コーナーとの接続部には使用できません

● **ジョイント型**

平置き施工と壁面直付施工に使用できます。  
 使用する場合は、パーツとパーツの間に63mmのすき間が必要です。  
 底板を使用することができません。

● **プレート型**

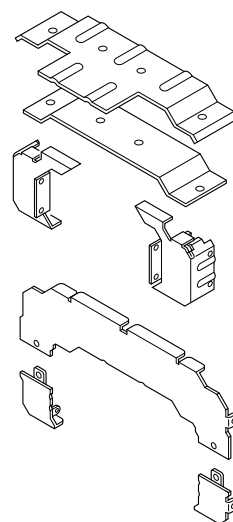
平置き施工と壁面施工(下向き)に使用できます。  
 使用する場合は、小さい方のダクトが20mm中に入り込みます。

**注意** 壁面施工(上向き)の場合は、パーツの構造上、すき間から雨水が入り易くなります。

<図3.3.6-1>

ジョイント型

プレート型



設計編  
 仕様  
 仕様重量  
 製品構成  
 耐荷重及び強度  
 収納能力  
 基本的な設計の流れ  
 設置方法 (床置き)  
 設置方法 (壁面)  
 設置方法 (天井吊り)  
 ダクト  
 PS及び壁貫通  
 接続方法  
 架台  
 コーナー  
 底板  
 その他のパーツ

# 3.3 接続方法

- 3.3.7 900/900Hのコーナーパーツ接続
- 3.3.8 900/900Hのジョイント(1) RXJ
- 3.3.9 900/900Hのジョイント(2) RXR

〔設計編〕

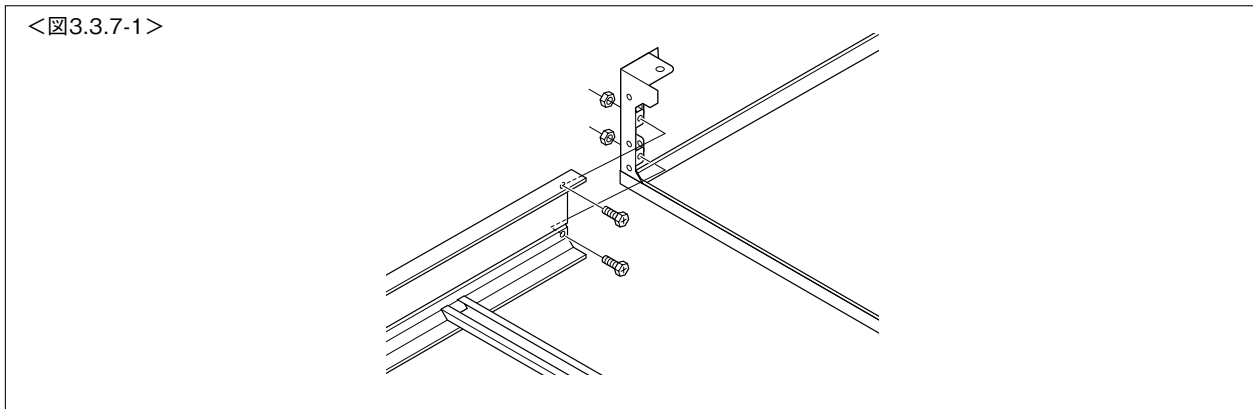
## 3.3.7 900/900Hのコーナーパーツ接続

コーナーパーツに接続するダクトをガイド部に直接ビスで固定してください。

**注意** ダクトとコーナーパーツは個別に支持して、荷重が他のパーツにかからないようにしてください。

配管作業後、フタ補強板(RXH-900など)を取り付けます。

<図3.3.7-1>

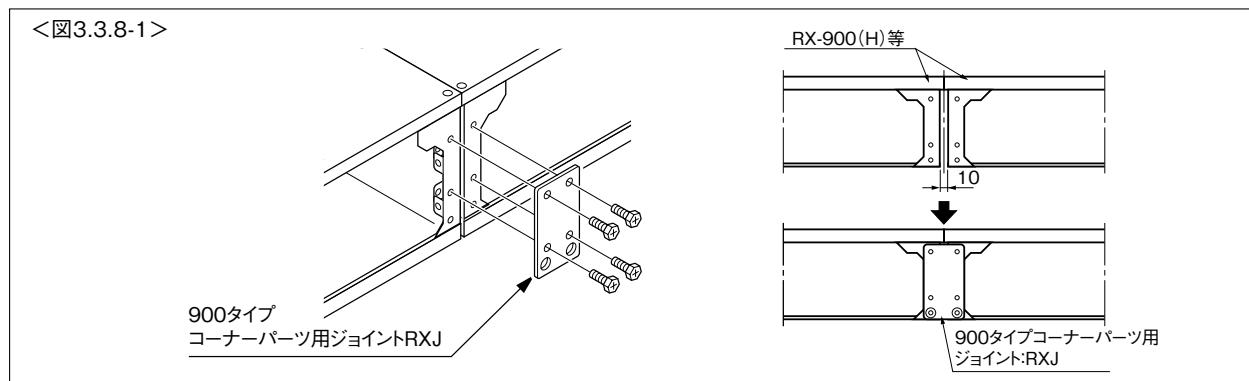


## 3.3.8 900/900Hのジョイント(1) RXJ

RXJを使用してコーナーパーツ同士を接続する場合、コーナーパーツ(RCFを除く)同士を10mm(RCIとRCOの場合は6mm)の間を開けて、RXJで接続します。

天面部などに若干のすき間が生じますので必要に応じてコーキング処理などを施してください。

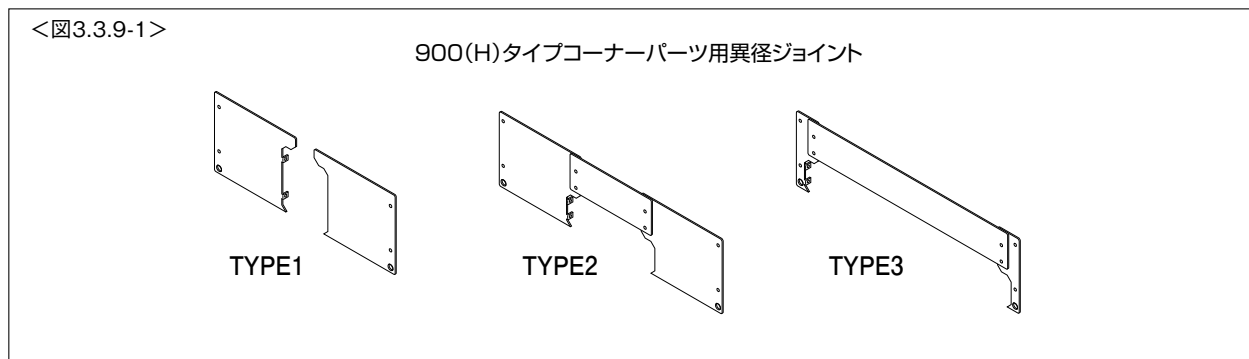
<図3.3.8-1>



## 3.3.9 900/900Hのジョイント(2) RXR

900/900Hタイプコーナーパーツ(RCFを除く)と異径のダクトを接続する場合は、RXRを使用します。取り付けの際は、ダクトをパーツに20mm入り込むように差し込み、RXRとビス止めします。

<図3.3.9-1>



設計編  
製品構成  
仕様重量  
仕様  
強度  
耐荷重及び  
収納能力  
基本的な  
設計の流れ  
設置方法  
(設置方法)  
設置方法  
(壁面)  
設置方法  
(天井吊り)  
ダクト  
壁貫通  
PS及び  
接続方法  
個別設計  
架台  
コーナー  
底板  
その他の  
パーツ

# 3.4 架台

- 3.4.1 製品構成
- 3.4.2 耐荷重
- 3.4.3 150タイプの架台選定表(床置き)

〔設計編〕

## 3.4 架台

### 概要

RDの300～900タイプの架台は、門部分(RZM)と足部分(RZB)を組み合わせることで架台高さ130～940まで対応することができます。

150タイプの架台は、280～940までの1本足の架台と、壁面取り付けに適し、100・125・150の3段階に高さを調節可能な壁面用架台があります。

### 目次

3.4.1	製品構成	34
3.4.2	耐荷重	34
3.4.3	150タイプの架台選定表(床置き)	34
3.4.4	150タイプ以外の架台選定表(床置き)	35
3.4.5	壁面施工の架台選定表(基本施工例)	35
3.4.6	取付可能箇所事例	36
3.4.7	取付可能箇所	37
3.4.8	標準設置間隔	38
3.4.9	架台設置事例	39
3.4.10	RZC 立面用架台固定板	40
3.4.11	RBK-B 子桁用補助金具	40
3.4.12	RBK-A 親桁用補助金具	40
3.4.13	RZY 架台2段用ガイド	41
3.4.14	RDY 配管保持台	41
3.4.15	RKT RD形鋼止め金具	41
3.4.16	RCT RDチャンネル止め金具	42
3.4.17	固定(床施工)	42

### 3.4.1

## 製品構成

<図3.4.1-1>

タイプ	W
300	360
450	510
600	680
900	980

<図3.4.1-2>

RD-150取付架台(RZ-150)

タイプ	L
M	280～480
L	480～710
LL	710～940

RD-150壁面用取付架台(RZW-150)

100・125・150(3段階)

### 3.4.2

## 耐荷重

耐荷重については、【1.4】耐荷重および強度をご参照ください。

### 3.4.3

## 150タイプの架台選定表(床置き)

<表3.4.3-1>

型番	高さ
RZ-150-M	280mm～480mm
RZ-150-L	480mm～710mm
RZ-150-LL	710mm～940mm

# 3.4 架台

• 3.4.4 150タイプ以外の架台選定表(床置き)

〔設計編〕

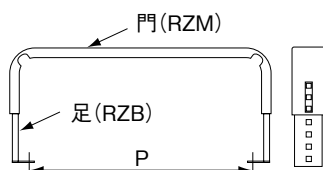
• 3.4.5 壁面施工の架台選定表(基本施工例)

## 3.4.4 150タイプ以外の架台選定表(床置き)

＜表3.4.4-1＞により、必要高さに来る門と足の組み合わせを選定してください。

尚、必要高さに対応する組み合わせが複数ある場合は、表中の左のものほど安価な組み合わせとなります。

＜図3.4.4-1＞

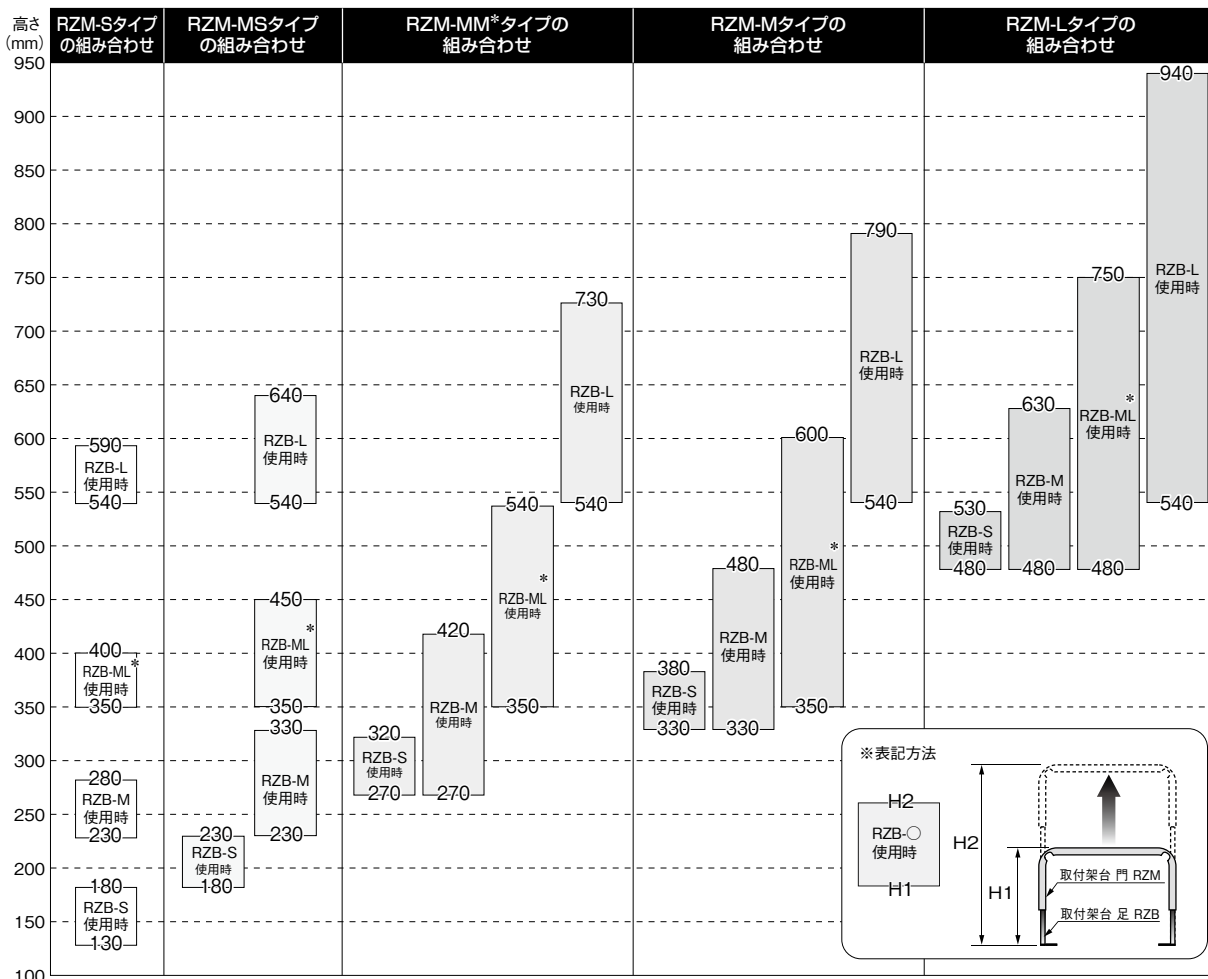


＜表3.4.4-1＞

■アンカー位置(P) 単位:(mm)

サイズ	P
300	306
450	456
600	626
900	926

＜表3.4.4-1＞



\*ZAのみ  
※リサイクルロックCR使用時は+70mmまたは+100mm

## 3.4.5 壁面施工の架台選定表(基本施工例)

壁面施工については、【2.3】設置方法・壁面をご参照ください。

＜表3.4.5-1＞

型番	高さ	備考
RZW-150	100,125,150mmの3段階	150タイプ専用
RZM-S+RZB-S	130mm~180mm	-

### 設計上の注意

架台選定表の数値は、計算上の数値であり、実施工の際にはパーツの組み付け具合や施工環境(床の勾配)などにより数mm～数cmの誤差が生じる場合がほとんどです。製品選定の際には余裕を持った選定をお奨めします。

例) 設計上の架台高さ 380mm の場合の架台の選定

- RZM-S + RZB-ML 350mm~400mm で誤差調整が可能
- ✕ RZM-M + RZB-S 330mm~380mm で上への誤差調整が不可能

設計編

仕様が  
仕様の構成  
仕様の重量

仕様が  
強度

仕様が  
耐荷重及び  
仕様のひび

仕様が  
収納能力

仕様が  
設計の流れ

仕様が  
設置方法  
(床置き)

全体設計

仕様が  
設置方法  
(壁面)

仕様が  
設置方法  
(天井)

仕様が  
ダクト

仕様が  
壁貫通  
PS及び

仕様が  
接続方法

個別設計

仕様が  
架台

仕様が  
コーナー

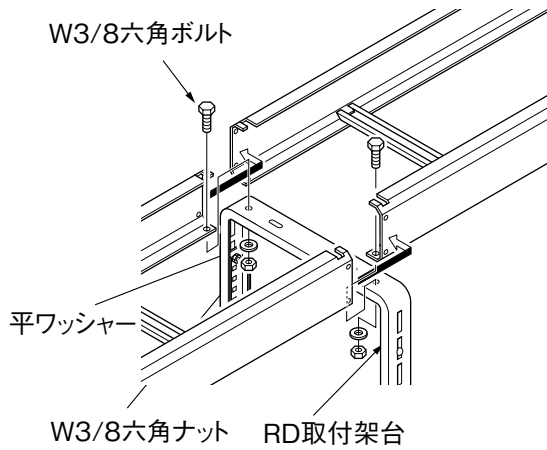
仕様が  
底板

仕様が  
その他の  
パーツ

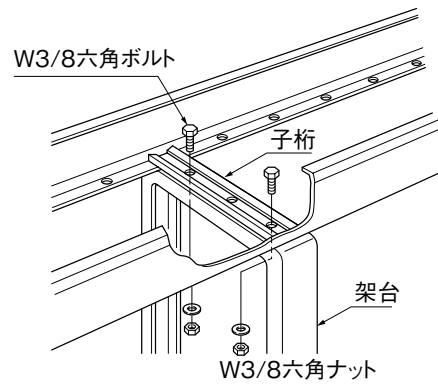
## 3.4.6 取付可能箇所事例

\*パーツへの架台取付の詳細は、パーツの項をご確認ください。

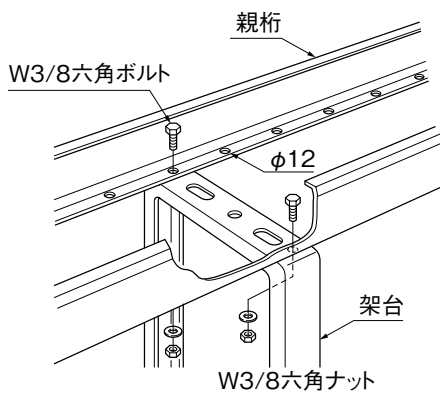
<図3.4.6-1>  
接続部取付(ジョイントレス接続工法)



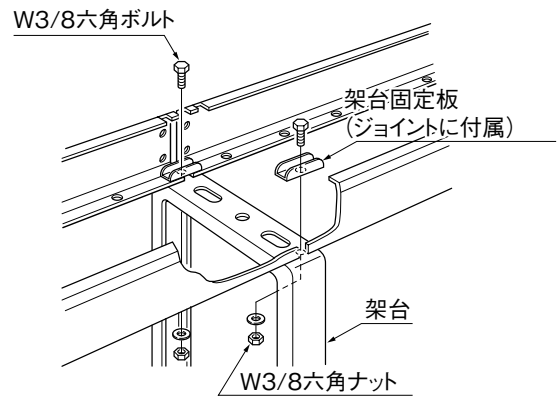
<図3.4.6-2>  
子桁取付



<図3.4.6-3>  
親桁取付



<図3.4.6-4>  
接続部取付  
(固定ジョイントおよびフリージョイントAタイプ使用工法)



設計編  
仕様  
仕様構成  
仕様重量  
耐荷重及び  
強度  
収納能力  
基本的な  
設計の流れ  
設置方法  
(床置き)  
設置方法  
(壁面)  
設置方法  
(天井)  
ダクト  
壁貫通  
PS及び  
接続方法  
架台  
コーナー  
底板  
その他の  
パーツ

全体設計

個別設計

## 3.4.7 取付可能箇所

**警告**

ここで述べる架台の取付可能箇所は、あくまでの一般的な事項です。  
 コーナーパーツの形状やサイズ、施工法によって必要な架台の数や取付位置は変わります。  
 必ず各コーナーパーツや施工法のページをご確認の上で、架台取付可能箇所を決めてください。

子桁、親桁、ジョイント部、補助子桁、底板などに取付可能。  
 ダクトのサイズや施工方法に応じて架台の取付可能箇所は異なりますのでご注意ください。

<表3.4.7-1> 架台取付可能箇所早見表 ○：使用可能 △：使用可能だが制限有り ×：使用不可 -：構造上取付不可

取付対象	サイズ	設置箇所	床置き(2mピッチ*1)			壁面		使用条件および備考 (△の制限事項)
			接続方法/親桁組付方法	標準	歩路	底板+標準	底板+標準	
ダクト	150以外	接続部	ジョイントレス接続	○	○	○	×	
			固定ジョイント	○	△	○	×	歩路では補助的な使用に限る。*2
			フリージョイントA	△	△	△	×	2mピッチ*1および歩路では、補助的な使用に限る。*2
			フリージョイントS/H	-	-	-	-	
			異径ジョイント	-	-	-	-	
			スライドジョイント	△	△*4	△*5	×	2mピッチ*1では、補助的な使用に限る。*2
	子桁部	標準ダクト	○	○	○	○		
		開閉式ダクト	○	○	○	△	壁面施工時は補助的な使用に限る。*2	
		親桁部	標準ダクト	○	△	×*3	△*7	歩路では補助的な使用に限る。*2 壁面への取付は、2mまたは1mタイプに限る。
			開閉式ダクト	○	△	×*3	○*7	歩路では補助的な使用に限る。*2 壁面への取付は、2mまたは1mタイプに限る。
	150	接続部	ジョイントレス接続	-	-	-	-	
			固定ジョイント	△	-	△	×	コーナーパーツとの接続部では取付不可。
フリージョイント			△	-	△	×	コーナーパーツとの接続部では取付不可。	
異径ジョイント			-	-	-	-		
子桁部		○	-	○	○			
親桁部		-	-	-	-			
平面 コーナー パーツ	150以外	接続部	ジョイントレス接続	○	○	○	×	
			固定ジョイント	○	△	○	×	歩路では補助的な使用に限る。*2
			フリージョイントA	△	△	△	×	2mピッチ*1および歩路では、補助的な使用に限る。*2
			フリージョイントS/H	-	-	-	-	
			異径ジョイント	-	-	-	-	
			スライドジョイント	△	-	△*6	×	2mピッチ*1では、補助的な使用に限る。*2
	子桁部 (補助子桁を含む)	○	○	○	○			
	親桁部	-	-	-	-			
	150	接続部	ジョイントレス接続	-	-	-	-	
			固定ジョイント	-	-	-	-	
			フリージョイント	-	-	-	-	
			異径ジョイント	-	-	-	-	
		底板	○	-	○	○		
		親桁部	-	-	-	-		

\*1... 2mピッチについては【3.4.8】標準設置間隔を参照。  
 \*2... 補助的な使用とは、架台を設置しても荷重計算上の対象としない使用方法で、それが存在しない場合でも安全性が損なわれない状態。  
 \*3... 底板を取り付ける場合は、底板の加工が必要になります。  
 \*4... 歩路の場合は必ず架台を取り付けてください。  
 \*5... 0.5mおよび0.3mのダクトとの接続では底板が取り付けできません。  
 \*6... RCF以外のコーナーパーツとの接続では底板が取り付けできません。  
 \*7... 専用金具が必要です。 **参照** 【2.3】設置方法・壁面

設計編  
 製品構成  
 仕様  
 仕様重量  
 強度  
 耐荷重及び  
 収納能力  
 基本的な  
 設計の流れ  
 設置方法  
 (床置き)  
 設置方法  
 (壁面)  
 設置方法  
 (天井吊り)  
 ダクト  
 PS及び  
 壁貫通  
 接続方法  
 架台  
 コーナー  
 底板  
 その他の  
 パーツ

## 3.4.8 標準設置間隔

### 警告

ここで述べる架台の取付箇所は、あくまでの一般的な事項です。  
 コーナーパーツの形状やサイズ、施工法によって必要な架台の数や取付位置は変わります。  
 必ず各コーナーパーツや施工法のページをご確認の上で、架台取付箇所を決めてください。

ダクトの架台設置間隔：ジョイントレス接続は1,980mmを基本としています。配管や環境重量(積雪など)に応じて調整してください。

**注意** 基本的にダクト・コーナーパーツ1点につき、2箇所以上架台を取り付けてください。  
 (必要な架台の数は施工方法によって変わります。詳細は各パーツの項を参照してください。)

### 架台の設置間隔および耐荷重

- 1** ダクト両端での支持(2mピッチ)  
 ジョイントレス接続で施工する場合は、ダクトの両端に架台を設置します。  
 この場合の架台設置間隔は1,980mm(約2m)となります。

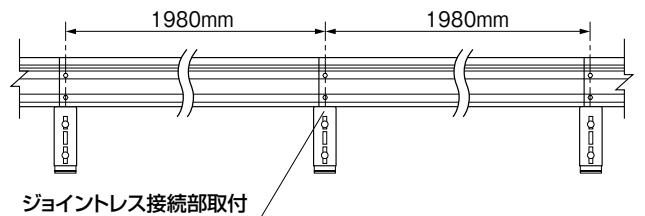
<図3.4.8-1.1>

(長さ2000mmのダクトが20mmずつ重なって接続されるため1980mm間隔となります。)

※架台の支持ピッチは荷重によって変わります。

**参照** 【1.4】耐荷重および強度

<図3.4.8-1>

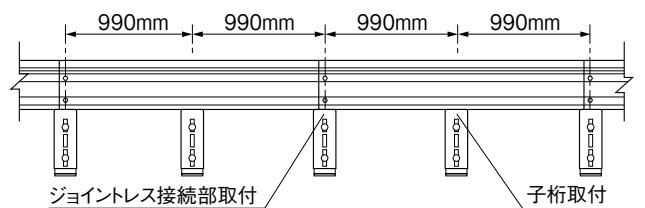


2mダクト1本当たり：架台1本時の耐荷重  
 6,374N(650kgf)

- 2** ダクト両端と中央の子桁での支持(1mピッチ)  
 荷重性能を上げるため架台の数を増やす場合は、ダクトの両端と中央の子桁に架台を設置します。  
 この場合の架台設置間隔は990mm(約1m)となります。

<図3.4.8-1.2>

<図3.4.8-2>

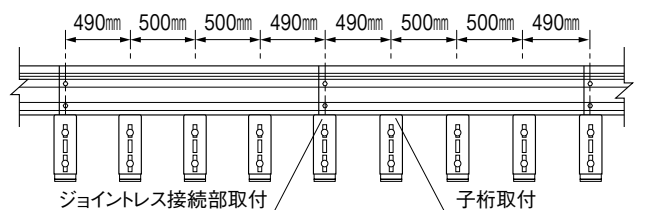


2mダクト1本当たり：架台2本時の耐荷重  
 12,748N(1,300kgf)

- 3** ダクト両端と全ての子桁での支持(0.5mピッチ)  
 さらに荷重性能を上げるため架台の数を増やす場合は、ダクトの両端と全ての子桁に架台を設置します。  
 この場合の架台設置間隔は490~500mm(約0.5m)となります。

<図3.4.8-1.3>

<図3.4.8-3>



2mダクト1本当たり：架台4本時の耐荷重  
 25,496N(2,600kgf)

設計編  
 仕様重量  
 製品構成  
 仕様  
 耐荷重及び強度  
 収納能力  
 基本的な設計の流れ  
 設置方法(床置き)  
 設置方法(壁面)  
 設置方法(天井)  
 ダクト  
 PS及び壁貫通  
 接続方法  
 架台  
 コーナー  
 底板  
 その他のパーツ

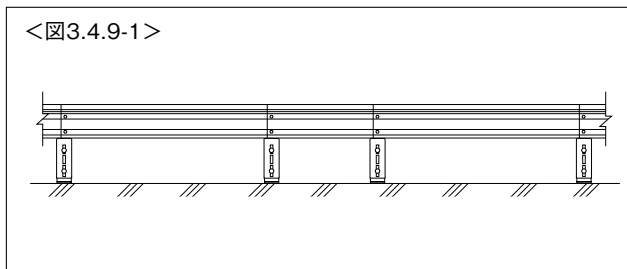
## 3.4.9 架台設置事例

### 1 基本架台設置例

安定を得るため、2箇所以上で支持するように架台を設置してください。

※パーツ毎の必要架台数は、各パーツのページでご確認ください。

<図3.4.9-1>

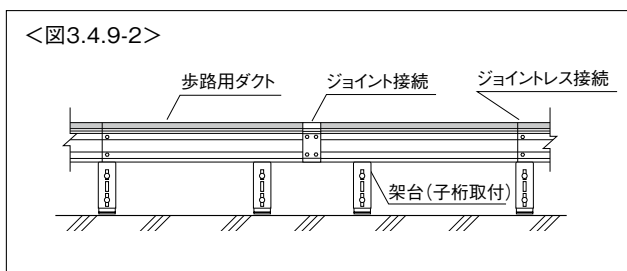


### 2 ジョイント接続(歩路)での架台設置例

RDダクトを歩路として使用する場合は、ジョイントパーツを使った接続箇所での架台設置は補助的な使用に限ります。

接続箇所近くの両側2箇所(子桁)に架台を設置してください。

<図3.4.9-2>

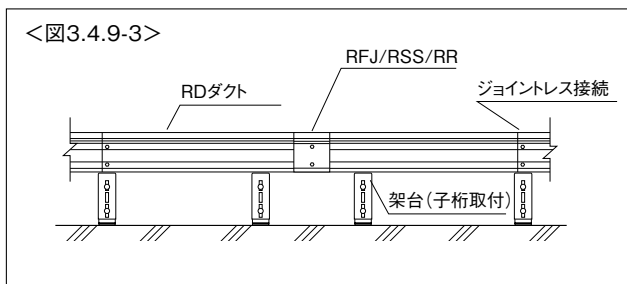


### 3 特殊ジョイント接続(2mピッチ)での架台設置例

2mピッチ施工(接続部に架台を設置する施工)で、フリージョイントRFJ、異径ジョイントRR、スライドジョイントRSSを使用する場合は、接続箇所近くの両側2箇所(子桁または親桁)に架台を設置してください。

※補助的な使用(荷重計算外)であれば使用可能です。(RRを除く)

<図3.4.9-3>

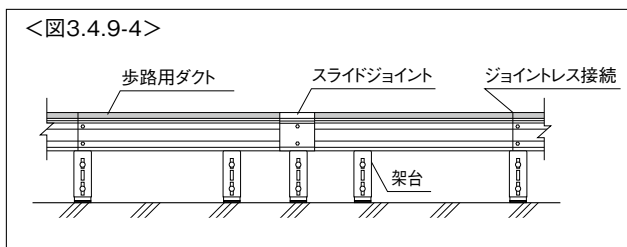


### 4 スライドジョイントの架台設置例

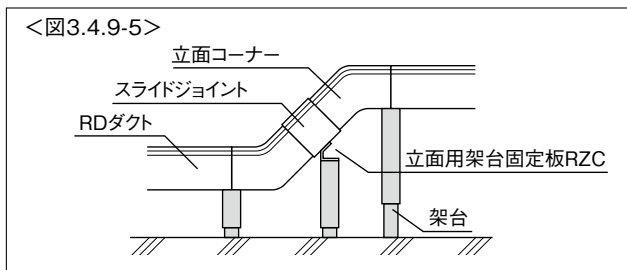
歩路用パーツの間や立面コーナーと組み合わせる場合はスライドジョイントにも架台を設置してください。(150タイプを除く)

※立面コーナーの施工については各パーツの項をご参照ください。

<図3.4.9-4>



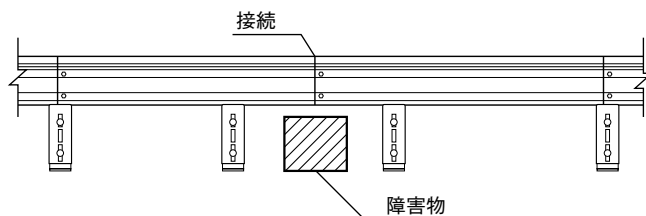
<図3.4.9-5>



### 設計上の注意

<図3.4.9-6>

接続部分に架台を設置できない場合は、その前後の子桁などに架台を設置してください。



設計編	製品構成 仕様重量	仕様 強度 耐荷重及び 収納能力	基本的な 設計の流れ	設置方法 (床置き)	設置方法 (壁面)	設置方法 (天井吊り)	ダクト	壁貫通 PS及び	接続方法	個別設計	架台	コーナー	底板	その他の パーツ
-----	--------------	---------------------------	---------------	---------------	--------------	----------------	-----	-------------	------	------	----	------	----	-------------

# 3.4 架台

- 3.4.10 RZC 立面用架台固定板
- 3.4.11 RBK-B 子桁用補助金具 (設計編)
- 3.4.12 RBK-A 親桁用補助金具

設計編

仕様  
製品構成  
重量

仕様  
耐荷重及び  
強度

仕様  
収納能力

仕様  
基本的な  
設計の流れ

仕様  
設置方法  
(床置き)

仕様  
設置方法  
(壁面)

仕様  
設置方法  
(天井)

仕様  
ダクト

仕様  
壁貫通  
PS及び  
び

仕様  
接続方法

仕様  
架台

仕様  
コーナー

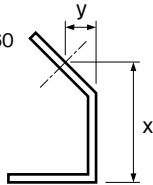
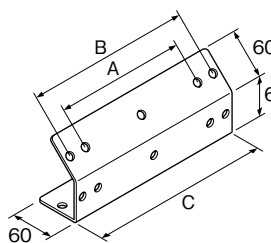
仕様  
底板

仕様  
その他の  
パーツ

## 3.4.10 RZC 立面用架台固定板

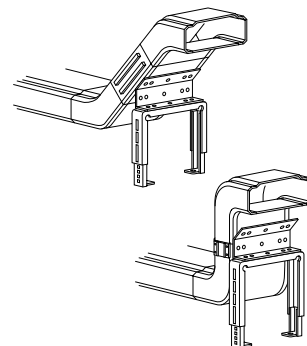
立面コーナー90°や斜傾部の支持に使用します。

<図3.4.10-1> RZC



単位:(mm)

タイプ	A	B	C	x	y
300	195	248	268	81.2	21.2
450	195	398	418		
600	345	548	568		
900	600	848	900		



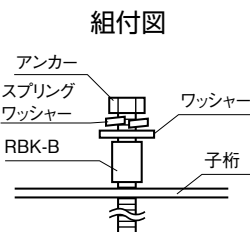
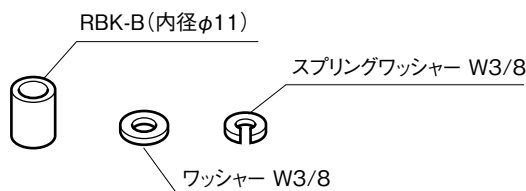
**制限** • 900タイプの立面コーナー90°に使用する場合は、600タイプを使用してください。

## 3.4.11 RBK-B 子桁用補助金具

通常タイプのダクトおよびコーナーパーツを壁面直付する場合に使用します。

**参照** [2.3.3] 壁面取り付け条件(直付)

<図3.4.11-1>

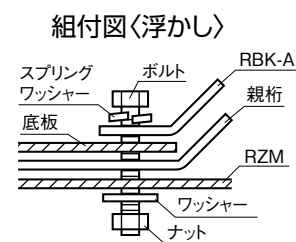
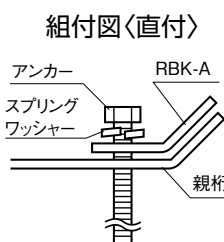
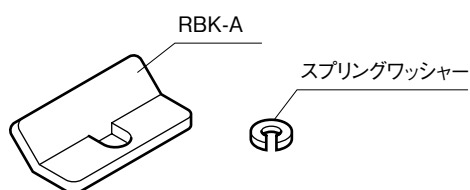


## 3.4.12 RBK-A 親桁用補助金具

開閉式タイプのダクトを壁面に取り付ける場合に使用します。

**参照** [2.3.3] [2.3.4] 壁面取り付け条件

<図3.4.12-1>



# 3.4 架台

- 3.4.13 RZY 架台2段用ガイド
- 3.4.14 RDY 配管保持台
- 3.4.15 RKT RD形鋼止め金具

〔設計編〕

## 3.4.13 RZY 架台2段用ガイド

RDダクトを2段で支持する場合に使用します。  
RZBに対して、RZY(2段ガイド)を取り付けます。

<図3.4.13-1> RZY

タイプ	W	D	H
300	351.5	50	160
450	501.5	50	160
600	671.5	50	160

単位:(mm)

- 制限**
- 接続部では使用できません。
  - 子桁に取り付けてください。ジョイント部には取り付けできません。
  - RZB-M/ML/Lに取り付け可能です。
- 注意**
- 施工スペース(フタの取り付け、配管スペース)が確保できるように、RZYとRZMの間は十分に空けてください。

<図3.4.13-2>

RZM (RD取付架台-門)

2段ガイド:RZY

RD取付架台-足:RZB

RZY高さ:H1

- H1(Sタイプダクト使用時)=160mm~(H-250)mm ≤ 530
- H1(Hタイプダクト使用時)=160mm~(H-350)mm ≤ 530

## 3.4.14 RDY 配管保持台

RD取付架台に電線管などを取り付けるときに使用します。  
RZB-M/ML/Lに取り付け可能です。

<図3.4.14-1> RDY

サイズ	A
300	266
450	416

単位:(mm)

## 3.4.15 RKT RD形鋼止め金具

標準タイプのRDダクト専用です。  
RDダクトを形鋼に取り付けることが可能です。  
歩路タイプやコーナーパーツには使用できません。

- 注意**
- 壁面などの縦引き部には使用できません。
  - 歩路用のRDダクトの固定には使用できません。
  - 振動や揺れがともなう場所では使用しないでください。
  - 対象形鋼以外では十分な固定ができません。
  - 既定のトルク値でしっかり締めつけてください。
  - ダクト1本につき4箇所以上に取り付けてください。

<表3.4.15-1>

	対象形鋼	ズレ開始	締付トルク
H形鋼	適応フランジ厚 7 ~ 13 mm	245N (25kgf)	5.9J (60kg-cm)
溝形鋼	75×40、100×50、125×65、150×75	147N (15kgf)	

※幅75mm以下、中央部厚7~12.5mm

<図3.4.15-1> RKT

設計編

製品構成  
仕様重量

仕様

耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

全体設計

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天吊り)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計

架台

コーナー

底板

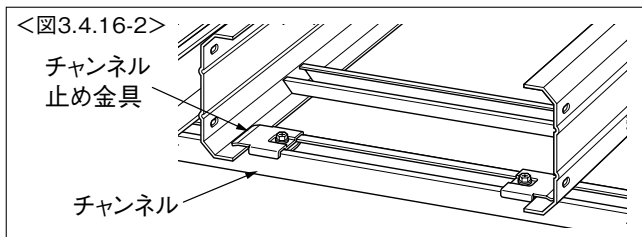
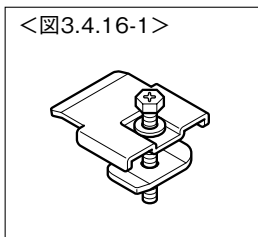
その他の  
パーツ

# 3.4 架台

- 3.4.16 RCT チャンネル止め金具 (設計編)
- 3.4.17 固定(床施工)

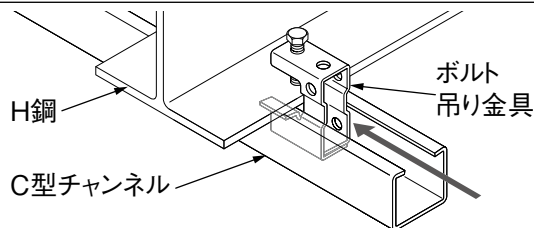
## 3.4.16 RCT チャンネル止め金具

チャンネルにRDダクトを直接設置する方法があります。  
チャンネル止め金具を設置して、ビスで締めます。



## SHBN-S-Z ボルト吊り金具 屋外用(HDZ-35相当)

鋼材へのチャンネルの支持には、SHBN-S-Z ボルト吊り金具(屋外用)を利用した固定も可能です。



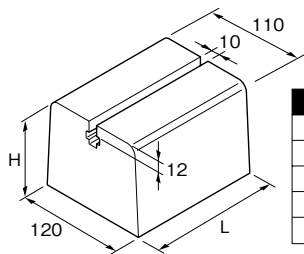
## 3.4.17 固定(床施工)

架台の固定はアンカー打ちか、モルタルなどによる埋設で固定してください。床置きの場合は、型枠(弊社製品名:プラベースPB)や多目的支持台「リサイクルロック」などを利用した固定も可能です。

歩路などでご使用の場合はしっかりと固定してください。

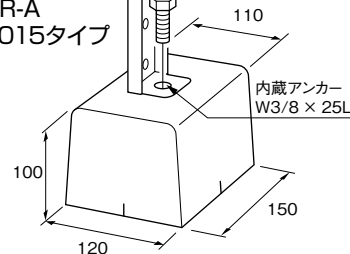
### 1 支持台施工「リサイクルロックCR」

<図3.4.17-1> リサイクルロックCR-W



型番	寸法 H(mm)	寸法 L(mm)	製品重量(kg)
CR-W0715	70	150	1.4
CR-W1015	100	150	2.3
CR-W1040	100	400	5.0
CR-W1050	100	500	5.4
CR-W1060	100	600	5.8

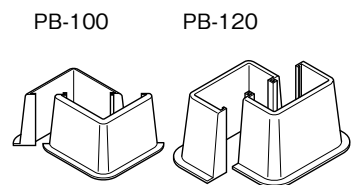
<図3.4.17-2> 製品重量:2.3kg  
CR-A  
1015タイプ



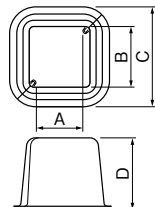
CR-W1015/A1015 使用時の許容荷重/個  
許容面荷重: 7,840N RDの足の面積(ボルトを含む) = 22cm<sup>2</sup>  
1cm<sup>2</sup>当たり = 47.5N CR使用時の許容荷重 = 1,045N(106.6kgf)/個

### 2 型枠施工「樹脂製基礎型枠 プラベース(PB-100/120)」

<図3.4.17-3>



<図3.4.17-4>



型番	A	B	C	D
PB-100	85	100.0	154.0	100
PB-120	117	142.6	205.5	120



### 3 アンカー施工

市販のW3/8またはM10をご使用ください。

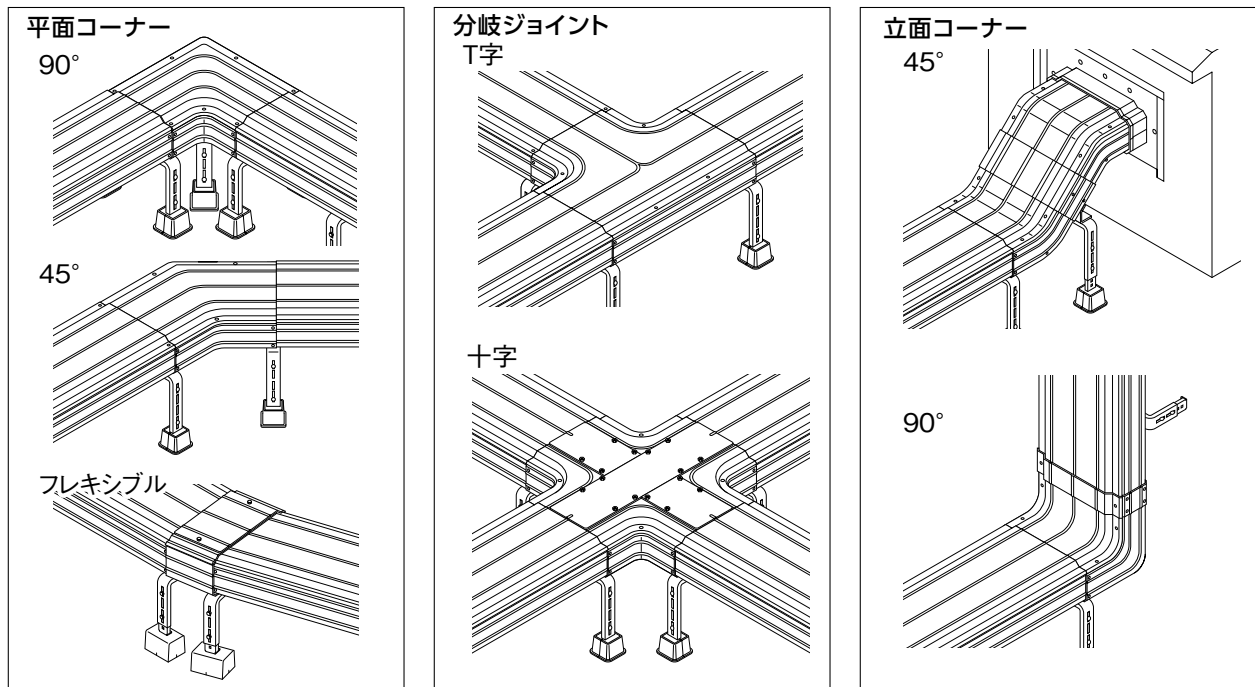
設計編  
仕様構成  
仕様  
強度及び  
収納能力  
基本的な  
設計の流れ  
設置方法  
(床置き)  
設置方法  
(壁面)  
設置方法  
(天井吊り)  
ダクト  
PS及び  
壁貫通  
接続方法  
架台  
個別設計  
コーナー  
底板  
その他の  
パーツ

## 3.5 コーナー

目次	3.5.1 コーナーパーツの種類	43
	3.5.2 RE 平面コーナー90°	44
	3.5.3 RF 平面コーナー45°	45
	3.5.4 RFS フレキシブルコーナー	47
	3.5.5 RT T字型分岐ジョイント	48
	3.5.6 RXN/RX 十字型分岐ジョイント	49
	3.5.7 RCF 立面コーナー45°	51
	3.5.8 RC/RCI/RCO 立面コーナー90°(150~600H)	54
	3.5.9 RCI/RCO 立面コーナー90°(900/900H)	57
	3.5.10 立面コーナーへの架台取付	59

### 3.5.1 コーナーパーツの種類

コーナーパーツには立面および平面45°と90°曲がり(エルボ)とT字型分岐(チーズ)、十字型分岐があります。一部パーツは特定のサイズのみのラインナップとなっておりますのでご注意ください。



<表3.5.1-1>

分類	品名(略称)	タイプ別	備考
エルボ	平面コーナー90° (RE)	標準タイプ	900タイプはRX-900/900Hをご使用ください。
		歩路タイプ	150タイプを除く。900タイプはRXW-900/900Hをご使用ください。
	平面コーナー45° (RF)	標準タイプ	—
		歩路タイプ	150タイプを除く。
	平面コーナー フレキシブル(RFS)	標準タイプ	150タイプを除く
		歩路タイプ	150タイプを除く。
立面コーナー90° (RC/RCI/RCO)	標準タイプ	—	
	立面コーナー45° (RCF)	標準タイプ	—
チーズ	T字型分岐ジョイント (RT)	標準タイプ	900タイプはRX-900/900Hをご使用ください。
		歩路タイプ	150タイプを除く。900タイプはRXW-900/900Hをご使用ください。
十字	十字型分岐ジョイント (RX)	標準タイプ	150タイプを除く。
		歩路タイプ	150タイプを除く。

※一部製品には、フタ補強板が付属しています。フタ補強板は、壁面および天吊り施工には使用できません。取り外して施工してください。

※歩路用タイプは、壁面および天吊り施工はできません。

※900/900Hタイプのコーナーパーツはダクトを差し込む構造になっています。(RCFを除く)

設計編

製品構成  
仕様重量

仕様

耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天吊り)

全体設計

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計

架台

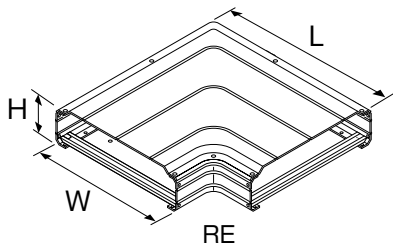
底板

その他の  
パーツ

## 3.5.2 RE 平面コーナー90°

平面90°曲がりのエルボパーツです。

<図3.5.2-1>



単位:(mm)

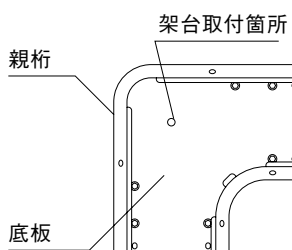
タイプ	W	L	H
150	150	250	111
300/300H	300	500	134/254
450/450H	450	650	134/254
600/600H	600	800	134/254

※900/900HはRXを使用。

### 1 架台の取り付け可能箇所および必要架台数

<図3.5.2-2> RE-150

底板 … 1箇所/1本

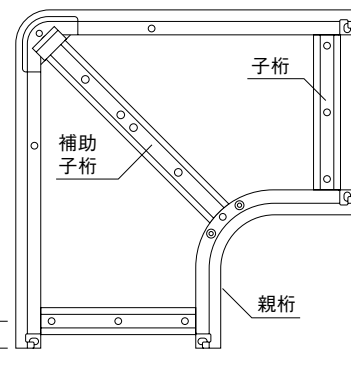


<図3.5.2-3> RE(W)-300~600H

接続部、子桁、補助子桁 … 3箇所/3本

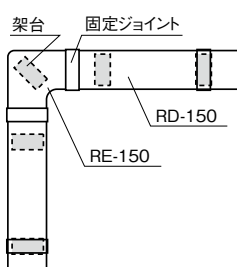
**注意**

- 補助子桁には必ず取り付けてください。
- REを床置する場合の補助子桁の架台はRZ-150や小さいサイズの架台でも可。その場合は、補助子桁の外側の穴に取り付けてください。REWはダクトサイズに応じた架台をご使用ください。
- 2段施工の場合は、角をまたぐように架台を設置してください。

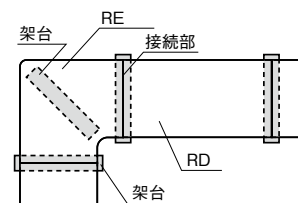


### 2 架台の取り付け例

<図3.5.2-4> RE-150

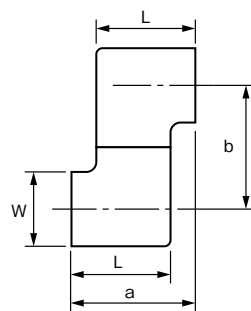


<図3.5.2-5> RE(W)-300~600H

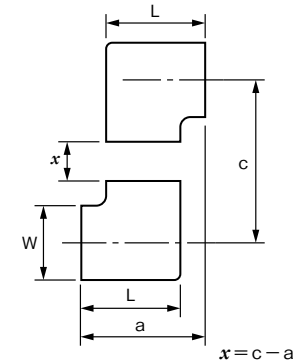


### 3 仕上がり寸法

<図3.5.2-6> ジョイントレス接続  
RSJ固定ジョイント接続  
(150~600H)



<図3.5.2-7> RSSスライドジョイント接続  
(300~600H)



平面コーナー90° RE 仕上がり寸法表 <表3.5.2-1>

単位:(mm)

サイズ	W	L	a	ジョイントレス接続	RSJ接続	RSS接続		
				b	b	c	x※	対応ジョイント
150	150	250	350	—	370	—	—	—
300/300H	300	500	700	680	720	720~ 820	20~120	RSS-1
						820~ 920	120~220	RSS-2
						920~1020	220~320	RSS-3
450/450H	450	650	850	830	870	870~ 970	20~120	RSS-1
						970~1070	120~220	RSS-2
						1070~1170	220~320	RSS-3
600/600H	600	800	1000	980	1020	1020~1120	20~120	RSS-1
						1120~1220	120~220	RSS-2
						1220~1320	220~320	RSS-3

※ xの値が320を超える場合は、【3.3.5】RSSスライドジョイントの【表3.3.5-1】参照

## 3.5.3 RF 平面コーナー45°

平面45°曲がりのエルボパーツです。

<図3.5.3-1>

単位:(mm)				
タイプ	W	L1	L2	H
150	150	133	71	111
300/300H	300	333	209	134/254
450/450H	450	395	209	134/254
600/600H	600	457	209	134/254
900/900H	980	558	150	200/320

※L1・L2は配管施工図作成用の数値です。外寸ではありません。

### 1 架台の取り付け可能箇所および必要架台数

<図3.5.3-2> RF-150  
底板 … 1箇所／1本

<図3.5.3-3> RF(W)-300~600H  
接続部、子桁、補助子桁  
… 3箇所／2本以上  
※接続部または子桁の対辺(2箇所)に必ず架台を設置してください。

<図3.5.3-4> RF(W)-900・900H  
子桁、補助子桁 … 3箇所／2本以上  
※子桁(2箇所)に必ず架台を設置してください。

### 2 架台の取り付け例

<図3.5.3-5> RF-150

<図3.5.3-6> RF-300~600H  
RFW-300~600H

<図3.5.3-7> RF-900/900H  
RFW-900/900H

設計編

製品構成  
仕様重量

仕様

耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

全体設計

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天井)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計

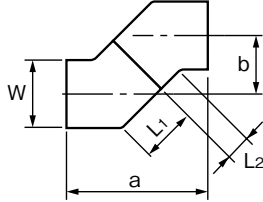
架台

コーナー

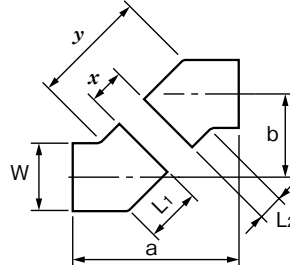
底板  
その他の  
パーツ

### 3 仕上がり寸法

<図3.5.3-8> ジョイントレス接続  
RSJ固定ジョイント接続  
(150~600H)



<図3.5.3-9> RSSスライドジョイント接続(300~600H)



$$x = \sqrt{2} \times b - L1 - L2$$

$$a = b + L1 + L2$$

※  $y = \sqrt{2} \times b$   
 $\sqrt{2} \approx 1.41$

平面コーナー45° RF 仕上がり寸法表 <表3.5.3-1>

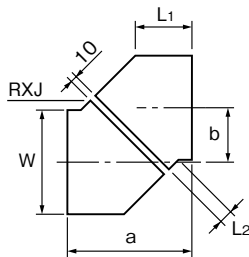
単位:(mm)

サイズ	W	L1*	L2*	ジョイントレス接続		RSJ接続		RSS接続			
				a	b	a	b	a	b	x※	対応ジョイント
150	150	133	71	-	-	362	158	-	-	-	-
300/300H	300	333	209	910	369	938	397	938~1010	397~468	20~120	RSS-1
								1010~1081	468~539	120~220	RSS-2
								1081~1152	539~610	220~320	RSS-3
450/450H	450	395	209	1016	413	1045	441	1045~1116	441~512	20~120	RSS-1
								1116~1187	512~583	120~220	RSS-2
								1187~1257	583~653	220~320	RSS-3
600/600H	600	457	209	1123	457	1151	485	1151~1222	485~556	20~120	RSS-1
								1222~1293	556~627	120~220	RSS-2
								1293~1363	627~697	220~320	RSS-3

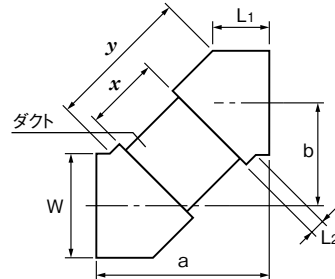
\* L1・L2は配管施工図作成用の数値です。外寸ではありません。

※ xの値が320を超える場合は、【3.3.5】RSSスライドジョイントの【表3.3.5-1】参照

<図3.5.3-10> ジョイント接続(900・900H)



<図3.5.3-11> ジョイント接続または差し込み接続(900・900H)



$$x = y - L1 - L2$$

$$y = \sqrt{2} \times b$$

※  $\sqrt{2} \approx 1.41$

平面コーナー45° RF 仕上がり寸法表(ジョイント施工) <表3.5.3-2>

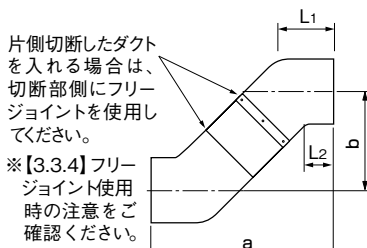
単位:(mm)

サイズ	W	L1	L2	a	b	x	対応パーツ
900/900H	980	557	151	1217	508	10	RXJ
				1393	685	260	0.3mダクト
				1534	826	460	0.5mダクト

平面コーナー45°RF間にダクト(直管)を挿入、RFJフリージョイントまたはRSJ固定ジョイント使用時(段差寸法算出式)

<図3.5.3-12>

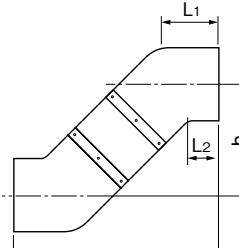
RFJ+ジョイントレス接続  
(300~900H)



片側切断したダクトを入れる場合は、切断部側にフリージョイントを使用してください。  
※【3.3.4】フリージョイント使用時の注意をご確認ください。

<図3.5.3-13>

RSJジョイント接続  
(150~600H)



xはダクトの長さ

サイズ	計算式	
	RFJ+ジョイントレス接続	RSJ接続
150	—	$x = \sqrt{2} \times b - 244$ $a = b + 204$
300/300H	$x = \sqrt{2} \times b - 542$ $a = b + 542$	$x = \sqrt{2} \times b - 582$ $a = b + 542$
450/450H	$x = \sqrt{2} \times b - 604$ $a = b + 604$	$x = \sqrt{2} \times b - 644$ $a = b + 604$
600/600H	$x = \sqrt{2} \times b - 666$ $a = b + 666$	$x = \sqrt{2} \times b - 706$ $a = b + 666$
900/900H	$x = \sqrt{2} \times b - 668$ $a = b + 708$	—

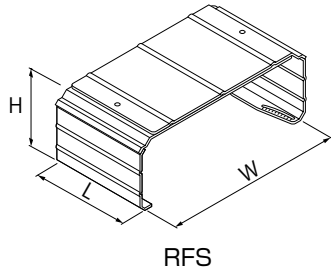
※ 900サイズはRFJを使わずに、RFJパーツにダクトを直接ビス固定します。ダクトを切断した場合は、差し込み接続またはビス穴加工を行ってビス固定してください。

\* 900/900Hはダクト管端がコーナーパーツの中に20mm入り込むことを前提に算出。  
\*  $a = b + L1 + L2$  RF間の距離は  $\sqrt{2} \times b - L1 - L2$

## 3.5.4 RFS フレキシブルコーナー

水平方向に各痔調整可能なコーナーパーツです。

<図3.5.4-1>



単位:(mm)

タイプ	W	H	L
300	304	138	240
450	454	138	290
600	604	138	340
900	904	138	440
300H	304	258	240
450H	454	258	290
600H	604	258	340
900H	904	258	440

### 1 対応角度

水平0°~20°

水平20°~40°とする場合は、RFS(W)フレキシブルコーナーを2個使用して、間にRDダクトを接続ください。

**注意**

- RFS(W)-900(H)は、長さ0.5m以上のRDダクトと接続してください。(0.3mは接続不可)

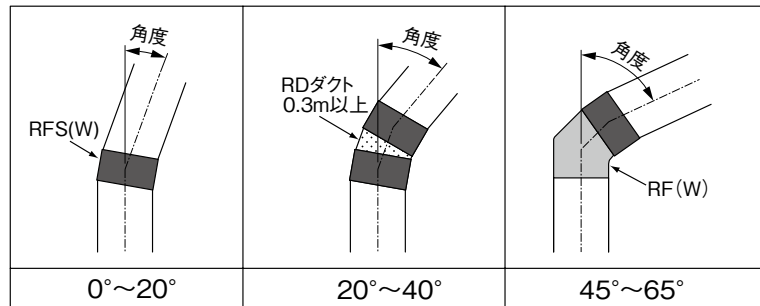
水平45°~65°とする場合は、RF(W)平面コーナー45°と接続してください。

**注意**

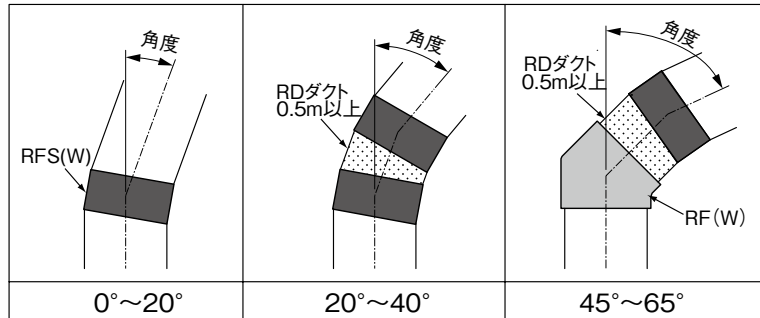
- RFS(W)-900(H)は、RFと直接接続はできません。間に0.5m以上のRDダクトを接続ください。

<図3.5.4-2> 接続例

RFS(W)-300(H)/450(H)/600(H)

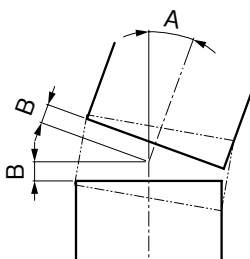


RFS(W)-900(H)



### 2 仕上がり寸法

<図3.5.4-3>



A:RDダクトの角度  
B:「RDダクト端部」から「フレキシブルコーナー中心」までの距離

フレキシブルコーナー RFS

仕上がり寸法表(B寸法) <表3.5.4-1>

RDダクトの仕上がり位置、角度は次の表を参考にしてください。

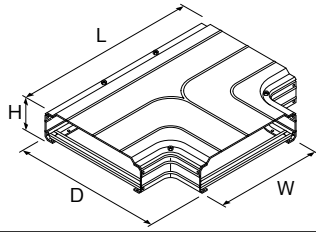
単位:(mm)

サイズ	0°	4°	8°	12°	16°	20°
300/300H	90	86	82	78	74	70
450/450H	115	108	102	95	89	82
600/600H	140	131	122	112	103	94
900/900H	190	176	161	147	132	118

## 3.5.5 RT T字型分岐ジョイント

平面用チーズです。

<図3.5.5-1> RT



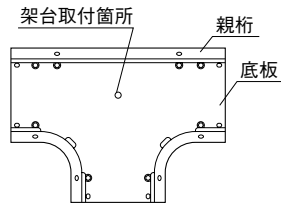
単位:(mm)

タイプ	W	D	L	H
150	150	250	250	111
300/300H	300	500	700	134/254
450/450H	450	650	850	134/254
600/600H	600	800	1000	134/254

### 1 架台の取り付け可能箇所および必要架台数

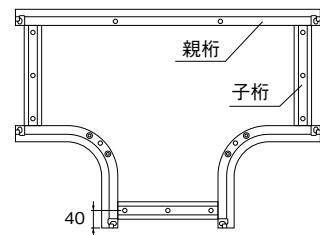
<図3.5.5-2>

RT-150  
底板  
… 1箇所/1本



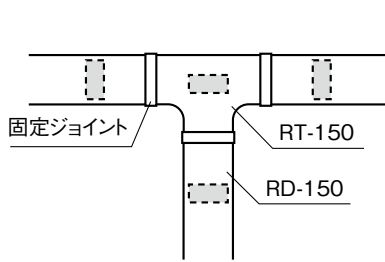
<図3.5.5-3>

RT(W)-300~600H  
接続部、子桁  
… 3箇所/3本

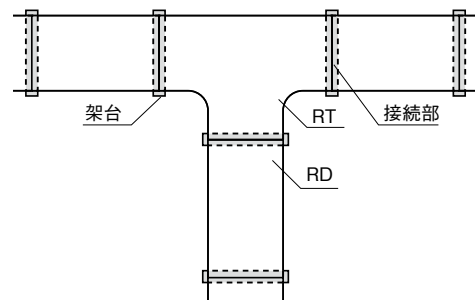


### 2 架台の取り付け例

<図3.5.5-4> RT-150

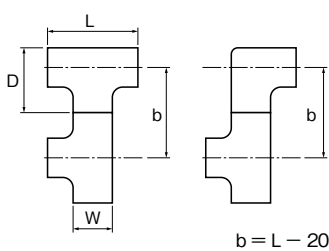


<図3.5.5-5> RT(W)-300~600H



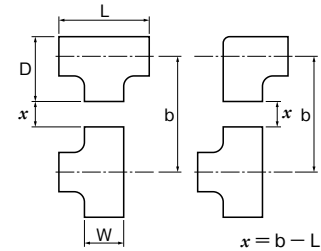
### 3 仕上がり寸法

<図3.5.5-6>  
ジョイントレス接続  
RSJ固定ジョイント接続  
(150~600H)



$b = L - 20$

<図3.5.5-7>  
RSS  
スライドジョイント接続  
(300~600H)



$x = b - L$

T型分岐ジョイント RT 仕上がり寸法表 <表3.5.5-1>

単位:(mm)

サイズ	W	D	L	ジョイントレス接続	RSJ接続	RSS接続		
				b	b	b	x※	対応ジョイント
150	150	250	350	—	370	—	—	—
300/300H	300	500	700	680	720	720~ 820	20~120	RSS-1
						820~ 920	120~220	RSS-2
						920~1020	220~320	RSS-3
450/450H	450	650	850	830	870	870~ 970	20~120	RSS-1
						970~1070	120~220	RSS-2
						1070~1170	220~320	RSS-3
600/600H	600	800	1000	980	1020	1020~1120	20~120	RSS-1
						1120~1220	120~220	RSS-2
						1220~1320	220~320	RSS-3

※ xの値が320を超える場合は、【3.3.5】RSSスライドジョイントの【表3.3.5-1】参照

## 3.5.6 RXN/RX 十字型分岐ジョイント

三方向に分岐するジョイント(コーナーパーツ)です。  
900・900H用は、開口部を付属のアダプターでふさぐことで、エルボやチーズとしても使えます。

<図3.5.6-1>

タイプ	W	L	H
300/300H	300	700	134/254
450/450H	450	850	134/254
600/600H	600	1000	134/254
900/900H	980	-	200/320

RXN-300~600(H)                      RX-900(H)

### 1 架台の取り付け可能箇所および必要架台数

<図3.5.6-2> RXN(W)-300~600H  
接続部、子桁 … 4箇所/4本

親桁  
子桁  
40

<図3.5.6-3> RX-900・900H  
底板 … 5箇所/2本以上  
RXW-900・900H  
底板 … 5箇所/3本以上

40

### 2 架台の取り付け例

<図3.5.6-4> RXN(W)-300~600H

架台  
RXN/RNXW  
接続部  
RD/RDW

<図3.5.6-5> RX-900・900H

架台  
RX  
RD

<図3.5.6-6> RXW-900・900H

架台  
RXW  
RDW

設計編

製品構成  
仕様重量

仕様  
強度  
耐荷重及び

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天井)

設置方法  
(吊り)

ダクト

壁貫通  
PS及び

接続方法

個別設計  
架台

コーナー

底板

その他の  
パーツ

設計編

仕様構成  
仕様重量

仕様  
耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天吊り)

ダクト

壁貫通  
PS及び  
壁通

接続方法

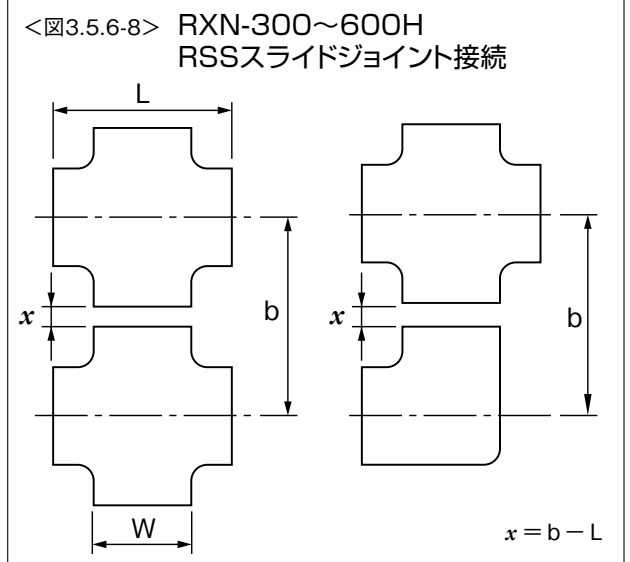
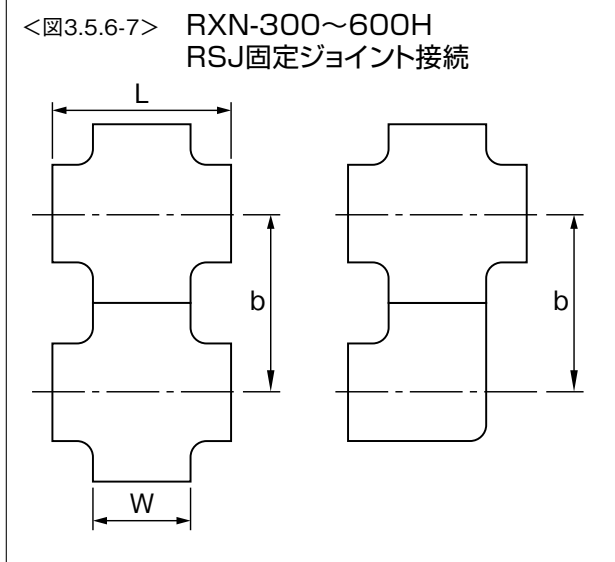
個別設計  
架台

コーナー

底板

その他の  
パーツ

### 3 仕上がり寸法

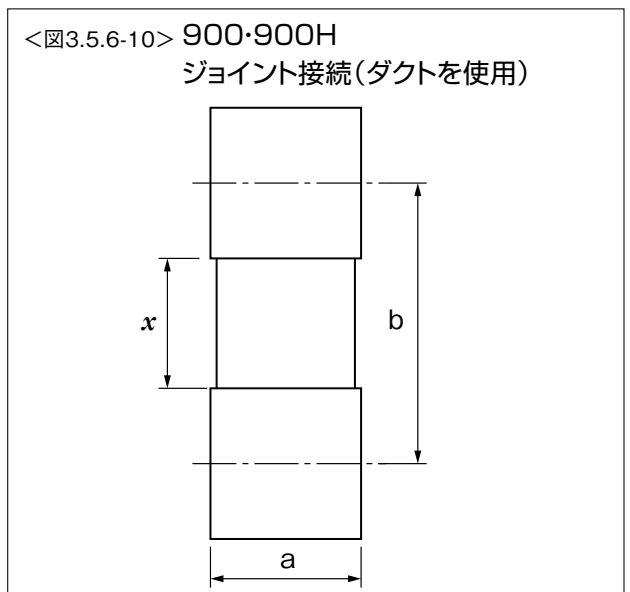
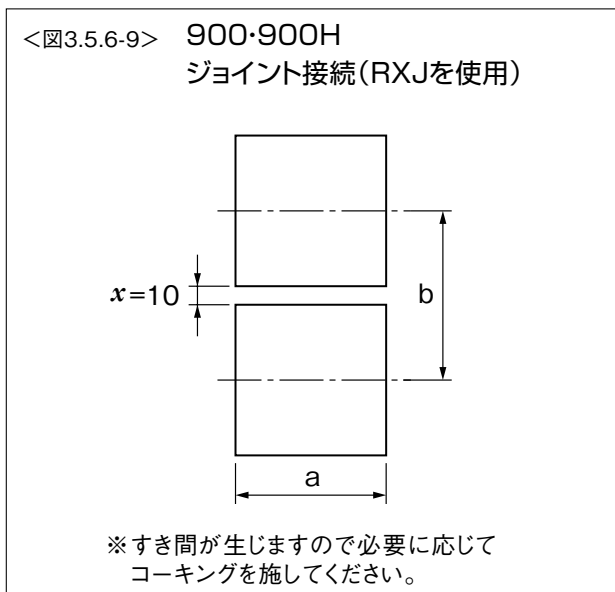


十字分岐ジョイント 300~600H 仕上がり寸法表 <表3.5.6-1>

単位:(mm)

サイズ	W	L	ジョイントレス接続	RFJ接続	RSS接続		対応ジョイント
			b	b	b	x※	
300/300H	300	700	680	720	720~ 820	20~120	RSS-1
					820~ 920	120~220	RSS-2
					920~1020	220~320	RSS-3
450/450H	450	850	830	870	870~ 970	20~120	RSS-1
					970~1070	120~220	RSS-2
					1070~1170	220~320	RSS-3
600/600H	600	1000	980	1020	1020~1120	20~120	RSS-1
					1120~1220	120~220	RSS-2
					1220~1320	220~320	RSS-3

※ xの値が320を超える場合は、【3.3.5】RSSスライドジョイントの【表3.3.5-1】参照



十字分岐ジョイント 900・900H 仕上がり寸法表 <表3.5.6-2>

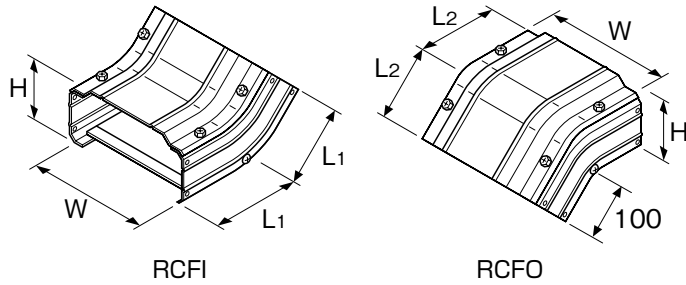
単位:(mm)

サイズ	a	b	x	対応パーツ
900/900H	980	990	10	RXJ
		1240	260	0.3mダクト
		1440	460	0.5mダクト

## 3.5.7 RCF 立面コーナー45°

立面45°エルボです。  
立上り用(RCFI)と立下り用(RCFO)各1個で1組み(RCF)となっています。

<図3.5.7-1>



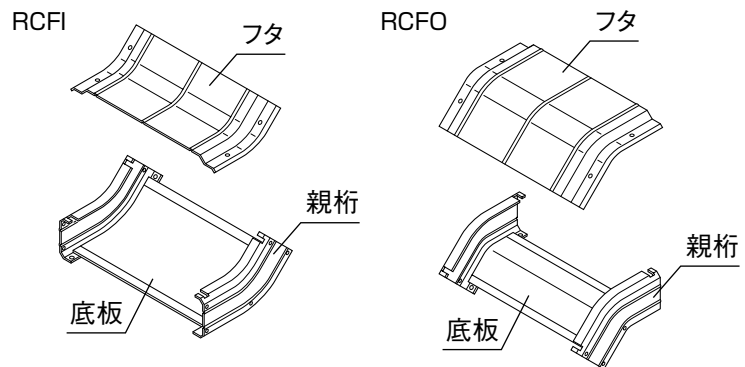
単位:(mm)

タイプ	W	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	H
150	150	111	111	111
300/300H	300	147/197	147/197	134/254
450/450H	450	147/197	147/197	134/254
600/600H	600	147/197	147/197	134/254
900/900H	980	149/198	157/207	134/254

### 1 架台の取り付け可能箇所および必要架台数

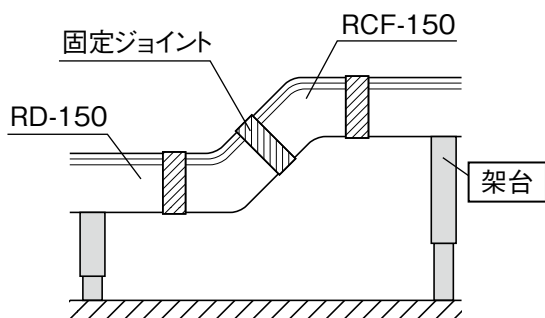
- 150  
無し(直接支持しません)
- 300~900H  
接続部 … 2箇所/2本

<図3.5.7-2>

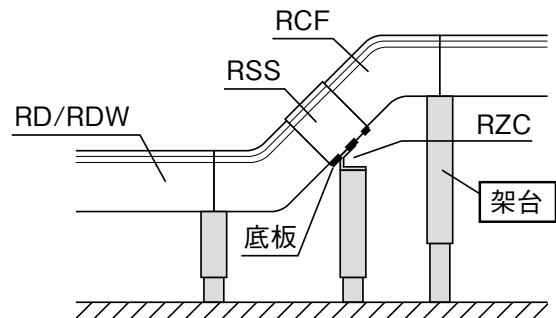


### 2 架台の取り付け例

<図3.5.7-3> RCF-150 ジョイント接続部への取付



<図3.5.7-4> RCF-300~900H ジョイント接続(スライドジョイント)部への取付



設計編

製品構成  
仕様重量

仕様

耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

全体設計

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天吊り)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計

架台  
コーナー

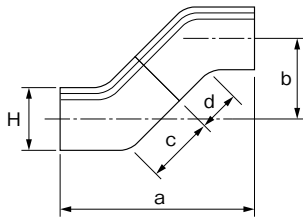
底板

その他の  
パーツ

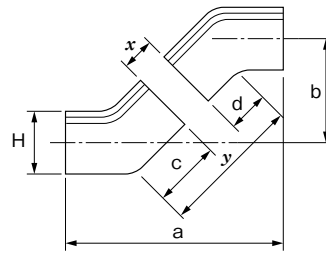
### 3 段差寸法

cおよびdは、配置図作成用RCF底部寸法

<図3.5.7-5> ジョイントレス接続  
RSJ固定ジョイント接続



<図3.5.7-6> RSSスライドジョイント接続



スタンダードタイプ

$$x = \sqrt{2} \times b - 252$$

$$a = b + 252$$

ハイトタイプ

$$x = \sqrt{2} \times b - 302$$

$$a = b + 302$$

$$\ast y = \sqrt{2} \times b$$

$$\sqrt{2} \approx 1.41$$

※フリージョイント使用時：x=ダクト短管寸法(RFJ+ジョイントレス接続施工)できるだけ長さ調整が容易なスライドジョイントをご使用ください。フリージョイントを使う場合は、架台取り付けが可能なAタイプを使用し、【3.3.4】フリージョイントの項をご確認の上でご使用ください。

立面コーナー45° RCF 段差寸法表 <表3.5.7-1>

単位:(mm)

サイズ	W	c	d	H	ジョイントレス接続		RSJ接続		RSS接続			対応ジョイント
					a	b	a	b	a	b	x	
150	150	116	70	111	-	-	332	146	-	-	-	-
300	300	149	103	134	416	164	444	192	443~513	192~262	20~120	RSS-1
									513~584	262~333	120~220	RSS-2
									584~641	333~404	220~320	RSS-3
450	450	149	103	134	416	164	444	192	443~513	192~262	20~120	RSS-1
									513~584	262~333	120~220	RSS-2
									584~641	333~404	220~320	RSS-3
600	600	149	103	134	416	164	444	192	443~513	192~262	20~120	RSS-1
									513~584	262~333	120~220	RSS-2
									584~641	333~404	220~320	RSS-3
900	900	149	103	134	416	164	444	192	443~513	192~262	20~120	RSS-1
									513~584	262~333	120~220	RSS-2
									584~641	333~404	220~320	RSS-3
300H	300	199	103	254	502	199	530	228	530~599	228~298	20~120	RSS-1
									599~669	298~368	120~220	RSS-2
									669~726	368~439	220~320	RSS-3
450H	450	199	103	254	502	199	530	228	530~599	228~298	20~120	RSS-1
									599~669	298~368	120~220	RSS-2
									669~726	368~439	220~320	RSS-3
600H	600	199	103	254	502	199	530	228	530~599	228~298	20~120	RSS-1
									599~669	298~368	120~220	RSS-2
									669~726	368~439	220~320	RSS-3
900H	900	199	103	254	502	199	530	228	530~599	228~298	20~120	RSS-1
									599~669	298~368	120~220	RSS-2
									669~726	368~439	220~320	RSS-3

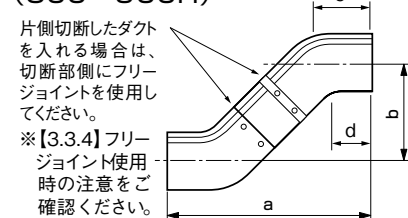
※ xの値が320を超える場合は、【3.3.5】RSSスライドジョイントの【表3.3.5-1】参照

※ 本表のabの値は、施工図から求めたものです。

※ xの値が1mを超える場合は、立面コーナー90°をご使用ください。

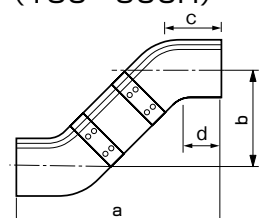
立面コーナー45°RCF間にダクト(直管)を挿入、RFJフリージョイントまたはRSJ固定ジョイント使用時(段差寸法算出式)

<図3.5.7-7>  
RFJ+ジョイントレス接続  
(300~900H)



\* a=b+c+d RCF間の距離は $\sqrt{2} \times b - c - d$

<図3.5.7-8>  
RSJジョイント接続  
(150~900H)



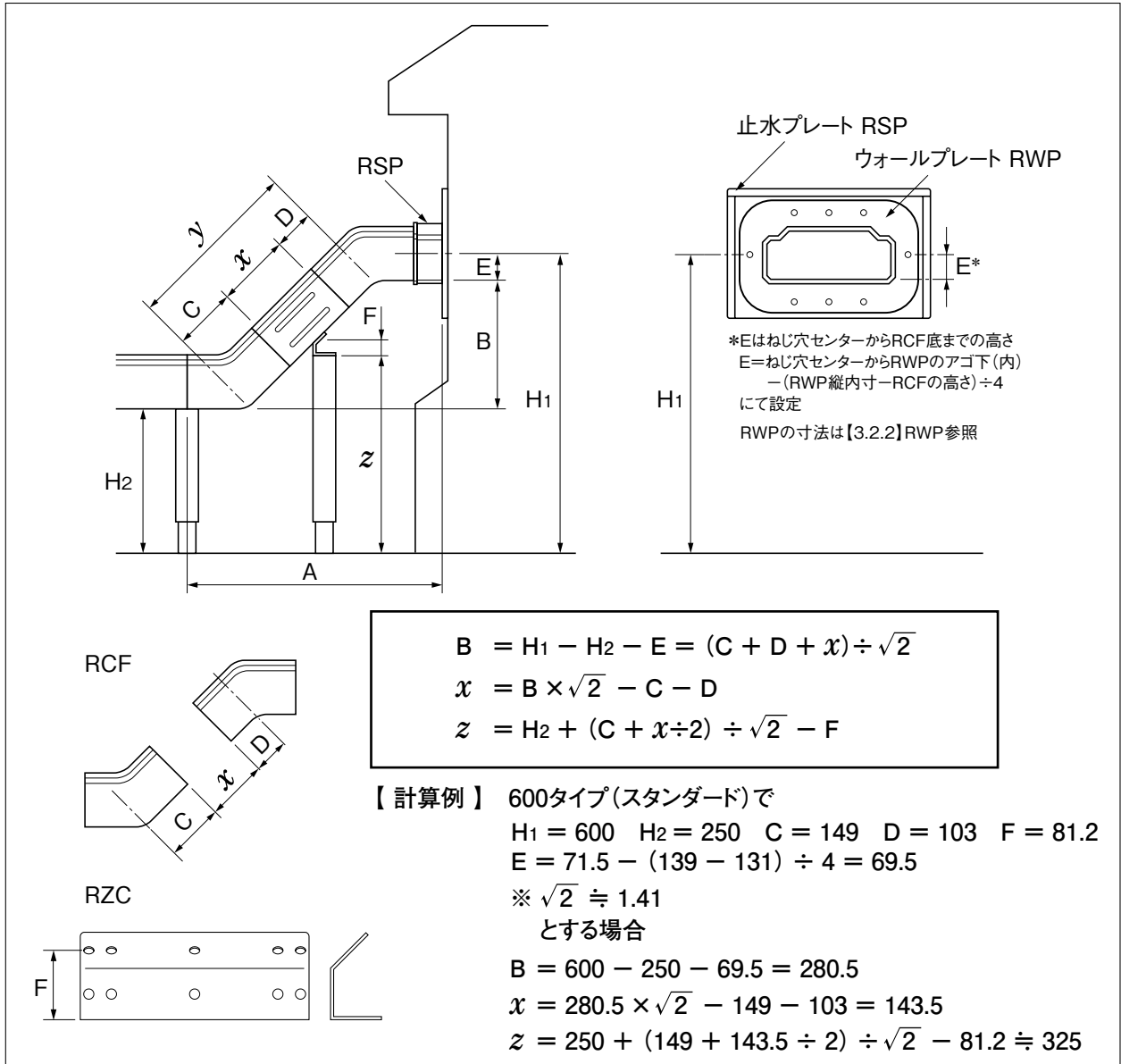
xはダクトの長さ

サイズ	計算式	
	RFJ+ジョイントレス接続	RSJ接続
150	-	$x = \sqrt{2} \times b - 226$ $a = b + 186$
300 450 600 900	$x = \sqrt{2} \times b - 252$ $a = b + 252$	$x = \sqrt{2} \times b - 292$ $a = b + 252$
300H 450H 600H 900H	$x = \sqrt{2} \times b - 302$ $a = b + 302$	$x = \sqrt{2} \times b - 342$ $a = b + 302$

※ ダクトの長さが1mを超える場合は、立面コーナー90°をご使用ください。

## 4 架台高さ算出事例(RCFジョイントレスタイプ施工時)

<図3.5.7-9> PSのアンカー位置から架台の高さを求める場合



### 設計上の注意

上記は架台選定のための計算上の数値であり、実施工の際にはパーツの組み付け具合や施工環境(床の勾配)などにより数mm～数cmの誤差が生じる場合がほとんどです。製品選定の際には余裕を持った選定をお奨めします。

例) 設計上の架台高さ 380mm の場合の架台の選定

- RZM-S + RZB-ML      350mm～400mm で誤差調整が可能
- ✕ RZM-M + RZB-S      330mm～380mm で上への誤差調整が不可能

設計編

製品構成  
仕様重量

仕様  
耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

全体設計

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天井)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計  
架台

コーナー

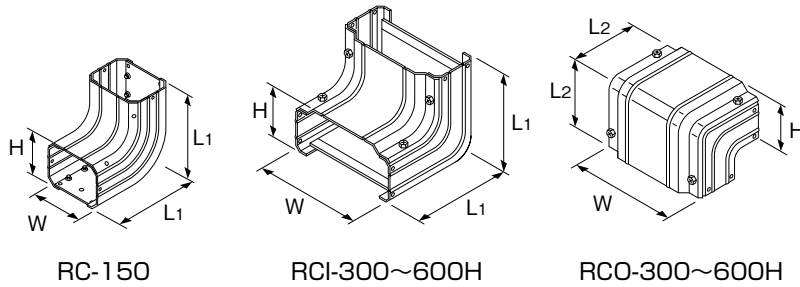
底板

その他の  
パーツ

## 3.5.8 RC/RCI/RCO 立面コーナー90° (150~600H)

立面90°エルボです。立上り用(RCI)と立下り用(RCO)があります。  
RC-150はフタと底板の付替えて、立上げ・立下げのどちらでも使えます。

<図3.5.8-1>



単位:(mm)

タイプ	W	L1	L2	H
150	150	210	-	111
300	300	260	281	134
450	450	260	281	134
600	600	260	281	134
300H	300	380	401	254
450H	450	380	401	254
600H	600	380	401	254

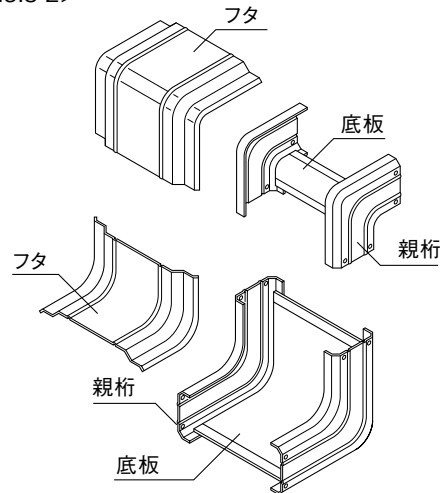
※RC-150はフタと底板の付替えて、立上げ・立下げのどちらでも使えます。

### 1 架台の取り付け可能箇所および必要架台数

- 150  
無し(直接支持しません)
- 300~600H  
RCI  
接続部 … 2箇所 / 1本以上 (注意参照)  
RCO  
接続部 … 2箇所 / 0本以上 (注意参照)

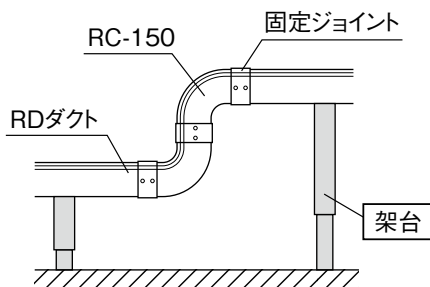
**注意** 接続部に架台を設置しない場合は、固定ジョイントRSJまたはスライドジョイントRSSを使用し、施工例を良く確認してご使用ください。  
※RCIとRCOの間には直接または間接支持が必要です。  
※間接支持  
直接対象物に架台などを取り付けしていないが、他のパーツとの組み合わせによって、荷重を支えている状態。

<図3.5.8-2>

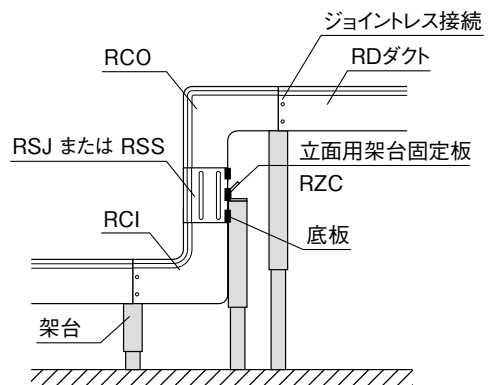


### 2 架台の取り付け例(段差)

<図3.5.8-3> 150



<図3.5.8-4> 300~600H

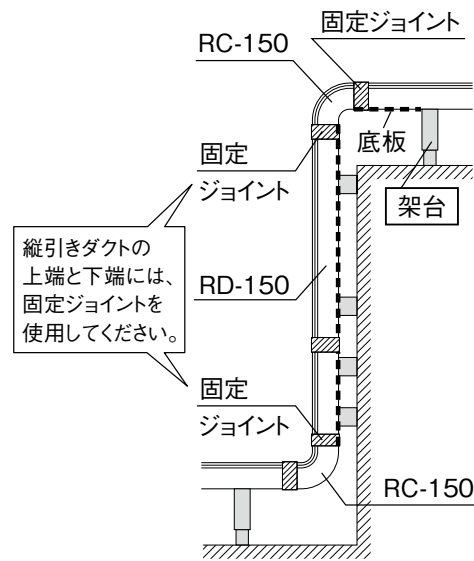


RCIとRCOの間には、何らかの支持が必要です。

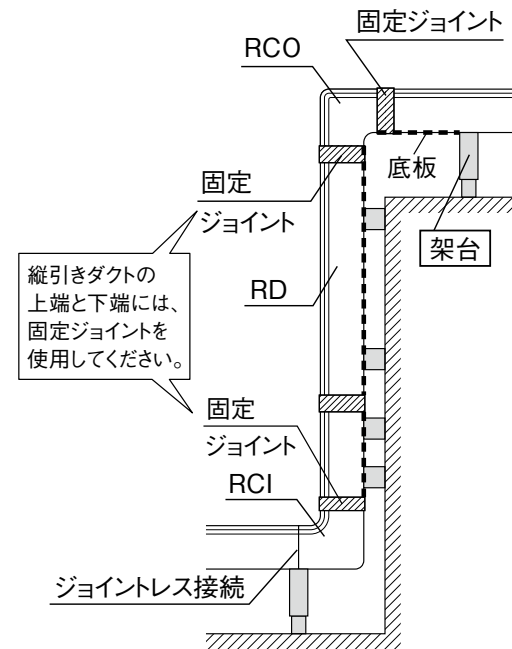
### 3 壁面施工例

- 荷重がかかる側(壁面側)は固定ジョイントで取り付けてください。
- 水平部の接続がジョイントレス接続の場合は、接続部に架台を設置してください。
- 水平部の接続に固定ジョイントを使用する場合は、架台はダクトの子桁に取り付けてください。

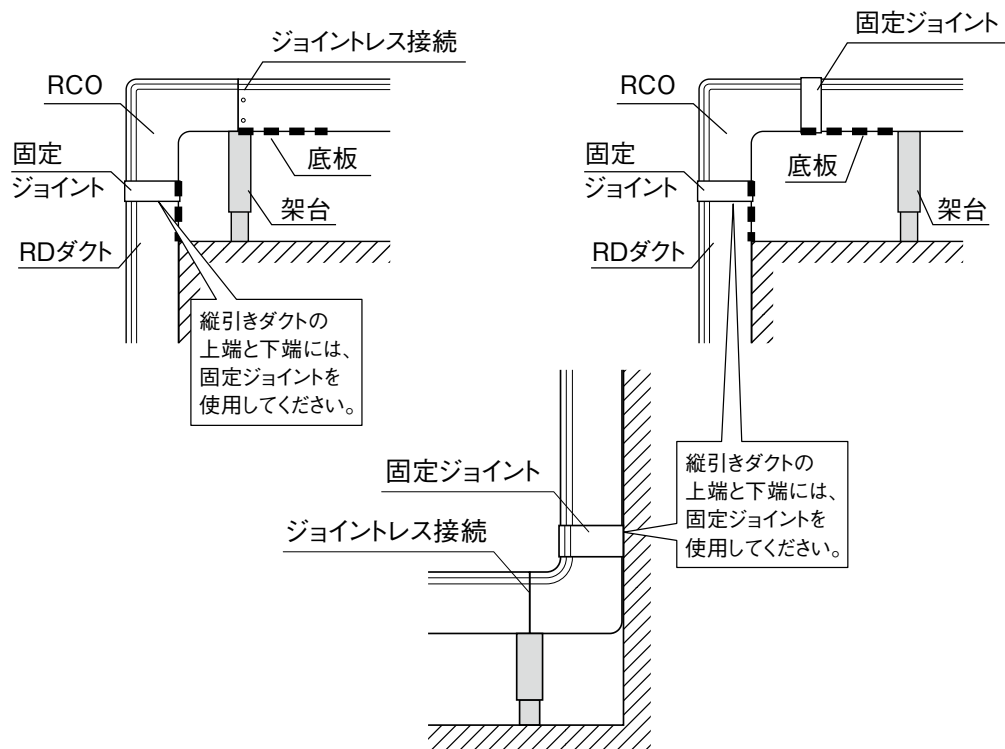
<図3.5.8-5> RC-150 壁面浮かし施工



<図3.5.8-6> RCI/RCO-300(H)/450/600 壁面浮かし施工



<図3.5.8-7> 300~600H 壁面直付施工



設計編

製品構成  
仕様重量

仕様

耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

全体設計

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天吊り)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計

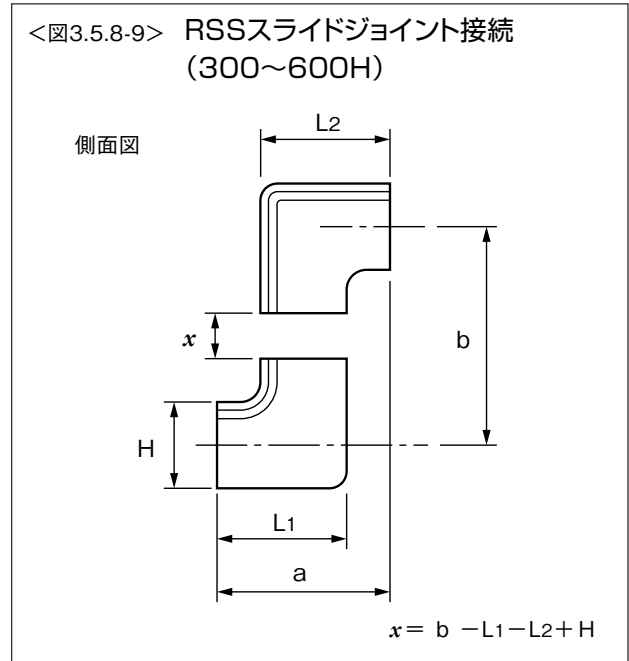
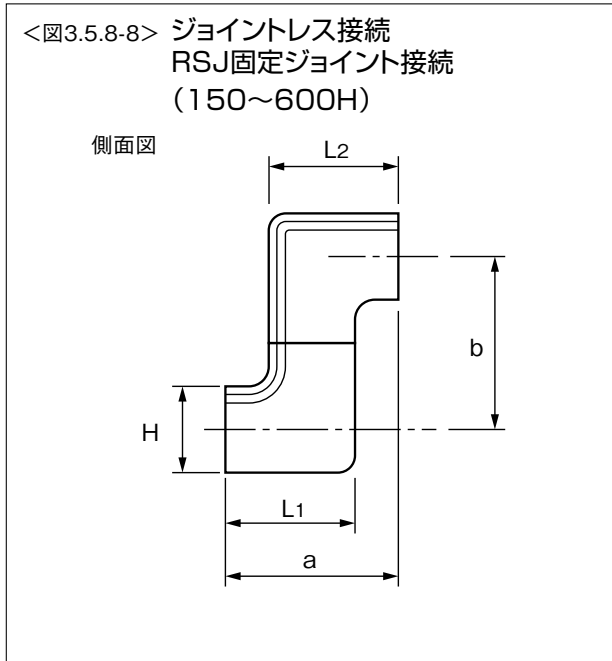
架台

コーナー

底板

その他の  
パーツ

## 4 段差寸法



立面コーナー90° RC/RCI/RCO 段差寸法表 <表3.5.8-1>

単位:(mm)

サイズ	W	L1	L2	H	a	ジョイントレス接続	RSJ接続	RSS接続		
						b	b	b	x※	対応ジョイント
150	150	210	210	111	309	—	330	—	—	—
300	300	260	281	134	410	390	430	430~530	20~120	RSS-1
								530~630	120~220	RSS-2
								630~730	220~320	RSS-3
450	450	260	281	134	410	390	430	430~530	20~120	RSS-1
								530~630	120~220	RSS-2
								630~730	220~320	RSS-3
600	600	260	281	134	410	390	430	430~530	20~120	RSS-1
								530~630	120~220	RSS-2
								630~730	220~320	RSS-3
300H	300	380	401	254	530	510	550	550~650	20~120	RSS-1
								650~750	120~220	RSS-2
								750~850	220~320	RSS-3
450H	450	380	401	254	530	510	550	550~650	20~120	RSS-1
								650~750	120~220	RSS-2
								750~850	220~320	RSS-3
600H	600	380	401	254	530	510	550	550~650	20~120	RSS-1
								650~750	120~220	RSS-2
								750~850	220~320	RSS-3

※ xの値が320を超える場合は、【3.3.5】RSSスライドジョイントの【表3.3.5-1】参照

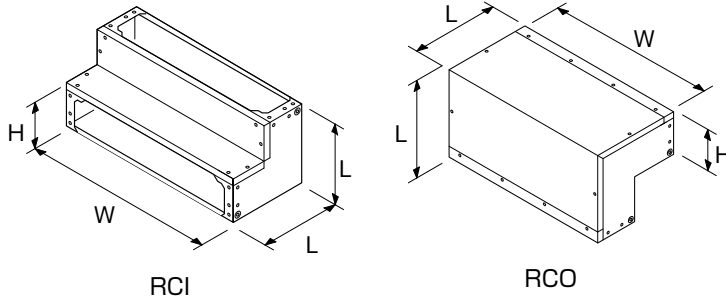
設計編  
仕様  
仕様構成  
重量  
耐荷重及び強度  
収納能力  
基本的な設計の流れ  
設置方法 (床置き)  
設置方法 (壁面)  
設置方法 (天井吊り)  
ダクト  
壁貫通  
接続方法  
架台  
コーナー  
底板  
その他のパーツ

全体設計

個別設計

## 3.5.9 RCI/RCO 立面コーナー90° (900/900H)

<図3.5.9-1>



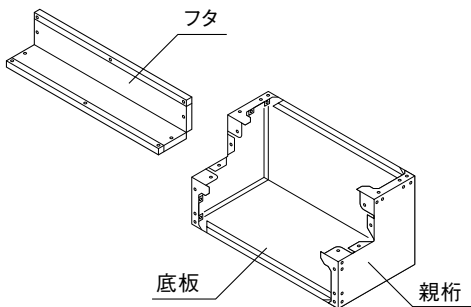
単位:(mm)

タイプ	W	L	H
900	980	378	200
900H	980	498	320

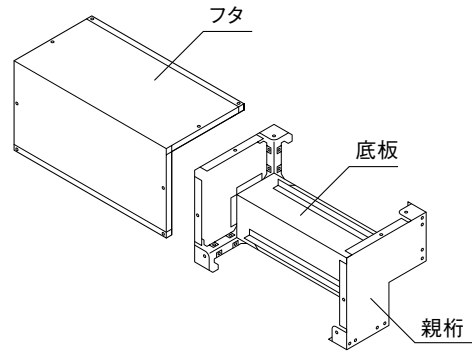
### 1 架台の取り付け可能箇所

- RCI 底板 … 2箇所以上
- RCO 底板、RCO用架台固定板 … 1~2箇所

<図3.5.9-2> RCI-900・900H

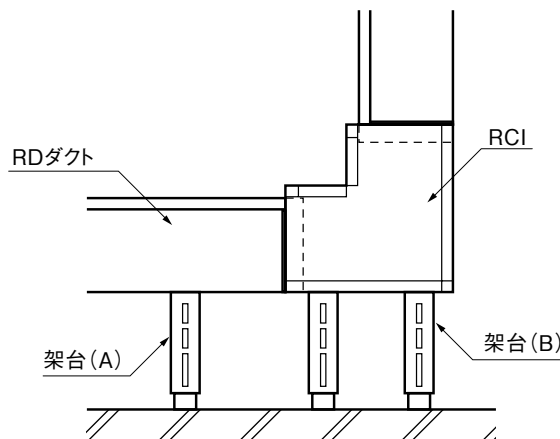


<図3.5.9-3> RCO-900・900H



### 2 RCIの架台の取り付け例

<図3.5.9-4>



設計編

製品構成  
仕様重量

仕様

強度  
耐荷重及び

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

全体設計

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天吊り)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計

架台  
コーナー

底板

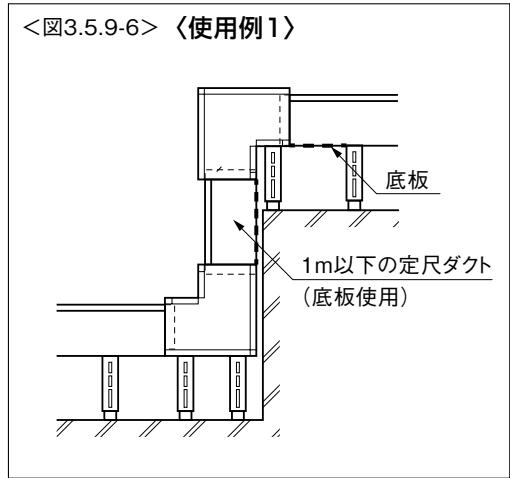
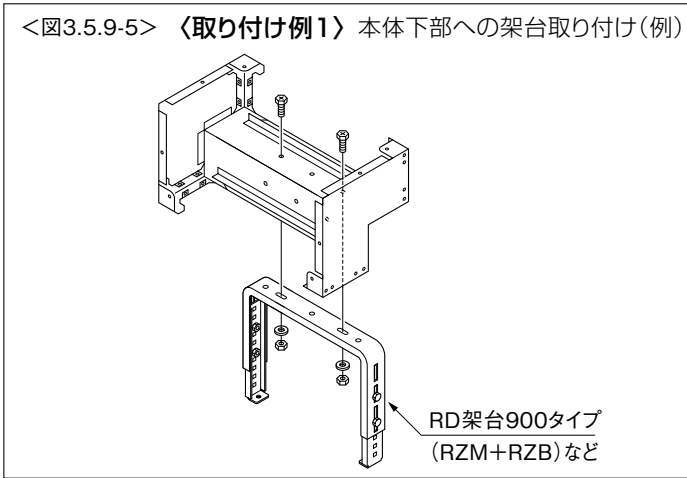
その他の  
パーツ

### 3 RCO-900(H) 架台の取り付け例

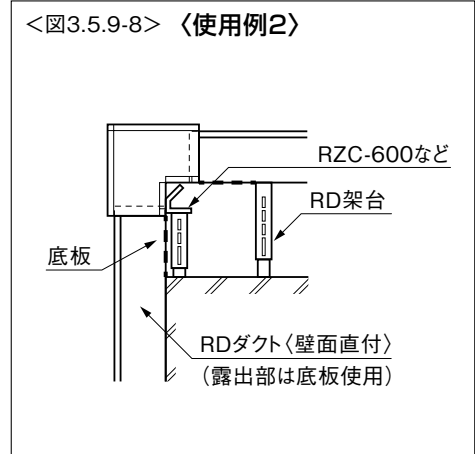
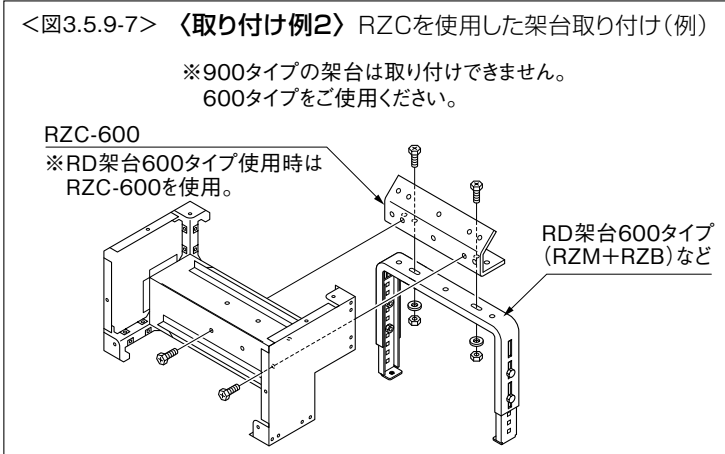
取り付け例および使用例 <表3.5.9-1>

垂直方向のダクト		取り付け例／使用例	備考・注意
長さ	状態		
1m以下	ダクトが定尺	取り付け例1／使用例1	配管荷重は上下の水平部で支え、荷重がダクトやコーナーパーツにかからないようにしてください。
1m超	壁面直付	取り付け例2／使用例2	配管荷重がコーナーパーツにかからないようにしてください。

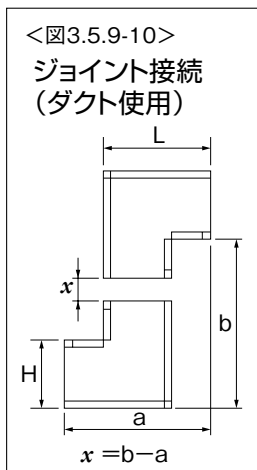
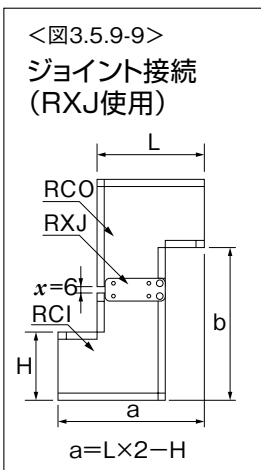
#### ■ 取り付け例1／使用例1



#### ■ 取り付け例2／使用例2



### 4 段差寸法



#### 立面コーナー90° RCI/RCO-900/900H 段差寸法表

<表3.5.9-2>

単位:(mm)

サイズ	W	L (RCI)	L (RCO)	H	a	RXJ使用	ダクト使用	x	対応パーツ
						b	b		
900	980	385	385	169	600	606	606	6	RXJ
							860	260	0.3mダクト
							1060	460	0.5mダクト
900H	980	504	504	288	719	725	725	6	RXJ
							979	260	0.3mダクト
							1179	460	0.5mダクト

設計編  
 仕様構成  
 仕様重量  
 耐荷重及び強度  
 収納能力  
 基本的な設計の流れ  
 設置方法 (床置き)  
 設置方法 (壁面)  
 設置方法 (天井)  
 ダクト  
 PS及び壁貫通  
 接続方法  
 架台  
 コーナー  
 底板  
 その他のパーツ

## 3.5.10 立面コーナーへの架台取付

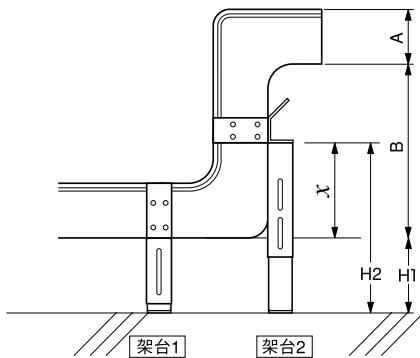
### ■ 立面用架台固定板および架台高さの関係

立面用架台固定板を取り付けるにはRD取付架台を選定する必要があります。

RD取付架台の選定を行うには、下図のH2寸法(=架台の高さ)を以下に示す方法で算出します。

- 注意**
- H2寸法は立面コーナー90°と立面コーナー45°とは求め方が異なりますのでご注意ください。
  - 段差を厳密に設定しにくい場合は高さ調整可能なスライドジョイントを利用しますが、その場合のB寸法は可変となります(表2)。
  - 固定ジョイントを使用する場合(表1)とは異なりますのでご注意ください。
  - コーナー部仕上がり寸法は、コーナー部の項目を参照してください。

<図3.5.10-1> 立面コーナー90°の場合



$$x = 0.5A + 0.5B - 30$$

$$H2 = x + H1$$

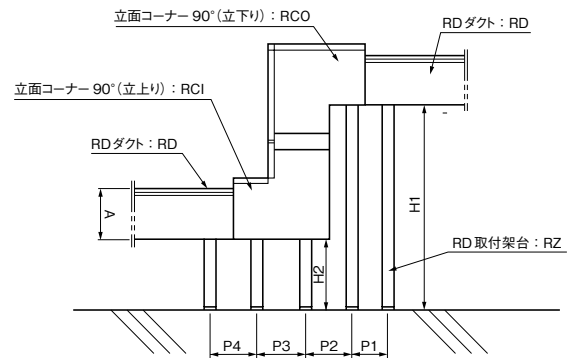
■表1

サイズ	A寸法	B寸法(固定ジョイントの場合)
300	134	430
300H	254	550
450	134	430
450H	254	550
600	134	430
600H	254	550

■表2

サイズ	A寸法	B寸法(スライドジョイントの場合)		
		RSS-1	RSS-2	RSS-3
300	134	430~530	530~630	630~730
300H	254	550~650	650~750	750~850
450	134	430~530	530~630	630~730
450H	254	550~650	650~750	750~850
600	134	430~530	530~630	630~730
600H	254	550~650	650~750	750~850

<図3.5.10-2> 900タイプ立面コーナー90°の場合

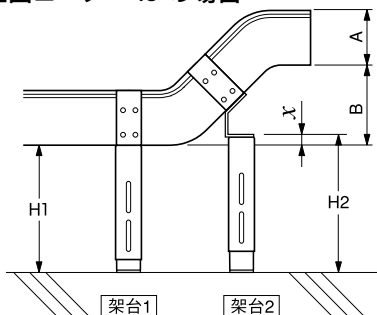


サイズ	H2	P1	P2	P3	P4
900タイプ	H1-606	(215)	240	135	(230)
900Hタイプ	H1-725		238	250	(240)

※( )内の寸法は参考値です。

<図3.5.10-3>

立面コーナー45°の場合



$$x = 0.146A + 0.5B - 81.2$$

$$H2 = x + H1$$

■表1

サイズ	A寸法	B寸法(固定ジョイントの場合)
300	134	193
300H	254	228
450	134	193
450H	254	228
600	134	193
600H	254	228
900H	254	228

■表2

サイズ	A寸法	B寸法(スライドジョイントの場合)		
		RSS-1	RSS-2	RSS-3
300	134	193~263	263~333	333~403
300H	254	228~298	298~368	368~438
450	134	193~263	263~333	333~403
450H	254	228~298	298~368	368~438
600	134	193~263	263~333	333~403
600H	254	228~298	298~368	368~438
900H	254	228~298	298~368	368~438

設計編

製品構成  
仕様重量

仕様  
強度  
耐荷重及び

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

全体設計

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天井吊り)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計

架台  
コーナー

底板

その他の  
パーツ

設計編

仕様  
製品構成  
仕様重量

仕様  
耐荷重及び  
強度

仕様  
収納能力

設計の  
基本的な  
流れ

設置方法  
(床置き)

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天井)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計  
架台

コーナー

底板

その他の  
パーツ

## 3.6 底板

### 概要

RDは吸水性がほとんど無いポリエチレンフォーム保温筒を使用した被覆銅管の使用を前提として設計されているため、基本的に底板を使用しません。壁面などの風雨の影響が大きい箇所や貫通部などの止水性を考慮したい箇所、鳥害などが想定される場合には底板をご使用ください。

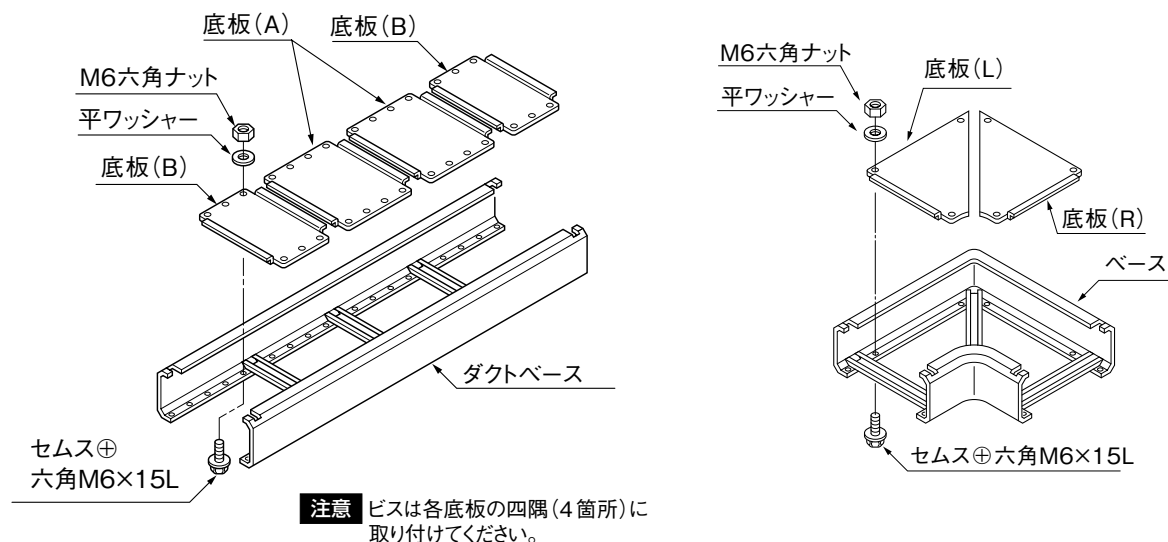
### 目次

3.6.1	底板施工の種類	60
3.6.2	底板使用可能箇所	61
3.6.3	底板施工の使用パーツ一覧	62

## 3.6.1 底板施工の種類

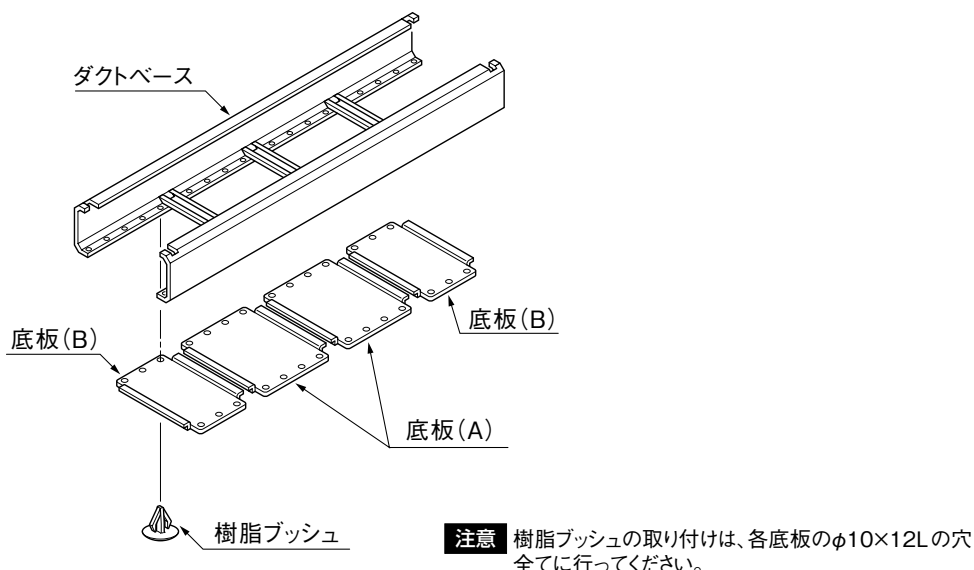
### 1 底板施工(先付け)

<図3.6.1-1>

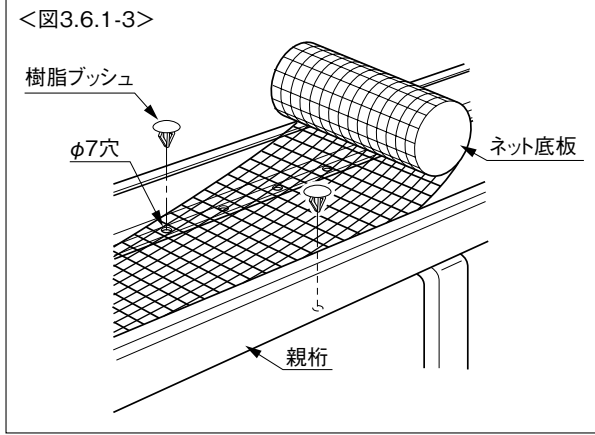


### 2 底板施工(後付け) ※ダクトのみ(900タイプを除く)

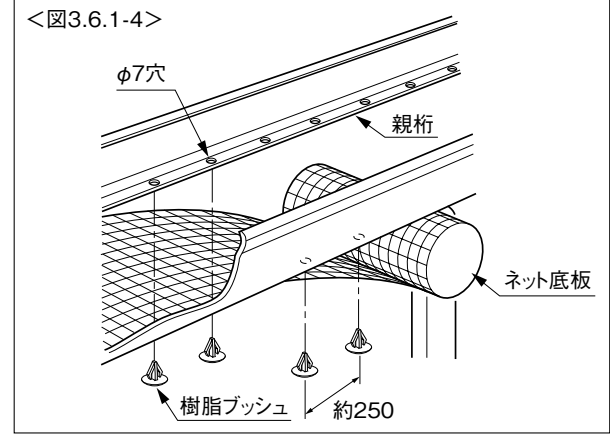
<図3.6.1-2>



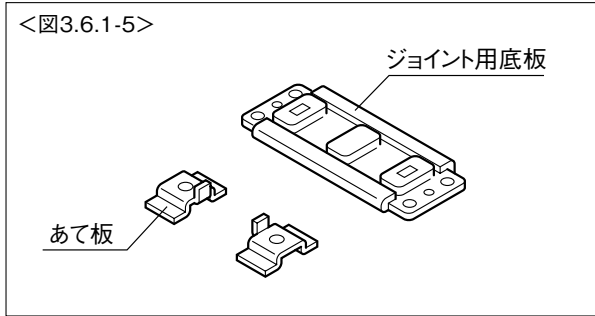
### 3 ネット施工(先付け) ※ダクトおよびREのみ



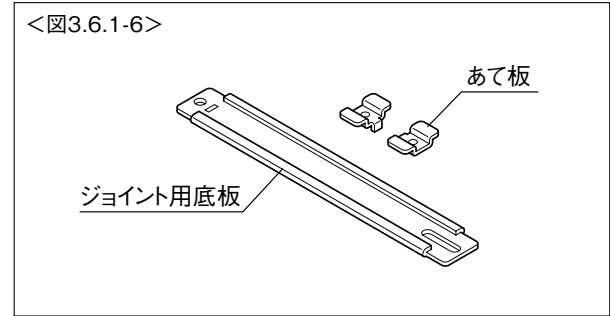
### 4 ネット施工(後付け) ※ダクトおよびREのみ



### 5 ジョイント用底板



### 6 後付け用ジョイント底板



※接続部に架台を設置する場合は、ジョイント用底板は必要ありません。

## 3.6.2 底板使用可能箇所

底板使用可能箇所については <表3.6.2-1> の通りです。

取付時に必要となるパーツの詳細は【3.6.3】底板施工の使用パーツ一覧 をご確認ください。

**警告** 落下の危険がある箇所での底板の後付けは、危険ですのでおやめください。

<表3.6.2-1> 底板使用可能箇所

○：使用可能 △：不可だが代替え手段有り ×：使用不可

設置対象	底板			ネット底板(床)	
	先付け(床)	先付け(壁)	後付け(床)	先付け	後付け
ダクト	○	○	○ *1	○	○ *1
平面コーナー	○ *6	○ *6	×	×	×
立面コーナー	○	○	×	×	×
接続部	ジョイントレス接続	△ *2	×	×	×
	固定ジョイント	○	○	○ *3	×
	フリージョイントA	○ *7	×	○ *3*7	×
	フリージョイントS/H	△ *7	×	×	×
	異径ジョイント	△ *4	△ *4	△ *4	×
スライドジョイント	○ *5	○ *5	×	×	×

\*1… 900/900Hタイプは後付けできません。

\*2… ジョイントレス接続にはジョイント用底板は使用できません。

通常は接続部に架台を設置しているので底板を必要としません。

接続箇所にか台を設置できない場合は、ジョイントをご使用ください。

\*3… 後付けの場合で、1m以上のダクトと0.5m以下の短尺ダクトおよび平面コーナー / 分岐ジョイントとを接続する場合は、「ジョイント用底板 RDBJ」ではなく「後付け用ジョイント底板 RJB」が必要です。

取付時に必要となるパーツの詳細は【3.6.3】底板の取付方法一覧 をご確認ください。

\*4… 異径ジョイントには底板がありません。

異径ジョイント(プレート型)は、パーツに組み込まれますので底板は必要ありません。 **参照** 【3.3.7】RR異径ジョイント

\*5… RSSの底板は、RDダクト2m、1mおよび立面コーナー45°の接続時のみ取付可能です。

\*6… RXNには底板はありません。

\*7… ダクト用底板の加工が必要です。 **参照** 【3.3.4】フリージョイント

設計編

仕様  
製品構成  
仕様重量  
耐荷重及び強度

仕様  
収納能力  
基本的な設計の流れ  
設置方法  
(床置き)  
設置方法  
(壁面)  
設置方法  
(天井り)  
ダクト  
壁貫通  
接続方法  
架台  
コーナー  
底板  
その他のパーツ

全体設計  
個別設計

## 3.6.3 底板施工の使用パーツ一覧

底板の施工時に使用するパーツの一覧です。

底板が使用できる箇所については【3.6.2】底板使用可能箇所 をご確認ください。

<表3.6.3-1>

取付製品	取付方法	型番	ダクトサイズ	接続箇所	ジョイント部の架台取付	必要部材	施工編参照ページ			
底板	先付	RD、RD-1	300/450/600/900	ダクト(2m、1m)	有	底板A、底板B	P137			
					無	底板A、底板B、ジョイント用底板、当て板	P137,142			
				ダクト(0.5m、0.3m)コーナー	有	底板A、底板B	P137			
					無	底板A、底板B、ジョイント用底板、当て板	P137,142			
				150	有	底板A、底板B	P137			
					無	底板A、底板B、ジョイント用底板	P137			
		RD-05	300/450/600/900	ダクト(2m、1m)	有	底板	P137			
					無	底板、ジョイント用底板、当て板	P137,142			
				ダクト(0.5m)コーナー	有	底板	P137			
					無	底板、ジョイント用底板、当て板	P137,142			
				RE	300/450/600	ダクト(2m、1m)	有	底板R、底板L	P139	
							無	底板R、底板L、ジョイント用底板、当て板	P139,142	
	ダクト(0.5m)コーナー	有	底板R、底板L			P139				
		無	底板R、底板L、ジョイント用底板、当て板			P139,142				
	RF	300/450/600	ダクト(2m、1m)			有	底板R、底板L	P140		
						無	底板R、底板L、ジョイント用底板、当て板	P140,142		
			ダクト(0.5m)コーナー	有	底板R、底板L	P140				
				無	底板R、底板L、ジョイント用底板、当て板	P140,142				
			RT	300/450/600	ダクト(2m、1m)	有	底板	P141		
						無	底板、ジョイント用底板、当て板	P141,142		
	ダクト(0.5m)コーナー	有			底板	P141				
		無			底板、ジョイント用底板、当て板	P141,142				
	後付	RD、RD-1			300/450/600	ダクト(2m、1m)	有	底板A、底板B、底板用樹脂ブッシュ(RDB-B)	P138	
							無	底板A、底板B、ジョイント用底板、底板用樹脂ブッシュ(RDB-B)	P138,143	
ダクト(0.5m、0.3m)コーナー			有	底板A、底板B、底板用樹脂ブッシュ(RDB-B)		P138				
			無	底板A、底板B、後付用ジョイント底板(RJB)、底板用樹脂ブッシュ(RDB-B)、当て板		P138,143				
150			有	底板A、底板B、底板用樹脂ブッシュ(RDB-B)		P138				
			無	底板A、底板B、ジョイント用底板、底板用樹脂ブッシュ(RDB-B)		P138				
RD-05		300/450/600/900	ダクト(2m、1m)	有	底板、底板用樹脂ブッシュ(RDB-B)	P138				
				無	底板、後付け用ジョイント底板、底板用樹脂ブッシュ(RDB-B)	P138,143				
			ダクト(0.5m)コーナー	有	底板、底板用樹脂ブッシュ(RDB-B)	P138				
				無	底板、後付用ジョイント底板(RJB)、底板用樹脂ブッシュ(RDB-B)、当て板	P138,143				
			ネット 底板	先付	RD、RD-1	300/450/600/900	—	—	ネット底板(RNB)、 底板用樹脂ブッシュ(RDB-B)	P144
				後付	RD-05	300/450/600/900	—	—	ネット底板(RNB)、 底板用樹脂ブッシュ(RDB-B)	P144

## 3.7 その他のパーツ

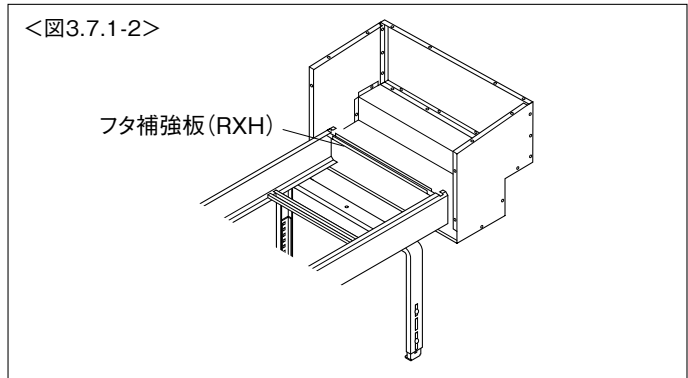
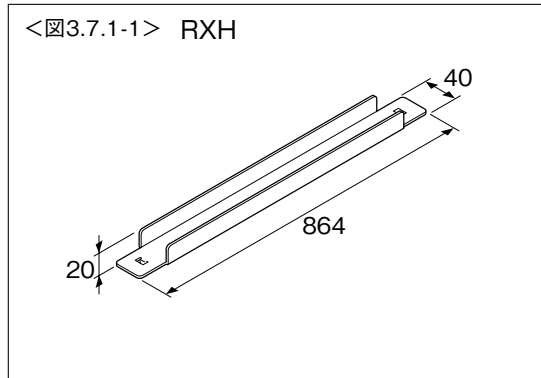
### 目次

3.7.1	RXH フタ補強板	63
3.7.2	RSK RDダクト仕切金具-Hタイプ用	63
3.7.3	RDK RD子桁セット	64
3.7.4	REC エンドキャップ	64
3.7.5	RPH PD保持金具	65
3.7.6	KW キャットウォーク	65

### 3.7.1 RXH フタ補強板

900/900Hタイプのダクトの端部補強用です。  
チャンバーボックスCBなどと接続するときに使用します。

**注意** • RX、RFの900/900Hタイプには、標準で付属。  
• RCF/RCI/RCOの900/900Hタイプには、別形状のフタガイドまたはフタ補強板が標準で付属。



### 3.7.2 RSK RDダクト仕切金具-Hタイプ用

多系統配管での保温材圧縮防止金具です。  
2mおよび1mのHタイプのダクト専用です。

<図3.7.2-1> RSK

タイプ	L	A
300	266	248
450	416	398
600	566	548
900	866	848

単位:(mm)

<図3.7.2-2> RSK 取り付け箇所

設計編

製品構成  
仕様重量

仕様

耐荷重及び  
強度

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

全体設計

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天井)

ダクト

PS及び  
壁貫通

接続方法

個別設計

架台

コーナー

底板

その他の  
パーツ

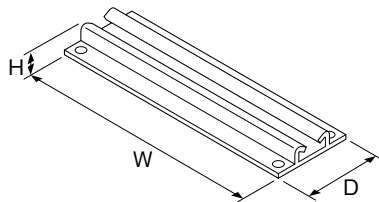
# 3.7 その他のパーツ

- 3.7.3 RDK RD子桁セット [設計編]
- 3.7.4 REC エンドキャップ

## 3.7.3 RDK RD子桁セット

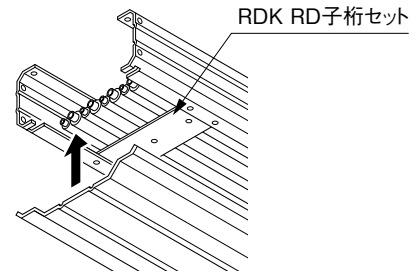
天吊時(ダクトのフタが下向き時)に配管の受けとして使用します。  
RDダクト 300~600Hの2mまたは1mに取り付け可能です。

<図3.7.3-1> RDK

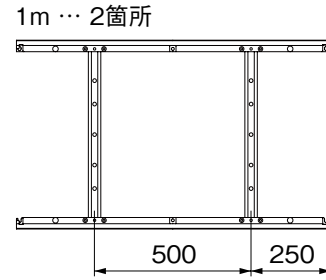
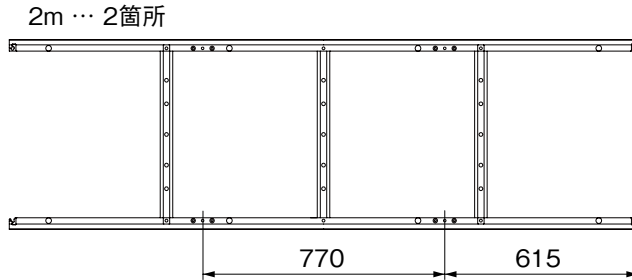


単位:(mm)

タイプ	W	D	H
300	266	80	14.2
450	416	80	14.2
600	566	80	14.2



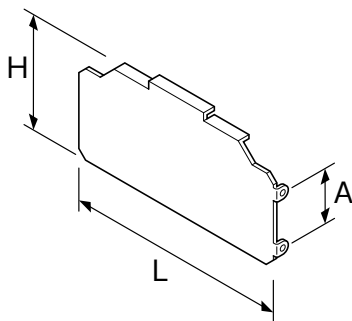
<図3.7.3-2> RDK 取り付け箇所



## 3.7.4 REC エンドキャップ

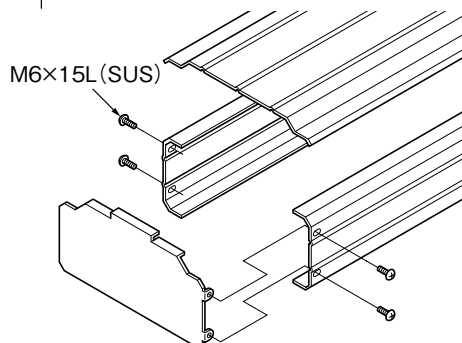
ダクト端部の穴ふさぎ用プレートです。

<図3.7.4-1> REC



単位:(mm)

タイプ	L	H	A
150	150	111	60
300/300H	296	127/247	60/140
450/450H	446	127/247	60/140
600/600H	596	127/247	60/140
900/900H	896	127/247	60/140



# 3.7 その他のパーツ

- 3.7.5 RPH PD保持金具
- 3.7.6 KW キャットウォーク

〔設計編〕

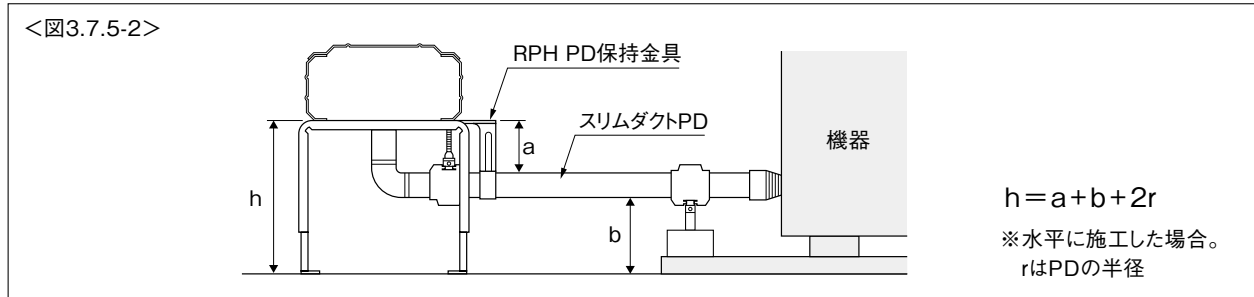
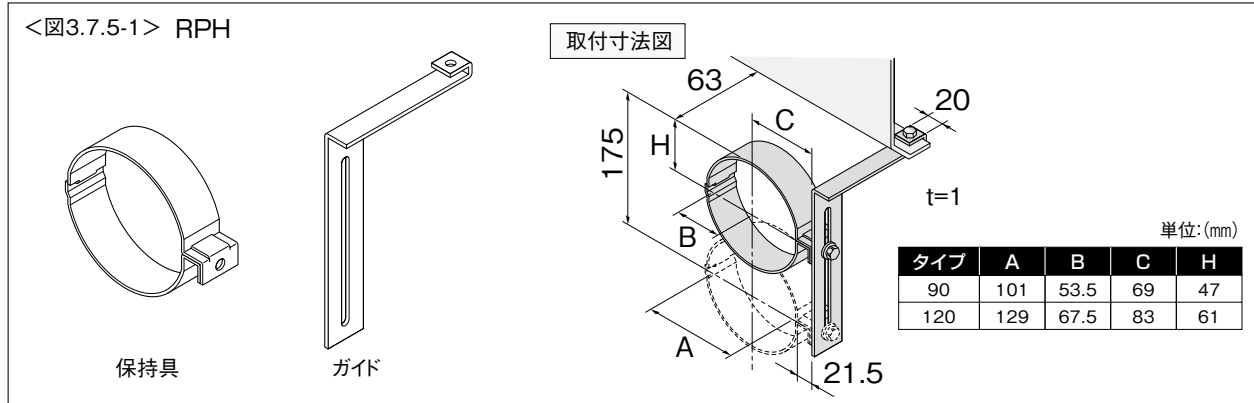
## 3.7.5 RPH PD保持金具

RDダクトから分岐するダクト(スリムダクトPD)を保持する金具です。

※配管を支持・固定するものではありません。

配管の支持は必要に応じて市販の支持金具などをご利用ください。

※RDダクトの親桁にはボルト取付用の穴が数カ所(2mの場合24箇所)設けてありますので、W3/8またはM10のボルトが取付可能です。



## 3.7.6 KW キャットウォーク

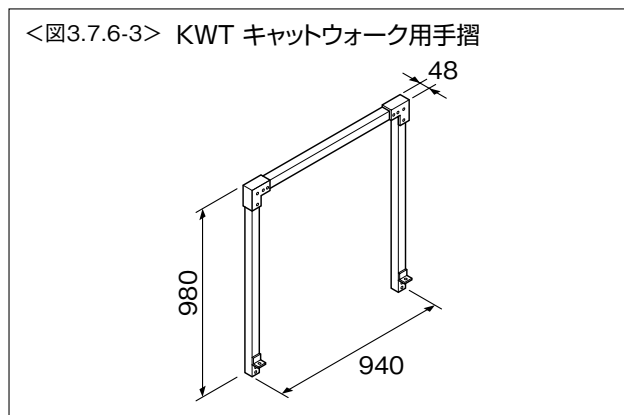
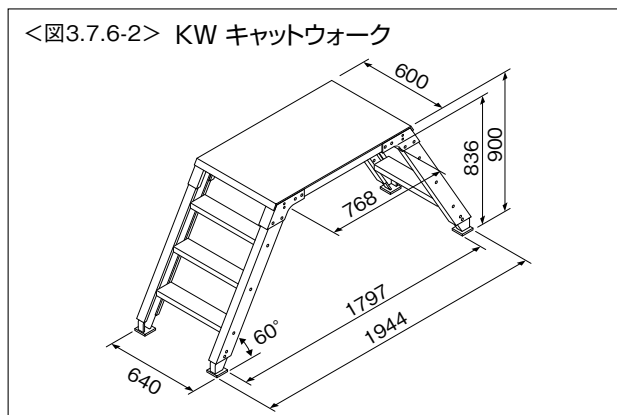
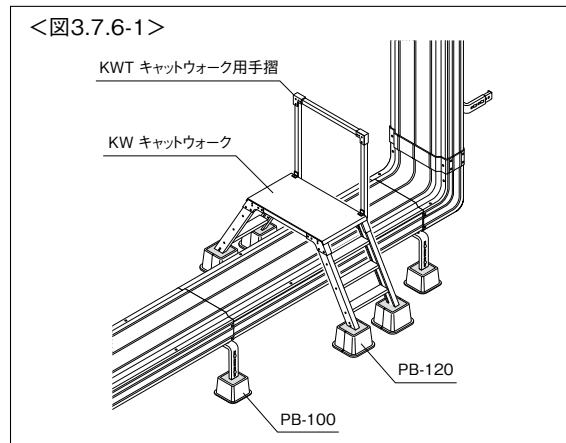
障害物回避用ブリッジです。

別売の KWT キャットウォーク用手摺の取付が可能です。

※固定する場合

PB-120や自作の型枠を使用し、モルタルなどで固定してください。

※KWTは両サイドに取付可能です。



設計編

製品構成  
仕様重量

仕様  
強度  
耐荷重及び

収納能力

基本的な  
設計の流れ

設置方法  
(床置き)

全体設計

設置方法  
(壁面)

設置方法  
(天井)

ダクト

壁貫通  
PS及び

接続方法

個別設計  
架台

コーナー

底板

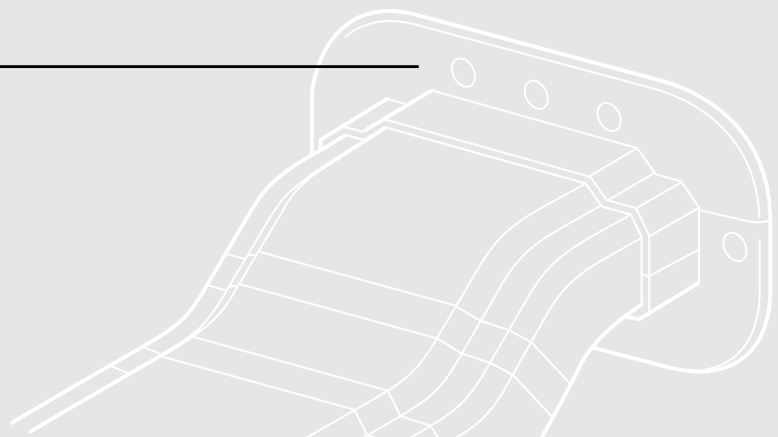
その他の  
パーツ



# 施工編

## 4 施工手順

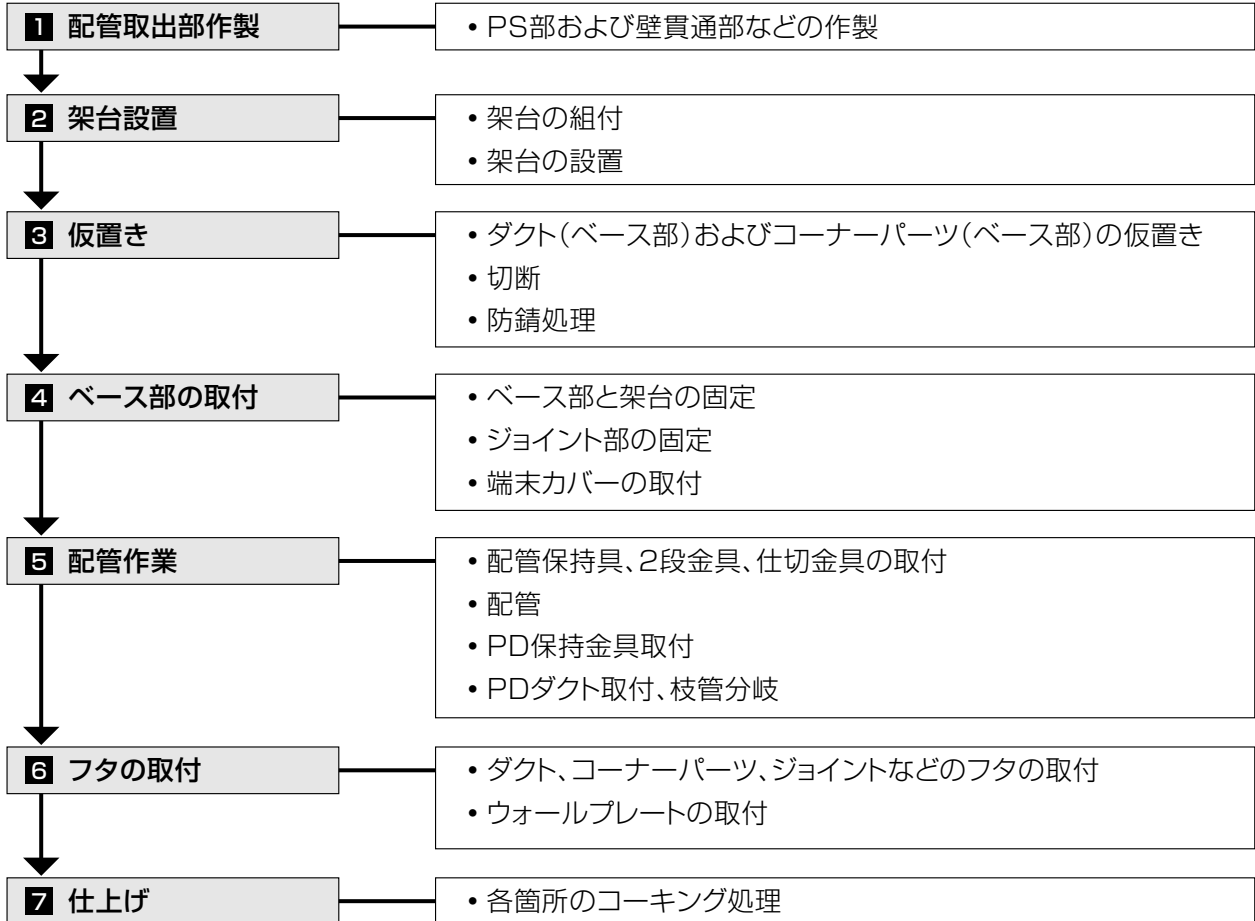
施工の進め方	.....	P68
PSおよび壁貫通	.....	P69~P77
架台	.....	P78~P90
ダクト(直管)	.....	P91~P94
接続	.....	P95~P107
コーナーパーツ	.....	P108~P134
底板	.....	P135~P144
その他	.....	P145~P149



## 4.1 施工の進め方

### 4.1.1 施工の進め方

以下の手順で施工を進めます。



### 4.1.2 組立用工具

スリムダクトRDは、施工の状況によって以下の工具などを必要とします。

<b>通常の組立</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プラスドライバーNo.3</li> <li>• スパナNo.17(M10,W3/8用)</li> <li>• スパナNo.10(M6用)</li> </ul>	<b>別売子桁などの取付(天吊り時など)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• スパナNo.10(M6用)</li> </ul>	<b>ダクトの切断</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高耐食性溶融亜鉛メッキ処理鋼板の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 高速カッター</li> <li>• サンダー など</li> </ul> </li> <li>● ステンレス鋼板の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>• プラズマカッター など</li> </ul> </li> </ul>
<b>架台の固定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アンカー(W3/8)+ドリル など</li> <li>• 型枠+モルタル など</li> </ul>	<b>壁貫通</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ドリル</li> <li>• アンカー</li> <li>• モルタル</li> <li>• コーキング材</li> <li>• サンドペーパー など</li> </ul>	<b>枝分岐</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 金切りノコギリ</li> <li>• 高速カッター</li> </ul>

**注意** 取付ビスの締め付けには、必ずプラスドライバー No.3を使用してください。(締め付けトルクは、5N・mとしてください。)

## 4.2 PSおよび壁貫通

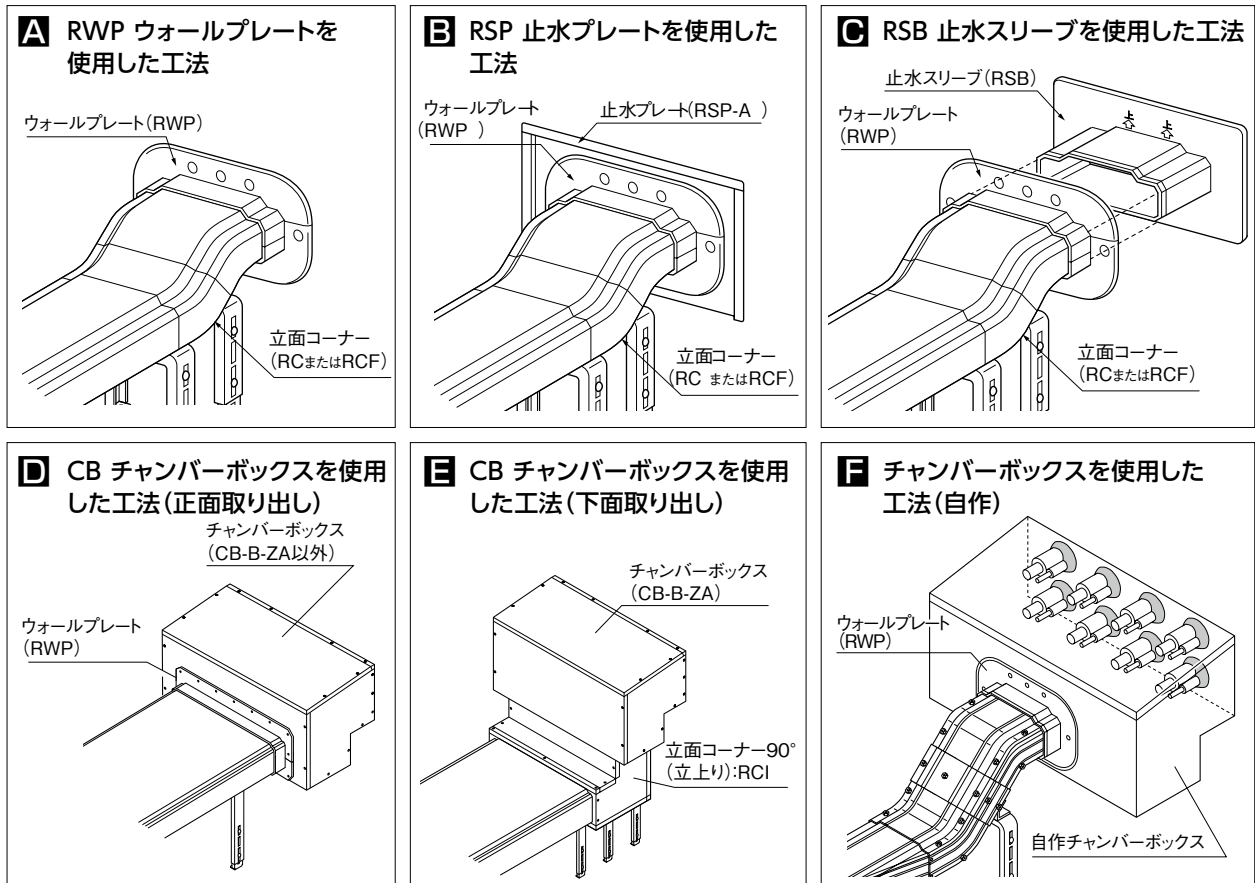
目次	4.2.1 工法一覧	69
	4.2.2 RWP ウォールプレート	70
	4.2.3 RSP 止水プレート	71
	4.2.4 RSB 止水スリーブ	73
	4.2.5 RSPC 止水プレート保護カバー	74
	4.2.6 CB チャンバーボックス	75

### 4.2.1 工法一覧

屋外では止水処理が必要です。止水処理を考慮した貫通方法としては以下の方法などがあります。

**注意** ここで取り上げた施工方法はあくまでも一例です。細部は現場監督官の指導に従ってください。

#### <図4.2.1-1> 施工例(PS)



<表4.2.1-1>

ダクトサイズ	施工例	掲載ページ	施工に必要な部品 (施工例における一例)					
			ウォールプレート RWP	立面コーナー 45° RCF	立面コーナー 90° RC/RCI	止水プレート RSP	止水スリーブ RSB	チャンバーボックス CB
150	<b>A</b>	P.70	○	○	—	—	—	—
300、300H 450、450H 600、600H	<b>B</b>	P.71	○	○	—	○ ※1	—	—
	<b>C</b>	P.73	○	○	—	—	○	—
900、900H	<b>B</b>	P.71	○	○	—	○ ※1	—	—
900H	<b>D</b>	P.75	○	—	—	—	—	○ ※2
全サイズ	<b>E</b>	P.77	—	—	○	—	—	○ ※3
	<b>F</b>	—	○	—	—	—	—	(自作) ※4

※1. RSP-A(四角コーキングタイプ)を使った工法  
 ※2. CB-B-ZA以外を使った工法

※3. CB-B-ZAを使った工法  
 ※4. 現場調達

## 4.2.2 RWP ウォールプレート

ダクトおよびコーナーパーツ(900タイプの一部製品を除く)を接続することができます。

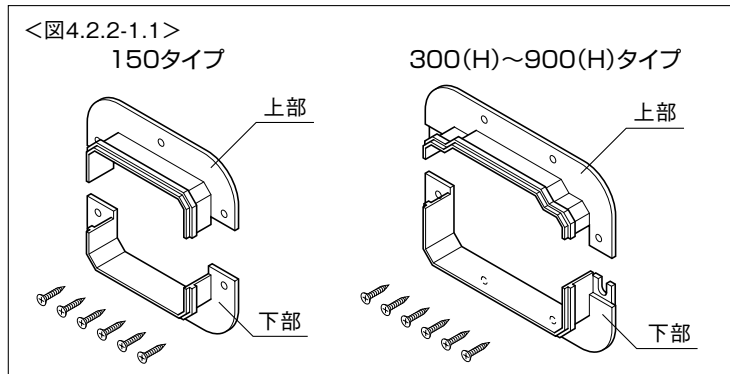
止水スリーブRSBや止水プレートRSPなどと組み合わせて使用できます。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.2.2-1 製品構成



<表4.2.2-1.1> セット内容

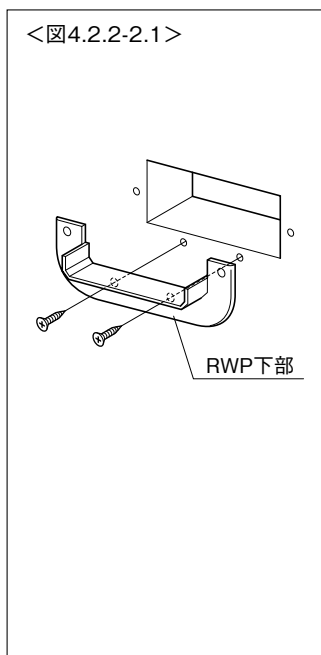
タイプ	上部	下部	セットビス
150	1	1	6
300/300H	1	1	6
450/450H	1	1	6
600/600H	1	1	6
900/900H	1	1	16

<表4.2.2-1.2> ビス仕様

ビス仕様	材質
⊕皿タッピングビス M6×45L	SUS

### 4.2.2-2 RWP 組付例

1 ウォールプレートRWP下部を開口部に取り付けます。



<図4.2.2-2.2> 貫通穴に対するビス位置

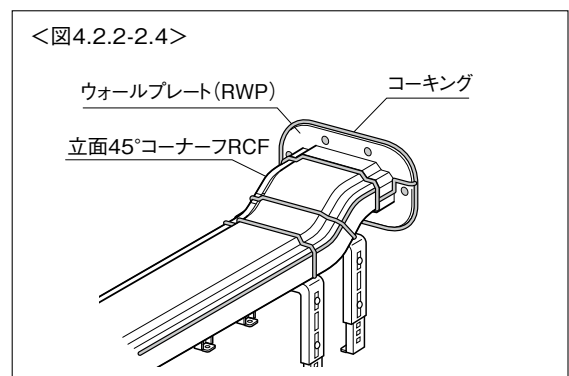
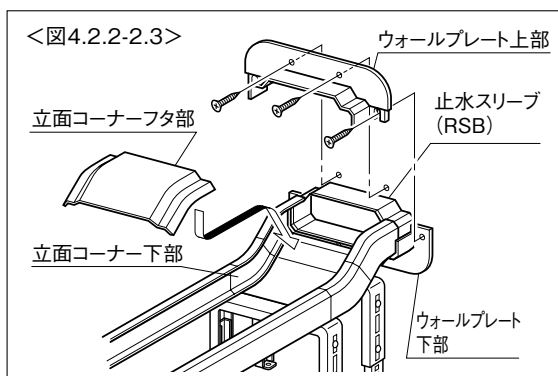
<300(H)、450(H)、600(H)>      <900(H)>

単位:(mm)

サイズ	A	A'	B	C	D	E	E'
300タイプ	54	64	160	192	364	42	32
450タイプ			310		514		
600タイプ			400		664		
900タイプ			—		—		
300Hタイプ	117	121	160	312	364	39	35
450Hタイプ			310		514		
600Hタイプ			400		664		
900Hタイプ			—		—		

2 配管後、RDダクトのフタを閉め、RWP上部を取り付けます。

3 必要に応じて止水処理をほどこして完了です。



施工編  
施工の進め方  
PSおよび壁貫通  
架台  
ダクト(直管)  
施工手順  
接続  
コーナーパーツ  
底板  
その他

## 4.2.3 RSP 止水プレート

配管取り出し部の止水用プレートです。  
ウォールプレートRWPと組み合わせて使用します。  
ダクトおよびコーナーパーツ(900タイプの一部製品を除く)を接続することができます。

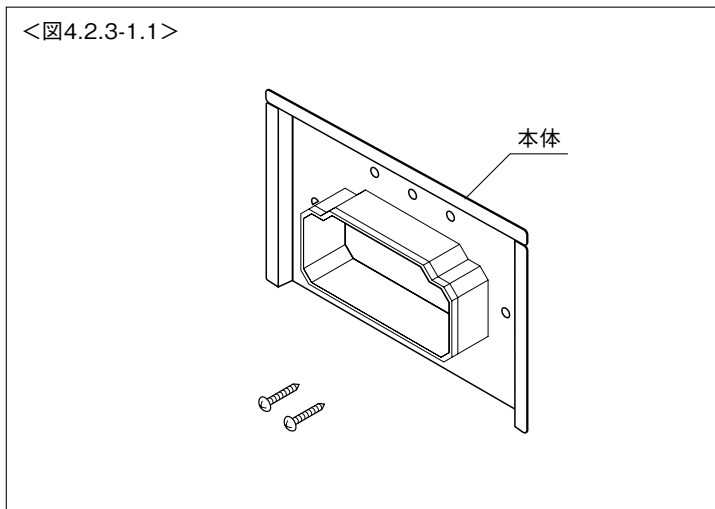
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.2.3-1 製品構成

<図4.2.3-1.1>



<表4.2.3-1.1> セット内容

タイプ	本体	セットビス
300/300H	1	2
450/450H	1	2
600/600H	1	2
900/900H	1	4

<表4.2.3-1.2> ビス仕様

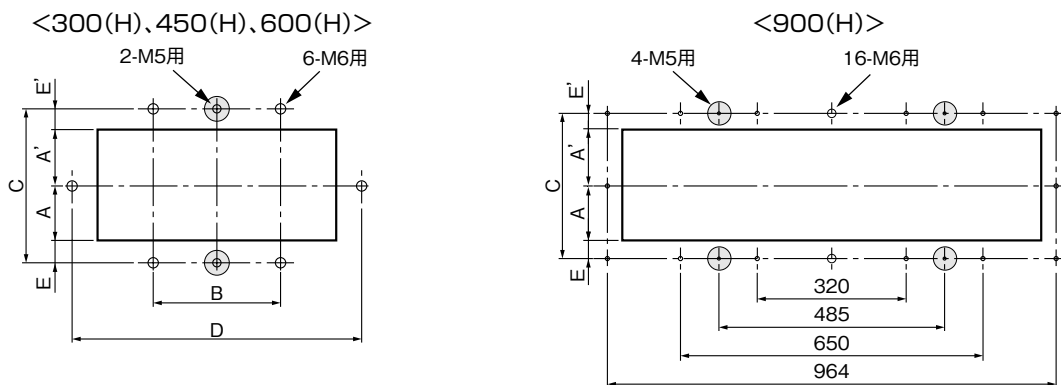
ビス仕様	材質
⊕なベタタッピングビス M5×25L	SUS

### 4.2.3-2 RSP 組付例

**1** 取り付け穴の開口またはアンカーの打ち込みが完了しているかどうか確認します。

参照 【3.2.3】 RSP 止水プレートを使用した工法

<図4.2.3-2.1> 貫通穴に対するビス位置



単位:(mm)

サイズ	A	A'	B	C	D	E	E'
300タイプ	54	64	160	192	364	42	32
450タイプ			310		514		
600タイプ			400		664		
900タイプ			-		-		
300Hタイプ	117	121	160	312	364	39	35
450Hタイプ			310		514		
600Hタイプ			400		664		
900Hタイプ			-		-		

施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

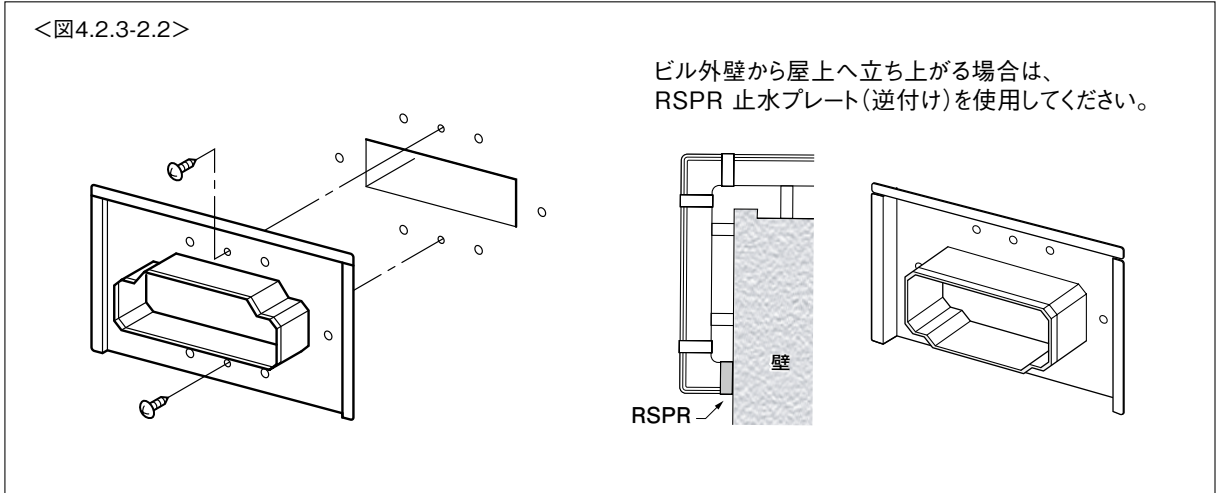
コーナーパーツ

底板

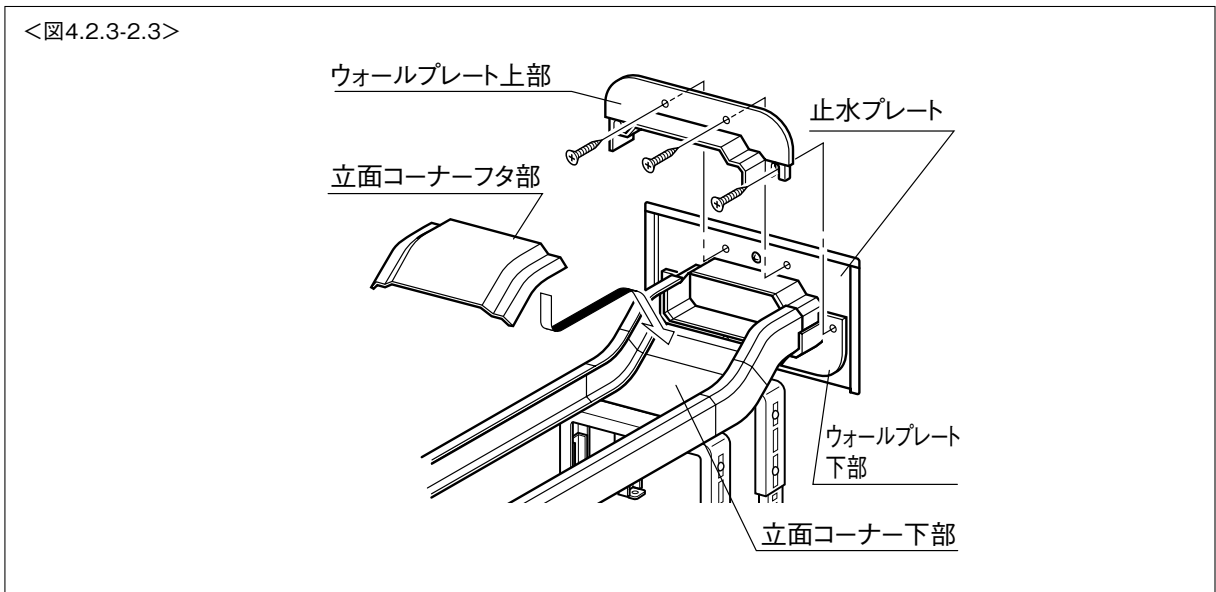
その他

**2** 止水プレートのセンター部上下2ヶ所でビス留めします。

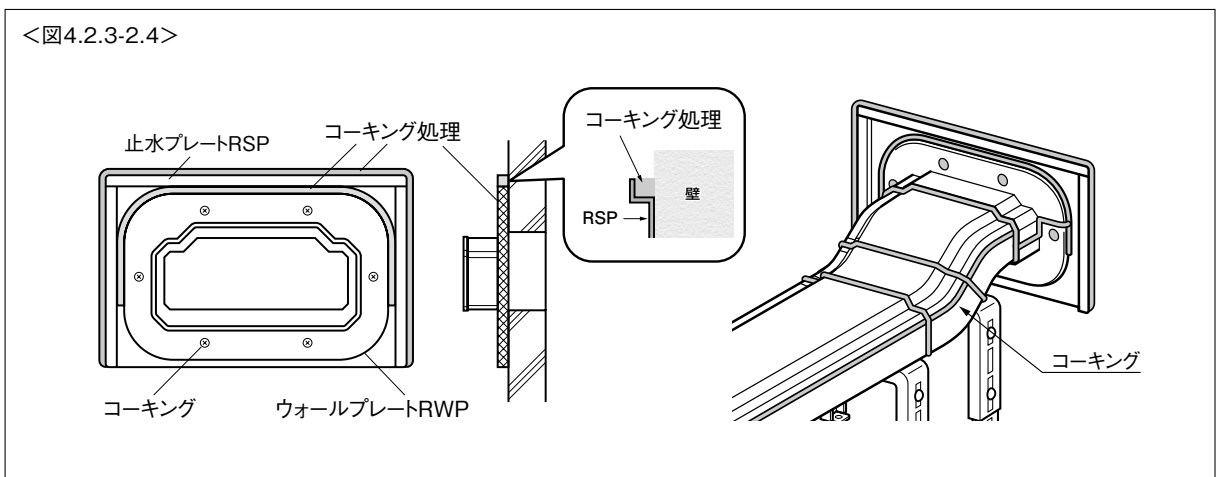
※900/900Hタイプは上下各2ヶ所(計4ヶ所)



**3** ウォールプレートの下部を取り付け、立面コーナーの下部やダクトの下部を組み付けた後、配管を行い、各パーツの上部を取り付けます。



**4** 図のように、止水プレート、ウォールプレート上部および左右それぞれにコーキング処理を行います。



## 4.2.4 RSB 止水スリーブ

止水スリーブ(RSB)、ウォールプレート(RWP)、立面コーナー45°(RCF)を組み合わせて止水処理を行います。止水スリーブは躯体に埋め込んで処理します。

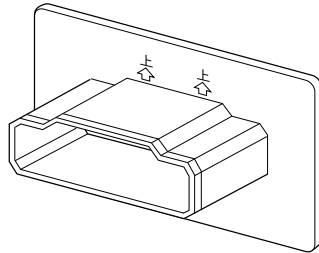
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.2.4-1 製品構成

<図4.2.4-1.1>



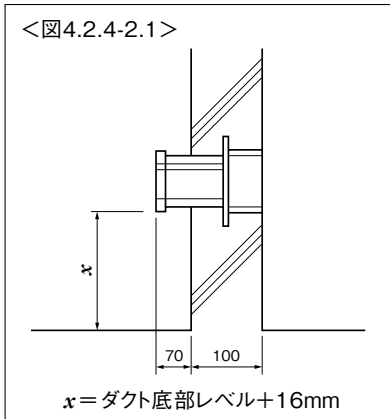
<表4.2.4-1.1> セット内容

タイプ	本体
300/300H	1
450/450H	1
600/600H	1

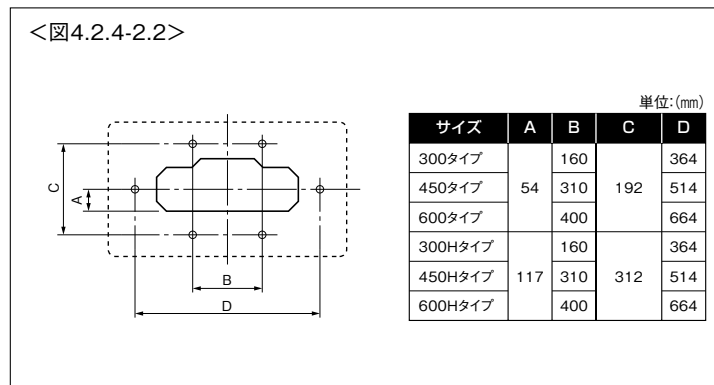
※本製品には付属品はありません。

### 4.2.4-2 RSB 組付例

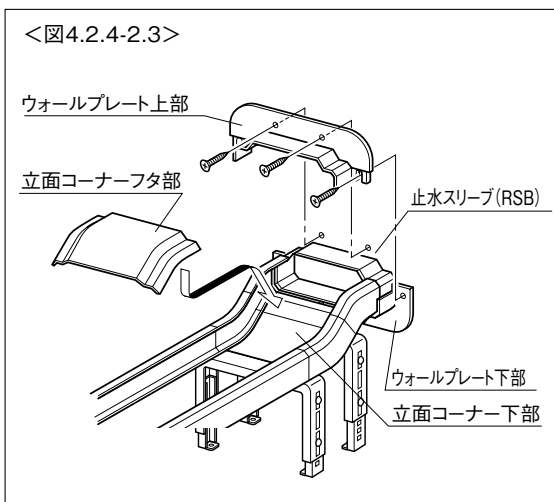
**1** 配管取出部の躯体に対し、止水スリーブを埋め込みます。



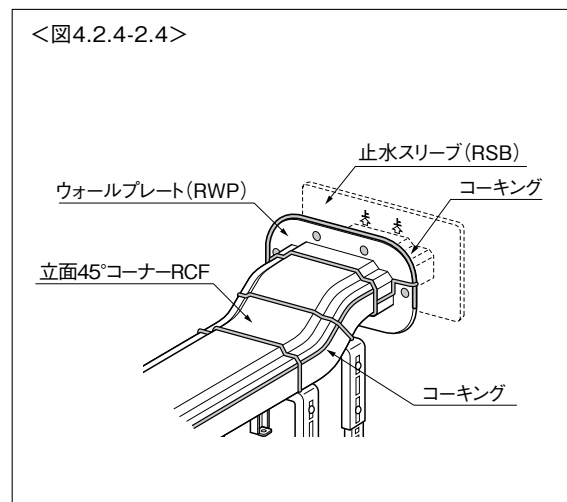
**2** ウォールプレート取り付け用として、図のようにM6×45Lタッピングビス用穴加工を行うか、M6用アンカーの打ち込みを行います。



**3** ウォールプレートの下部を取り付け、立面コーナーの下部やダクトの下部を組み付けた後、配管を行い、各パーツの上部を取り付けます。



**4** 各部のコーキング処理を行って完了です。



施工編

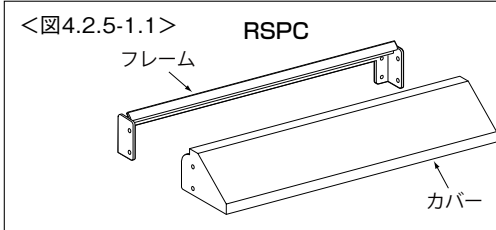
### 4.2.5 RSPC 止水プレート保護カバー

止水プレートのコーキングを紫外線から守るため、止水プレート保護カバーを取り付けます。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



#### 4.2.5-1 製品構成

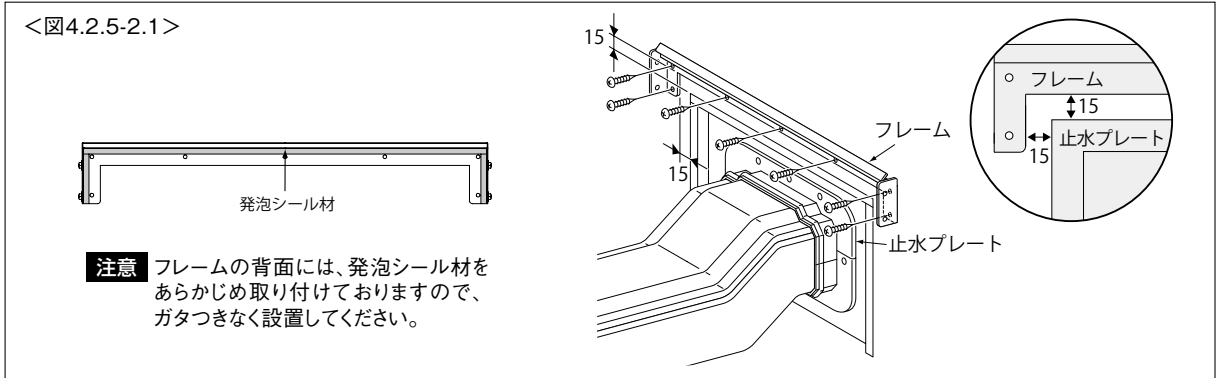


<表4.2.5-1.1> セット内容

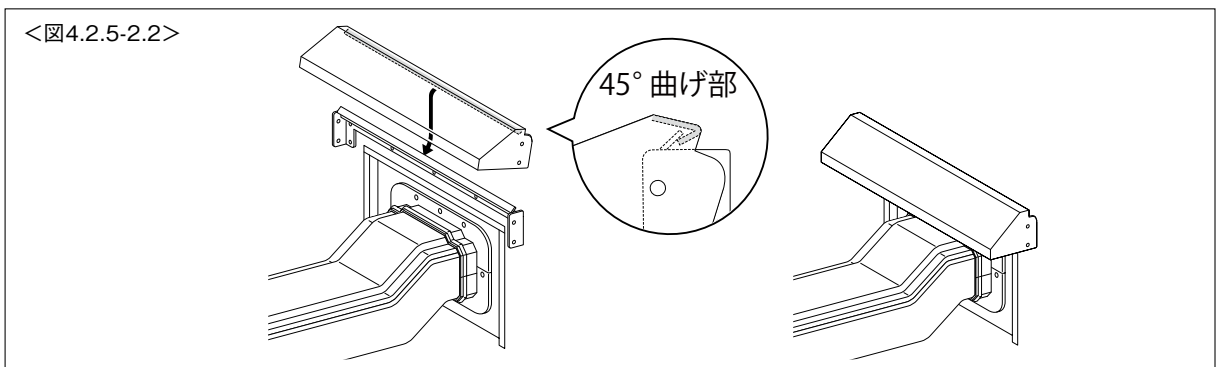
タイプ	フレーム	カバー	セムス⊕六角 M6×15L	十字穴付なべタッピンねじ φ5×25L
300	1	1	4	5
450	1	1	4	7
600	1	1	4	7
900	1	1	4	7

#### 4.2.5-2 RSPC 組付例

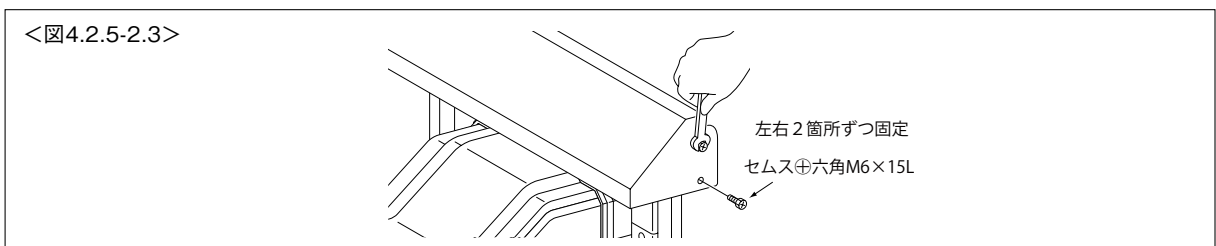
- 1 フレームを止水プレートの取り付け位置から高さ方向及び幅方向に15mmの隙間を空けて、付属のタッピンねじ(推奨下穴径=φ4.3mm)で壁面に取り付けてください。



- 2 フレーム天面部の45度曲げ部とカバー天面部(内面側)の45度曲げ部をかん合させることにより、カバーを仮置きしてください。



- 3 カバーを仮置きした後、フレームに対して付属のセムス⊕六角M6×15L(4本)でカバーを固定してください。



施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

## 4.2.6 CB チャンバーボックス

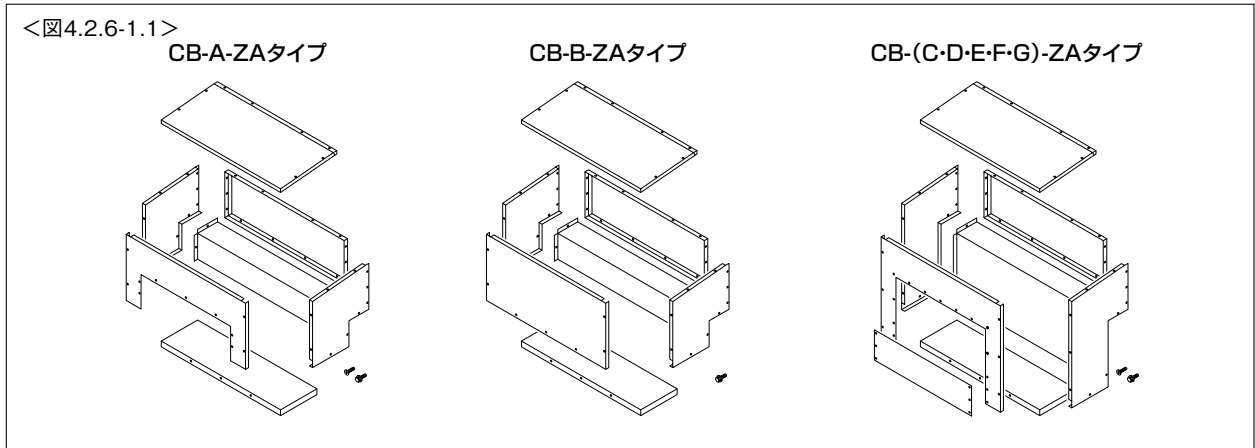
ウォールプレートRWPを組み合わせて施工します。

※チャンバーボックス(CB)は、材質・寸法などを変更した特別仕様品(特注品。価格および納期は別途打ち合わせ)を承ります。  
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.2.6-1 製品構成



<表4.2.6-1.1> セット内容

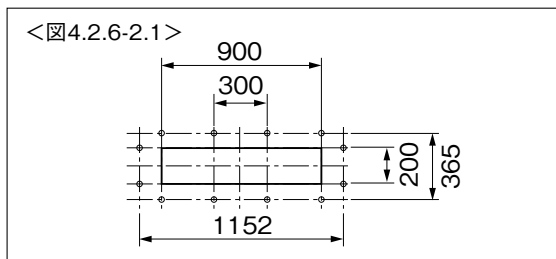
型式	正面板	天板	側板(左右)	フレーム	底板A	底板B	あて板	皿ビス	六角ボルト
CB-A	1	1	各1	1	1	1	0	16	28
CB-B	1	1	各1	1	1	1	0	0	32
CB-C	1	1	各1	1	1	1	1	16	36
CB-D	1	1	各1	1	1	1	1	16	36
CB-E	1	1	各1	1	1	1	1	16	36
CB-F	1	1	各1	1	1	1	1	16	34
CB-G	1	1	各1	1	1	1	0	16	32

<表4.2.6-1.2> ビス/ボルト仕様

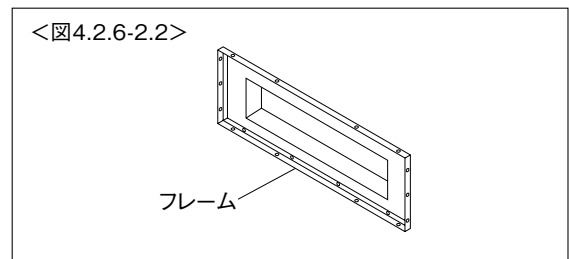
仕様	材質
⊕皿ビス M6×20L	SUS
⊕セムス六角ボルト M6×15L	

### 4.2.6-2 CB 組付例 (正面取出し)

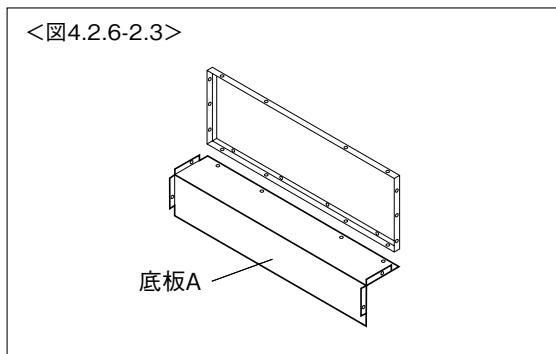
1 図の寸法で、W3/8アンカーボルトの打込みを行ってください。



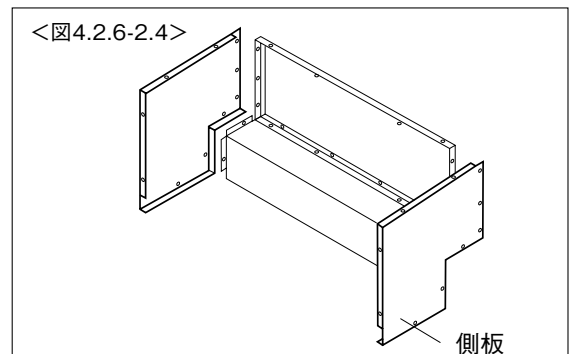
2 開口部に対してフレームを市販のW3/8六角ボルトにより取り付けてください。



3 フレームに対して底板AをM6六角ボルトにて取り付けてください。



4 フレームおよび底板Aに対して、側板をM6六角ボルトにて取り付けてください。



施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

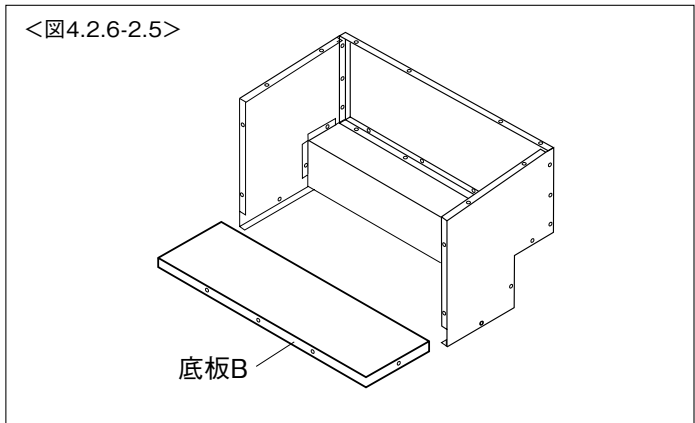
コーナーパーツ

底板

その他

- 5** 底板Bを正面から差し込み、側板にM6六角ボルトにて取り付けてください。

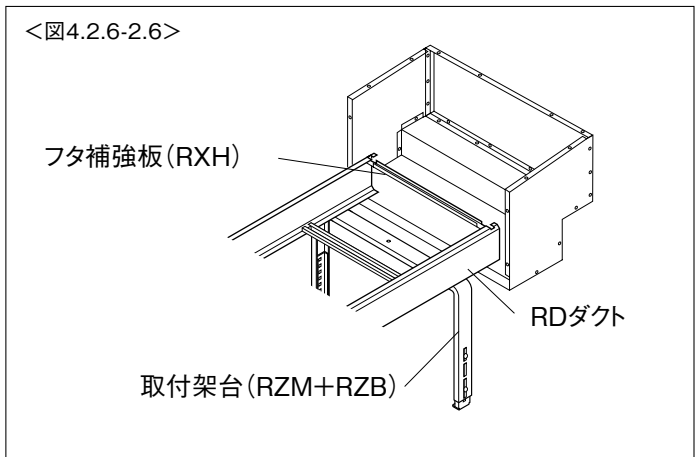
<図4.2.6-2.5>



- 6** RDダクトを仮置きした後、配管作業を行ってください。  
(直線ダクトをチャンバーボックスに対して10mm以上差し込んでください。)  
配管作業後に別売のフタ補強板(RXH)を、RDダクト端部より約50mmの位置に取り付けてください。

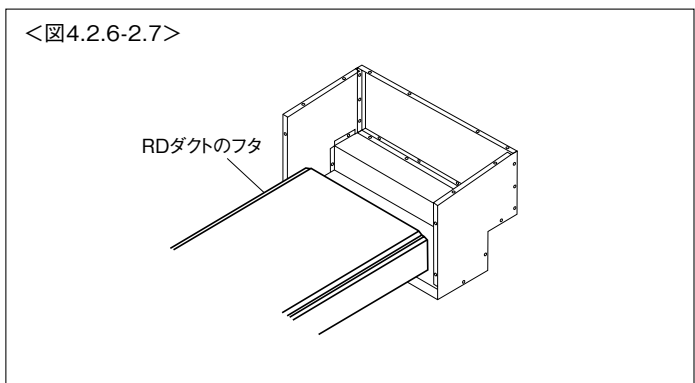
**注意** 直線ダクトの端部から250mmの箇所に架台(RZM+RZB)を取り付けてください。

<図4.2.6-2.6>



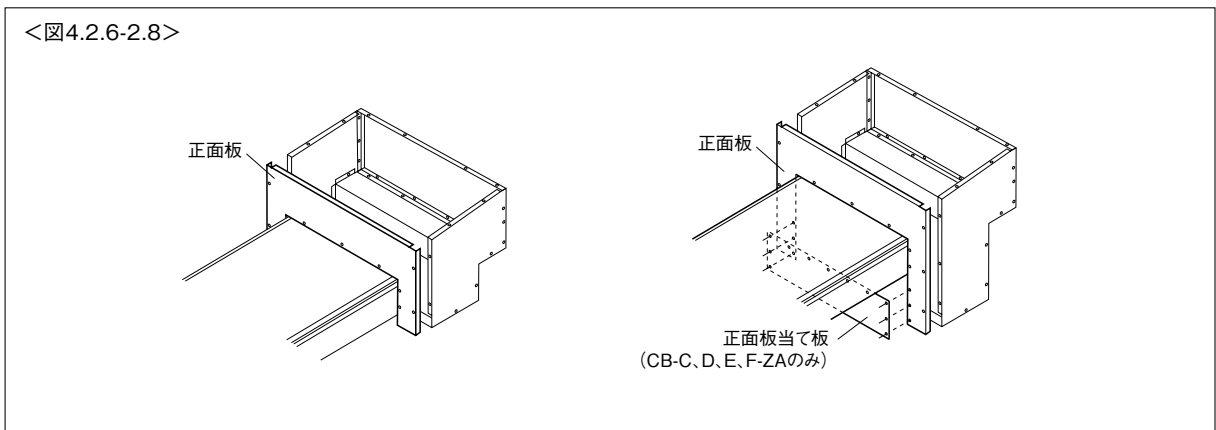
- 7** RDダクトのフタをM6六角ボルトにて取り付けてください。

<図4.2.6-2.7>



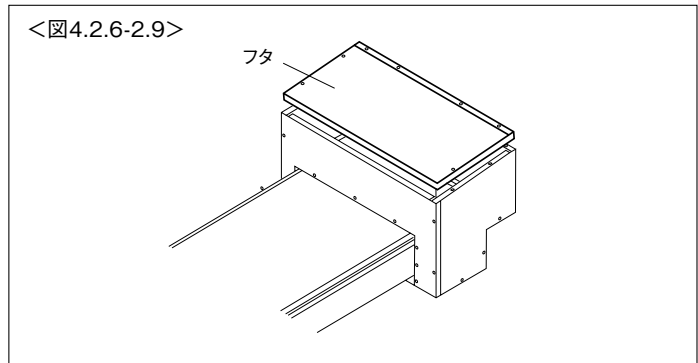
- 8** 正面板および正面板当て板をM6六角ボルトにて取り付けてください。

<図4.2.6-2.8>



9 フタをM6六角ボルトにて取り付けてください。

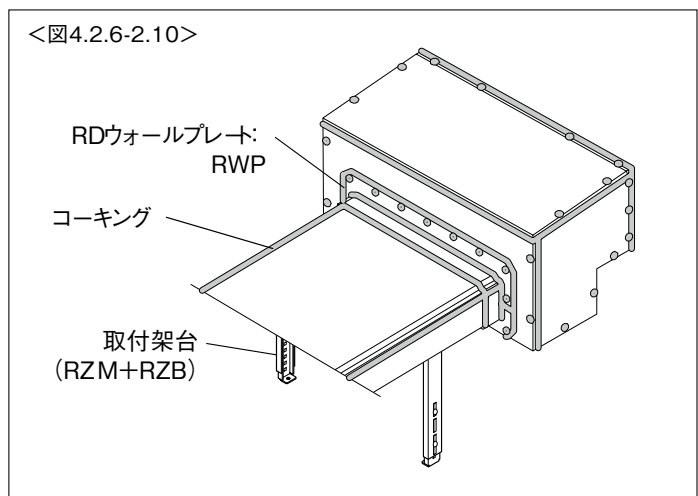
<図4.2.6-2.9>



10 RD接続部に別売のRWPを皿ビスM6にて取り付けてください。

**注意** 接続部は隙間が発生しますので、コーキング処理や、パテ埋めなどにより防水処理を行ってください。

<図4.2.6-2.10>



### 4.2.6-3 CB 組付例〈下面取出し〉 RCI 立面コーナー90°(立上り)を使用する場合

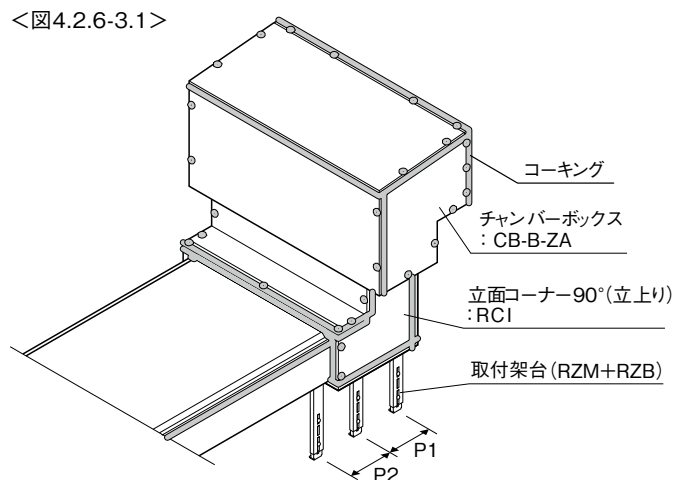
立面コーナー90°(立上り):RCIを使用した施工も可能です。

【4.2.6-2】の1～4を参考にチャンバーボックスCB-B-ZAを組み付け、その下にRCIを納め、配管後、【4.2.6-2】の6～10を参考にフタを閉め、コーキング処理などを行います。

**注意**

- RD取付架台を必ず2本取り付けてください。
- 接続されたRDダクトの端部についても、必ず取付架台を取り付けてください。
- チャンバーボックスは受注生産です。
- RCI-900・900HをCBにセットする際は、底板Bを取り外してください。
- それ以下のサイズをCBにセットする際は、サイズに合わせて切り欠き加工してください。
- RCIはCBに挿入するだけでCBとは接続しません。
- 接続部は隙間が発生しますので、コーキング処理や、パテ埋めなどにより防水処理を行ってください。

<図4.2.6-3.1>



<表4.2.6-3.1> 単位:mm

サイズ	P1	P2
900	190	(205)
900H	250	(240)

※( )内の寸法は参考値です。

## 4.3 架台

目次	4.3.1 架台用パーツ一覧	78
	4.3.2 RZ(RZM+RZB) RD取付架台(300~900用)	79
	4.3.3 RZ-150、RZW RD取付架台(150用)	81
	4.3.4 RZC 立面用架台固定板	83
	4.3.5 RZY 架台2段ガイド	84
	4.3.6 RDY 配管保持台	85
	4.3.7 RZH RD架台補強板	85
	4.3.8 FL-B-Z クロスロックBタイプ(屋外仕様)	86
	4.3.9 RBK-B 子桁用補助金具	86
	4.3.10 RBK-A 親桁用補助金具	87
	4.3.11 RKT 形鋼用止め金具	88
	4.3.12 RCT RDチャンネル止め金具	88
	4.3.13 CR リサイクロック - 多目的支持台	89
	4.3.14 PB 樹脂製基礎型枠	90

### 4.3.1 架台用パーツ一覧

<p><b>300~900用架台</b> RZ(RZM+RZB) RD取付架台</p> 	<p><b>150用架台</b> RZ-150 (RD-150取付架台)</p> <p>RZW (RD-150壁面用取付架台)</p>  	<p><b>RZC 立面用架台固定板</b></p> 	
<p><b>RZY 架台2段用ガイド</b></p> 	<p><b>RDY 配管保持台</b></p> 	<p><b>RZH RD架台補強板</b></p> 	<p><b>FL-B-Z クロスロックBタイプ (屋外仕様)</b></p> 
<p><b>壁面取付金具(子桁用)</b></p> 	<p><b>壁面取付金具(親桁用)</b></p> 	<p><b>形鋼取付用 RKT RD形鋼止め金具</b></p> 	<p><b>チャンネル取付用 RCT RDチャンネル止め金具</b></p> 
<p><b>多目的支持台 CR リサイクロック</b></p> 	<p><b>樹脂製基礎型枠 PB プラベース</b></p> <p>PB-100</p> 		<p>PB-120</p> 

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

# 4.3 架台

• 4.3.2 RZ (RZM+RZB) RD取付架台(300~900用)〔施工編〕

施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

## 4.3.2 RZ (RZM+RZB) RD取付架台(300~900用)

RD用の取付架台(300~900用)です。  
門(RZM)と足(RZB)と組み合わせることで様々な高さの架台として使用できます。

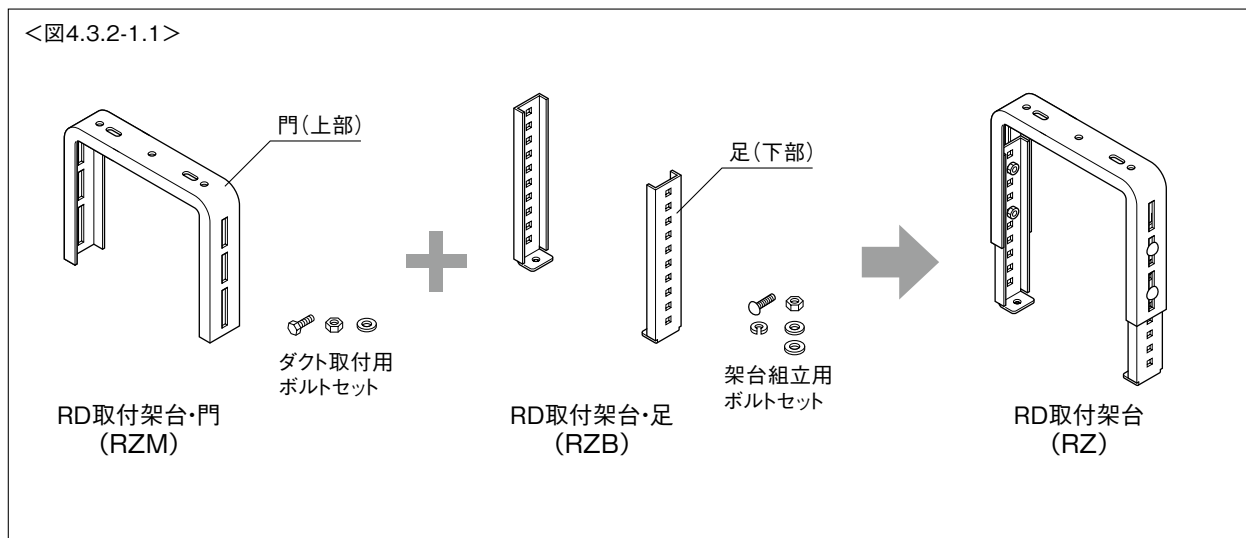
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.3.2-1 製品構成

300~900タイプは門と足を組み合わせて使用します。 **参照** 【3.4.4】 150タイプ以外の架台選定表



<表4.3.2-1.1> セット内容

型式	門	ベース	架台組立用ボルトセット	ダクト取付用ボルトセット
RZB	0	2	4	0
RZM	1	0	0	2

<表4.3.2-1.2> ボルトセット仕様

項目	仕様	材質	数量
架台組立用ボルトセット	角根丸頭ボルト M8×L19	SUS	1
	六角ナット M8	SUS	1
	平ワッシャー M8	SUS	2
	スプリングワッシャー M8	SUS	1
ダクト取付用ボルトセット	六角ボルト W3/8×L25	SUS	1
	六角ナット W3/8	SUS	1
	平ワッシャー W3/8	SUS	1

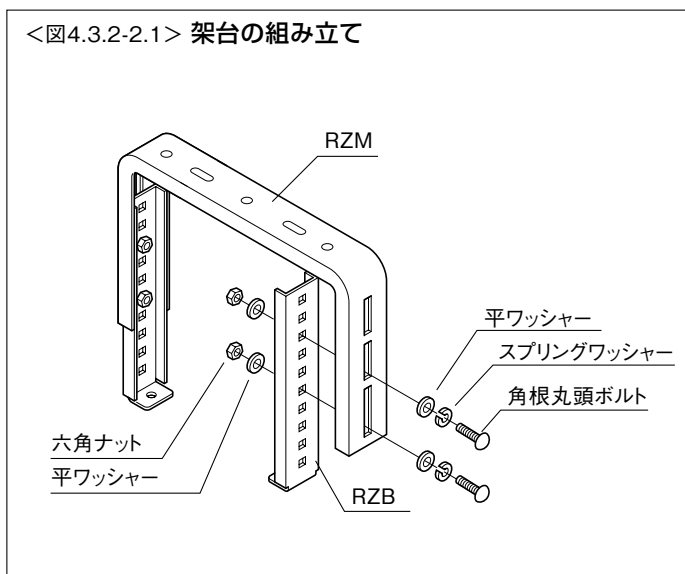
### 4.3.2-2 RZ 組付例 (300~900)

**1** RZB (RD取付架台・足)をRZM (RD取付架台・門)に取り付けます。

※ボルト締め付けトルク：19.6N・m  
※リサイクルロックCRなどを使用する場合は、この後に取り付けます。

**参照** 【3.4.17】 固定(床施工)・リサイクルロックCR

<図4.3.2-2.1> 架台の組み立て



施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

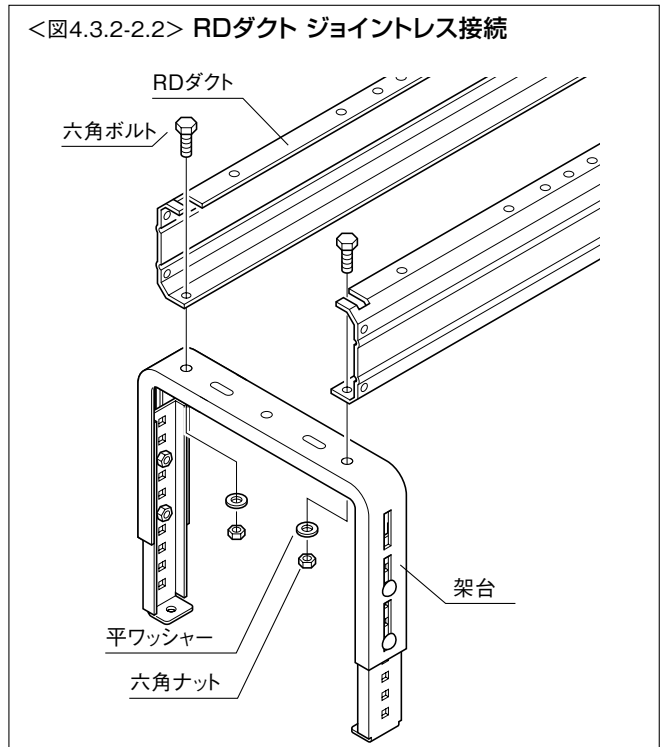
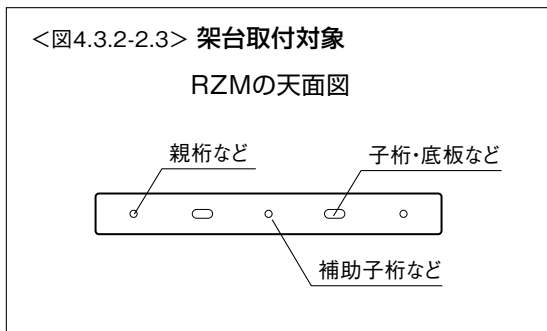
接続

コーナーパーツ

底板

その他

**2** 架台にダクトなどを取り付けます。



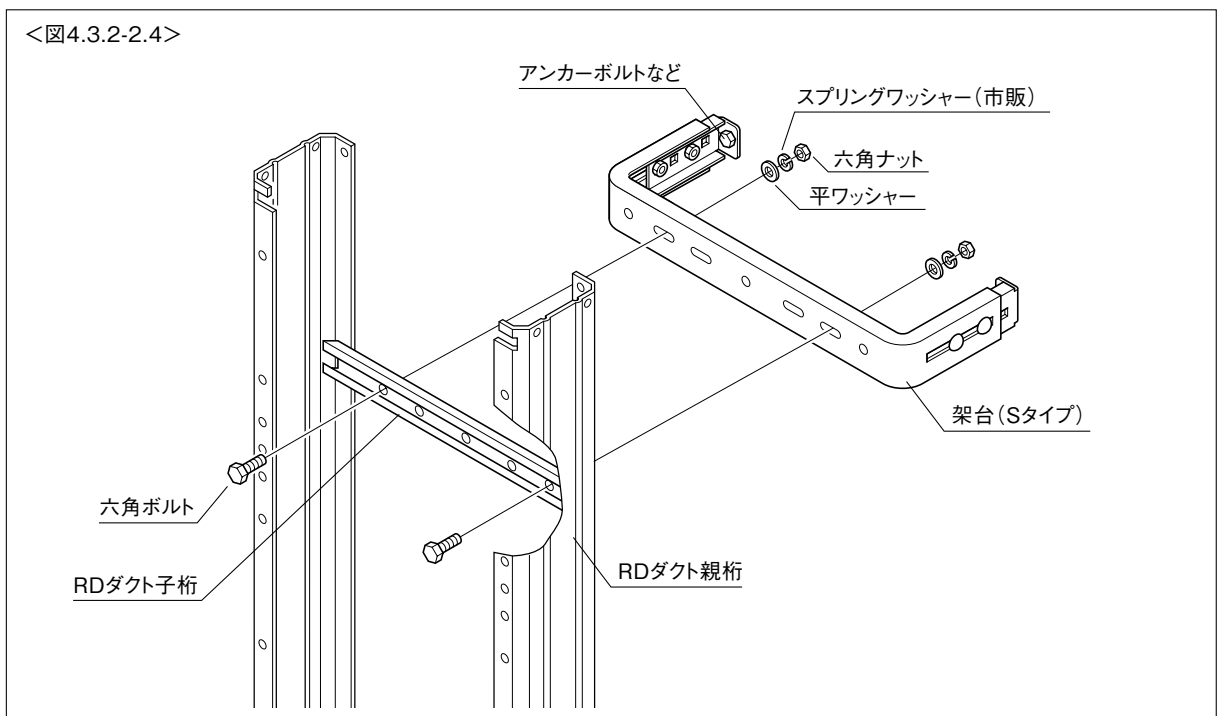
**3** RZを壁面に取り付ける場合 (RZM-S+RZB-Sの組み合わせのみ)

1. アンカーなどでRZを壁面に取り付けます。

※アンカーボルトなどの種類や規格は現場監督官の指示に従ってください。

2. RZにダクトなどに取り付けます。

- 取り付け穴が複数ある場合は、外側の2箇所を使用してください。
- ダクトおよびパーツを取り付ける場合は、市販のスプリングワッシャー(W3/8 SUS)を付属のボルトセットに加えて固定してください。



# 4.3 架台

● 4.3.3 RZ-150、RZW RD取付架台(150用)〔施工編〕

施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

## 4.3.3 RZ-150、RZW RD取付架台(150用)

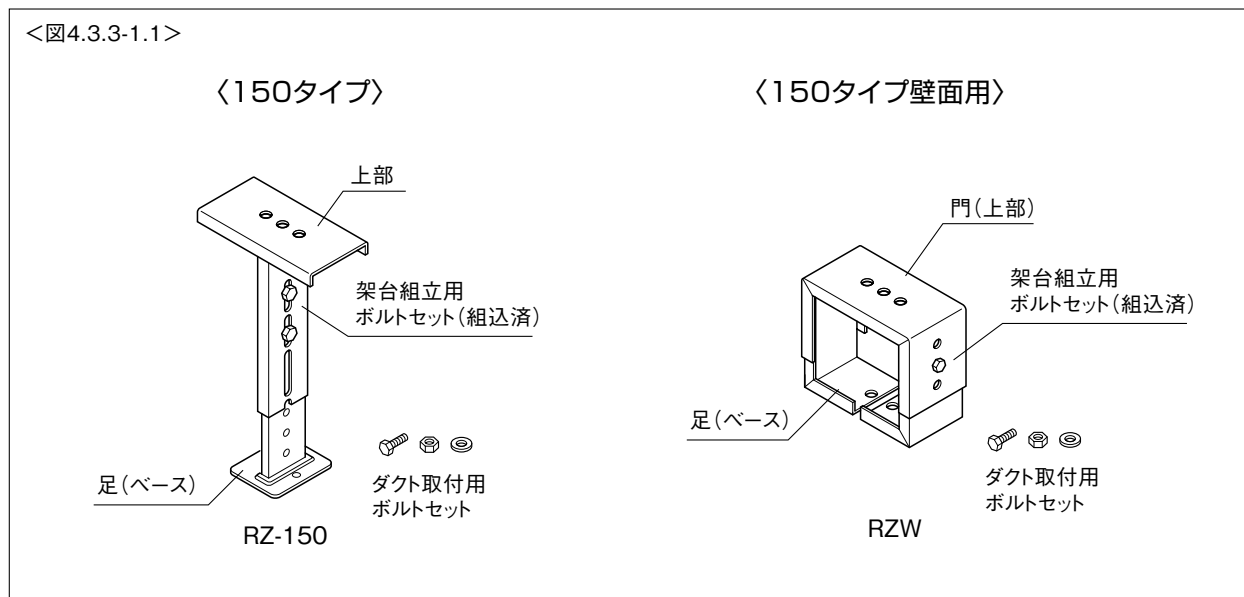
RD用の取付架台(150用)です。  
床施工用のRZ-150と壁面施工用のRZW-150があります。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.3.3-1 製品構成



<表4.3.3-1.1> セット内容

型式	門	ベース	架台組立用ボルトセット	ダクト取付用ボルトセット
RZ-150	1	1	2	1
RZW-150	1	2	2	2

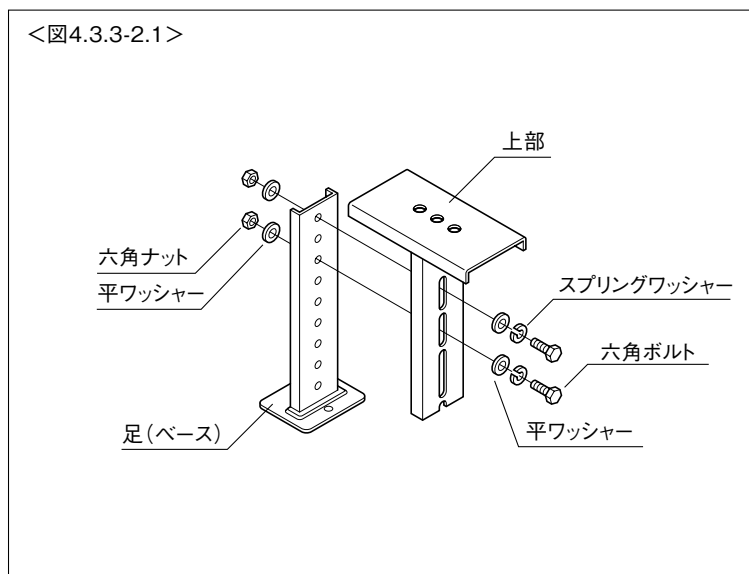
<表4.3.3-1.2> ボルトセット仕様

項目	仕様	材質	数量
架台組立用ボルトセット	六角ボルト W3/8×L25	SUS	1
	六角ナット W3/8	SUS	1
	平ワッシャー W3/8	SUS	2
	スプリングワッシャー W3/8	SUS	1
ダクト取付用ボルトセット	六角ボルト W3/8×L25	SUS	1
	六角ナット W3/8	SUS	1
	平ワッシャー W3/8	SUS	1

### 4.3.3-2 RZ-150 組付例

1 足(ベース)を上部に取り付けます。

※ボルト締めトルク：19.6N・m



# 4.3 架台

## ● 4.3.3 RZ-150、RZW RD取付架台(150用)〔施工編〕

施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

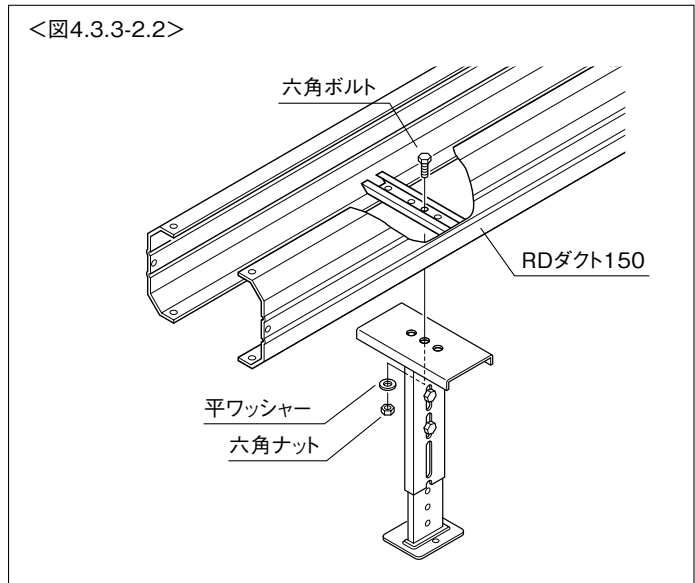
コーナーパーツ

底板

その他

**2** 架台にダクトなどを取り付けます。

<図4.3.3-2.2>

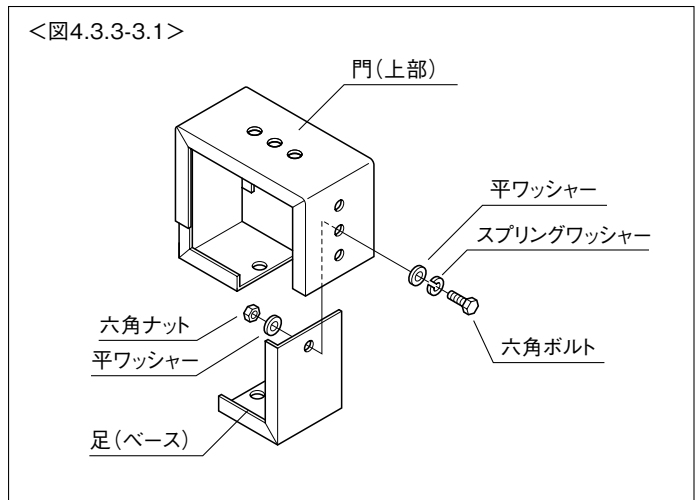


### 4.3.3-3 RZW 組付例

**1** 足(ベース)を門(上部)に取り付けます。

※ボルト締めトルク：19.6N・m

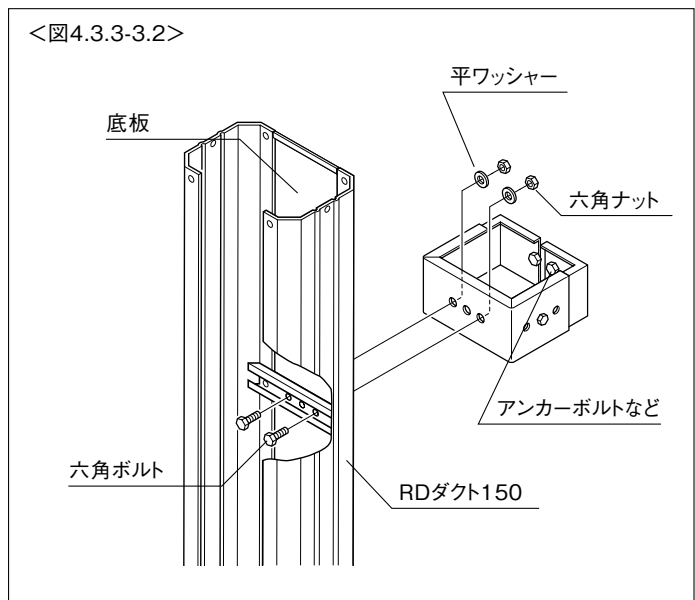
<図4.3.3-3.1>



**2** RZWをアンカーボルトなどで壁面に取り付けます。

※アンカーボルトなどの種類や規格は現場監督官の指示に従ってください。

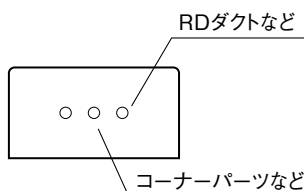
<図4.3.3-3.2>



**3** RZWにダクトなどを取り付けます。

<図4.3.3-3.3> 架台取付対象

RZWの天面図



## 4.3.4 RZC 立面用架台固定板

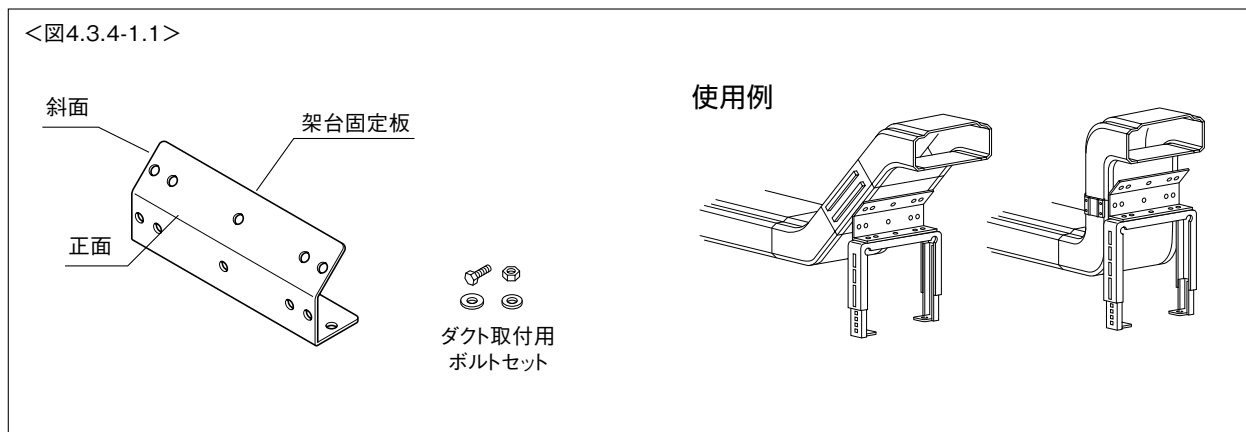
垂直面や斜面(斜め45°)のダクトやコーナーパーツなどに架台を取り付けるための固定板です。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.3.4-1 製品構成



<表4.3.4-1.1> セット内容

型式	数量
RZC本体	1
ダクト取付用ボルトセット	2

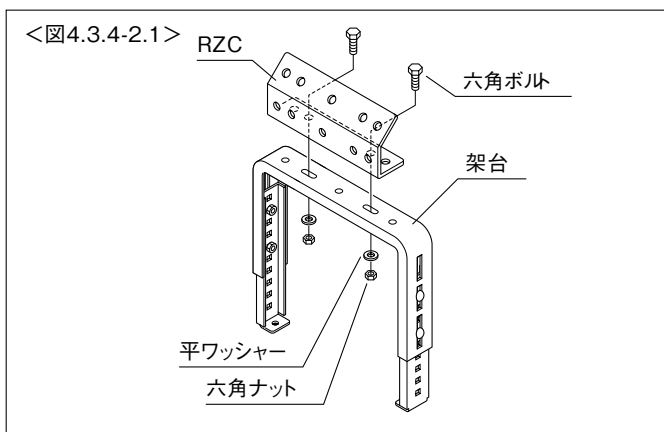
<表4.3.4-1.2> ボルトセット仕様

項目	仕様	材質	数量
ダクト取付用ボルトセット	六角ボルト W3/8×L25	SUS	1
	六角ナット W3/8	SUS	1
	平ワッシャー W3/8	SUS	1

### 4.3.4-2 RZC 組付例

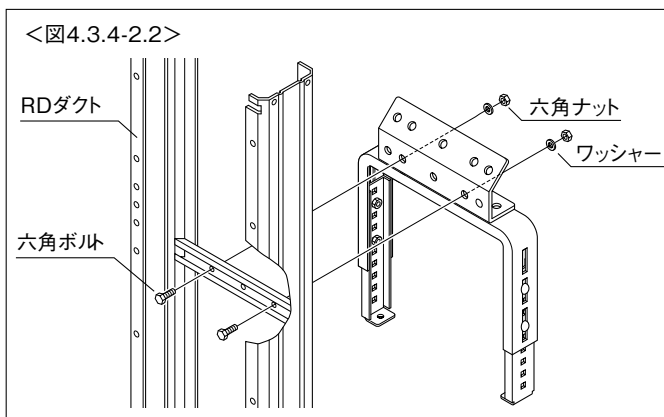
**1** 架台にRZCを取り付けます。

※取り付けボルトは架台に付属。

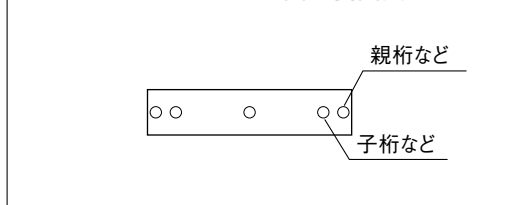


**2** 対象物をRZCに取り付けます。

※取り付け穴は取り付け対象に応じて調整してください。



<図4.3.4-2.3> RZC 正面/斜面図



## 4.3.5 RZY 架台2段ガイド

RDダクトを2段で施工する場合に使用します。

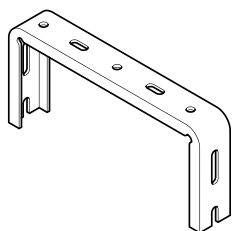
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.3.5-1 製品構成

<図4.3.5-1.1>



<表4.3.5-1.1> セット内容

型式	数量
RZY本体(門)	1
架台組立用ボルトセット	2
ダクト取付用ボルトセット	2

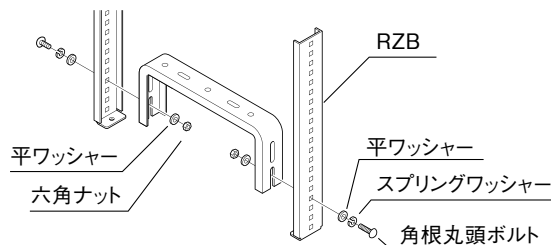
<表4.3.5-1.2> ボルトセット仕様

項目	仕様	材質	数量
架台組立用ボルトセット	角根丸頭ボルト M8×L19	SUS	1
	六角ナット M8	SUS	1
	平ワッシャー M8	SUS	2
	スプリングワッシャー M8	SUS	1
ダクト取付用ボルトセット	六角ボルト W3/8×L25	SUS	1
	六角ナット W3/8	SUS	1
	平ワッシャー W3/8	SUS	1

### 4.3.5-2 RZY 組付例

**1** RZB RD取付架台・足にRZYを取り付けます。

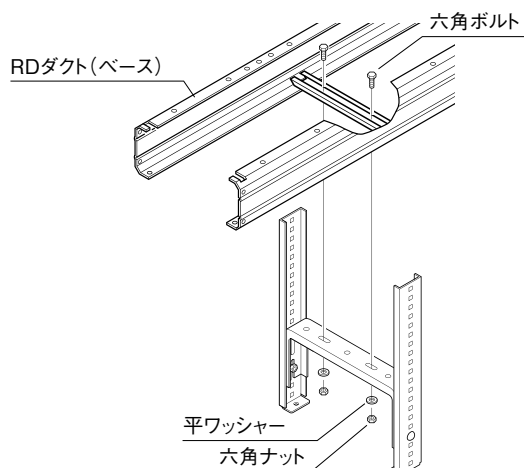
<図4.3.5-2.1>



**2** RDダクトのベースを取り付けます。

※接続部には使用できません。

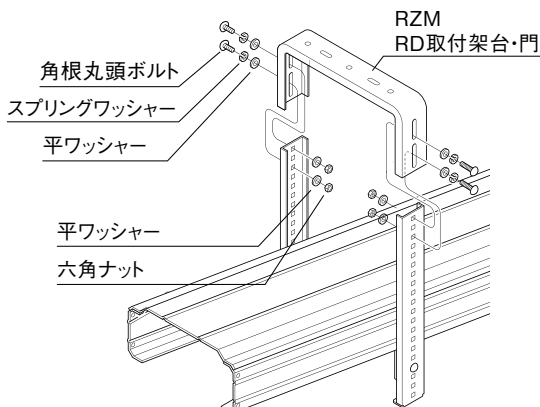
<図4.3.5-2.2>



**3** 下段を配管後、フタを閉め、RZM RD取付架台・門を取り付けます。後はRZと同様に施工してください。

参照 [4.3.2] RZ(RZM+RZB) RD取付架台(300~900用)

<図4.3.5-2.3>



施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

# 4.3 架台

- 4.3.6 RDY 配管保持台 (施工編)
- 4.3.7 RZH RD架台補強板

施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

## 4.3.6 RDY 配管保持台

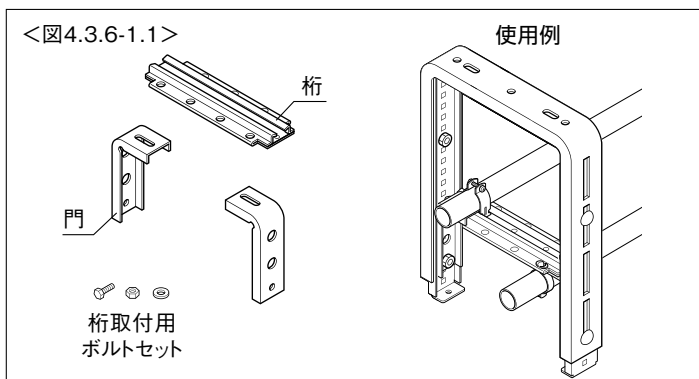
RD取付架台に電線管などを取り付けるためのパーツです。  
電線管用保持金具の取り付けに適した幅20mmのレールとφ14の穴を  
設けてあります。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.3.6-1 製品構成



<表4.3.6-1.1> セット内容

型式	数量
門(配管保持台)	2
桁	1
桁取付用ボルトセット	2

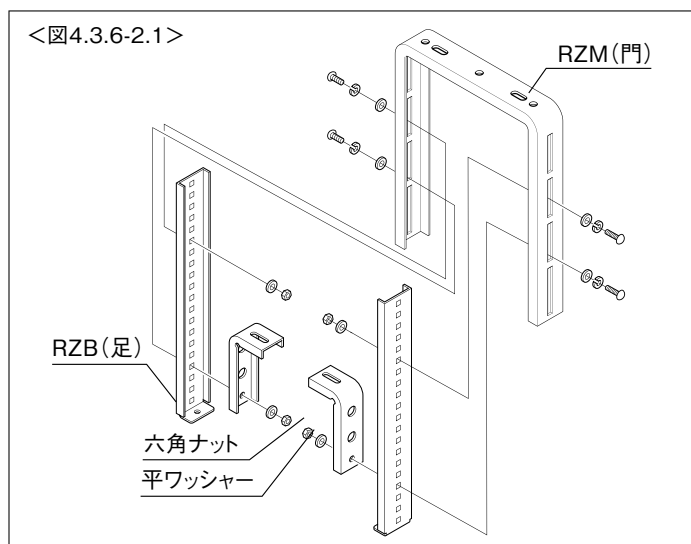
<表4.3.6-1.2> ボルトセット仕様

項目	仕様	材質	数量
桁取付用 ボルトセット	六角ボルト M8×12L	SUS	1
	六角ナット M8	SUS	1
	平ワッシャー M8	SUS	1

### 4.3.6-2 RDY 組付例

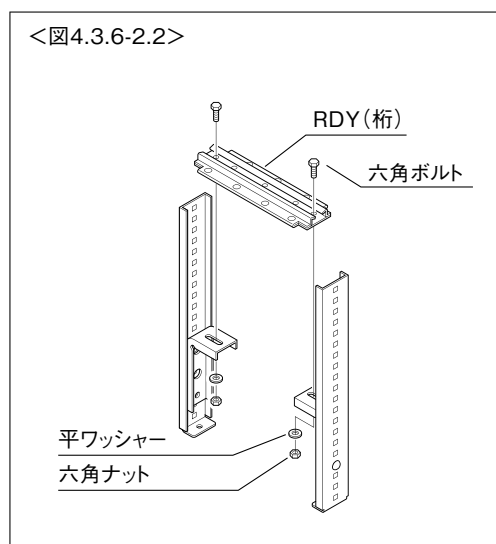
#### 1 門をRD取付架台・足(RZB)に取り付けます。

※取付ボルトは付属していません。  
RZMと同時に取り付けてください。  
別に取り付ける場合は、市販のボルトをご使用ください。



#### 2 門に桁を取り付けます。

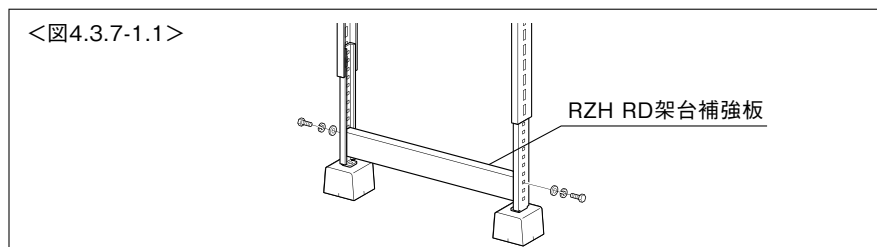
※市販の支持金具の取り付けについては、支持金具  
メーカーの取扱説明書をご確認ください。



## 4.3.7 RZH RD架台補強板

RD取付架台にRZH RD架台補強板を取り付けます。

### 4.3.7-1 RDH 組付例



仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



# 4.3 架台

- 4.3.8 FL-B-Z クロスロックBタイプ(屋外仕様) [施工編]
- 4.3.9 RBK-B 子桁用補助金具

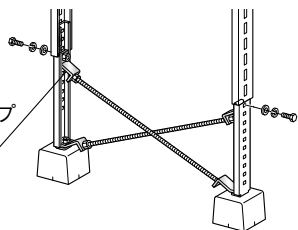
## 4.3.8 FL-B-Z クロスロックBタイプ(屋外仕様)

RD取付架台にクロスロックBタイプ(屋外仕様)を取り付けます。

### 4.3.8-1 製品構成と組付例

<図4.3.8-1.1>

FL-B-Z  
クロスロックBタイプ  
(屋外仕様)



仕様図  
ダウンロード用  
QRコード

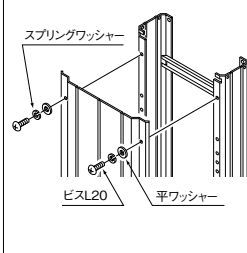


### 警告 スリムダクトRDは、壁面に取り付けることも可能ですが、一部制限事項があります。

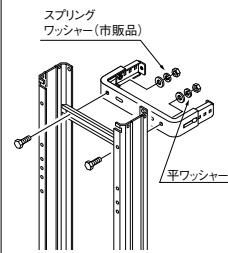
壁面施工の場合は、ボルトのゆるみ防止のための処理が必要です。

- フタの取り付けには「壁面用フタビスセット RD-HB」を使用してください。
  - ※セット明細  
M6ビス×20L SUS・M6スプリングワッシャー SUS・M6平ワッシャー SUS
  - ※製品付属のフタビスは使用できません。
- 壁面浮かし施工する場合は、以下の処理が必要です。
  - ・ダクト内部から風圧がかかりダクトが破損するケースがありますので、必ず底板を取り付けてください。
  - ・ダクトと架台の接続に市販の「ステンレス製W3/8スプリングワッシャー」を使用してください。(RZW-150を除く)
  - ※製品付属のボルトセットに加えて固定してください。

<図4.3.8-1.2>



<図4.3.8-1.3>



## 4.3.9 RBK-B 子桁用補助金具

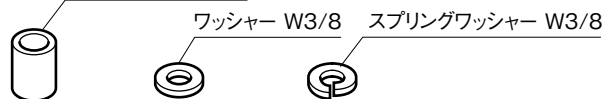
壁面直付施工を行う場合に使用する補助金具です。  
開閉式ダクト(RD-450H、600H、900Hの2mおよび1m)には、  
親桁用補助金具 RBK-Aをご使用ください。  
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.3.9-1 製品構成

<図4.3.9-1.1> RBK-B(内径φ11)



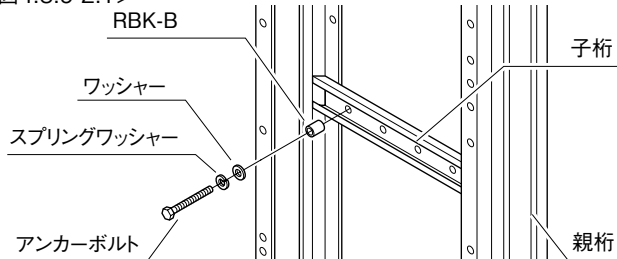
<表4.3.9-1.1> セット内容

項目	材質	数量
RBK-B(内径φ11×L22)	SUS	1
ワッシャー		
スプリングワッシャー		

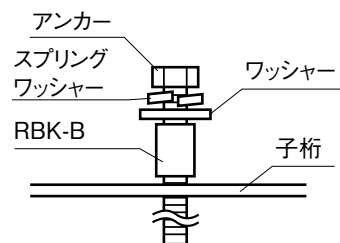
### 4.3.9-2 RBK-B 子桁用補助金具 組付例

架台取り付け位置と同じ箇所に市販のアンカーボルト(W3/8 または M10)を図のように金具に挿入して取り付けます。  
取り付け位置は各パーツのページをご参照ください。  
※アンカーボルトの仕様は、壁の構造や荷重によって異なります。現場監督官の指導に従って選定してください。

<図4.3.9-2.1>



<図4.3.9-2.2>



施工編  
PSおよび壁貫通  
架台  
ダクト(直管)  
施工手順  
接続  
コーナーパーツ  
底板  
その他

## 4.3.10 RBK-A 親桁用補助金具

開閉式ダクト(RD-450H、600H、900Hの2mおよび1m)を壁面に  
取り付けるときに使用する補助金具です。

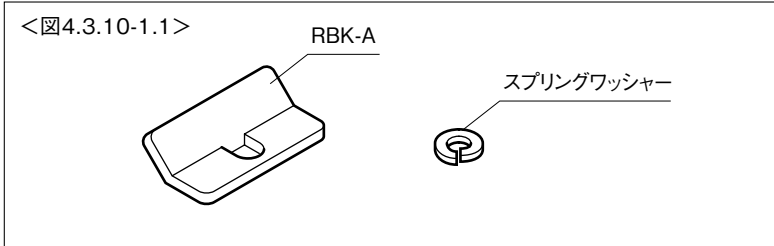
※通常タイプの2mおよび1mのダクト(150タイプを除く)にも使用できます。  
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

RBK-A



仕様図  
ダウンロード用  
QRコード

### 4.3.10-1 製品構成



<表4.3.10-1.1> セット内容

項目	材質	数量
RBK-A	ZAM	1
スプリングワッシャー	SUS	

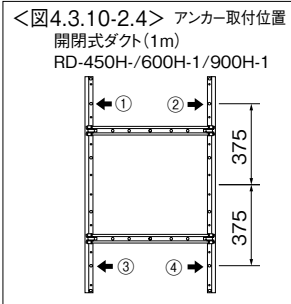
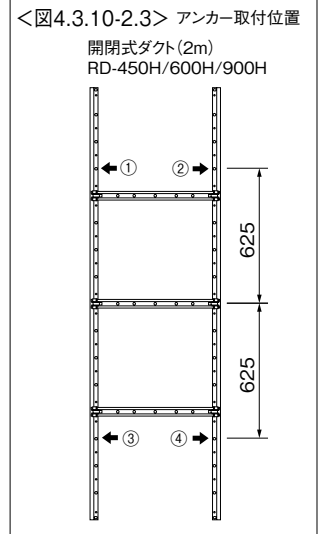
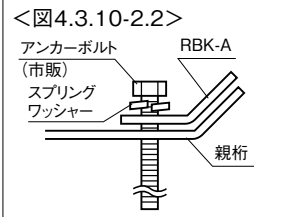
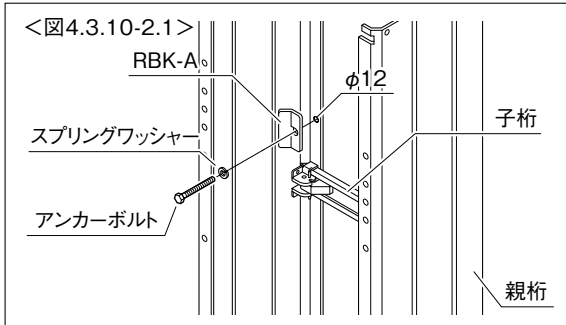
### 4.3.10-2 RBK-A 親桁用補助金具 組付例

#### 壁面直付

市販のアンカーボルト(W3/8 または M10)を図  
のように金具に挿入して親桁のφ12の穴に取り付  
けます。

取り付け位置は図をご参照ください。

※アンカーボルトの仕様は、壁の構造や荷重によって異なります。  
現場監督官の指導に従って選定してください。

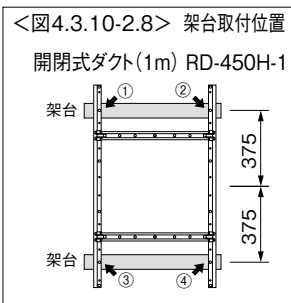
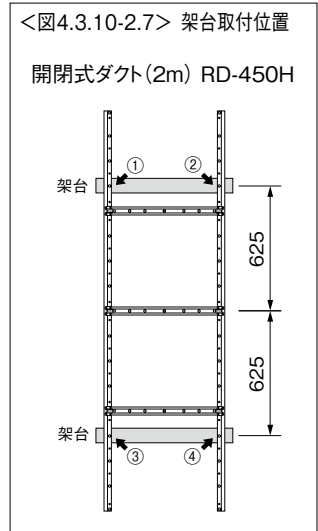
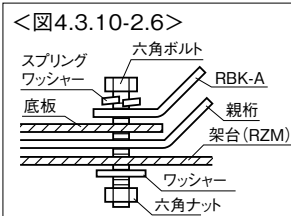
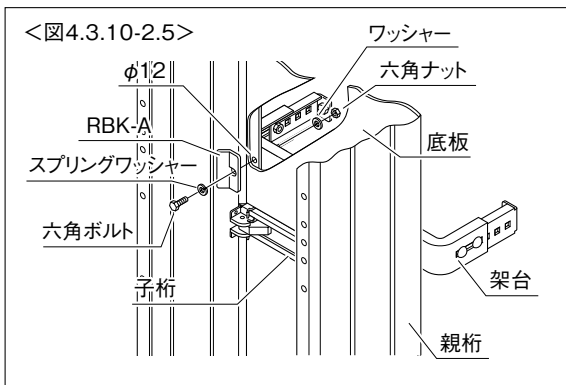


#### 壁面浮し

六角ボルト(架台に付属)を図のように金具に挿  
入して親桁のφ12の穴に架台を取り付けます。

取り付け位置は図をご参照ください。

※底板にRBK-A取付のための穴開け加工が必要です。



# 4.3 架台

● 4.3.11 RKT 形鋼用止め金具

〔施工編〕

● 4.3.12 RCT RDチャンネル止め金具

施工編

## 4.3.11 RKT 形鋼用止め金具

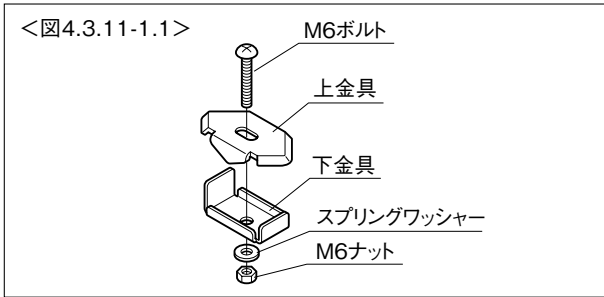
RDダクトを形鋼に固定する場合は、RD形鋼止め金具RKTを用いてRD親桁を形鋼に固定します。 ※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

対象形鋼 H形鋼 … 適応フランジ厚 7 ~ 13 mm  
溝形鋼 … 75×40、100×50、125×65、150×75

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.3.11-1 製品構成

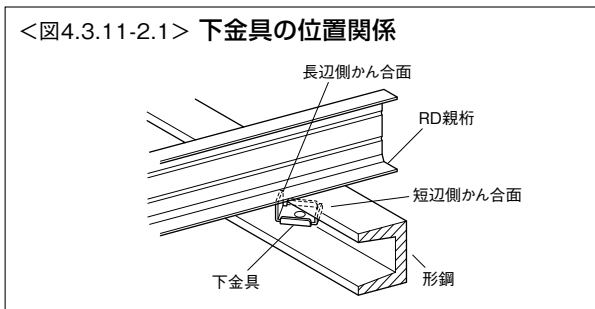


<表4.3.11-1.1> セット内容

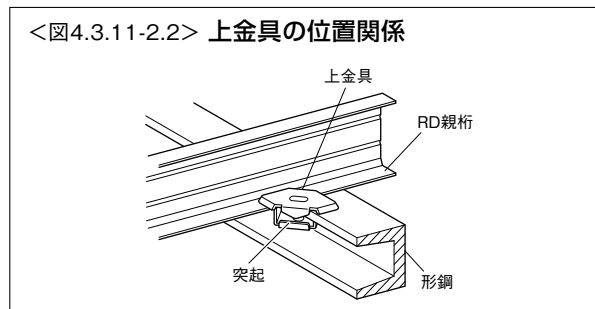
項目	材質(表面処理)	数量
上金具	ダクロライズド処理	1
下金具		
角根丸頭ボルト M6 × 35L		
M6 スプリングワッシャー		
M6 ナット		

### 4.3.11-2 RKT 組付例

1 下金具の長辺側かん合面がRD親桁に、短辺側かん合面が形鋼に接触するように設置します。



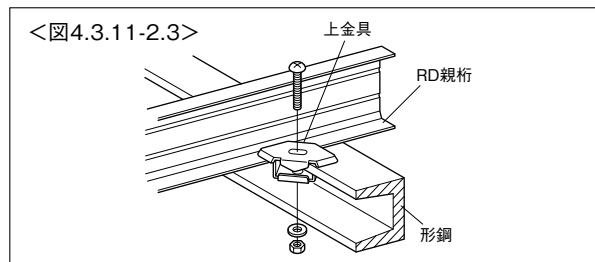
2 上金具の突起が、RD親桁および形鋼に乗り上げないように設置します。



3 下金具の下側からナットを締めつけます。

※締め付トルク5.9N・m(60kg-cm)

- 注意**
- ・ 壁面などの縦引き部には使用できません。
  - ・ 歩路用のRDダクトの固定には使用できません。
  - ・ 振動や揺れがともなう場所では使用しないでください。
  - ・ 対象形鋼以外では十分な固定ができません。
  - ・ 既定のトルク値でしっかり締めつけてください。

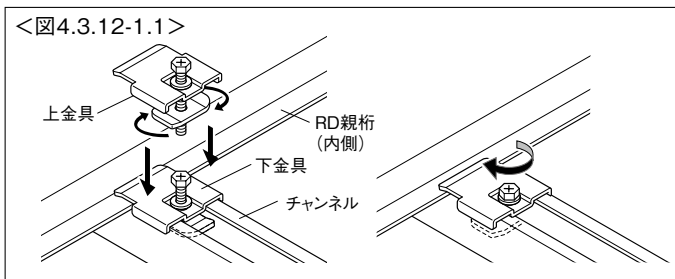


## 4.3.12 RCT RDチャンネル止め金具

RDダクトをチャンネルに固定する場合は、RDチャンネル止め金具 RCTを用いてRD親桁をチャンネルに固定します。

### 4.3.12-1 RCT 製品構成と組付例

1 チャンネルに金具を設置して、ビスを締めます。



仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



- 注意**
- ・ RDダクトとチャンネルが交差時のみ使用可能です。
  - ・ 壁面などの縦引き部には使用できません。
  - ・ 歩路用のRDダクトの固定には使用できません。
  - ・ 振動や揺れがともなう場所では使用しないでください。
  - ・ RDダクトの両サイドに使用してください。

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

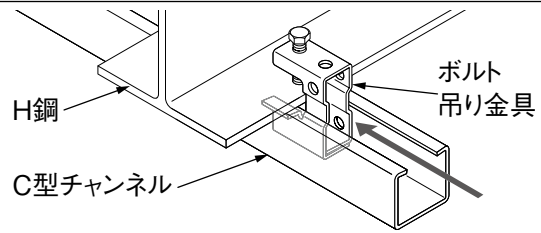
底板

その他

## SHBN-S-Z ボルト吊り金具

屋外用(HDZ-35相当)

鋼材へのチャンネルの支持には、SHBN-S-Z ボルト吊り金具(屋外用)を利用しての固定も可能です。



### 4.3.13 CR リサイクロック – 多目的支持台

リサイクル材を使用した地球環境にやさしい多目的支持台です。RDの架台としても使える3分レールタイプのCR-WとアンカーベースタイプのCR-Aの他、電線管の支持に使えるDタイプCR-D、ハンガーレールタイプCR-Hがあります。

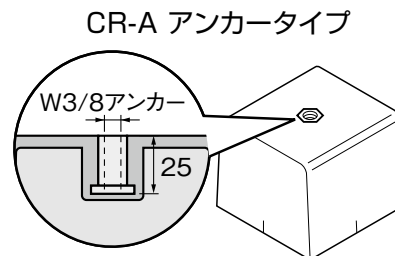
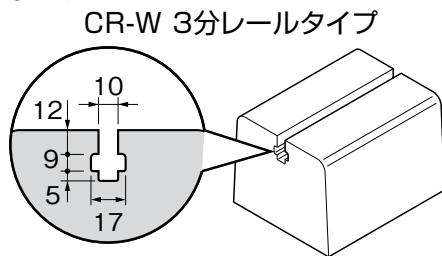
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



#### 4.3.13-1 製品構成

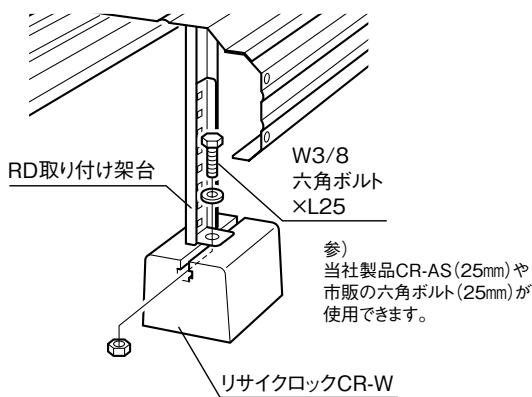
<図4.3.13-1.1>



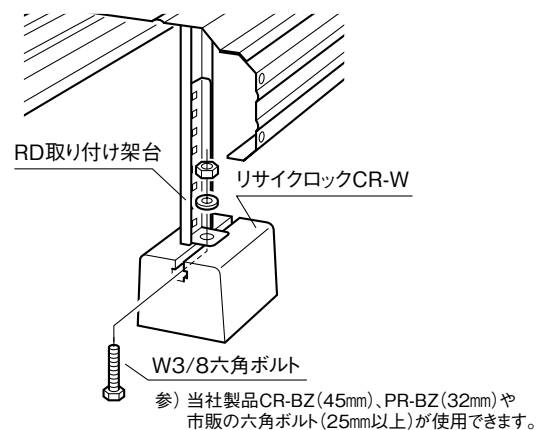
#### 4.3.13-2 CR 組付例

1 CR-W… ナットまたはボルトをレール部に入れ、架台などを取り付けます。

<図4.3.13-2.1>



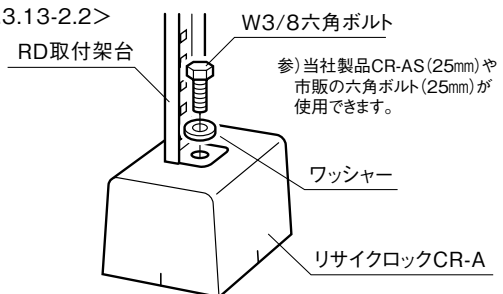
注) ボルトの長さによってボルトの挿入方向(場所)は変わります。



2 CR-A… 架台を取り付け、ボルトで固定します。

※ボルトは長さ25mm(SUS)をご使用ください。

<図4.3.13-2.2>



## 4.3.14 PB 樹脂製基礎型枠

軽量で耐候性に優れた樹脂製基礎型枠です。枠組みを作る必要がなく、硬化後も取り外し不要で大幅に作業時間を短縮できます。

PB-100はRD取付架台のベースとして、PB-120はキャットウォークのベースとして最適です。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード

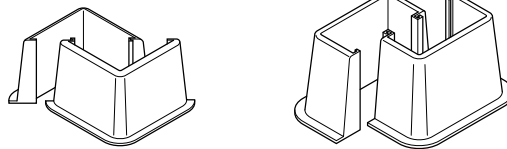


### 4.3.14-1 製品構成

<図4.3.14-1.1>

PB-100

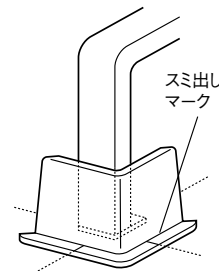
PB-120



### 4.3.14-2 PB 組付例

- 1 プラベースを架台に合わせて設置します。プラベースにはスミ出しマークが入っていますので、マークをスミ出し線と合わせますと、きれいに施工できます。

<図4.3.14-2.1> プラベースの設置

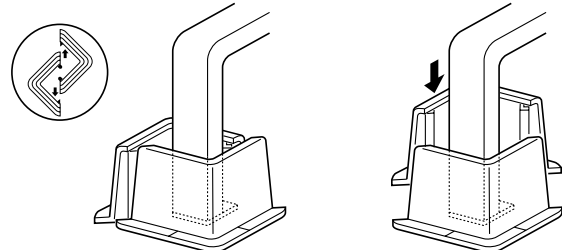


- 2 プラベースを組み合わせます。上下にスライド嵌合させる方法と、左右から組み付ける方法があります。

<図4.3.14-2.2>

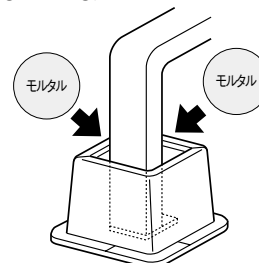
左右組み付け  
(PB-100のみ)

上下スライド嵌合  
(PB-100/120)



- 3 モルタルを入れて完成です。モルタルを流し込んだ際には十分突き作業を行ってください。モルタルの水分量が大過ぎると、収縮量が大きくなり、仕上面がフラットにならないことがあります。配合比は<図4.3.14-2.3>を参考にしてください。

<図4.3.14-2.3>



PB-100 : 約3.5kg  
PB-120 : 約7.0kg

セメント・砂・水の比率 (質量比)  
100 : 300 : 55

施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

## 4.4 RDダクト(直管)

### 概要

RDダクトには、標準タイプとメンテナンス時などに通路として使える歩路タイプがあります。また、接続方法としてジョイント用パーツを使用するジョイント施工とジョイント用パーツを使用しないジョイントレス施工があります。必ず、設計編の「3.3 接続方法」の項をご確認の上で施工してください。

### 目次

4.4.1 RD ダクト	91
4.4.2 RDW ダクト歩路用	92
4.4.3 RD/RDW 組付例	93
4.4.4 RD/RDW ジョイントレス接続<簡易組付方法>	94

### 4.4.1 RD ダクト

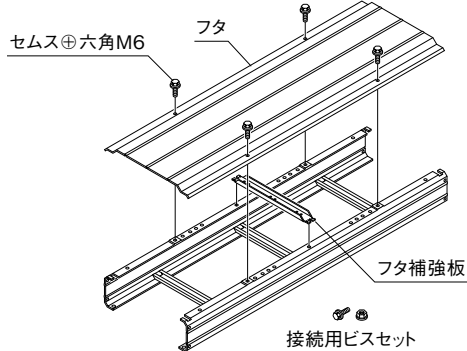
標準タイプの直管(直線ダクト)です。  
標準タイプと歩路タイプでは多少施工内容が異なりますのでご注意ください。  
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



#### 4.4.1-1 製品構成

<図4.4.1-1.1>



※450H・600H・900Hの2mおよび1mは開閉式(折りたたみ式)

<表4.4.1-1.1> セット明細

サイズ	フタ	ベース	接続用 ビス セット	ダクト長							
				2m		1m		0.5m		0.3m	
				フタ ビス	フタ 補強板	フタ ビス	フタ 補強板	フタ ビス	フタ 補強板	フタ ビス	フタ 補強板
150	1	1	0	4	0	2	0	2	0	2	0
300/300H	1	1	4	4	0	2	0	2	0	2	0
450/450H	1	1	4	4	0	2	0	2	0	2	0
600/600H	1	1	4	4	2	2	2	2	2	2	1
900/900H	1	1	4	4	3	2	2	2	2	2	2

<表4.4.1-1.2> ビス仕様

項目	仕様	材質
接続用 ビス	セムス⊕六角 M6 × 15L	SUS
ビスセット ナット	フランジナット M6	SUS
フタビス	セムス⊕六角 M6 × 15L	SUS

#### 4.4.1-2 フタ補強板取付位置

<表4.4.1-2.1> フタ補強板取付位置

	2mダクト	1mダクト	0.5mダクト	0.3mダクト
600(H)タイプ				
900(H)タイプ				

# 4.4 RDダクト(直管)

• 4.4.2 RDW ダクト歩路用 (施工編)

## 4.4.2 RDW ダクト歩路用

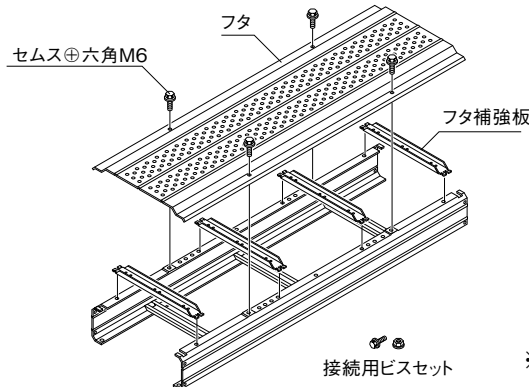
歩路タイプの直管(直線ダクト)です。  
標準タイプと歩路タイプでは多少施工内容が異なりますのでご注意ください。  
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.4.2-1 製品構成

<図4.4.2-1.1>



※450H・600H・900Hの2mおよび1mは開閉式(折りたたみ式)

<表4.4.2-1.1>  
セット明細

サイズ	フタ	ベース	接続用 ビス セット	ダクト長							
				2m		1m		0.5m		0.3m	
				フタビス	フタ補強板	フタビス	フタ補強板	フタビス	フタ補強板	フタビス	フタ補強板
300/300H	1	1	4	4	3	2	2	2	2	2	2
450/450H	1	1	4	4	4	2	3	2	2	2	2
600/600H	1	1	4	4	5	2	4	2	3	2	2
900/900H	1	1	4	4	5	2	4	2	3	2	2

<表4.4.2-1.2>  
ビス仕様

項目	仕様	材質
接続用ビスセット	ビス	セムス⊕六角 M6 × 15L
	ナット	フランジナット M6
フタビス	ビス	セムス⊕六角 M6 × 15L

### 4.4.2-2 フタ補強板取付位置

<表4.4.2-2.1> 補強板取付位置

	2mダクト	1mダクト	0.5mダクト	0.3mダクト
300(H)タイプ				
450(H)タイプ				
600(H)タイプ				
900(H)タイプ				

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

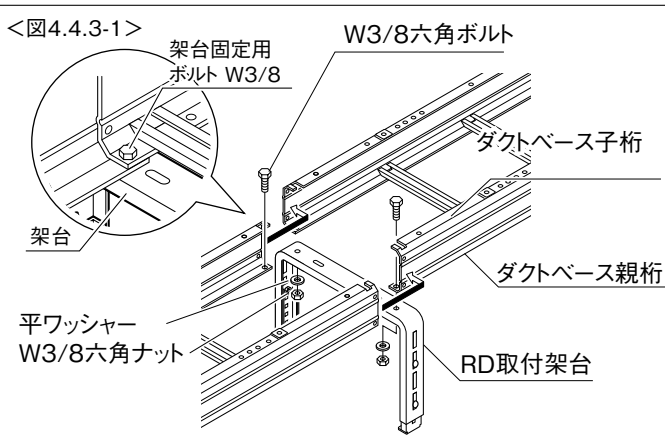
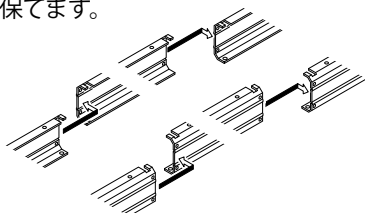
底板

その他

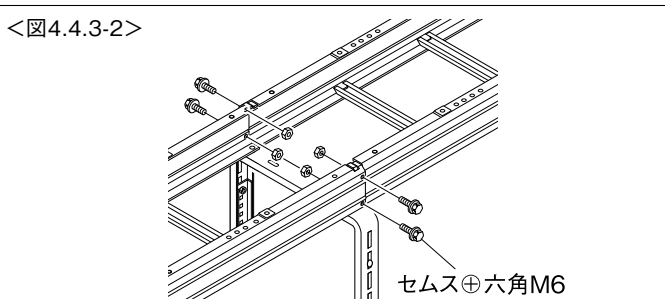
## 4.4.3 RD/RDW 組付例

**1** ダクトベース親桁の端部同士が20mmずつ重なる様にはめ込み、ダクトベース親桁底面部の重なった部分をW3/8六角ボルトで架台に固定します。

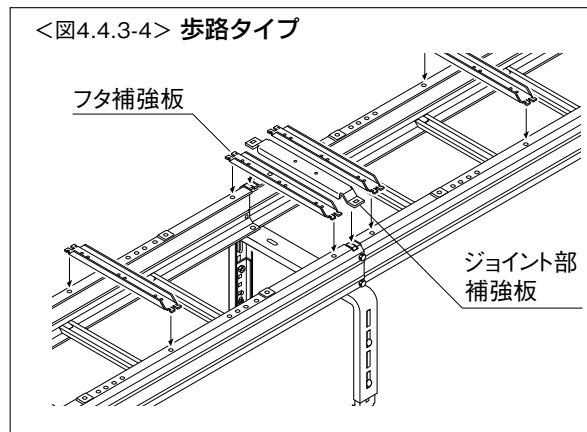
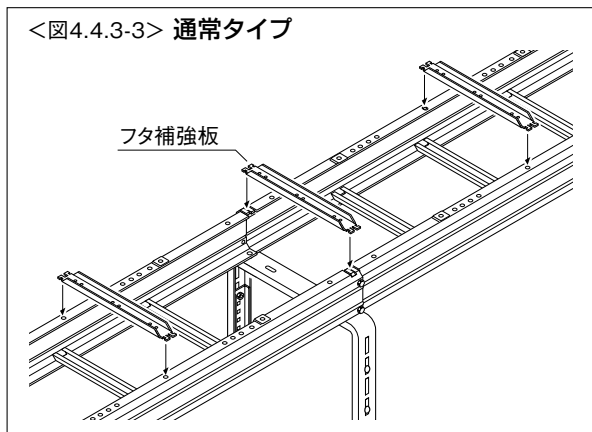
▶ここで、ダクトベース親桁の重ね方向を接続部毎に交互にしていくと、ダクトの直進性が保てます。



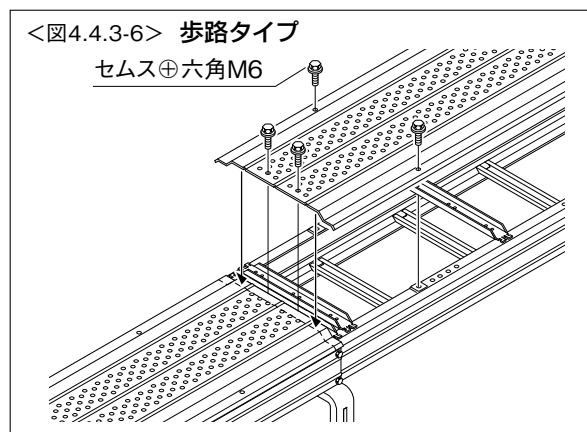
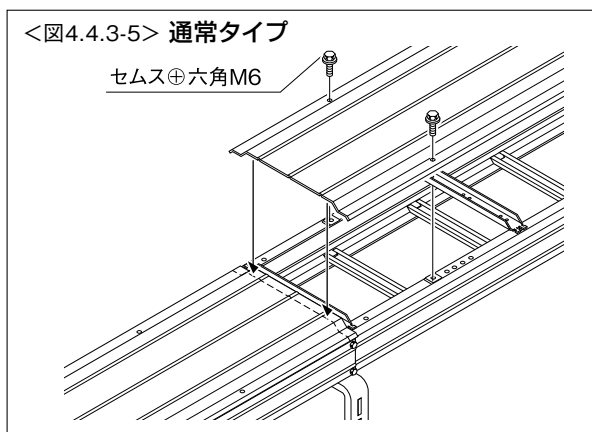
**2** ダクトベース親桁の端部の重なった側面部同士をビス止めします。



**3** 配管後、各補強板を取り付けます。取付位置は「フタ補強板取付位置」を参照してください。接続部分のフタ補強板は、600～900Hのジョイントレス接続およびフリージョイントS/Hタイプを使用する場合に取付けます。



**4** フタを20mm重ねて取付けます。(平面コーナーとの接続部では、直線ダクトのフタを上重ねた方がきれいに仕上がります)

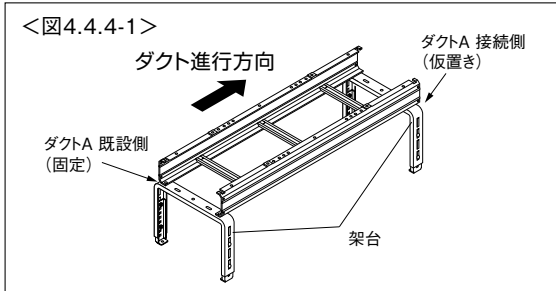


# 4.4 RDダクト(直管)

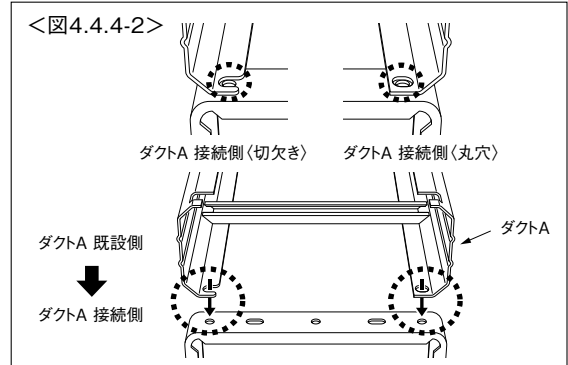
• 4.4.4 RD/RDW ジョイントレス接続〔施工編〕  
 <簡易組付方法>

## 4.4.4 RD/RDW ジョイントレス接続<簡易組付方法>

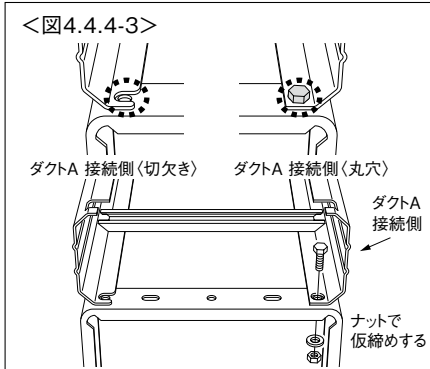
**1** 架台の上にダクトAを乗せ、ダクトAの始まり側の端部を、架台に固定する。  
 ダクトA接続側の端部については、架台に固定せず仮置きとする。



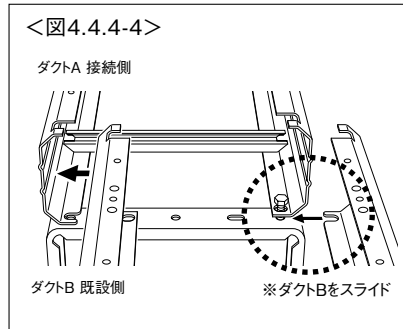
**2** ダクトA接続側の端部について、「切欠き」、「丸穴」、「架台穴」の位置合わせをする。



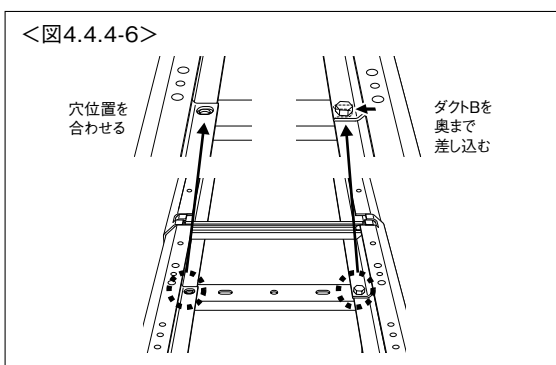
**3** 架台に仮置きした親桁の丸穴側にボルトを取付け、ナットで仮締めします。



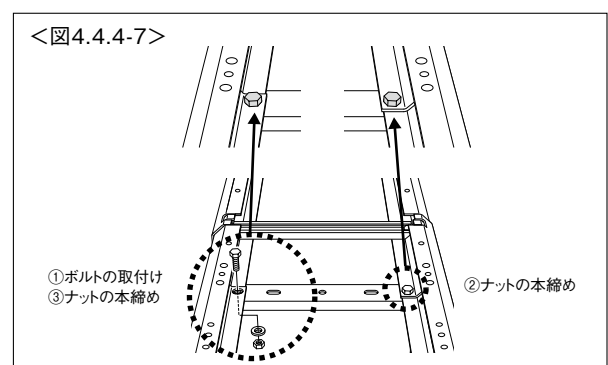
**4** ダクトBの始まり側を、ダクトAの接続側の架台に仮置きします。  
 ダクトBの始まり側<切欠き>をダクトAの親桁と架台の間(ボルト取付け部)に差し込みます。



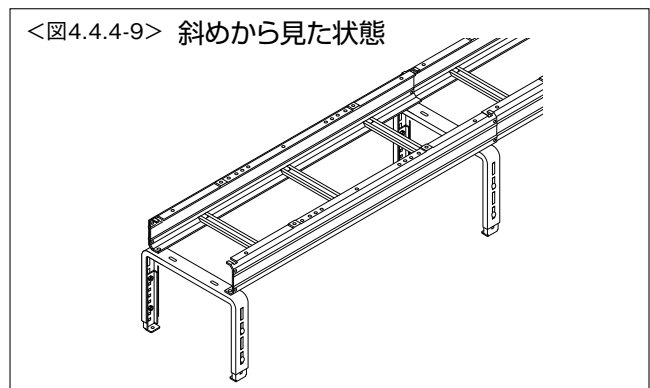
**5** ダクトBをスライドしながら、「ダクトA」、「ダクトB」、「架台穴」の位置を微調整する。



**6** 「ダクトA」、「ダクトB」、「架台穴」の位置の微調整後、ボルトを取付け、両側のナットを本締めします。



**7** 組付完了



施工編

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

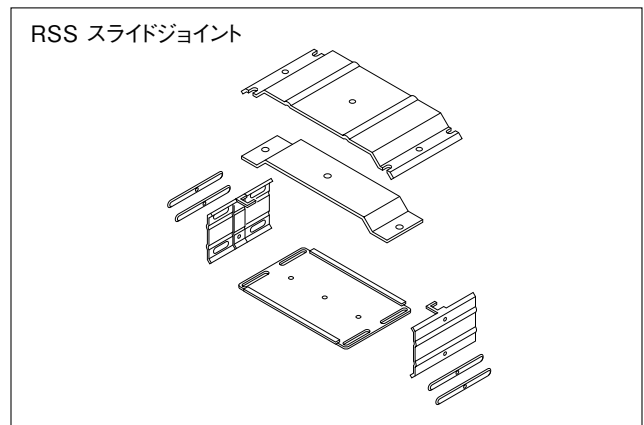
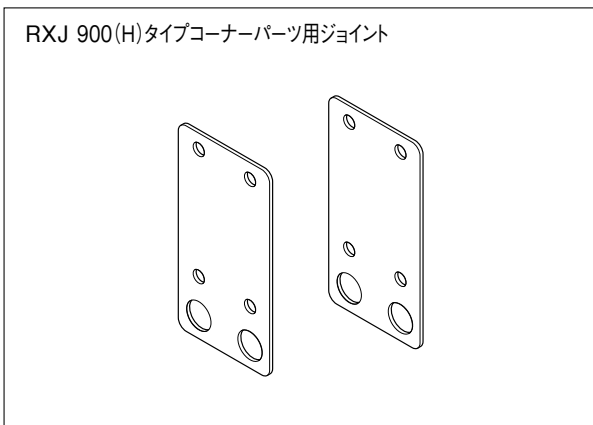
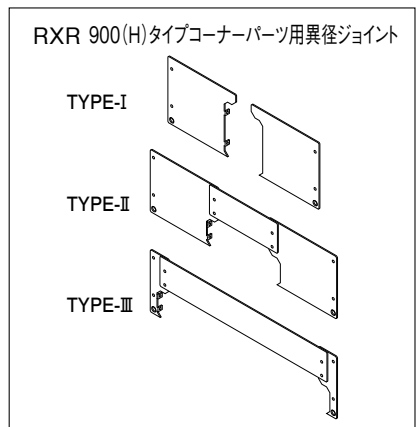
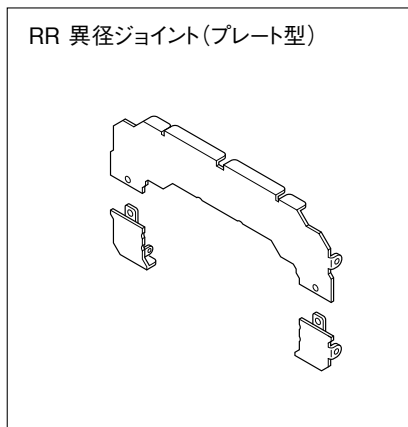
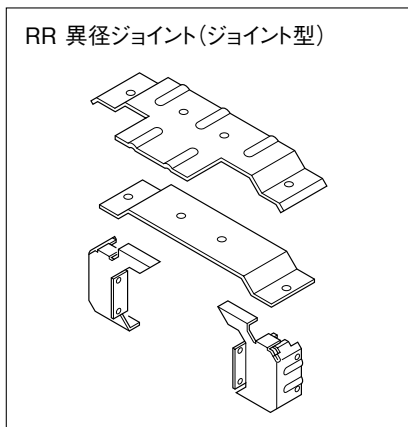
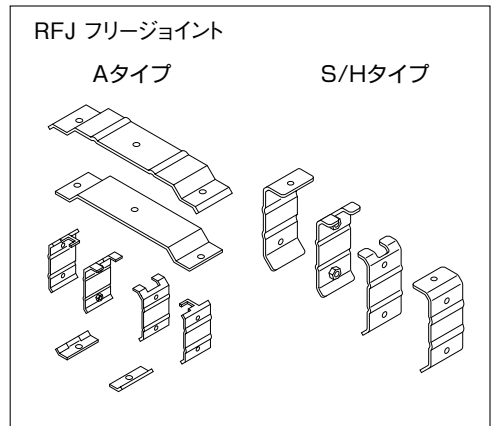
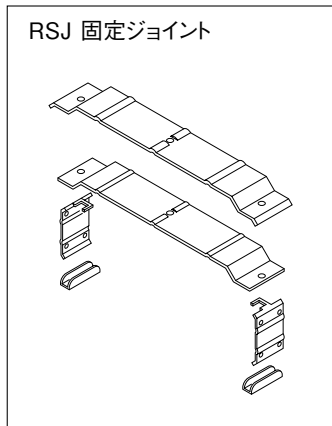
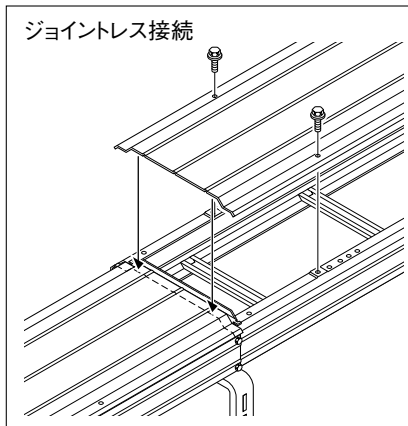
その他

## 4.5 接続

### 目次

4.5.1	接続方法およびパーツ一覧	95
4.5.2	ジョイントレス接続	96
4.5.3	RSJ 固定ジョイント	97
4.5.4	RFJ フリージョイント	99
4.5.5	RR 異径ジョイント(ジョイント型)	102
4.5.6	RR 異径ジョイント(プレート型)	103
4.5.7	RXR 900(H)タイプコーナーパーツ用異径ジョイント	104
4.5.8	RXJ 900(H)タイプコーナーパーツ用ジョイント	105
4.5.9	RSS スライドジョイント	106

### 4.5.1 接続方法およびパーツ一覧



## 4.5.2 ジョイントレス接続

### 4.5.2-1 ジョイントレス接続組付例

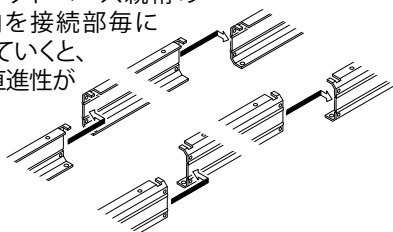
150を除くRDダクトおよび主なコーナーパーツをジョイント用パーツ無しで接続する施工方法です。床置き施工および天吊り施工で利用できます。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

- 1 ダクトベース親桁の端部同士が20mmずつ重なる様にはめ込み、ダクトベース親桁底面部の重なった部分をW3/8六角ボルトで架台に固定します。

**注意** 架台を設置できない場合はジョイント用パーツを使用する施工方法に変更してください。

- ▶ここで、ダクトベース親桁の重ね方向を接続部毎に交互にしていると、ダクトの直進性が保てます。



- 2 ダクトベース親桁の端部の重なった側面部同士をビス止めします。

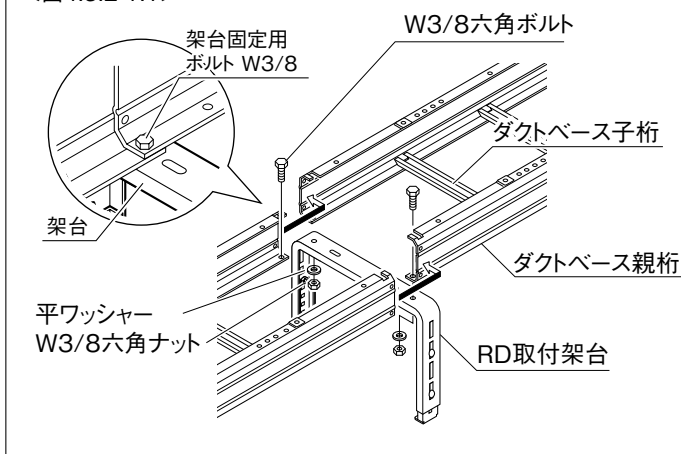
- 3 配管後、フタ補強板を取り付けます。

※フタ補強板の取り付けは各パーツのページをご参照ください。

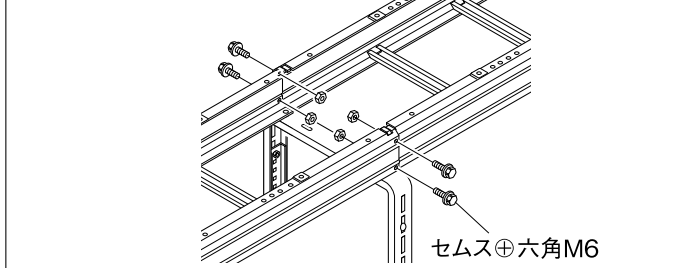
接続部分のフタ補強板は、600~900Hのジョイントレス接続およびフリージョイントS/Hタイプを使用する場合に取り付けます。

- 4 フタを20mm重ねて取り付けます。(平面コーナーとの接続部では、RDダクトのフタを上重ねた方がきれいに仕上がります)

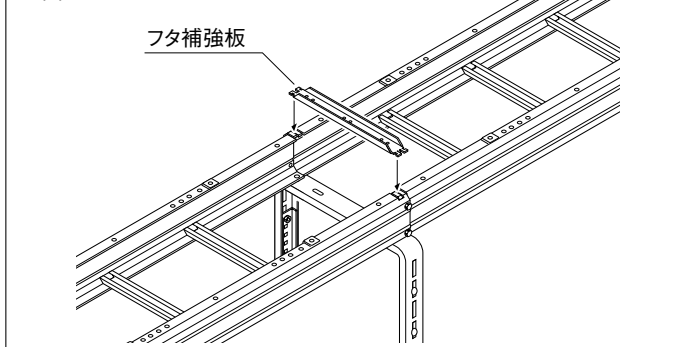
<図4.5.2-1.1>



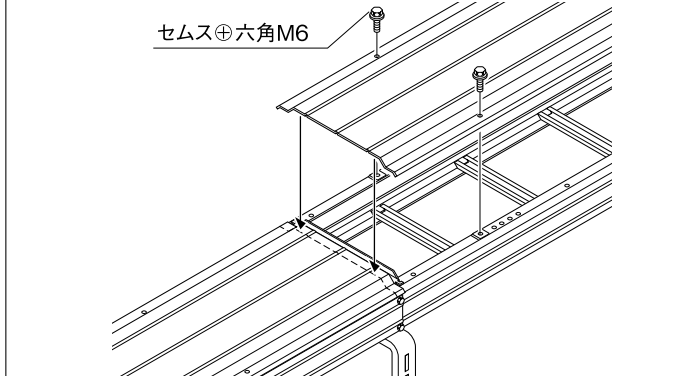
<図4.5.2-1.2>



<図4.5.2-1.3>



<図4.5.2-1.4>



施工編  
施工の進め方  
PSおよび壁貫通  
架台  
ダクト(直管)  
施工手順  
接続  
コーナーパーツ  
底板  
その他

## 4.5.3 RSJ 固定ジョイント

ダクトやコーナーパーツ(900タイプの一部を除く)を接続する際に使用するジョイントです。

床置きの場合は、接続部に架台を設置することも可能です。

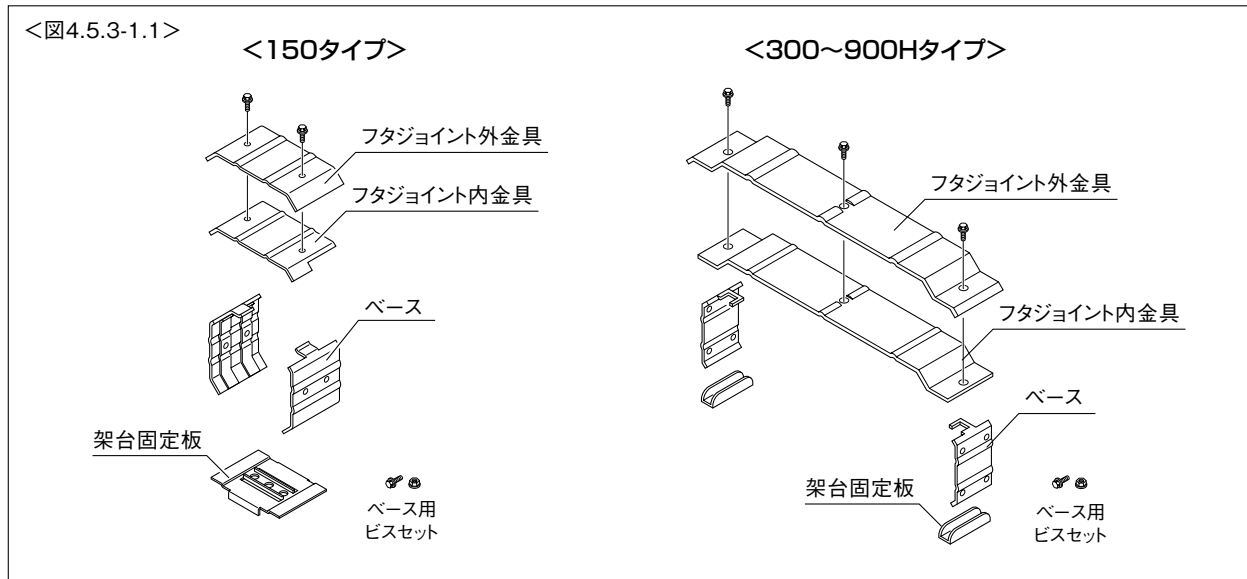
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

※壁面施工の場合は、【2.3.3】および【2.3.4】壁面取り付け条件もご確認ください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.5.3-1 製品構成



<表4.5.3-1.1> セット内容

サイズ	フタ(外)	フタ(内)	ベース	フタ用ビス	ベース用ビスセット	架台固定板
150	1	1	2	2	4	1
300/300H	1	1	2 (左右各1)	3	8	2
450/450H						
600/600H						
900/900H						

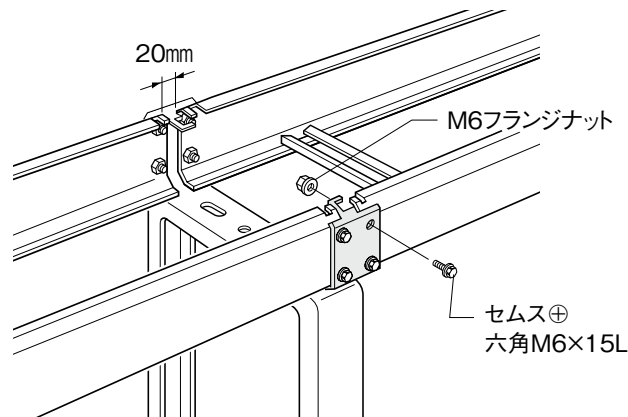
<表4.5.3-1.2> ビス仕様

項目	仕様	材質
フタ用ビス	セムス⊕六角ボルトM6 × 20L	SUS
ベース用 ビスセット	セムス⊕六角ボルトM6 × 15L	SUS
	フランジナット M6	SUS

### 4.5.3-2 RSJ 組付例

1 ダクト接続部に20mmの隙間を空け、固定ジョイント(ベース部)を取り付けます。

<図4.5.3-2.1>



#### 注意

<図4.5.3-2.2>

縦引き時にはフタジョイント内金具の落下を防止するため、ジョイント溝ガイトの開口部が上向きになるように固定ジョイントを取り付けてください。

※150タイプを除く

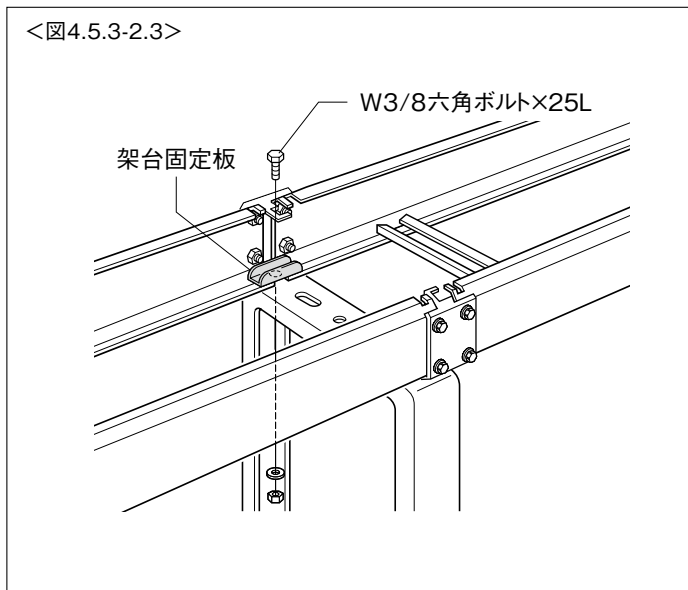


施工編  
施工の進め方  
PSおよび壁貫通  
架台  
ダクト(直管)  
施工手順  
接続  
コーナーパーツ  
底板  
その他

- 2** ジョイント部に架台(RZ)を取り付ける場合は架台固定板(150タイプの場合は架台固定金具)でRDダクトと架台を取り付けます。

架台固定板は、ジョイント部に架台を取り付けない場合は必要ありません。

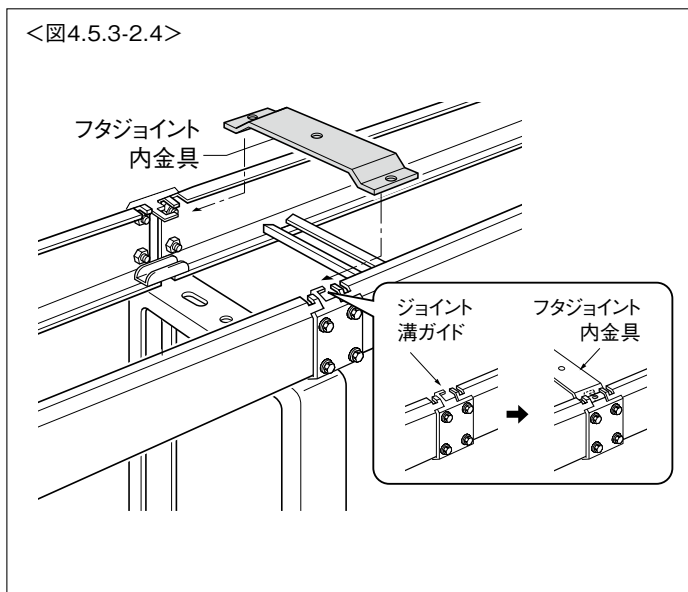
<図4.5.3-2.3>



- 3** 配管完了後、ベース内金具とダクト親桁上部の間に、フタジョイント内金具を差し込みます。

300~900H用は、ジョイント溝ガイドにフタジョイント内金具のナット部分をはめ込むように取り付けてください。

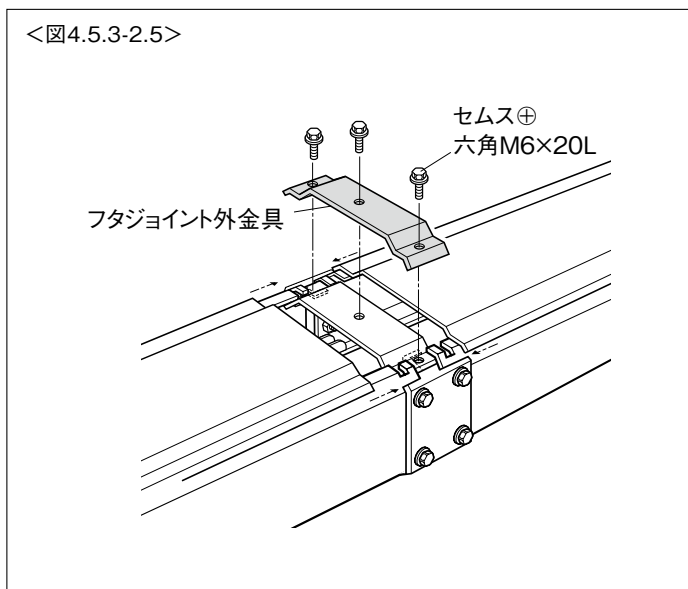
<図4.5.3-2.4>



- 4** RDダクトにフタをかぶせた後、フタジョイント外金具を取り付けて完了です。

**注意** 壁面施工時は、ボルトの緩み防止処理が必要です。詳細は【4.3】設置・壁面をご確認ください。

<図4.5.3-2.5>



## 4.5.4 RFJ フリージョイント

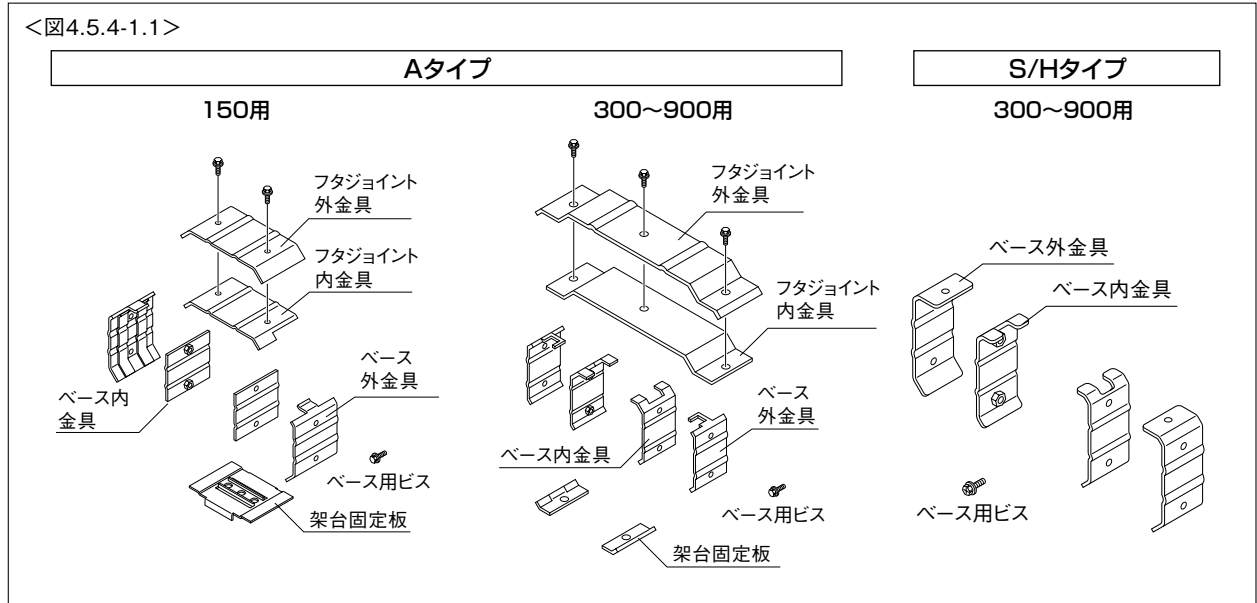
切断したダクトと他のパーツを接続するためのジョイントです。  
床置き施工や壁面直付施工の場合に使用できます。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。  
※壁面施工の場合は、【2.3.3】および【2.3.4】壁面取り付け条件もご確認ください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.5.4-1 製品構成



<表4.5.4-1.1> セット内容

サイズ	フタ(外)	フタ(内)	ベース(外)	ベース(内)	フタ用ビス	ベース用ビス	架台固定板
150	1	1	2	2	2	4	1
300/300H	0	0	2	2	0	4	0
450/450H							
600/600H							
900/900H							

<表4.5.4-1.2> ビス仕様

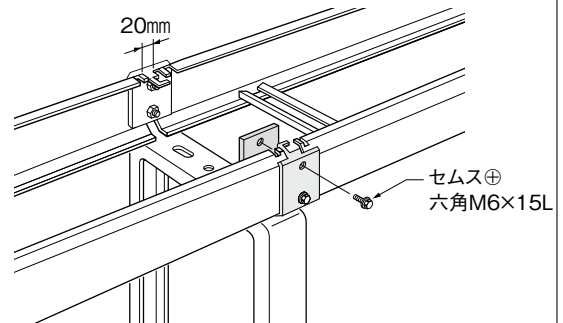
項目	仕様	材質
フタ用ビス	セムス⊕六角ボルトM6 × 20L	SUS
ベース用ビス	セムス⊕六角ボルトM6 × 15L	SUS

### 4.5.4-2 RFJ 組付例 (Aタイプ)

- ダクトの親桁を切断する場合は、子桁が2本以上残る範囲で親桁を切断して使用可能です。ただし、開閉式は子桁を減らす切断はできません。フタはダクトに合わせて切断します。底板は、ダクトより20mm短くなるように切断します。

- ダクト接続部に20mmの隙間を空け、フリージョイント(ベース部)でRDダクトを挟み込んで締め込みます。

<図4.5.4-2.1>



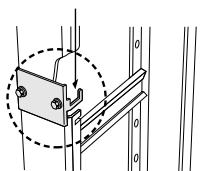
**注意**

<図4.5.4-2.2>

縦引き時にはフタジョイント内金具の落下を防止するため、ジョイント溝ガイトの開口部が上向きになるように固定ジョイントを取り付けてください。

※150用を除く。  
※壁面直付工法のみ使用可。

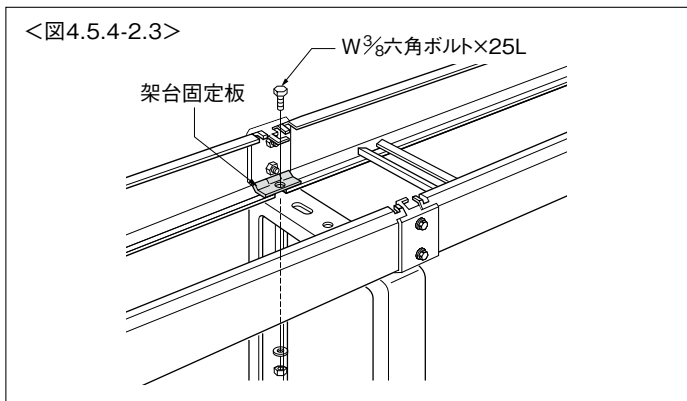
ジョイント溝ガイトの開口部を上向きにしてください。



- 3** ジョイント部に架台(RZ)を取り付ける場合は、架台固定金具でRDダクトと架台を取り付けます。

架台固定具は、ジョイント部に架台を取り付けない場合は必要ありません。

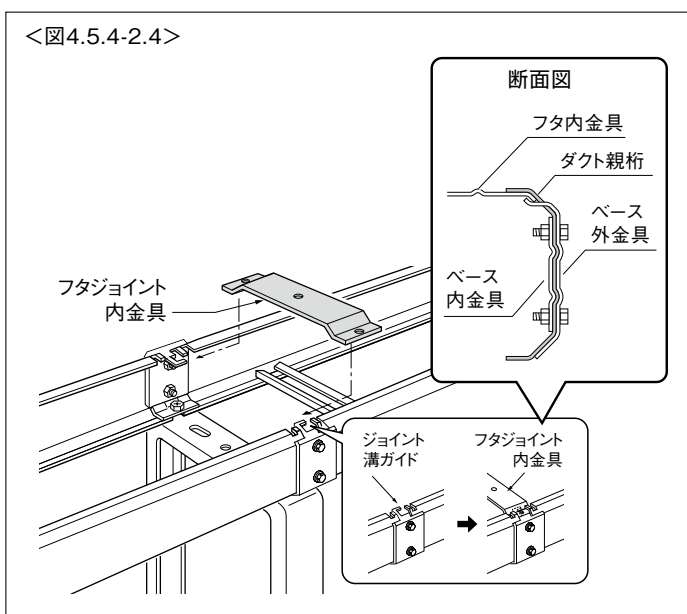
<図4.5.4-2.3>



- 4** 配管完了後、フタジョイント内金具を差し込みます。

ベース内金具とダクト親桁上部の間に、フタジョイント内金具を差し込みます。300~900H用は、ジョイント溝ガイドにフタジョイント内金具のナット部分をはめ込むように取り付けてください。

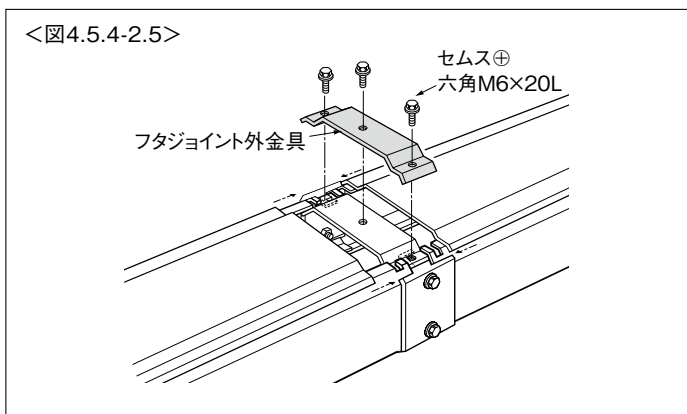
<図4.5.4-2.4>



- 5** RDダクトにフタをかぶせた後、フタジョイント外金具を取り付けて完了です。

**注意** 壁面施工時は、ボルトの緩み防止処理が必要です。詳細は【2.3】設置方法・壁面をご確認ください。

<図4.5.4-2.5>



**取り付け上の注意**

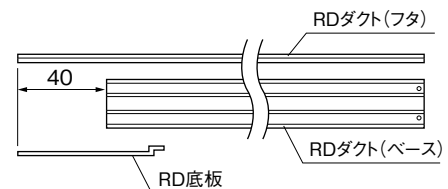
立面コーナーと接続する場合は、切断していない方を接続してください。  
 段落しなど立面コーナーと接続が必要な場合は、切断側が上になるように取り付け、接続部にも架台を設置してください。  
 150用はダクトとの接続時のみ架台が設置できます。コーナーパーツと接続する場合は、コーナーパーツの前後の子桁に架台を取り付けてください。

## 4.5.4-3 RFJ 組付例 (S/Hタイプ)

- ダクトを切断する場合は、子桁が2本以上残る範囲で親桁を切断して使用可能です。  
ただし、開閉式は子桁を減らす切断はできません。  
フタは親桁より40mm長くなるように切断します。フタビス穴が無くなる場合は、必要な箇所にて穴開け加工を行って取り付けてください。  
また、底板を使用する場合は、親桁より40mm長くなるように切断してください。

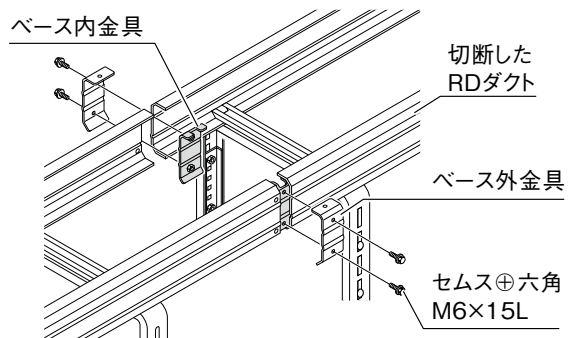
※ZAの場合は切断や加工をおこなった箇所はジンクリッチ (Zn-AL) 系の塗料による補修処理をおこなってください。

<図4.5.4-3.1> フタ および底板の長さ(目安)



- ダクト接続部に20mmのすき間を開け、フリージョイント(ベース部)でRDダクトを挟み込んで締め付けます。

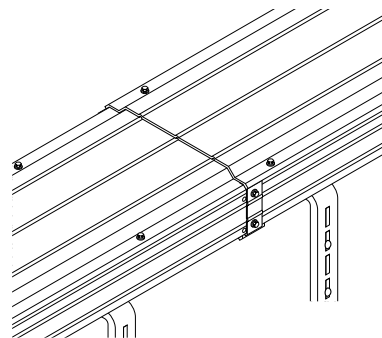
<図4.5.4-3.2>



- 配管完了後、ダクトのフタを閉めて完了です。

※600~900Hはジョイント部にフタ補強板を取り付けてください。

<図4.5.4-3.3>



### 取り付け上の注意

S/Hタイプには架台は取り付けできません。前後の子桁などに架台を設置してください。  
縦引き時は、上側のパーツのフタが上になるように取り付けてください。  
立面コーナーと接続する場合は、切断していない方を接続してください。  
段落しなど立面コーナーと接続が必要な場合は、切断側が下になるように取り付け、立面コーナーに架台を取り付けできるように穴加工を施してください。

## 4.5.5 RR 異径ジョイント(ジョイント型)

異なるサイズのパーツを接続するためのジョイントです。  
床置き施工や壁面直付施工の場合に使用できます。

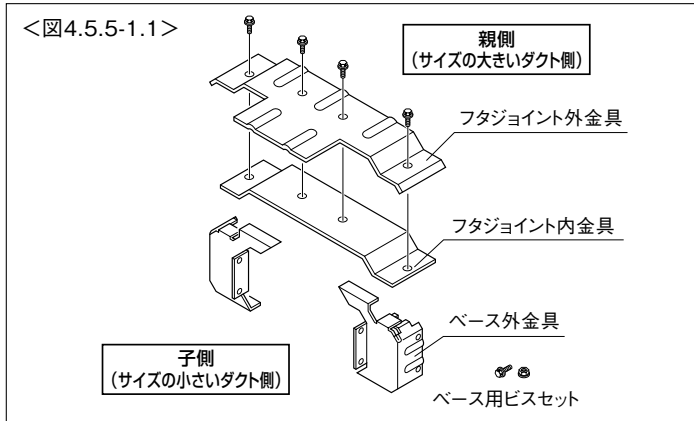
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

※壁面施工の場合は、【2.3.3】および【2.3.4】壁面取り付け条件もご確認ください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.5.5-1 製品構成



<表4.5.5-1.2> セット内容

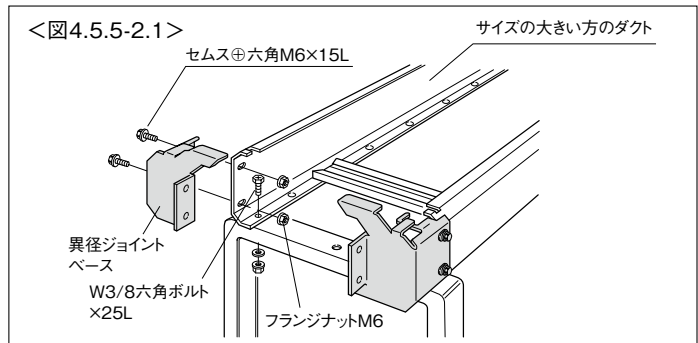
親側サイズ	フタ(外)	フタ(内)	ベース(外)	フタ用ビス	ベース用ビスセット
300	1	1	2 (左右各1)	2	4
300H				3	
450/450H	1	1	2 (左右各1)	4	4
600/600H				4	
900/900H				3	

<表4.5.5-1.2> ビス仕様

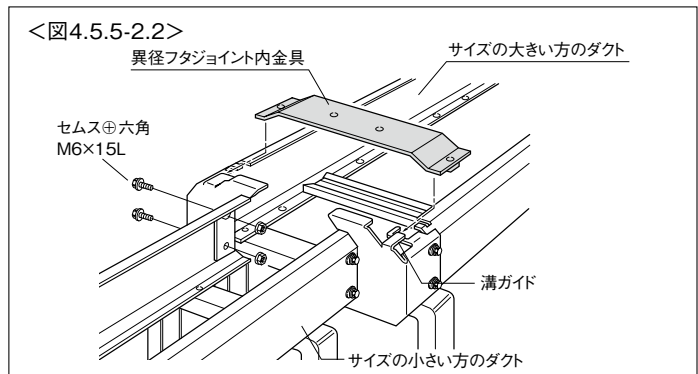
項目	仕様	材質
フタ用ビス	セムス⊕六角ボルトM6 × 20L	SUS
ベース用ビスセット	セムス⊕六角ボルトM6 × 15L	SUS
	フランジナット M6	SUS

### 4.5.5-2 RR(ジョイント型) 組付例

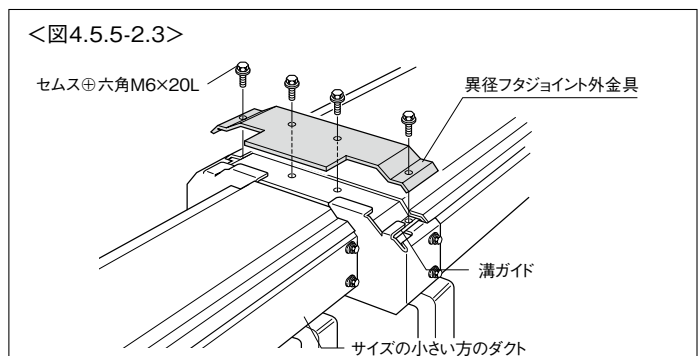
**1** 大きいサイズのダクトの親桁に設けられている穴(φ12)に架台を取り付けます。次に、異径ジョイントベースをダクトの親桁に取り付けます。



**2** 異径ジョイントベースに小さいサイズのダクトを取り付け固定します。配管後、異径フタジョイント内金具をジョイント溝ガイドに差し込みます。



**3** ダクトのフタを閉めて、異径フタジョイント外金具を取り付けて完了です。



**注意** 壁面施工時は、ボルトの緩み防止処理が必要です。詳細は【4.3】設置・壁面をご確認ください。

施工編  
施工の進め方  
PSおよび壁貫通  
架台  
ダクト(直管)  
施工手順  
接続  
コーナーパーツ  
底板  
その他

## 4.5.6 RR 異径ジョイント(プレート型)

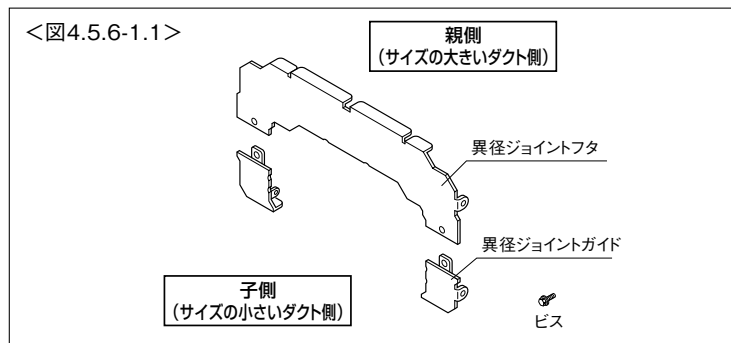
異なるサイズのパーツを接続するためのジョイントです。  
ダクトを差し込むタイプのジョイントですので、ダクトの有効長が20mm短くなります。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。  
※壁面施工の場合は、【2.3.3】および【2.3.4】壁面取り付け条件もご確認ください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.5.6-1 製品構成



<表4.5.6-1.1> セット内容

フタ	ガイド	ビス
1	2 (左右各1)	8

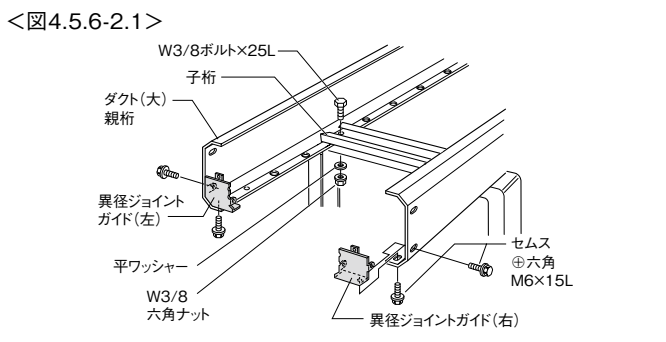
<表4.5.6-1.2> ビス仕様

項目	仕様	材質
ビス	セムス⊕六角ボルトM6 × 15L	SUS

### 4.5.6-2 RR(プレート型) 組付例

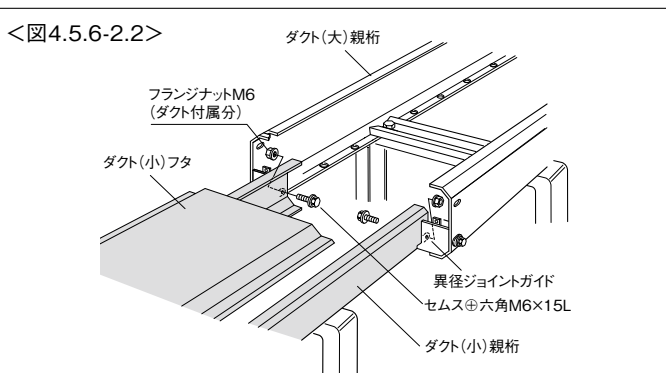
- 1 ダクトの子桁に架台を固定します。  
次にダクト(大)の親桁に、異径ジョイントガイドを同梱のボルトで取付けます。

**注意** 親桁に架台を固定する場合は、各ダクトの子桁とジョイント部の間で固定してください。

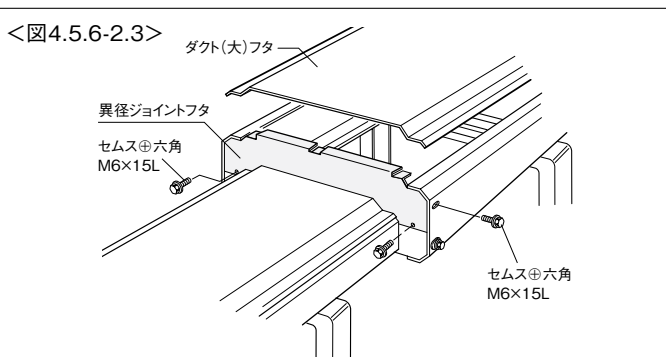


- 2 ダクト(小)を異径ジョイントガイドに差し込みます。  
ダクト(小)の親桁と異径ジョイントガイドをダクト(小)付属のボルト・ナットで取付けます。

**注意** 高さは底面合わせです。  
配管作業完了後ダクト(小)のフタを取付けます。



- 3 異径ジョイントフタをダクト(大)の親桁、異径ジョイントガイドに同梱のボルトで取付けて完了です。



## 4.5.7 RXR 900(H)タイプコーナーパーツ用異径ジョイント

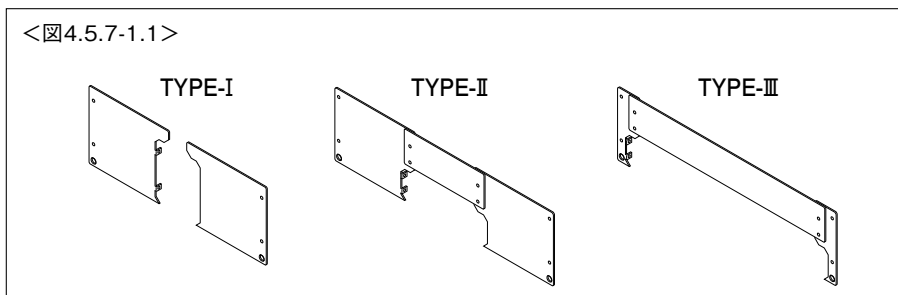
900(H)タイプのコーナーパーツ専用の異径ジョイントです。  
ダクトを差し込むタイプのジョイントですので、ダクトの有効長が20mm短くなります。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。  
※壁面施工の場合は、【2.3.3】および【2.3.4】壁面取り付け条件もご確認ください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.5.7-1 製品構成



<表4.5.7-1.1> セット内容

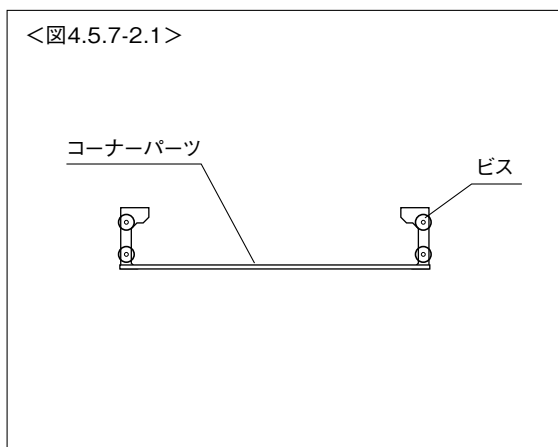
タイプ	本体
TYPE I	2 (左右各1)
TYPE II	1
TYPE III	

※取付にはコーナーパーツ付属のビスを使用します。

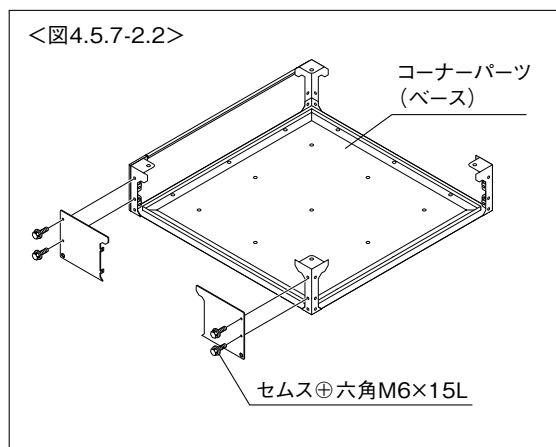
### 4.5.7-2 RXR 組付例

#### 1 コーナーパーツからビスを取りはずします。

※○で囲っている箇所(4箇所)

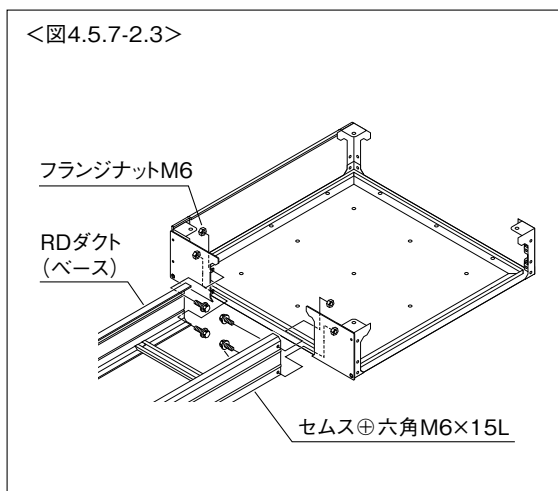


#### 2 RXRをビス止めします。



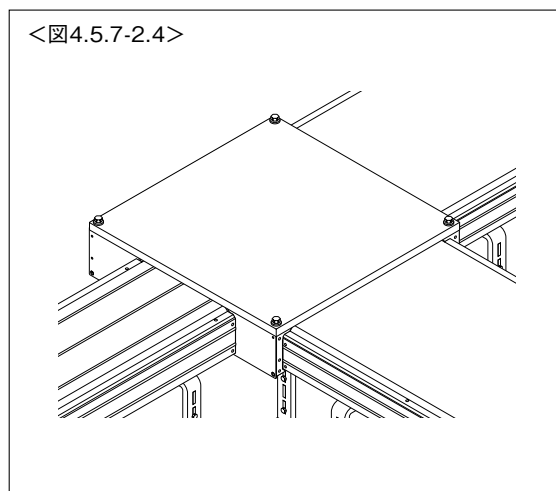
#### 3 ダクトを挿入し、ビスで固定します。

※ビスはダクトに付属。



#### 4 配管後、フタを閉めて完了です。

コーナーパーツの施工については各コーナーパーツのページをご確認ください。



## 4.5.8 RXJ 900(H)タイプコーナーパーツ用ジョイント

RCFを除く900(H)タイプのコーナーパーツ同士を接続するジョイントです。

構造上、若干すき間が発生します。

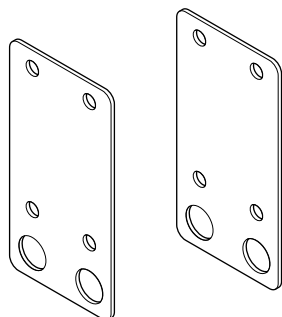
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.5.8-1 製品構成

<図4.5.8-1.1>



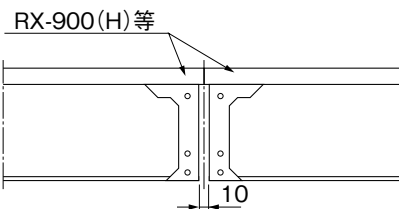
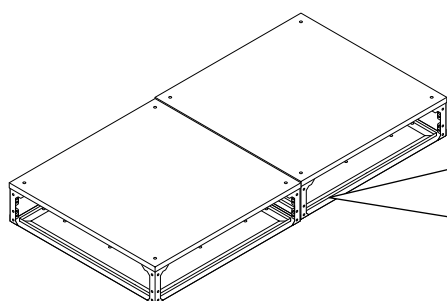
<表4.5.8-1.1> セット内容

サイズ	本体
900/900H	2

### 4.5.8-2 RXJ 組付例

**1** RX(W)のジョイント部同士をつき合わせます。

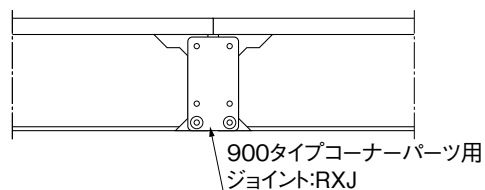
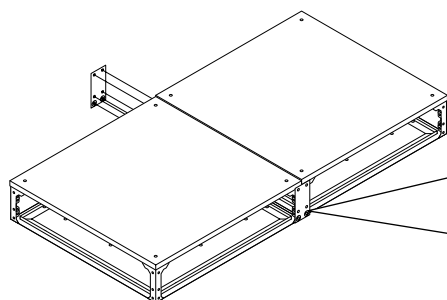
<図4.5.8-2.1> RX(W)同士の施工例



**2** RXJをコーナーパーツに両側から固定して、ジョイントさせます。

**注意** 接続したボックス仕様のコーナーパーツ類の天面側は、コーキング処理やパテ埋めによる防水処理を行って下さい。

<図4.5.8-2.2>



## 4.5.9 RSS スライドジョイント

接続長さを調節できるタイプのジョイントです。  
ダクトまたはコーナーパーツのすき間20mm~320mmに対応しています。

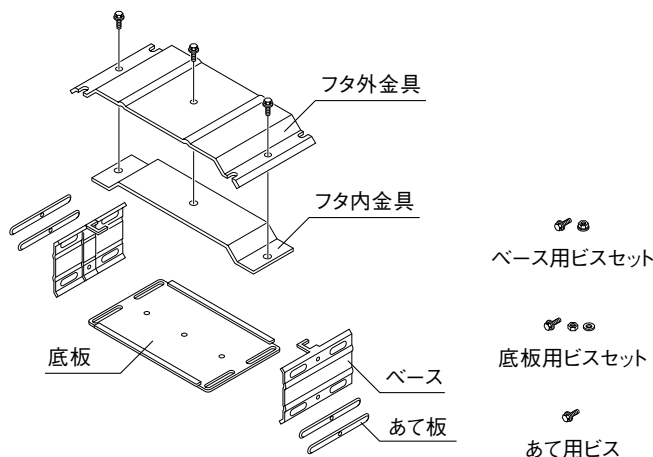
※900(H)タイプのコーナーパーツを除く。  
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.5.9-1 製品構成

<図4.5.9-1.1>



<表4.5.9-1.1> セット内容

サイズ	フタ(外)	フタ(内)	ベース	底板	あて板	フタ用ビス	ベース用ビスセット	底板用ビスセット	あて板用ビスセット
300/300H	1	1	2 (左右各1)	1	4	3	8	4	4
450/450H									
600/600H									
900/900H									

<表4.5.9-1.2> ビス仕様

項目	仕様	材質
フタ用ビス	セムス⊕六角ボルトM6 × 20L	SUS
ベース用 ビスセット	セムス⊕六角ボルトM6 × 15L フランジナット M6	SUS
底板用 ビスセット	セムス⊕六角ボルトM6 × 15L	SUS
	六角ナット M6	SUS
	平ワッシャー M6	SUS
あて板用ビス	セムス⊕六角ボルトM6 × 20L	SUS

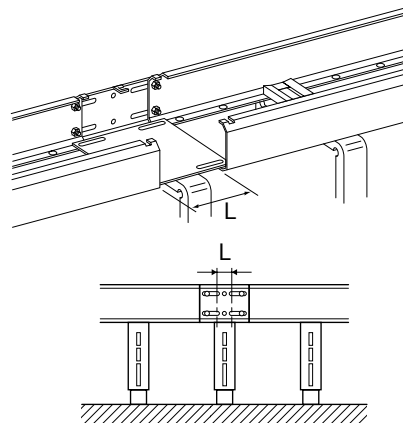
### 4.5.9-2 RSS 組付例

**1** ダクトまたはコーナーパーツなどを取り付けあるいは仮置きし、PS取出部の段差寸法H(ウォールプレートRWPのツバ内部下面とダクト下面の高さの差)、あるいはダクト又はコーナーパーツの間寸法Lから適合するスライドジョイントを選びます。

スライドジョイント型番 / 項目	ダクト間寸法 L(mm)
RSS-300-1/450-1/600-1/900-1	20~120
RSS-300-2/450-2/600-2/900-2	120~220
RSS-300-3/450-3/600-3/900-3	220~320
RSS-300H-1/450H-1/600H-1/900H-1	20~120
RSS-300H-2/450H-2/600H-2/900H-2	120~220
RSS-300H-3/450H-3/600H-3/900H-3	220~320

※段差寸法については、【3.5】コーナーを参照。  
※L寸が320mm超の場合は、【3.3.5】RSS スライドジョイントを参照。

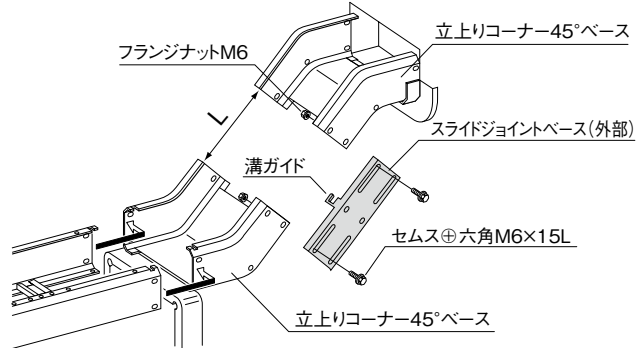
<図4.5.9-2.1> ダクト間寸法 L(mm)



施工編  
施工の進め方  
PSおよび壁貫通  
架台  
ダクト(直管)  
施工手順  
接続  
コーナーパーツ  
底板  
その他

- 2** ダクトあるいはコーナーパーツのベース部をスライドジョイントベースを取り付けて接続します。  
スライドジョイントベースの溝ガイドは、必ず隙間の中央になるように取り付けてください。

<図4.5.9-2.2>

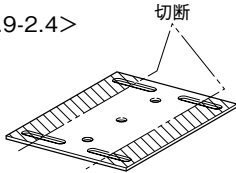


- 3** スライドジョイント底板および架台の取り付けを行います。

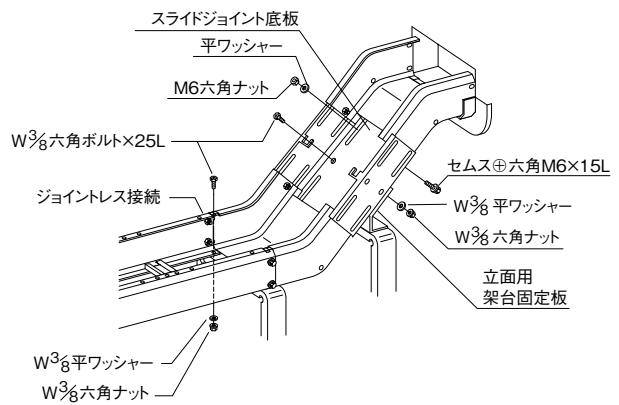
**スライドジョイント底板使用時の注意**

直線ダクト2m、1mおよび立面コーナー45°以外のダクトおよびコーナーパーツには、スライドジョイント用底板は取り付けできません。  
どうしても取り付ける必要がある場合は、スライドジョイント用底板の加工が必要です。又、その際には架台を利用して底板を支持する必要があります。  
\*歩路に使用する場合は切断不可。

<図4.5.9-2.4>

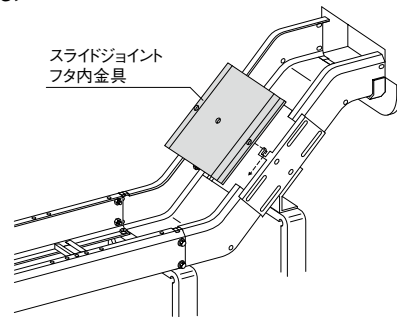


<図4.5.9-2.3>



- 4** 配管完了後、ジョイント溝ガイドとダクトの親桁上部との間にスライドジョイントフタ内金具を差し込みます。

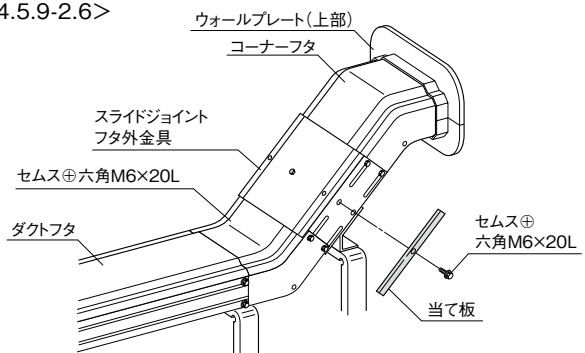
<図4.5.9-2.5>



- 5** ダクトのフタを取り付けた後、スライドジョイントフタ外金具および当て板を取り付けて完了です。

**注意** 壁面施工時は、ボルトの緩み防止処理が必要です。詳細は【4.3】設置・壁面をご確認ください。

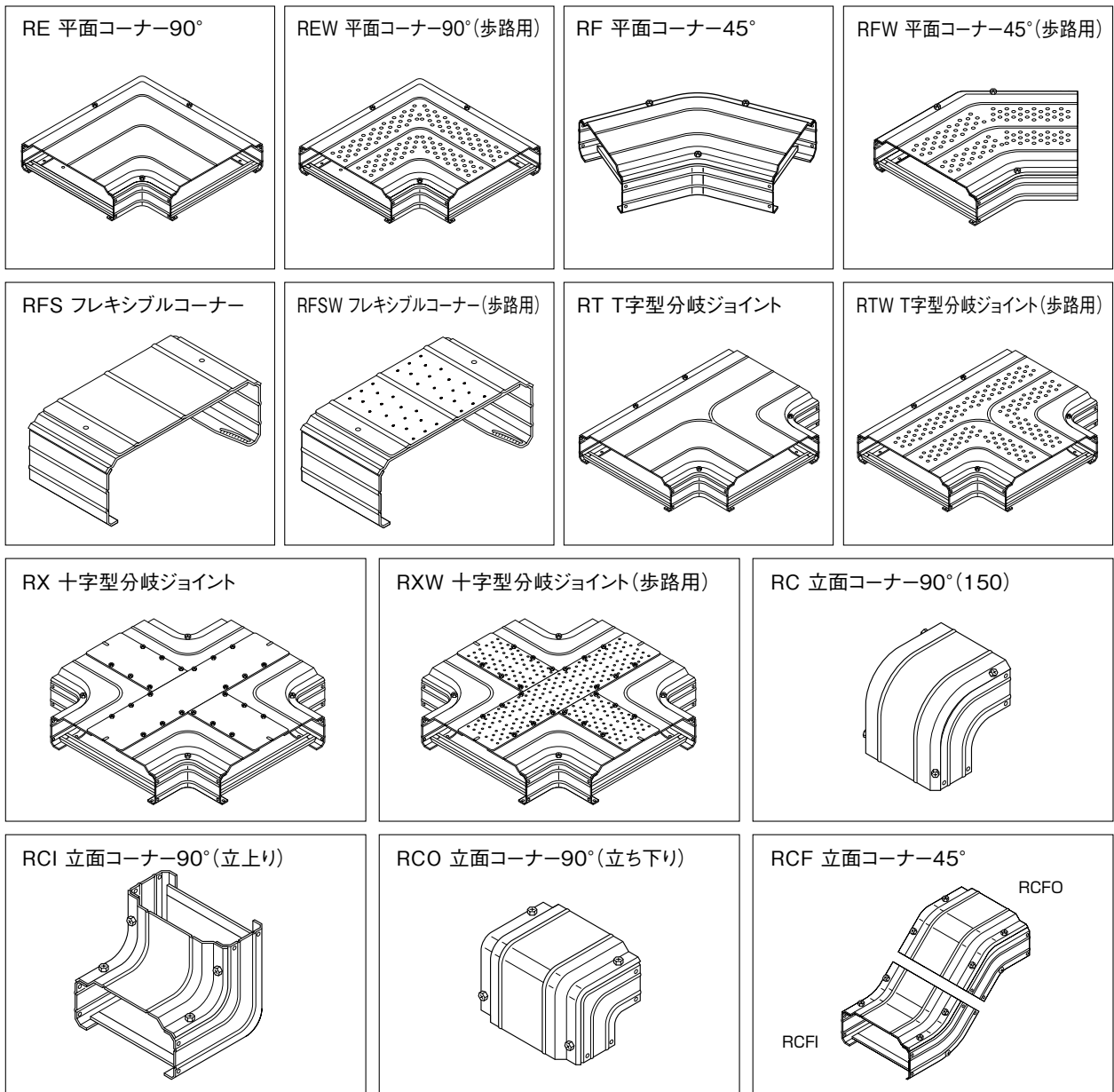
<図4.5.9-2.6>



## 4.6 コーナーパーツ

目次	4.6.1 コーナーパーツ一覧 .....	108
	4.6.2 RE 平面コーナー-90° .....	109
	4.6.3 REW 平面コーナー-90°(歩路用) .....	111
	4.6.4 RF 平面コーナー-45° .....	112
	4.6.5 RFW 平面コーナー-45°(歩路用) .....	114
	4.6.6 RFS フレキシブルコーナー .....	116
	4.6.7 RFSW フレキシブルコーナー(歩路用) .....	118
	4.6.8 RT T字型分岐ジョイント .....	120
	4.6.9 RTW T字型分岐ジョイント(歩路用) .....	122
	4.6.10 RXN/RX 十字型分岐ジョイント .....	123
	4.6.11 RXNW/RXW 十字型分岐ジョイント(歩路用) .....	125
	4.6.12 RCI 立面コーナー-90°(立上り) .....	127
	4.6.13 RCO 立面コーナー-90°(立下り) .....	129
	4.6.14 RC 立面コーナー-90°(150) .....	132
	4.6.15 RCF 立面コーナー-45° .....	133

### 4.6.1 コーナーパーツ一覧



施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

## 4.6.2 RE 平面コーナー90°

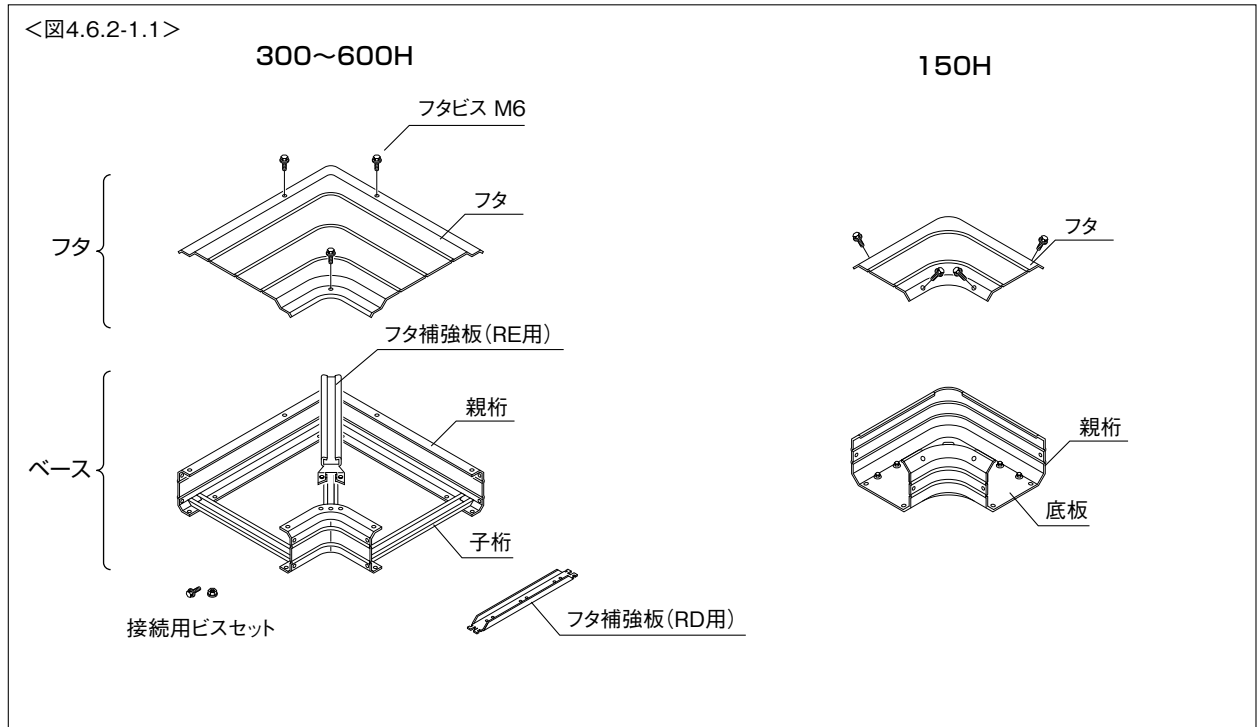
平面タイプの90°エルボです。  
サイズによって取り付け方法が異なりますのでご注意ください。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.6.2-1 製品構成



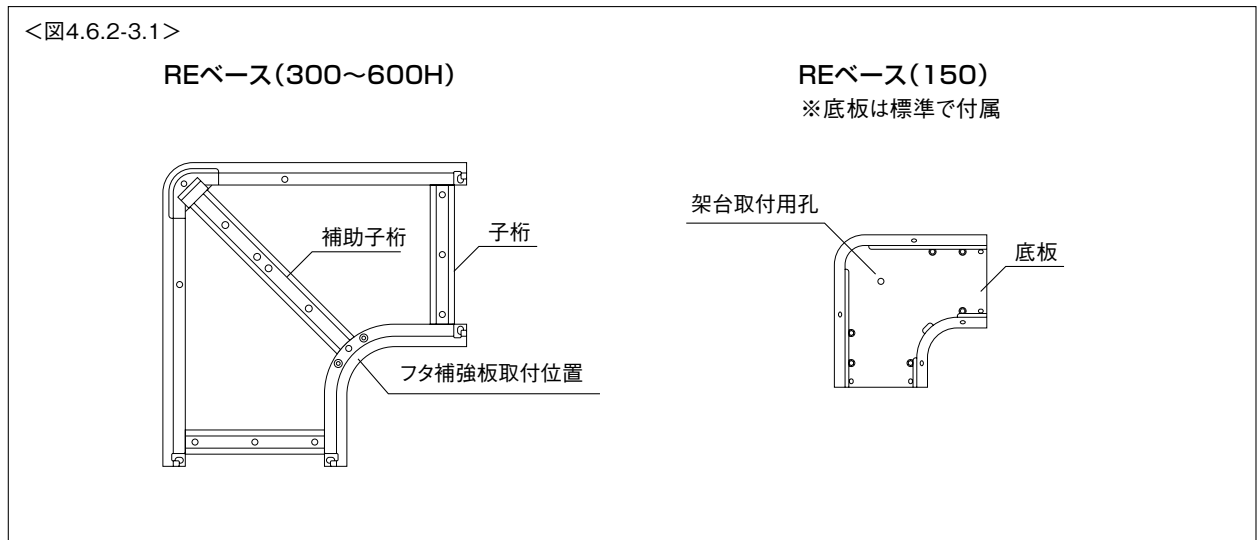
<表4.6.2-1.1> セット内容

タイプ	ベース	フタ	底板	ビス(本)	接続用 ビスセット	フタ補強板 (RE用/RD用)
150	1	1	1	4	0	0/0
300/300H	1	1	0	3	4	0/0
450/450H	1	1	0	3	4	0/0
600/600H	1	1	0	3	4	1/1

<表4.6.2-1.2> ビス仕様

ビス名称	仕様	材質
フタビス	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
接続用ビスセット	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
	フランジナット M6	SUS

### 4.6.2-3 ベース天面図

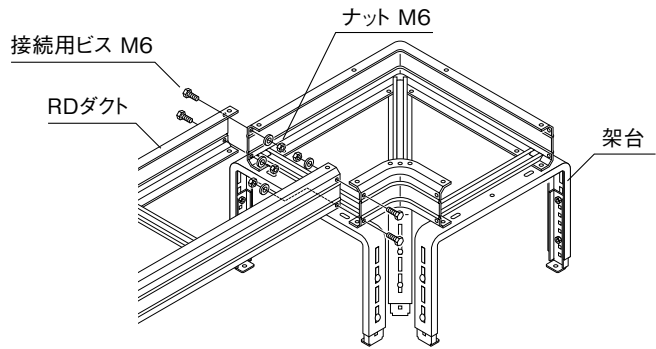


施工編

## 4.6.2-3 RE 組付例(1) 300~600H

- 1 架台に仮置きし、REとダクトを接続します。

<図4.6.2-3.1>



- 2 REを架台に固定します。

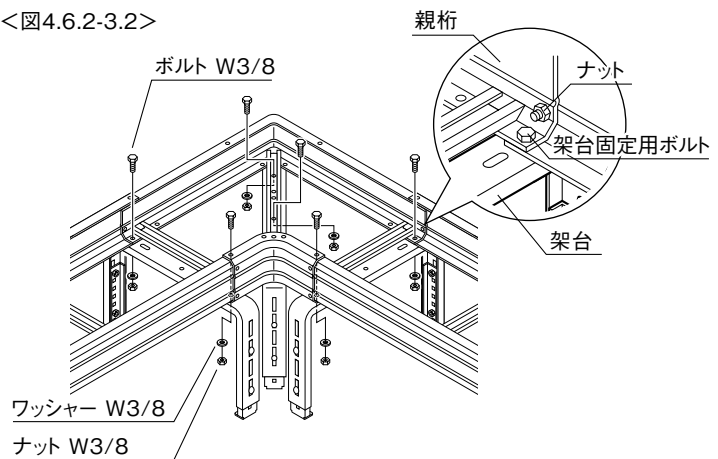
※架台固定用ボルト、ナット、ワッシャーは架台に付属しています。

配管後、フタ補強板\*を取り付け、フタを閉めて完了です。

\*600/600Hタイプのみ

※ジョイントレス接続およびフリージョイントS/Hタイプを使用する場合は、接続部にもフタ補強板を取り付けます。(600/600Hタイプのみ)

<図4.6.2-3.2>

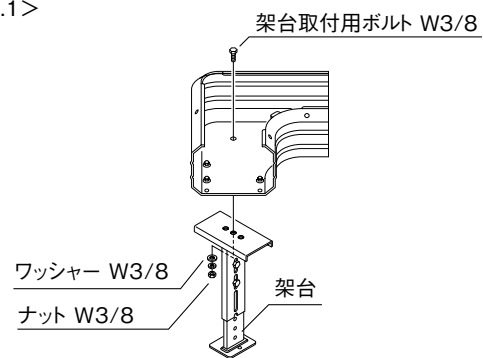


## 4.6.2-4 RE 組付例(2) 150

- 1 REを架台に取り付けます。

※架台固定用ボルト、ナット、ワッシャーは架台に付属しています。

<図4.6.2-4.1>

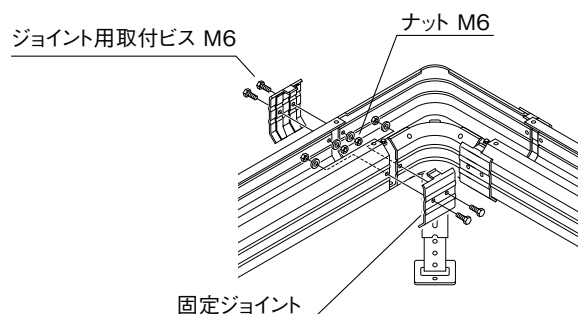


- 2 固定ジョイントでダクトと接続します。

【参照】 [3.3.4] RSJ 固定ジョイント

配管後、フタを取り付けて完了です。

<図4.6.2-4.2>



施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

# 4.6 コーナーパーツ

• 4.6.3 REW 平面コーナー90°〔施工編〕  
(歩路用)

施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

## 4.6.3 REW 平面コーナー90°(歩路用)

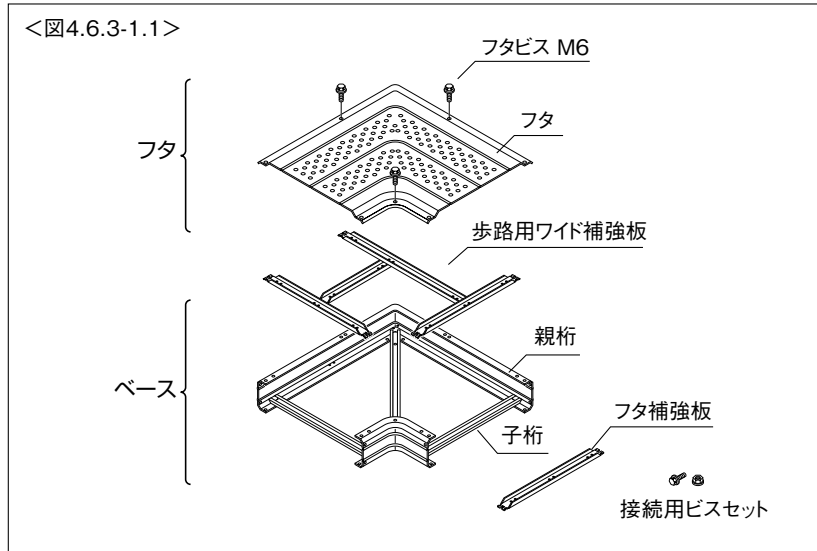
平面タイプの90°エルボ(歩路用)です。  
サイズによって補強板の取り付け位置が異なりますのでご注意ください。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.6.3-1 製品構成



<表4.6.3-1.1> セット内容

タイプ	フタ	ベース	底板
300/300H	1	1	0
450/450H	1	1	0
600/600H	1	1	0

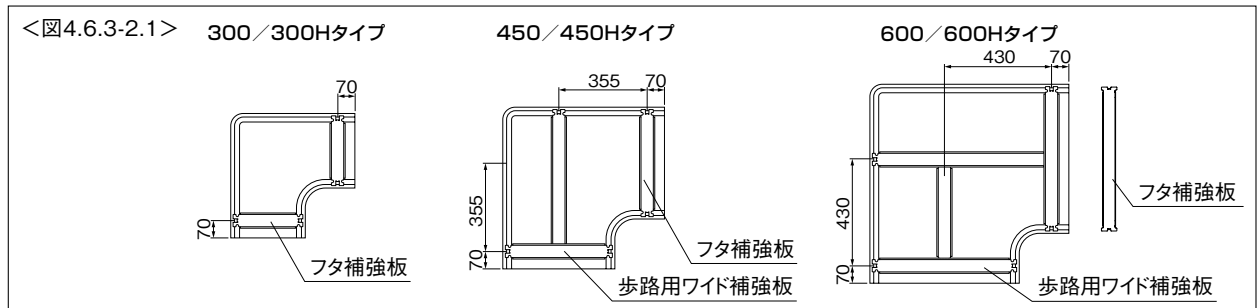
タイプ	フタビス	接続用ビスセット
300/300H	3	4
450/450H	3	4
600/600H	3	4

タイプ	歩路用ワイド補強板	フタ補強板
300/300H	0	2
450/450H	1	1
600/600H	1	1

<表4.6.3-1.2> ビス仕様

ビス名称	仕様	材質
フタビス	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
接続用ビスセット	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
	フランジナット M6	SUS

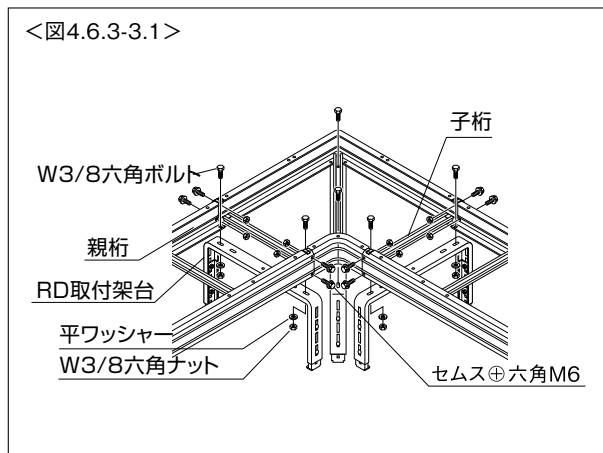
### 4.6.3-2 補強板の取付位置



### 4.6.3-3 REW 組付例

**1** 親桁同士を20mmずつ重なるようにはめ込んだ後、架台に固定し、親桁の重なった側面同士をビス止めします。

**警告** 架台は必ず3本以上取り付けてください。

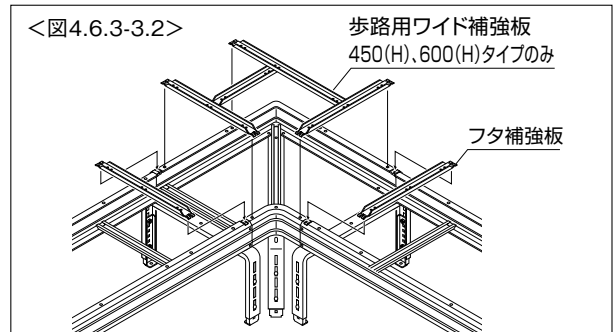


**2** 配管後、各補強板を上表の「補強板の取付位置」に示す位置に取り付けます。

平面90°コーナー歩路用フタを取り付けます。

※平面90°コーナー歩路用のフタを取り付けた後に、直線ダクトのフタを取り付けた方がきれいに仕上がります。

※ジョイントレス接続およびフリージョイントS/Hタイプを使用する場合は、接続部にフタ補強板を取り付けます。(600/600Hタイプのみ)



## 4.6.4 RF 平面コーナー45°

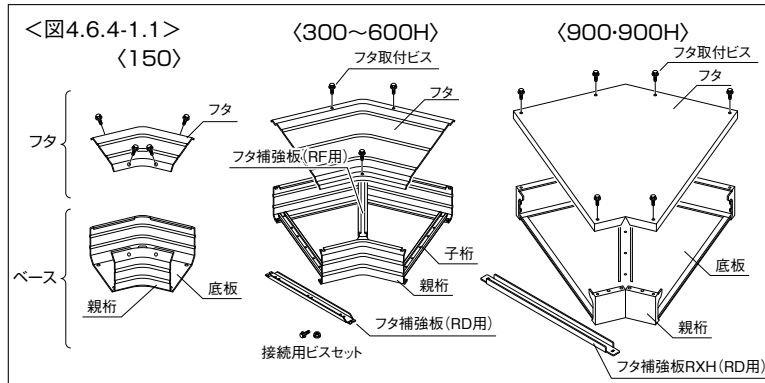
平面タイプの45°エルボです。  
サイズによって取り付け方法が異なりますのでご注意ください。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.6.4-1 製品構成



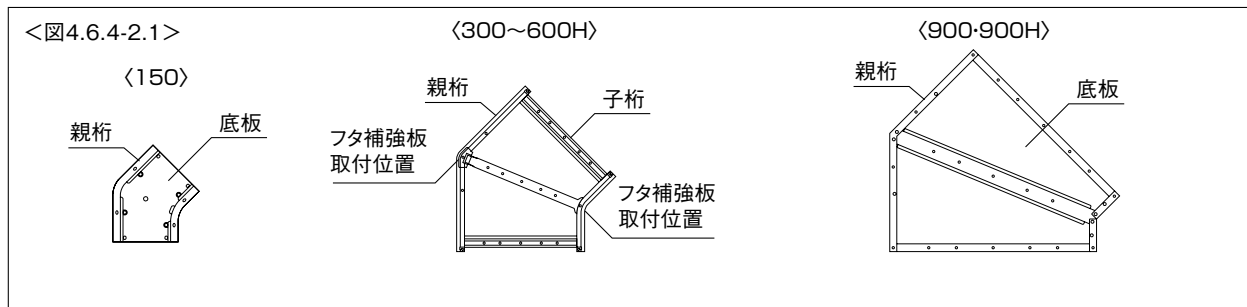
<表4.6.4-2.1> セット内容

タイプ	ベース	フタ	底板	フタ補強板 (RF用/RD用)	フタビス	接続用ビスセット
150	1	1	1	0/0	4	0
300/300H	1	1	0	0/0	3	4
450/450H	1	1	0	0/0	3	4
600/600H	1	1	0	1/1	3	4
900/900H	1	1	2	0/2	6	8

<表4.6.4-2.2> ビス仕様

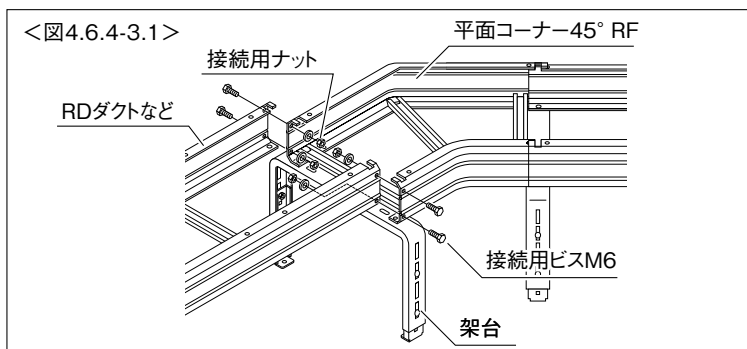
ビス名称	仕様	材質
フタビス	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
接続用ビスセット	セムス⊕六角 M6×15L フランジナット M6	SUS

### 4.6.4-2 フタ補強板取付位置 (ベース天面図)



### 4.6.4-3 RF 組付例(1) <300~600H>

**1** 平面コーナー45°RFを仮置きし、RDダクトを接続します。



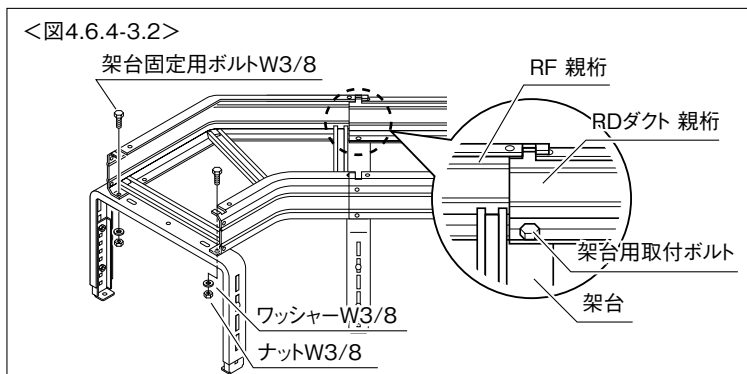
**2** 接続部を架台に固定します。

※架台固定用ボルト、ナット、ワッシャーは架台に付属しています。

配管後、フタ補強板\*とフタを取り付けて完了です。

\*600/600Hタイプのみ

※ジョイントレス接続およびフリージョイントS/Hタイプを使用する場合は、接続部にもフタ補強板を取り付けます。(600/600Hタイプのみ)



施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

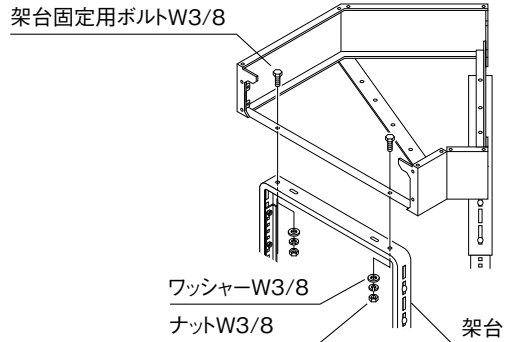
その他

## 4.6.4-4 RF 組付例(2) <900~900H>

- 1** 平面コーナー45°RFの底板上に架台を取り付けます。

※架台固定用ボルト、ナット、ワッシャーは架台に付属しています。

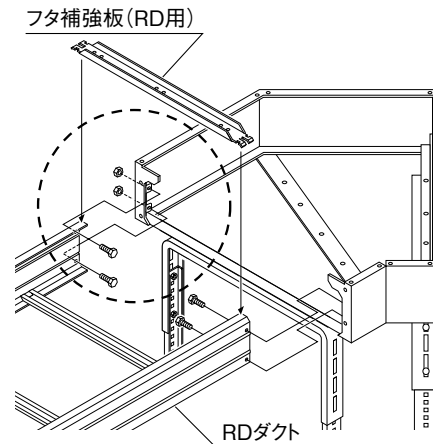
<図4.6.4-4.1>



- 2** RDダクトを差し込んで固定します。配管後、フタ補強板\*とフタを取り付けて完了です。

\*…900・900Hは標準で付属。

<図4.6.4-4.2>

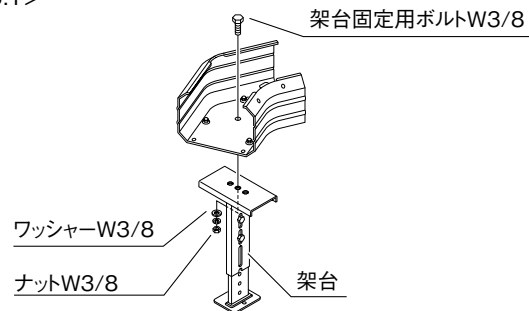


## 4.6.4-5 RF 組付例(3) <150>

- 1** 平面コーナー45°RFの底板上に架台を取り付けます。

※架台固定用ボルト、ナット、ワッシャーは架台に付属しています。

<図4.6.4-5.1>



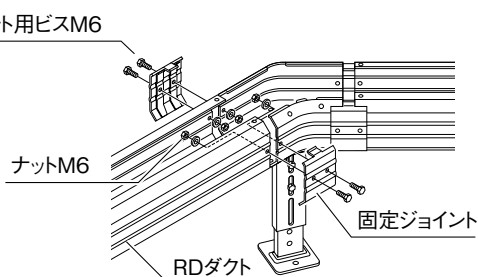
- 2** 平面コーナー45°RFにダクトを固定ジョイントで取り付けます。

参照 【4.5.3】 ジョイント

配管後、フタを閉めて完了です。

※壁面施工時は、ボルトの緩み防止処理が必要です。詳細は【4.3】設置・壁面をご確認ください。

<図4.6.4-5.2>



# 4.6 コーナーパーツ

• 4.6.5 RFW 平面コーナー45° (歩路用)  
(歩路用)

## 4.6.5 RFW 平面コーナー45° (歩路用)

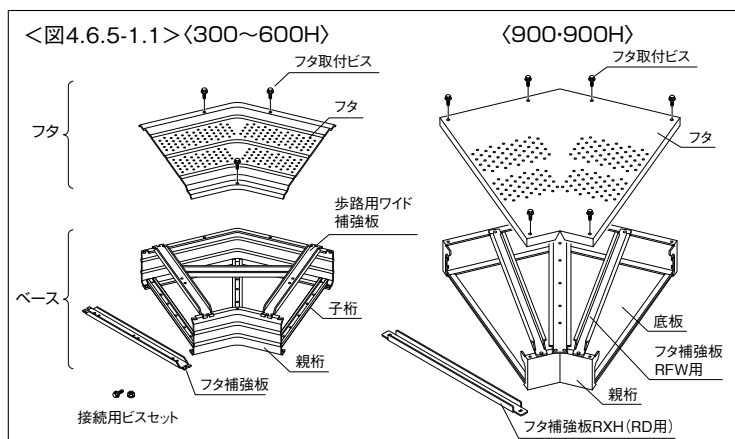
平面タイプの45°エルボ(歩路用)です。  
サイズによって補強板の取り付け位置が異なりますのでご注意ください。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.6.5-1 製品構成



<表4.6.5-1.1> セット内容

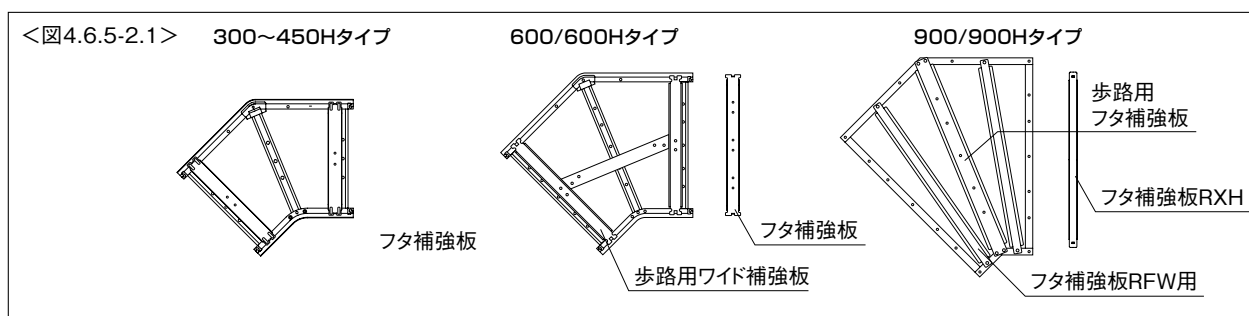
タイプ	フタ	ベース	底板	フタビス	接続用ビスセット
300~450H	1	1	0	3	4
600/600H	1	1	0	3	4
900/900H	1	1	1	6	8

タイプ	歩路用ワイド補強板	歩路用フタ補強板	フタ補強板 RFW用	フタ補強板
300~450H	0	0	0	2
600/600H	1	0	0	1
900/900H	0	1	2	2

<表4.6.5-1.2> ビス仕様

ビス名称	仕様	材質
フタビス	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
接続用ビスセット	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
	フランジナット M6	SUS

### 4.6.5-2 補強板の取付位置

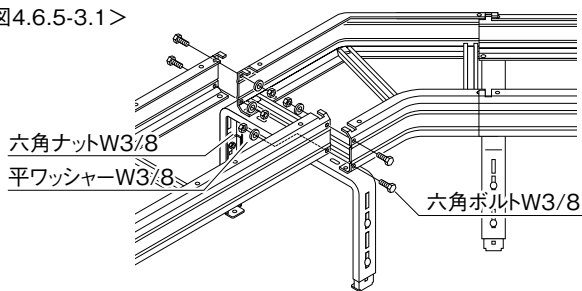


### 4.6.5-3 RFW 組付例 (1) 300~600Hタイプ

**1** ベース親桁同士を20mmずつ重なるようにはめ込んだ後、架台に固定し、ベース親桁の重なった側面同士をビス止めします。

**警告** 架台は必ず2本以上取り付けてください。

<図4.6.5-3.1>

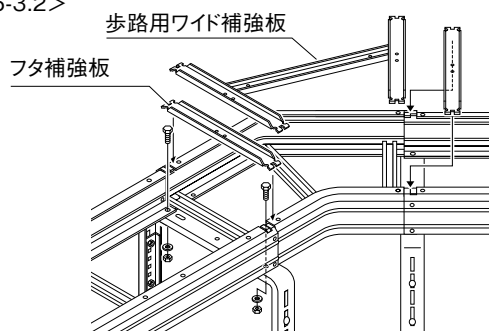


**2** 配管後、各補強板を上表の「補強板の取付位置」に示す位置に取り付けます。

平面45°コーナー歩路用フタを取り付けます。

※平面45°コーナー歩路用のフタを取り付けた後に、直線ダクトのフタを取り付けた方がきれいに仕上がります。

<図4.6.5-3.2>



施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

架台

接続

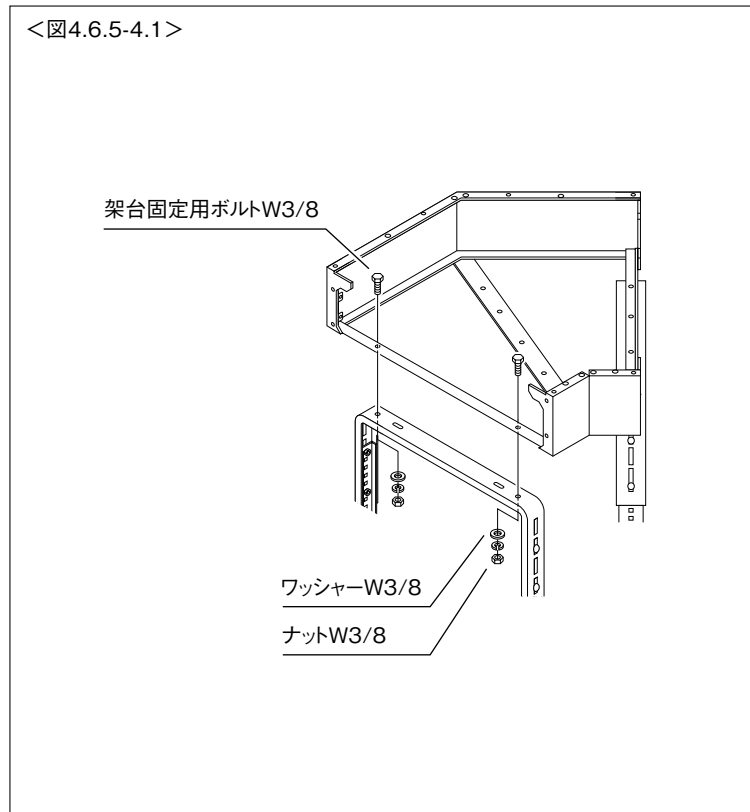
施工手順

## 4.6.5-4 RFW 組付例 (2) 900/900Hタイプ

- 1** 平面コーナー45°(歩路用)RFWの  
底板に架台を取り付けます。

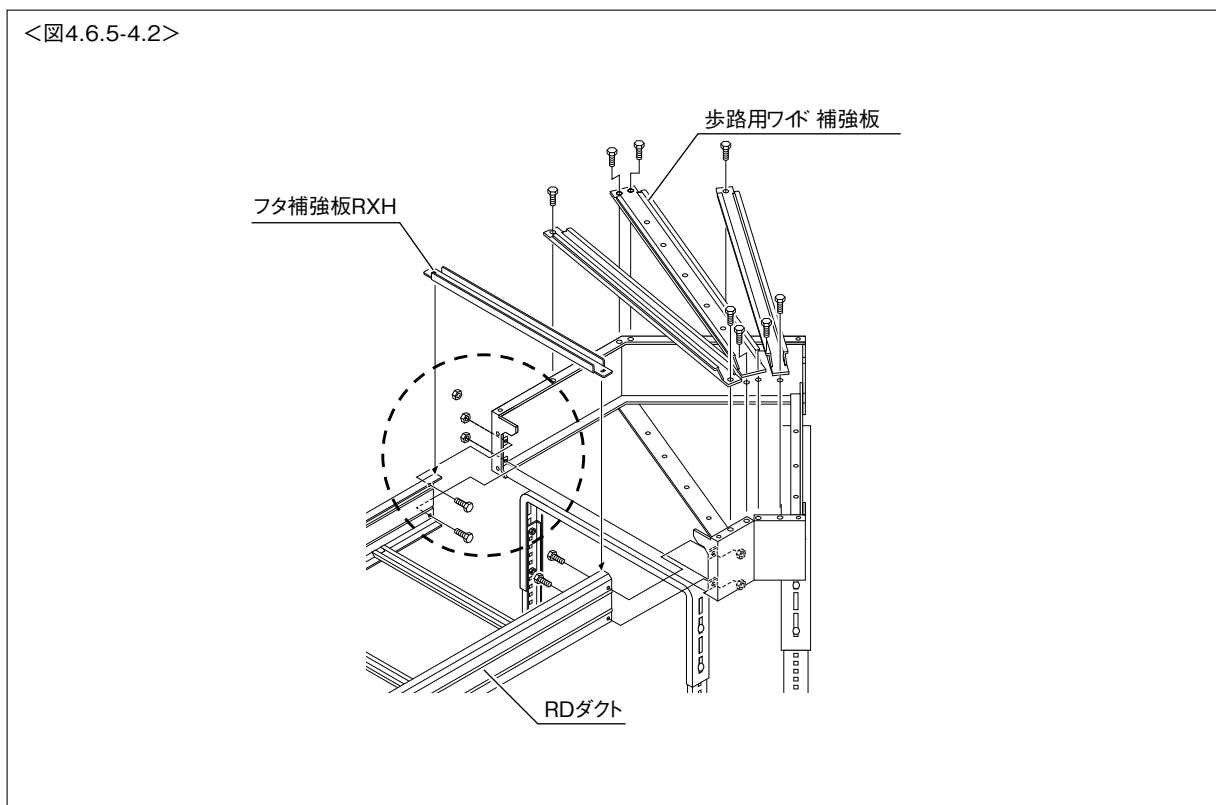
※架台固定用ボルト、ナット、ワッシャーは  
架台に付属しています。

<図4.6.5-4.1>



- 2** RDダクトをベースに取り付けます。  
配管後、各補強板とフタを取り付けて完了です。

<図4.6.5-4.2>



## 4.6.6 RFS フレキシブルコーナー

水平方向に角度調整可能なコーナーパーツです。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

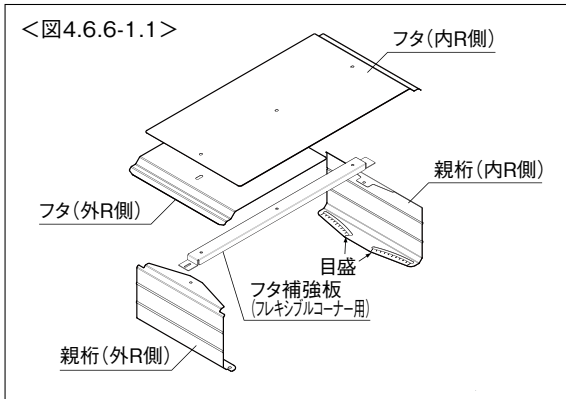
RFS

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.6.6-1 製品構成

<図4.6.6-1.1>



<表4.6.6-1.1> セット内容

タイプ	フタ(内R側)	フタ(外R側)	親桁(内R側)	親桁(外R側)	フタ補強板
300/300H	1	1	1	1	1
450/450H	1	1	1	1	1
600/600H	1	1	1	1	1
900/900H	1	1	1	1	1

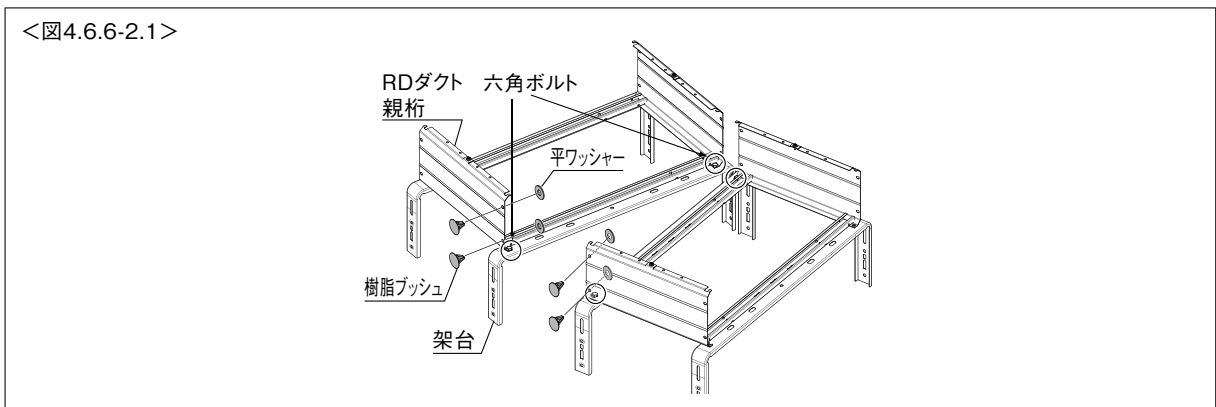
  

タイプ	樹脂 ブッシュ	平ワッシャー M8	セムス <sup>+</sup> 六角 M6×L15
300/300H	4	4	4
450/450H	4	4	4
600/600H	4	4	4
900/900H	4	4	5

### 4.6.6-2 RFS 組付例

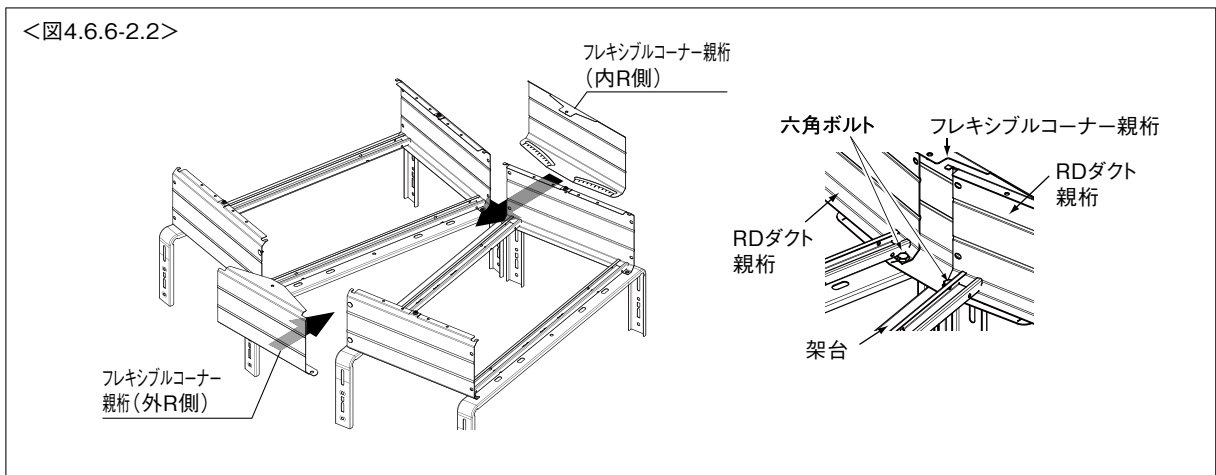
- 1 ダクト親桁と架台を、六角ボルトとナット(架台に付属)で仮固定します。樹脂ブッシュを親桁(外R側)の穴に外側から挿入し、平ワッシャーM8を内側からブッシュのツメにはめ込んで固定します。

<図4.6.6-2.1>



- 2 仮固定している六角ボルトを外して、親桁(内R側、外R側)をダクト親桁と架台の間に差し込んだ後、再度仮固定します。

<図4.6.6-2.2>



施工編

施工の進め方

PSお好み壁貫通

架台

ダクト(直管)

接続

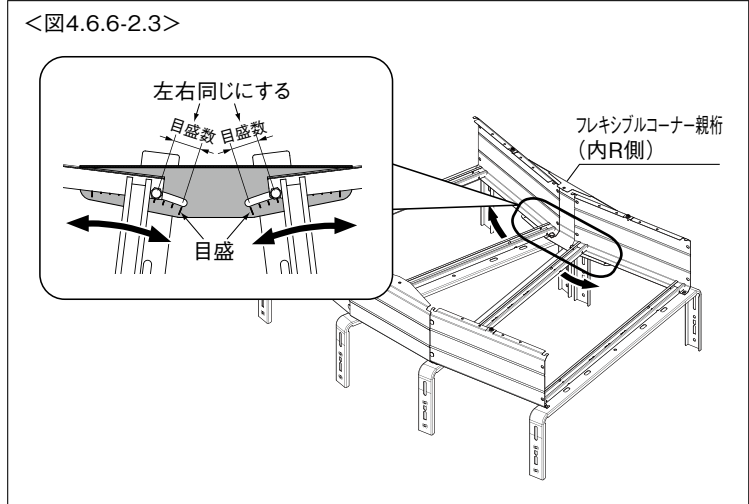
施工手順

コーナーパーツ

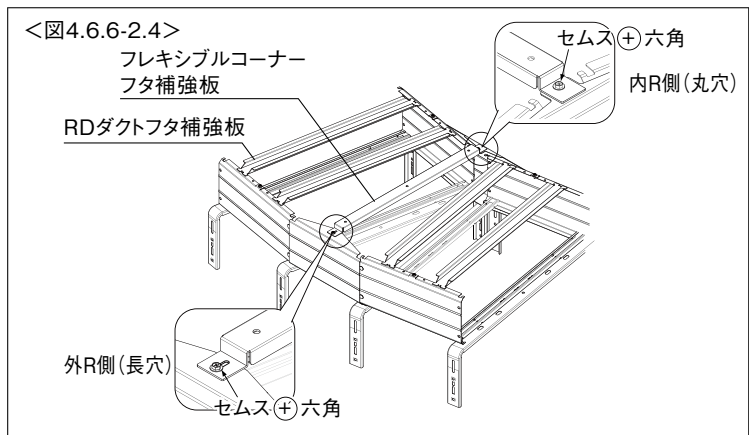
# 4.6 コーナーパーツ

- 3** フレキシブルコーナー親桁(内R側)の目盛を確認しながら、RDダクトの角度調整を行います。  
 角度調整後、仮固定している六角ボルト(内R側、外R側)を締めて固定します。

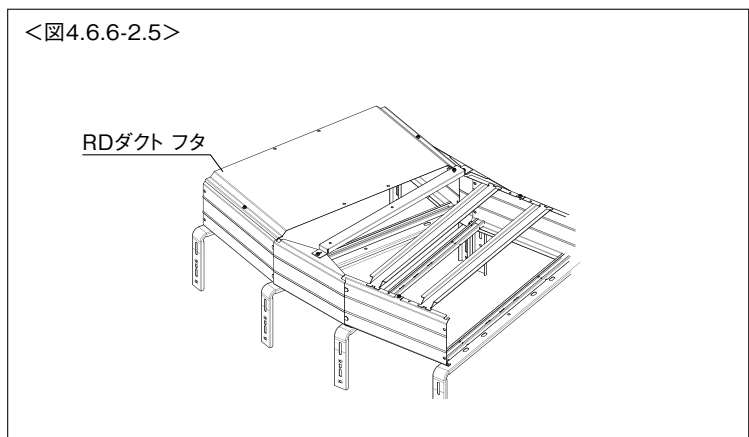
※角度は0°~20°の範囲で調整可能です。  
 RDダクトの角度が両側で同じとなるように端からの目盛の数を揃えてください。



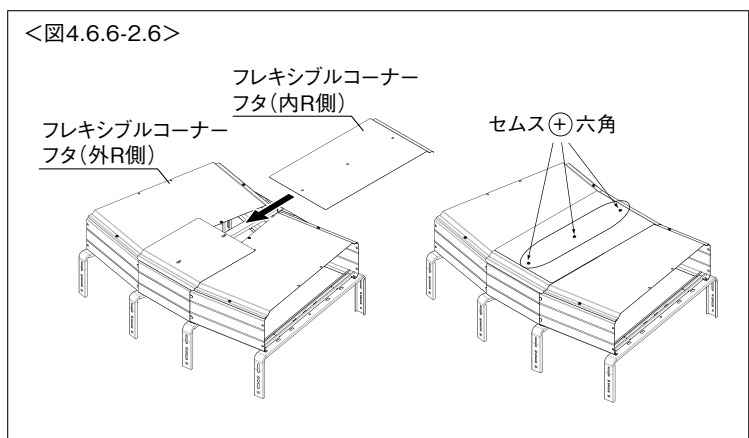
- 4** ダクトのフタ補強板を取付けます。  
 (本数や位置は、ダクトのサイズにより図と異なります。)  
 フレキシブルコーナーのフタ補強板を、内R側(丸穴)、外R側(長穴)の順に付属の六角ボルトで固定します。



- 5** ダクトのフタを取付けます。



- 6** フレキシブルコーナーのフタを、フタ(外R側)、フタ(内R側)の順に乗せ、付属の六角ボルトで固定します。



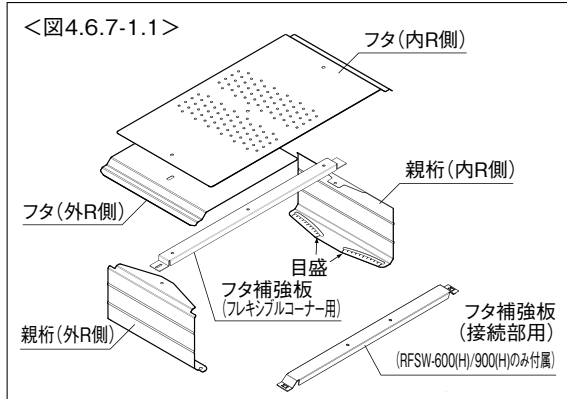
## 4.6.7 RFSW フレキシブルコーナー(歩路用)

水平方向に各痔調整可能なコーナーパーツです。  
 ※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
 ダウンロード用  
 QRコード



### 4.6.7-1 製品構成



<表4.6.7-1.1> セット内容

タイプ	フタ (内R側)	フタ (外R側)	親桁 (内R側)	親桁 (外R側)	フタ 補強板	フタ補強板 (接続部用)
300/300H	1	1	1	1	1	—
450/450H	1	1	1	1	1	—
600/600H	1	1	1	1	1	1
900/900H	1	1	1	1	1	1

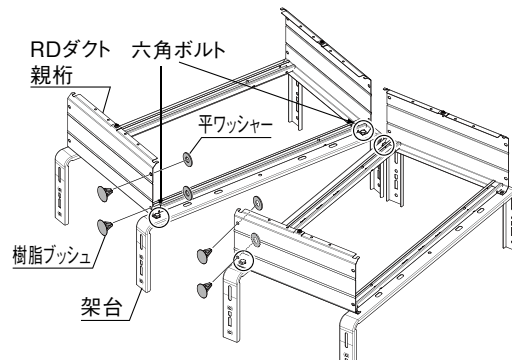
  

タイプ	樹脂 ブッシュ	平ワッシャー M8	低頭 ⊕ M6×L15	平ワッシャー M6	セムス ⊕ 六角 M6×L15
300/300H	4	4	—	—	4
450/450H	4	4	—	—	4
600/600H	4	4	4	4	4
900/900H	4	4	4	4	5

### 4.6.7-2 RFSW 組付例

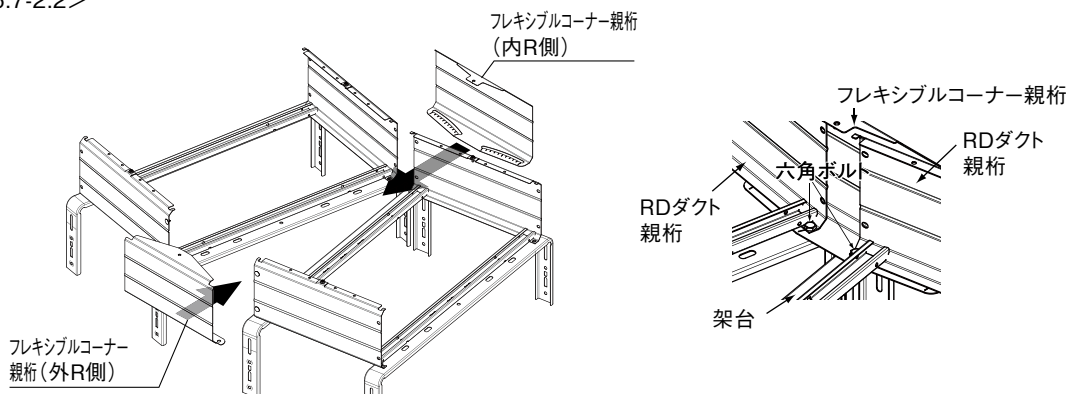
- 1 ダクト親桁と架台を、六角ボルトとナット(架台に付属)で仮固定します。樹脂ブッシュを親桁(外R側)の穴に外側から挿入し、平ワッシャーM8を内側からブッシュのツメにはめ込んで固定します。

<図4.6.7-2.1>



- 2 仮固定している六角ボルトを外して、親桁(内R側、外R側)をダクト親桁と架台の間に差し込んだ後、再度仮固定します。

<図4.6.7-2.2>



施工編  
 施工の進め方  
 PSおよび壁貫通  
 架台  
 ダクト(直管)  
 施工手順  
 接続  
 コーナーパーツ  
 底板  
 その他

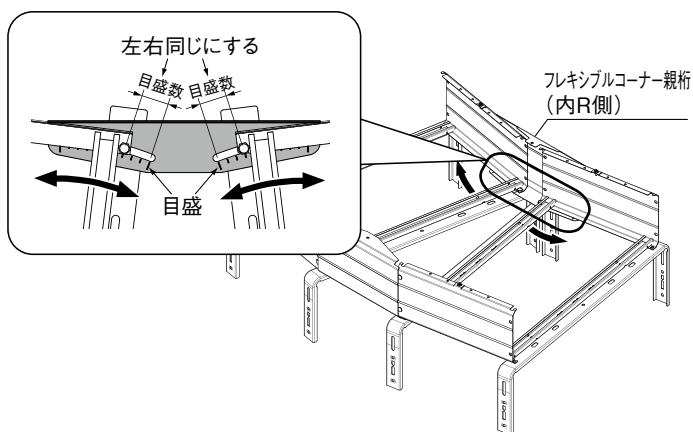
# 4.6 コーナーパーツ

• 4.6.7 RFSW フレキシブルコーナー〔施工編〕

- 3** フレキシブルコーナー親桁(内R側)の目盛を確認しながら、RDダクトの角度調整を行います。  
 角度調整後、仮固定している六角ボルト(内R側、外R側)を締めて固定します。

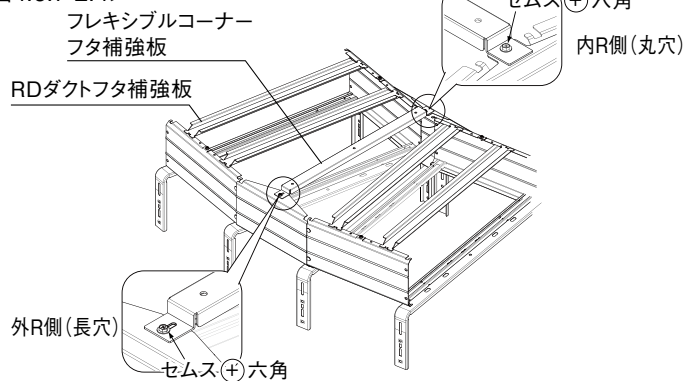
※角度は0°~20°の範囲で調整可能です。  
 RDダクトの角度が両側で同じとなるように端からの目盛の数を揃えてください。

<図4.6.7-2.3>



- 4** ダクトのフタ補強板を取付けます。  
 (本数や位置は、ダクトのサイズにより図と異なります。)  
 フレキシブルコーナーのフタ補強板を、内R側(丸穴)、外R側(長穴)の順に付属の六角ボルトで固定します。

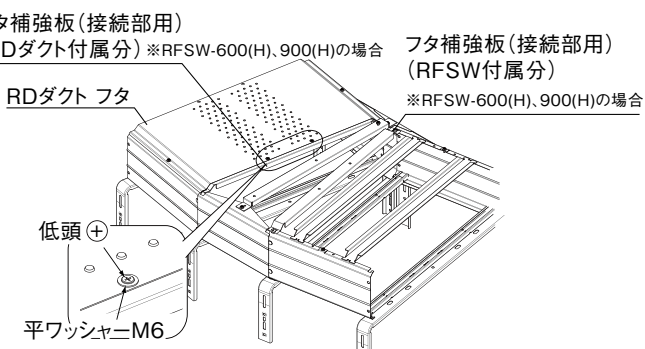
<図4.6.7-2.4>



- 5** ダクトのフタを取付けます。  
 ・RFSW-300(H)/450(H)の場合  
 ダクトに付属の六角ボルトで親桁に固定します。  
 ・RFSW-600(H)/900(H)の場合  
 フタ補強板(接続部用)を2本乗せた後、ダクトに付属の六角ボルトで親桁に固定し、付属のボルトナットでフタ補強板に固定します。

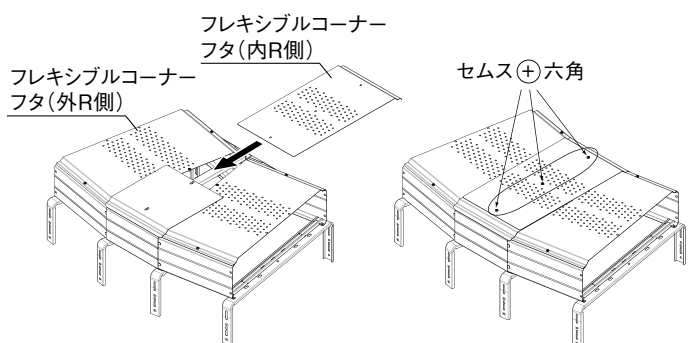
※フタ補強板(接続部用)は、フレキシブルコーナーの付属品(1本)と、ダクトの付属品(1本)をご使用ください。

<図4.6.7-2.5>



- 6** フレキシブルコーナーのフタを、フタ(外R側)、フタ(内R側)の順に乗せ、付属の六角ボルトで固定します。

<図4.6.7-2.6>



施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

## 4.6.8 RT T字型分岐ジョイント

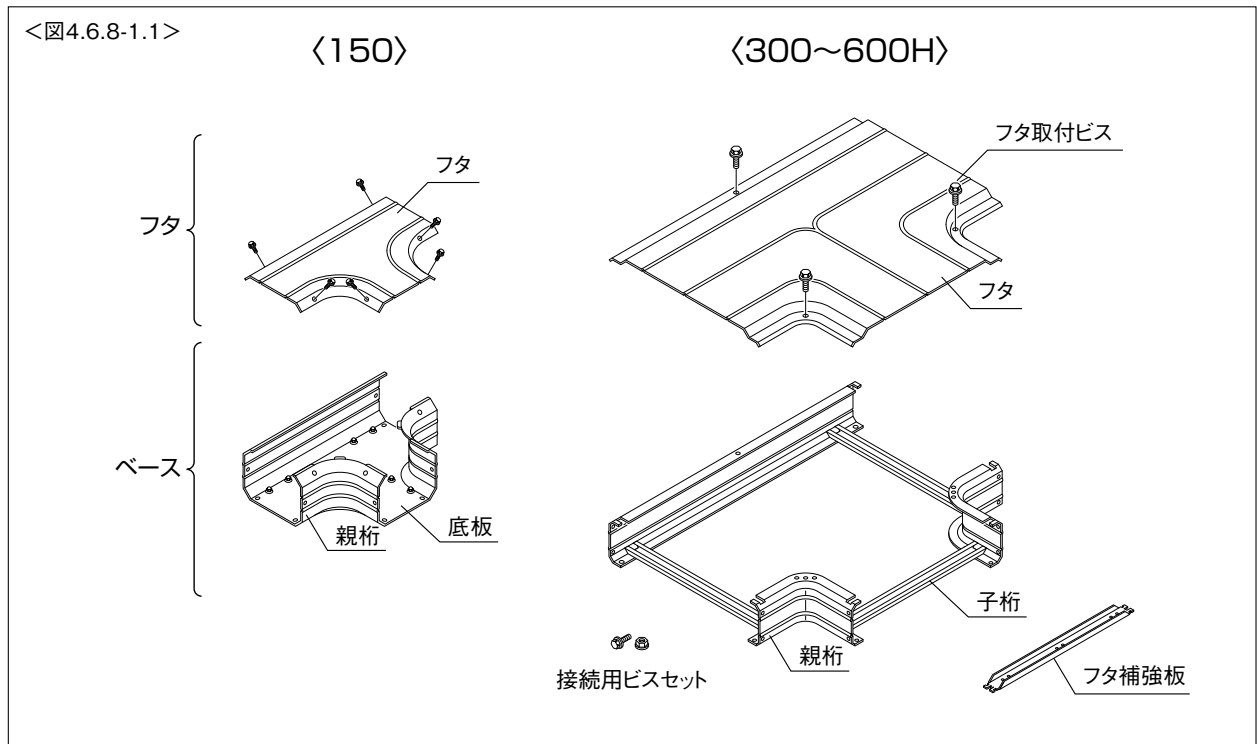
平面タイプの分岐コーナーパーツです。  
サイズによって取り付け方法が異なりますのでご注意ください。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.6.8-1 製品構成



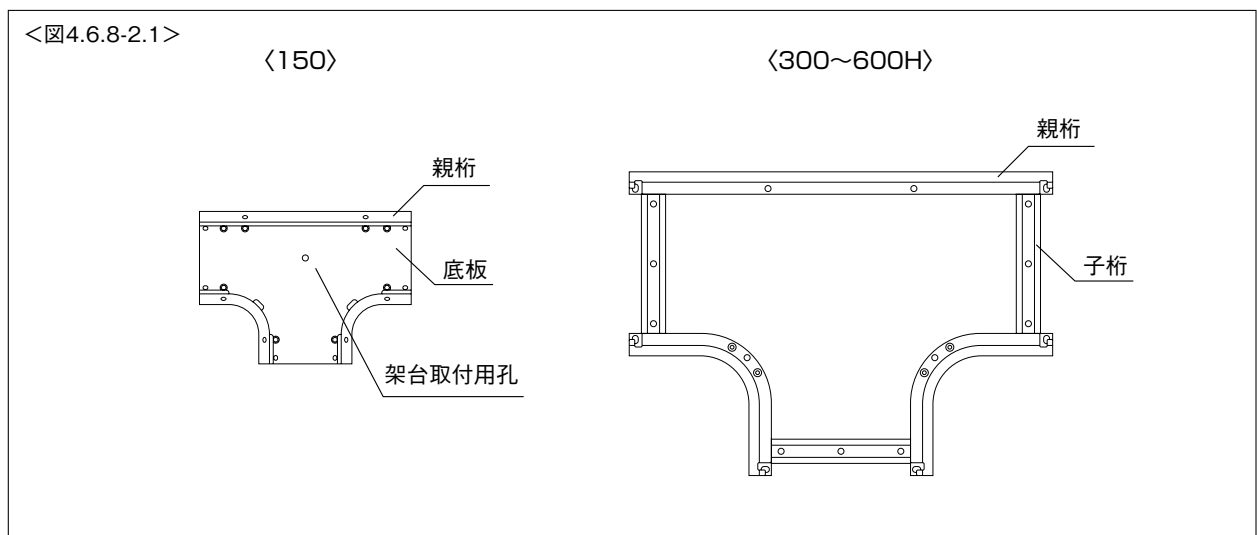
<表4.6.8-1.1> セット内容

タイプ	ベース	フタ	底板	フタ補強板	フタビス	接続用ビスセット
150	1	1	1	0	6	0
300/300H	1	1	0	0	4	4
450/450H	1	1	0	0	4	4
600/600H	1	1	0	2	3	4

<表4.6.8-1.2> ビス仕様

ビス名称	仕様	材質
フタビス	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
接続用ビスセット	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
	フランジナット M6	SUS

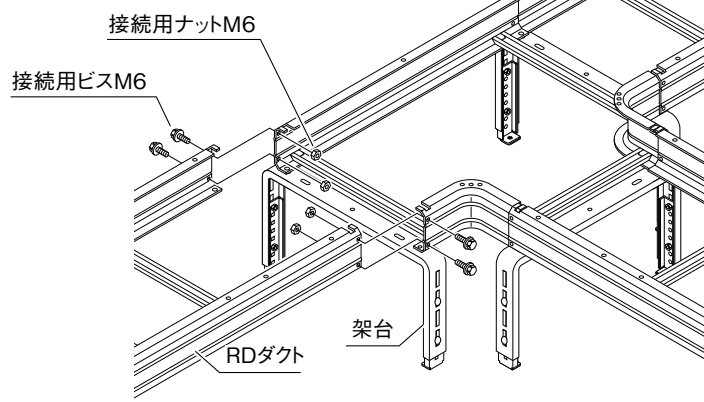
### 4.6.8-2 ベース天面図



## 4.6.8-3 RT 組付例(1) <300~600H>

**1** RTを仮置き、ダクトを接続します。

<図4.6.8-3.1>



**2** 接続部を架台に固定します。

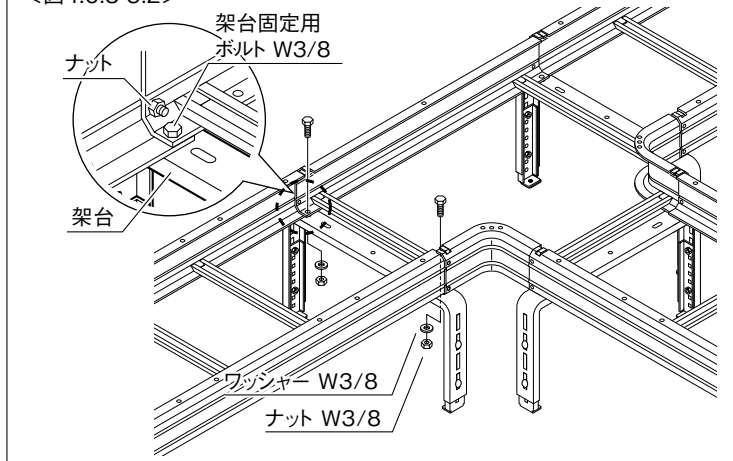
※架台固定用ボルト、ナット、ワッシャーは架台に付属しています。

配管後、フタ補強板\*を取り付け、フタを閉めて完了です。

\*600/600Hタイプのみ

※ジョイントレス接続およびフリージョイントS/Hタイプを使用する場合は、接続部にもフタ補強板を取り付けます。(600/600Hタイプのみ)

<図4.6.8-3.2>

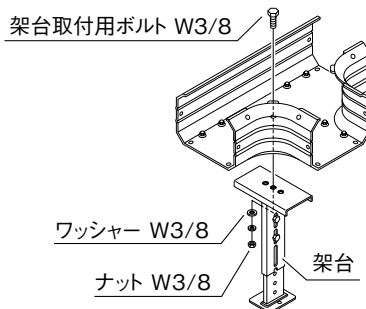


## 4.6.8-4 RT 組付例 (2) <150>

**1** 架台を取り付けます。

※架台固定用ボルト、ナット、ワッシャーは架台に付属しています。

<図4.6.8-4.1>

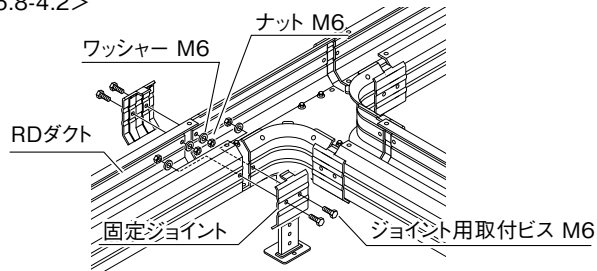


**2** RTに固定ジョイントでRDダクトを接続します。

【参照】 [4.5.3] ジョイント

配管後、フタを閉めて完了です。

<図4.6.8-4.2>



## 4.6.9 RTW T字型分岐ジョイント(歩路用)

平面タイプの分岐コーナーパーツ(歩路用)です。  
サイズによって補強板の取り付け位置が異なりますのでご注意ください。

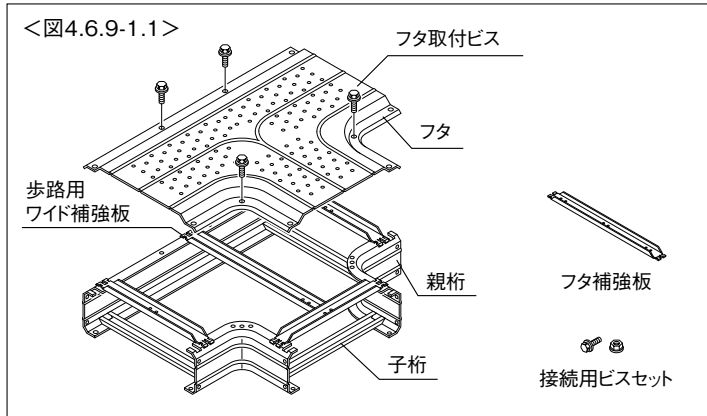
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

RTW

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.6.9-1 製品構成



<表4.6.9-1.1> セット内容

タイプ	フタ	ベース	底板	フタビス
300/300H	1	1	0	4
450/450H	1	1	0	4
600/600H	1	1	0	3

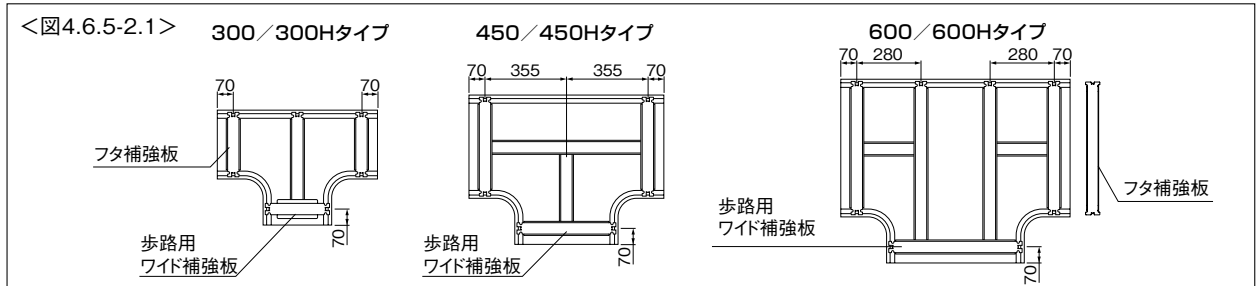
  

タイプ	接続用ビスセット	歩路用ワイド補強板	フタ補強板
300/300H	8	1	2
450/450H	8	1	0
600/600H	8	1	2

<表4.6.9-1.2> ビス仕様

ビス名称	仕様	材質
フタビス	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
接続用ビスセット	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
	フランジナット M6	SUS

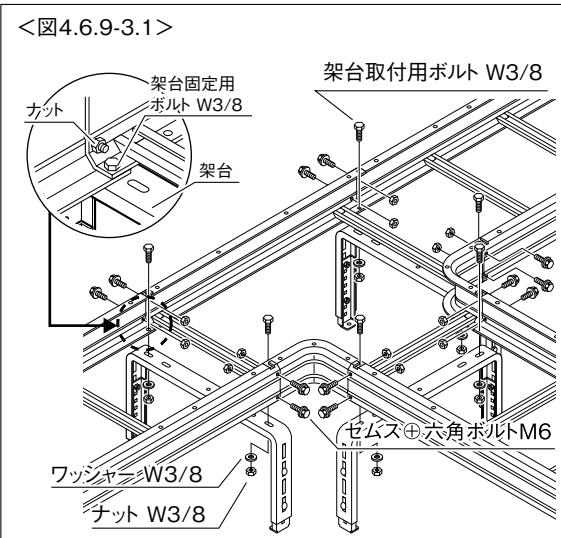
### 4.6.9-2 補強板の取付位置



### 4.6.9-3 RTW 組付例

**1** ベース親桁同士を20mmずつ重なるようにはめ込んだ後、架台に固定し、ベース親桁の重なった側面同士をビス止めします。

**警告** 架台は必ず3本以上取り付けてください。

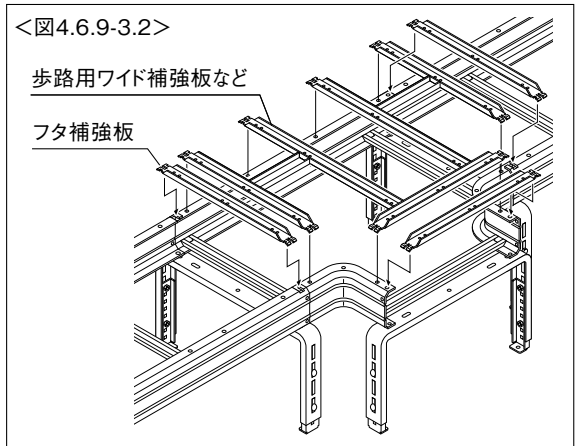


**2** 配管後、各補強板を上表の「補強板の取付位置」に示す位置に取り付けます。

T字分岐ジョイント歩路用フタを取り付けます。

※T字分岐ジョイント歩路用のフタを取り付けた後に、直線ダクトのフタを取り付けた方がきれいに仕上がります。

※ジョイントレス接続およびフリージョイントS/Hタイプを使用する場合は、接続部にフタ補強板を取り付けます。(600/600Hタイプのみ)



施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

## 4.6.10 RXN/RX 十字型分岐ジョイント

平面タイプの分岐コーナーパーツです。  
サイズによって取り付け方法が異なりますのでご注意ください。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

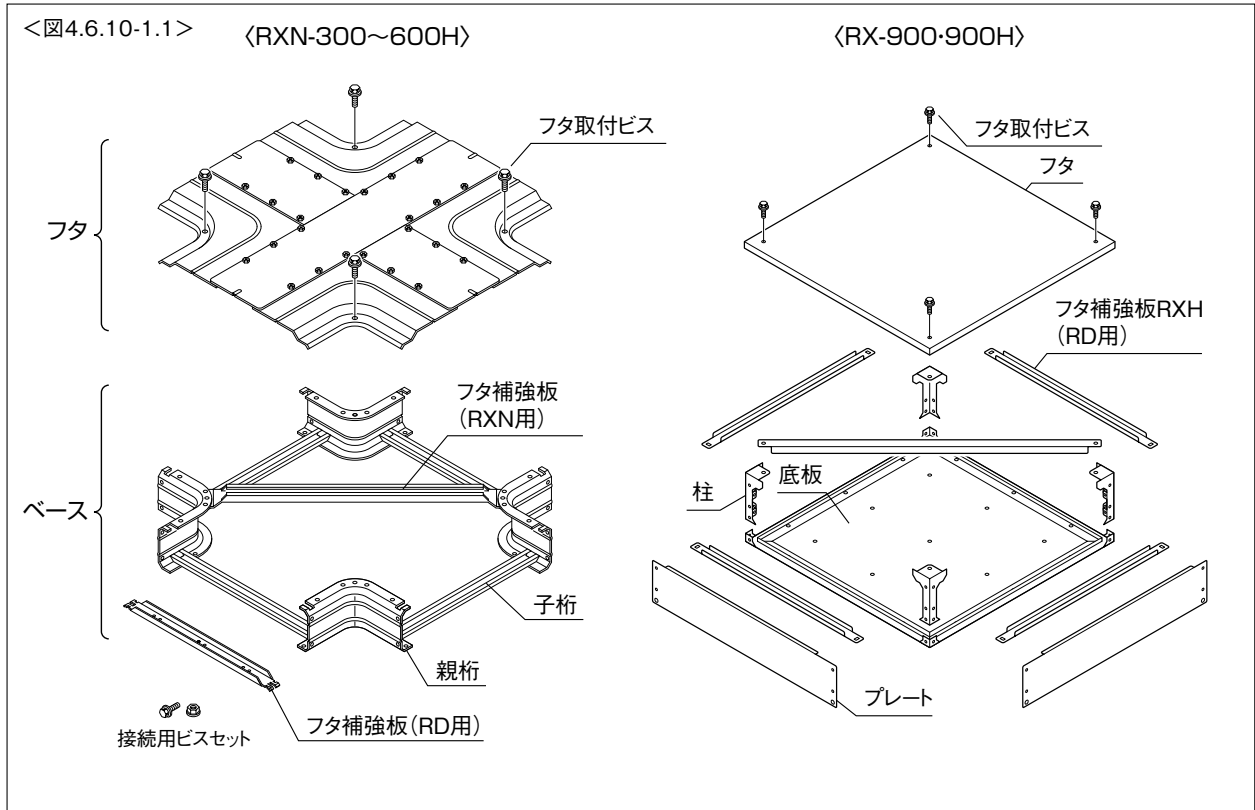
接続

コーナーパーツ

底板

その他

### 4.6.10-1 製品構成



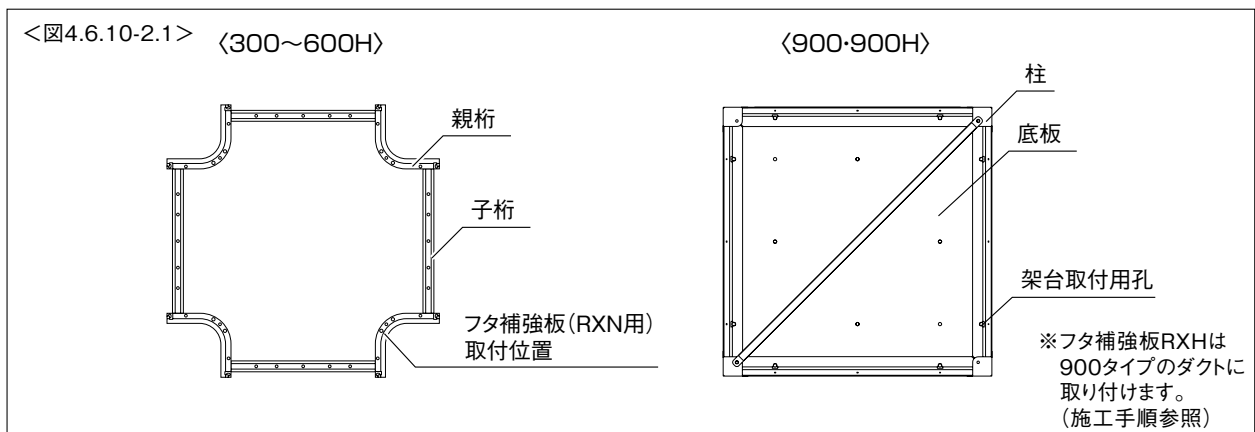
<表4.6.10-1.1> セット内容

タイプ	フタ	ベース	底板	側板	フタ補強板 RD用/RXN用	フタ ビス	側板 ビス	接続用 ビスセット
300/300H	1	1	0	0	0/0	4	0	12
450/450H	1	1	0	0	0/1	4	0	12
600/600H	1	1	0	0	3/1	4	0	12
900/900H	1	1	1	2	4/1	4	16	16

<表4.6.10-1.2> ビス仕様

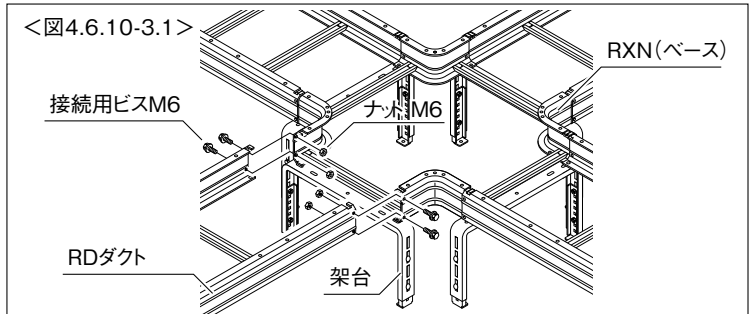
ビス名称	仕様	材質
フタビス	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
接続用ビスセット	セムス⊕六角 M6×15L フランジナット M6	SUS

### 4.6.10-2 ベース天面図



## 4.6.10-3 RXN 組付例 <300~600H>

- 1** 架台を仮置き、RXNとダクトを接続します。

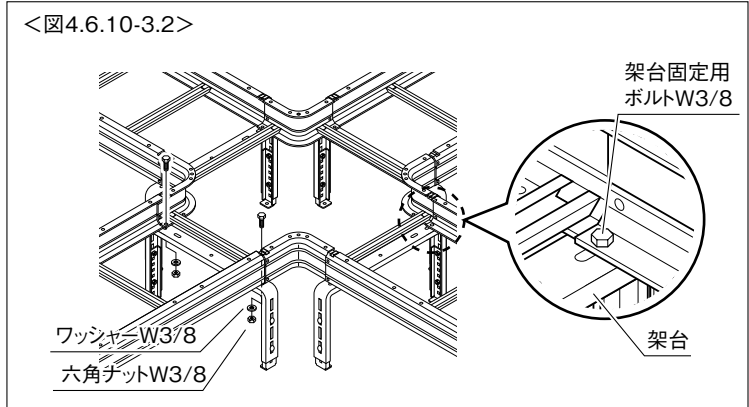


- 2** RXNを架台に固定します。

※架台固定用ボルト、ナット、ワッシャーは架台に付属しています。  
※異径ジョイントを使う場合は、子桁に架台を取り付けてください。

配管後、フタ補強板\*を取り付けフタを閉めて完了です。

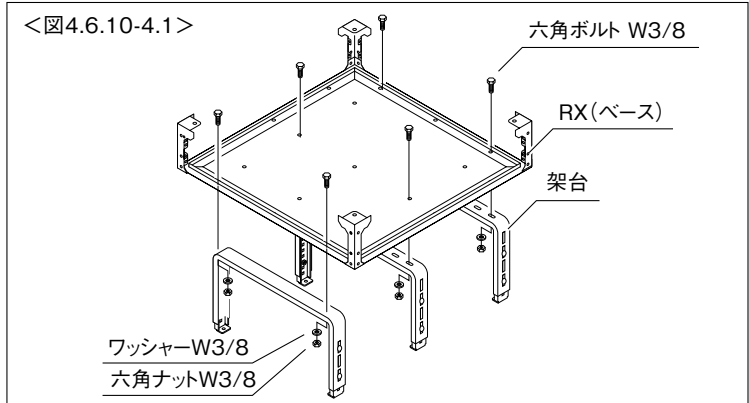
\*600/600Hタイプのみ  
※ジョイントレス接続およびフリージョイントS/Hタイプを使用する場合は、接続部にもフタ補強板を取り付けます。(600/600Hタイプのみ)



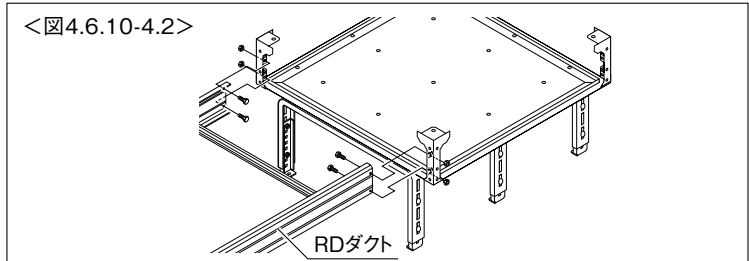
## 4.6.10-4 RX 組付例 <900・900H>

- 1** RXに架台を取り付けます。

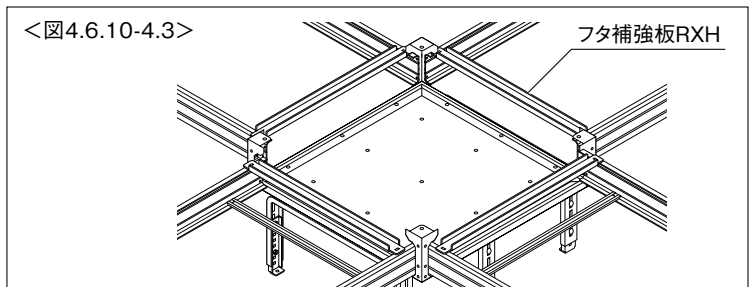
※架台固定用ボルト、ナット、ワッシャーは架台に付属しています。



- 2** RDダクトをベースに取り付けます。



- 3** 配管後、分岐ダクトが900または900Hの場合は、付属のフタ補強板RXHをダクト端部に取り付けて、フタを閉めて完了です。



施工編  
施工の進め方  
PSおよび壁貫通  
架台  
ダクト(直管)  
施工手順  
接続  
コーナーパーツ  
底板  
その他

# 4.6 コーナーパーツ

• 4.6.11 RXNW/RXW

〔施工編〕

十字型分岐ジョイント(歩路用)

施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

## 4.6.11 RXNW/RXW 十字型分岐ジョイント(歩路用)

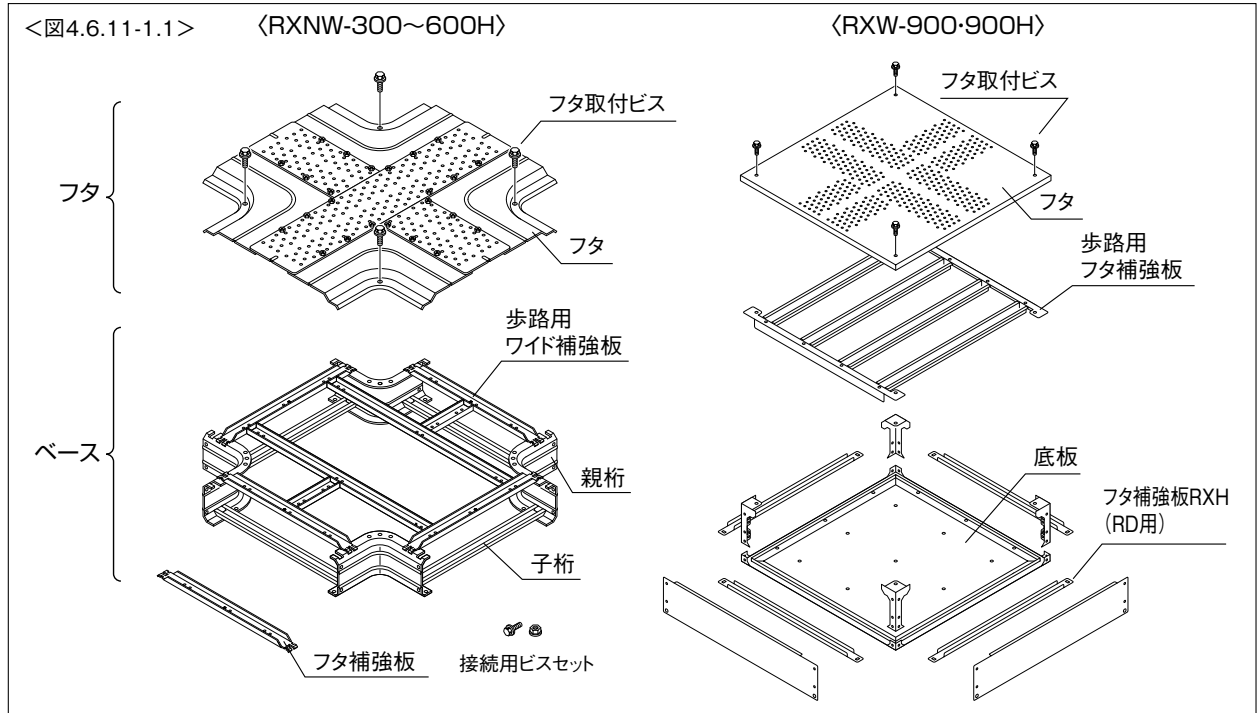
平面タイプの分岐コーナーパーツです。  
サイズによって補強板の取り付け位置が異なりますのでご注意ください。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.6.11-1 製品構成



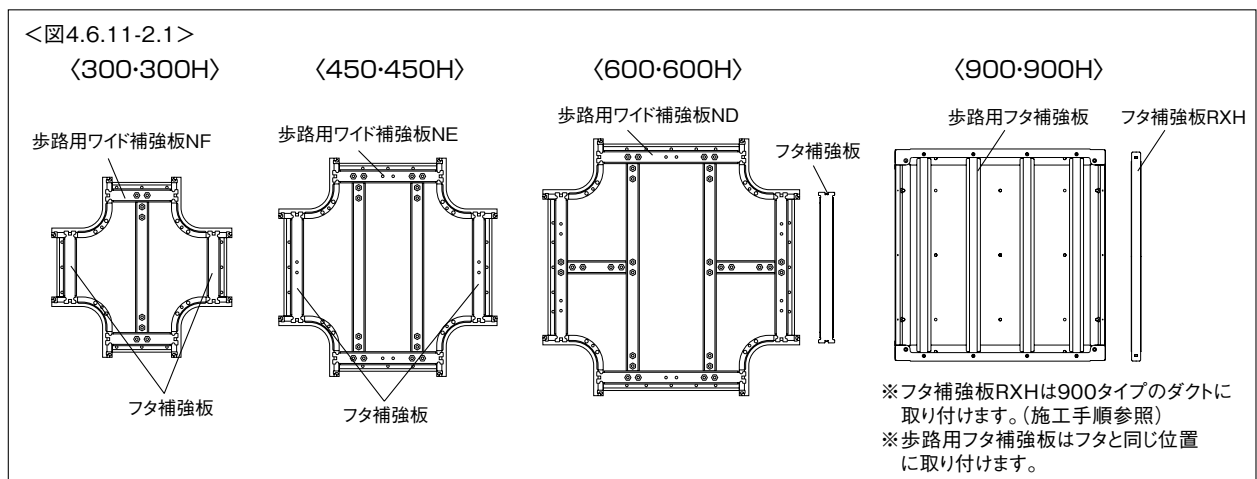
<表4.6.11-1.1> セット内容

タイプ	フタ	ベース	底板	側板	フタ補強板	フタビス	接続用ビスセット	側板ビス	歩路用ワイド補強板ND	歩路用ワイド補強板NE	歩路用ワイド補強板NF	歩路用フタ補強板
300/300H	1	1	0	0	2	4	12	0	0	0	1	0
450/450H	1	1	0	0	2	4	12	0	0	1	0	0
600/600H	1	1	0	0	3	4	12	0	1	0	0	0
900/900H	1	1	1	2	4	4	16	16	0	0	0	1

<表4.6.11-1.2> ビス仕様

ビス名称	仕様	材質
フタビス	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
接続用ビスセット	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
	フランジナット M6	SUS

### 4.6.11-2 フタ補強板取付位置 (ベース天面図)



# 4.6 コーナーパーツ

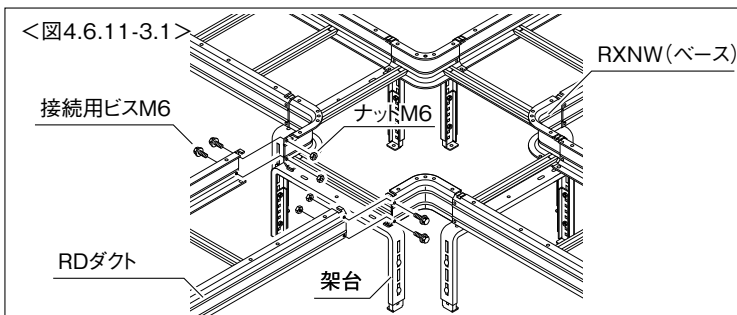
4.6.11 RXNW/RXW

(施工編)

十字型分岐ジョイント(歩路用)

## 4.6.11-3 RXNW 組付例 <300~600H>

- 1** 架台を仮置きし、RXNWとダクトを接続します。

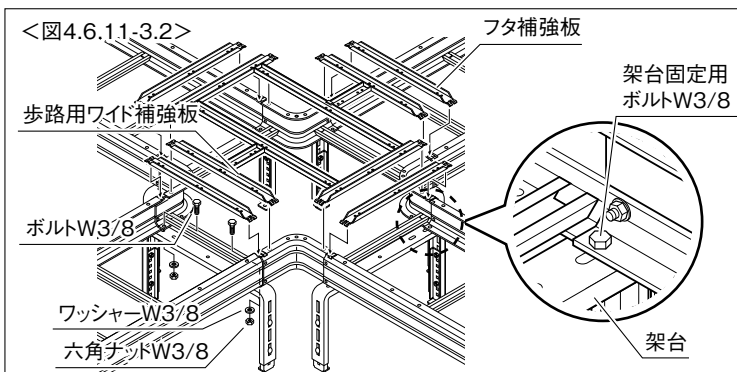


- 2** RXNWを架台に固定します。

※架台固定用ボルト、ナット、ワッシャーは架台に付属しています。  
 ※異径ジョイントを使う場合は、子桁に架台を取り付けてください。

配管後、各補強板を取り付けフタを閉めて完了です。

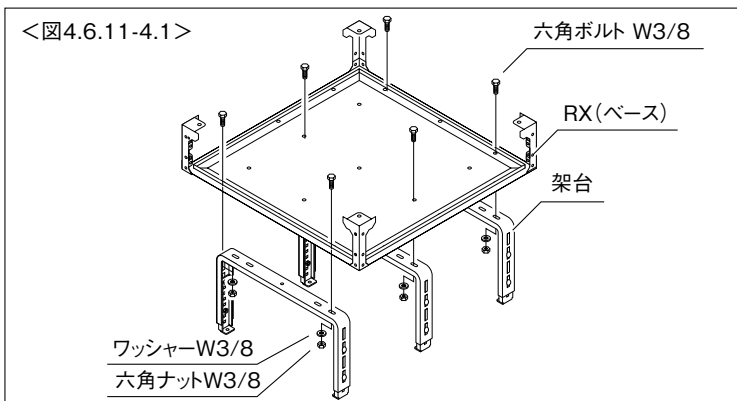
※ジョイントレス接続およびフリージョイントS/Hタイプを使用する場合は、接続部にもフタ補強板を取り付けます。(600/600Hタイプのみ)



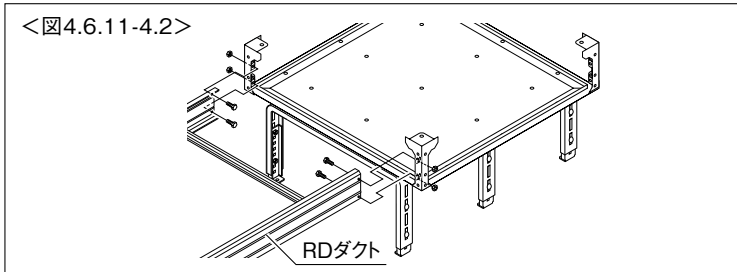
## 4.6.11-4 RXW 組付例 <900・900H>

- 1** RXWに架台を取り付けます。

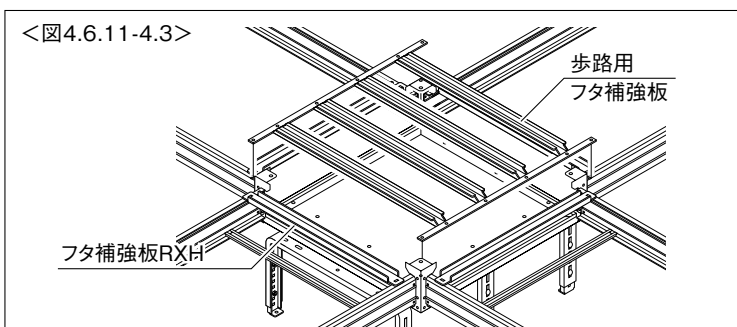
※架台固定用ボルト、ナット、ワッシャーは架台に付属しています。



- 2** RDダクトをベースに取り付けます。



- 3** 配管後、各補強板を取り付けます。分岐ダクトが900または900Hの場合は、付属のフタ補強板RXHをダクト端部に取り付けて、フタを閉めて完了です。



施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

# 4.6 コーナーパーツ

• 4.6.12 RCI 立面コーナー90°〔施工編〕  
〔立上り〕

施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

## 4.6.12 RCI 立面コーナー90°(立上り)

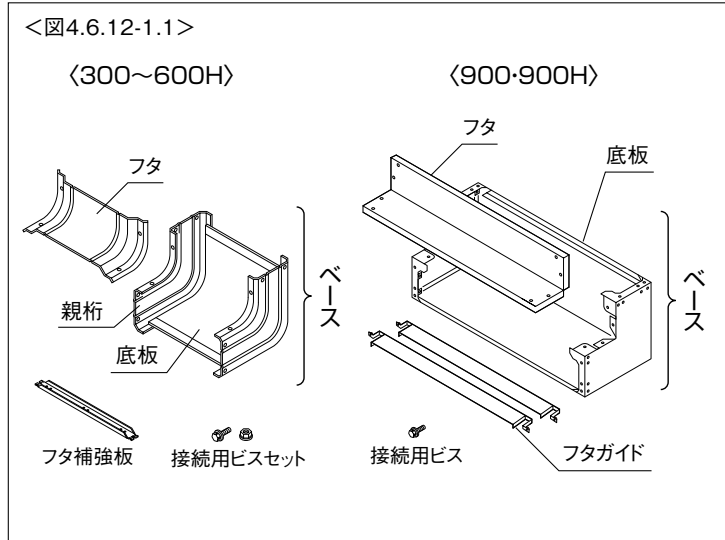
300~900H用立面エルボ90°(立上り)です。  
300~600Hと900・900Hとでは、施工方法が異なりますのでご注意ください。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.6.12-1 製品構成



<表4.6.12-1-2> セット内容

タイプ	フタ	ベース	底板	フタ補強板 /フタガイド	フタ ビス*	接続用 ビス
300/300H	1	1	1	0	4	4
450/450H	1	1	1	0	4	4
600/600H	1	1	1	1	4	4
900/900H	1	1	1	2	8	8*

\*本体に組付状態で出荷

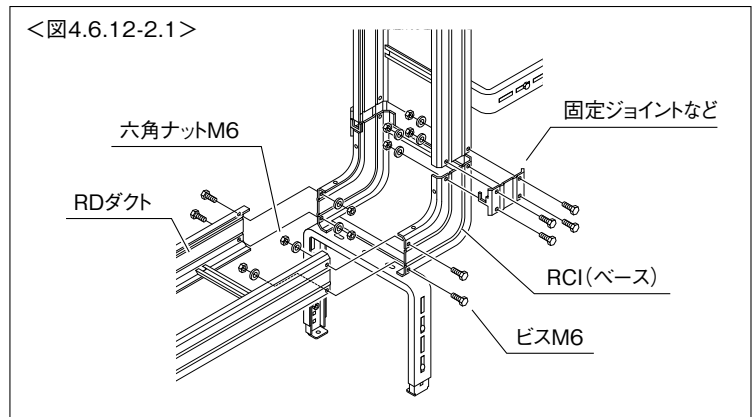
<表4.6.12-1-3> ビス仕様

ビス名称		仕様	材質
フタビス		セムス⊕六角 M6×15L	SUS
接続用 ビス	300~900H	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
		フランジナット M6	SUS

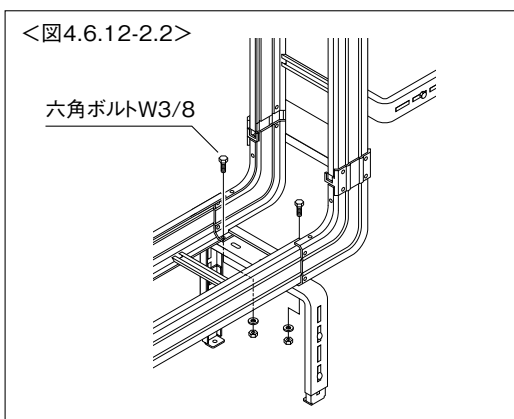
### 4.6.12-2 RCI 組付例(1) <300~600H>

#### 1 ベースをダクトに取り付けます。

※作業中はタレないように架台などの上に仮置きしてください。

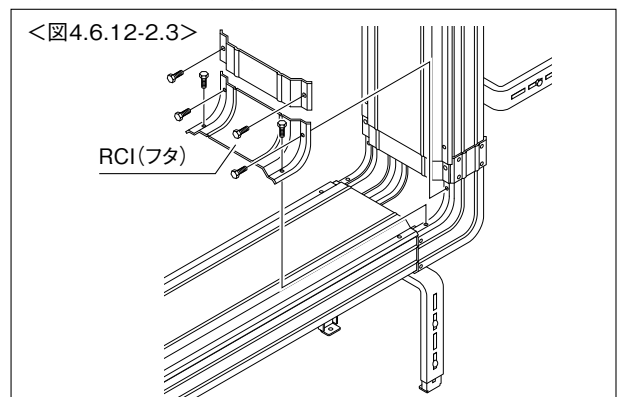


#### 2 架台に固定します。



#### 3 配管後、フタを取り付けて完了です。

※ジョイントレス接続およびフリージョイントS/Hタイプを使用する場合は、水平部の接続部にフタ補強板を取り付けます。(600/600Hタイプのみ)

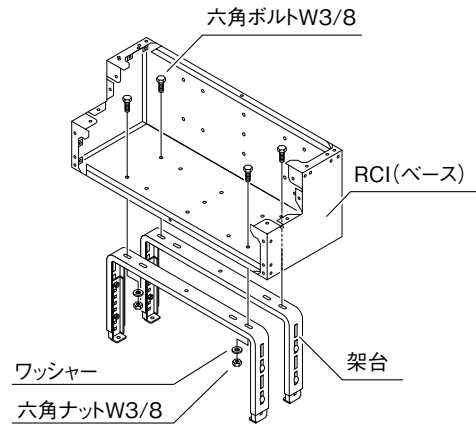


施工編

4.6.12-3 RCI 組付例(2) <900・900H>

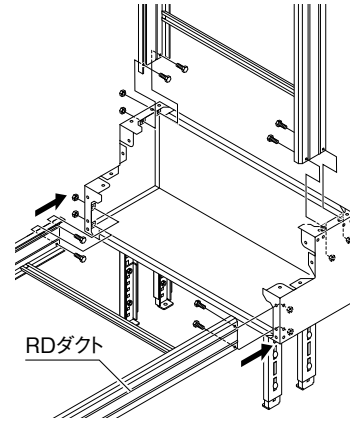
**1** ベースを架台に取り付けます。

<図4.6.12-3.1>



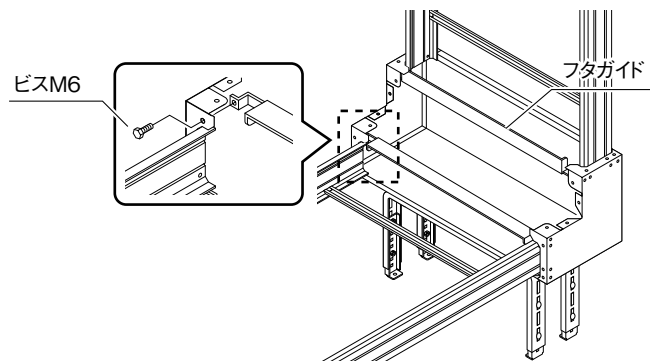
**2** ダクトをベースを差し込みます。

<図4.6.12-3.2>



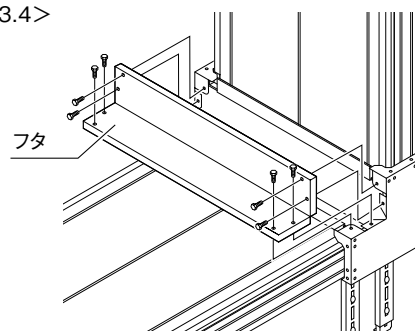
**3** 配管後、RCIにフタガイドを取り付けます。

<図4.6.12-3.3>



**4** ダクトのフタを取付けた後、フタを取り付けて完了です。

<図4.6.12-3.4>



施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

## 4.6.13 RCO 立面コーナー90°(立下り)

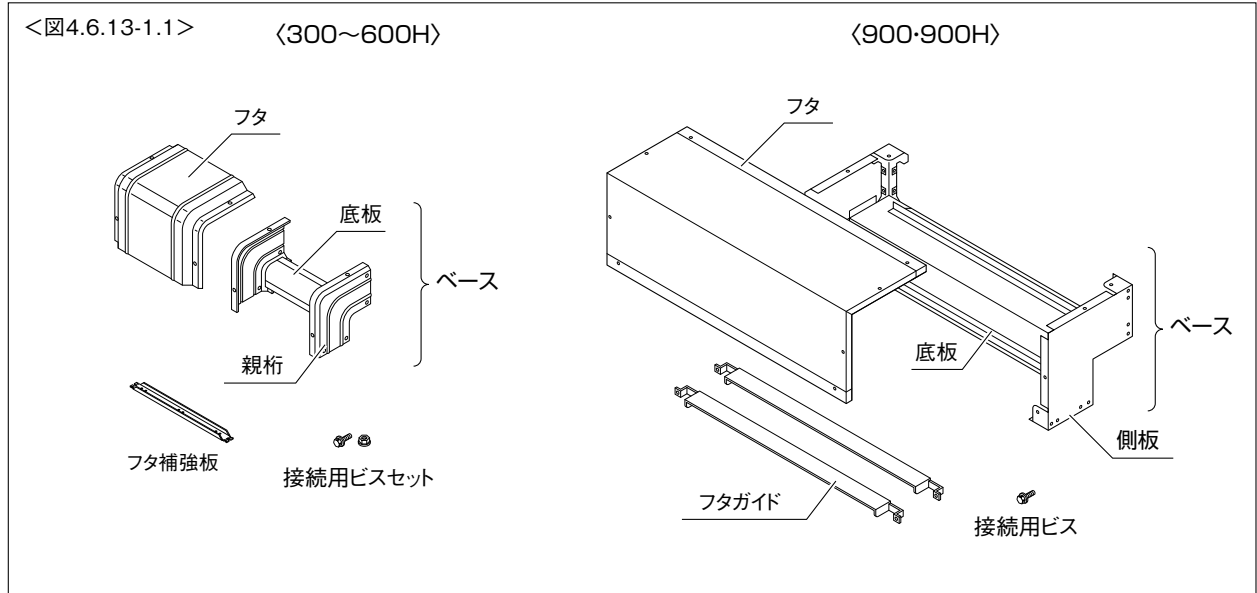
300~900H用立面エルボ90°(立下り)です。  
300~600Hと900・900Hとは、施工方法が異なりますのでご注意ください。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.6.13-1 製品構成



<表4.6.13-1.1> セット内容

タイプ	フタ	ベース	底板	フタ補強板 /フタガイド	フタビス*	接続用 ビス
300/300H	1	1	1	0	4	4
450/450H	1	1	1	0	4	4
600/600H	1	1	1	1	4	4
900/900H	1	1	1	2	10	8*

\*本体に組付状態で出荷

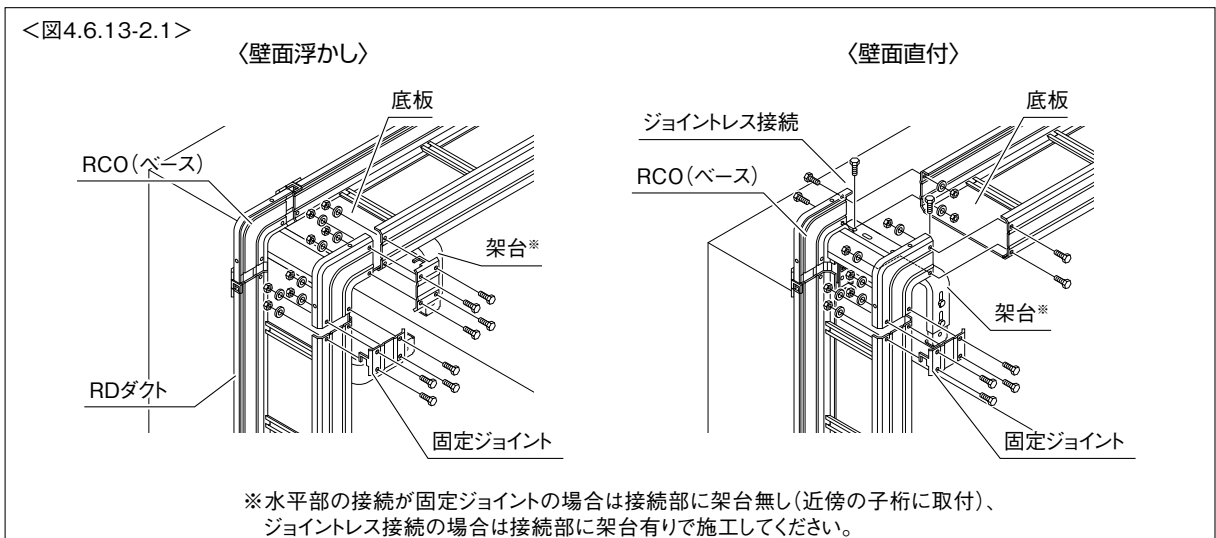
<表4.6.13-1.2> ビス仕様

ビス名称	仕様	材質
フタビス	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
接続用ビス	300~900H セムス⊕六角 M6×15L	SUS
	フランジナット M6	SUS

### 4.6.13-2 RCO 組付例(1) <300~600H>

#### 1 RCOのベースをダクトと接続します。

※壁面施工の場合は、RCOと接続する部分には底板を取り付けてください。



※水平部の接続が固定ジョイントの場合は接続部に架台無し(近傍の子桁に取付)、  
ジョイントレス接続の場合は接続部に架台有り施工してください。

施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

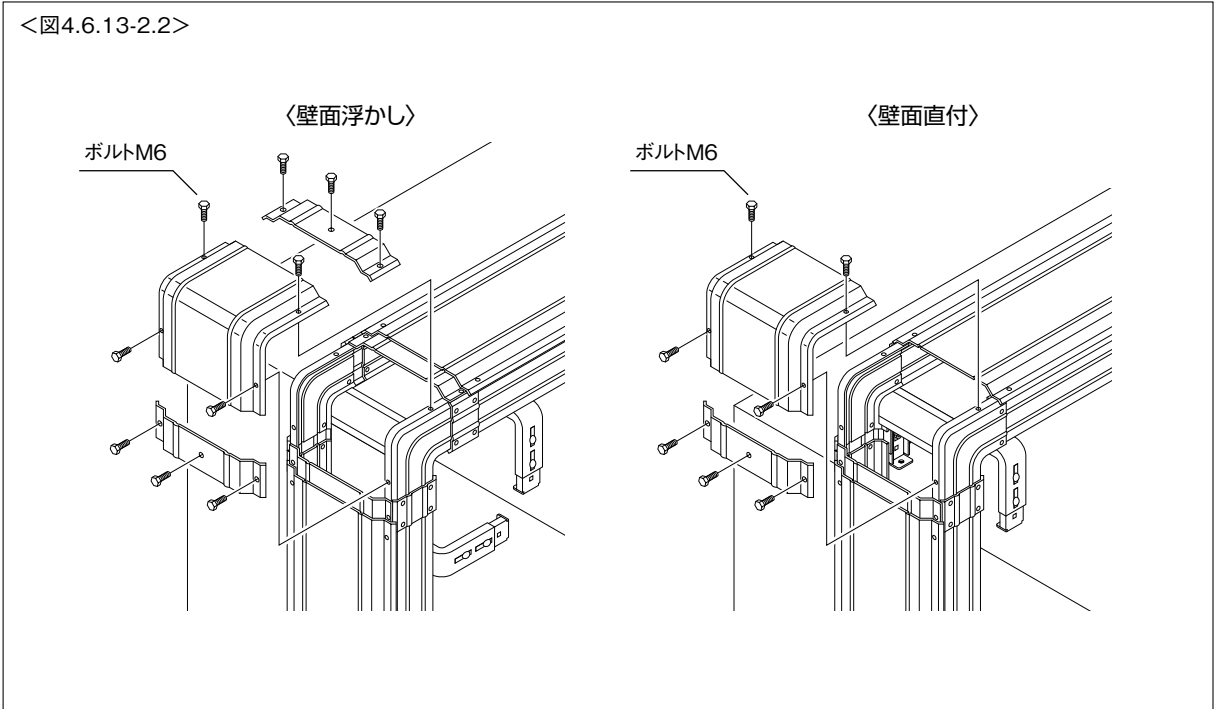
底板

その他

**2** 配管後、フタ補強板\*を取り付け、フタを閉めて完了です。

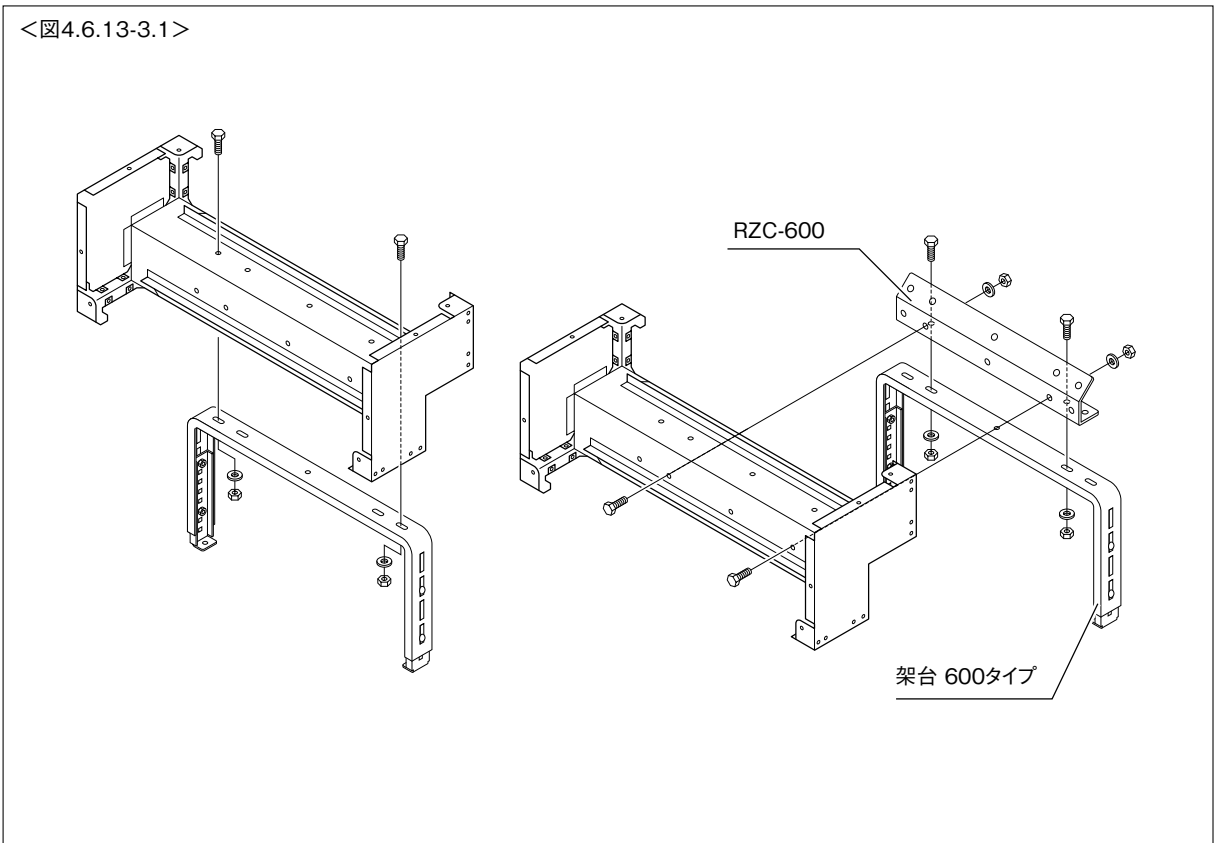
※壁面施工の場合は、別売の壁面施工用フタビスセットで固定してください。

\*水平部の接続箇所がジョイントレス接続+架台の場合は、フタ補強板を取り付けてください。(600/600Hタイプのみ)

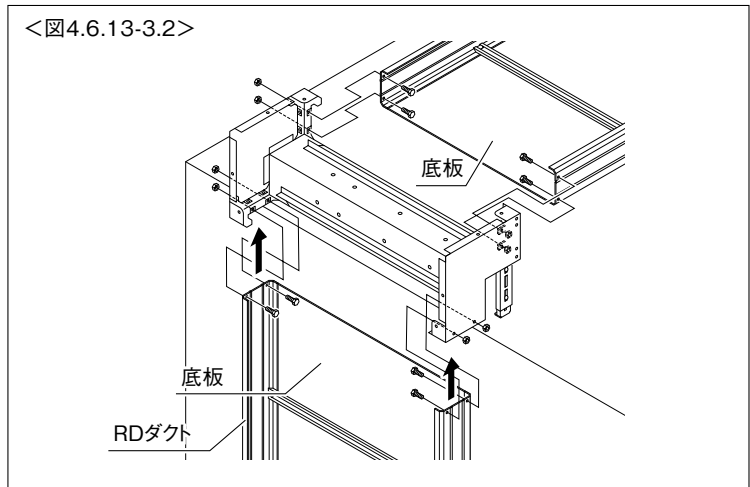


4.6.13-3 RCO 組付例(2) <900・900H>

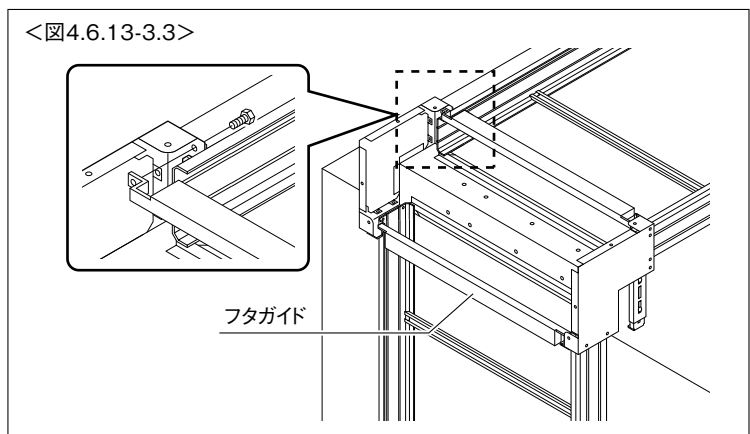
**1** RCOのベース部を架台などに取り付けます。



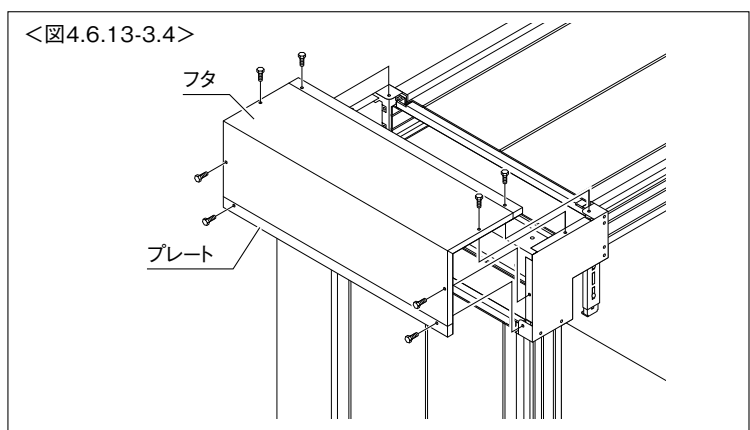
2 ダクトをRCOに取り付けます。



3 配管後、RCOにフタガイドを取り付けます。



4 ダクトのフタを取り付けた後、RCOのフタを取り付けて完了です。



## 4.6.14 RC 立面コーナー90°(150)

150タイプ用立面エルボ90°です。

付属のパーツ(フタと底板)を付け替えることで、立上げ立下げのどちらにもお使いいただけます。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

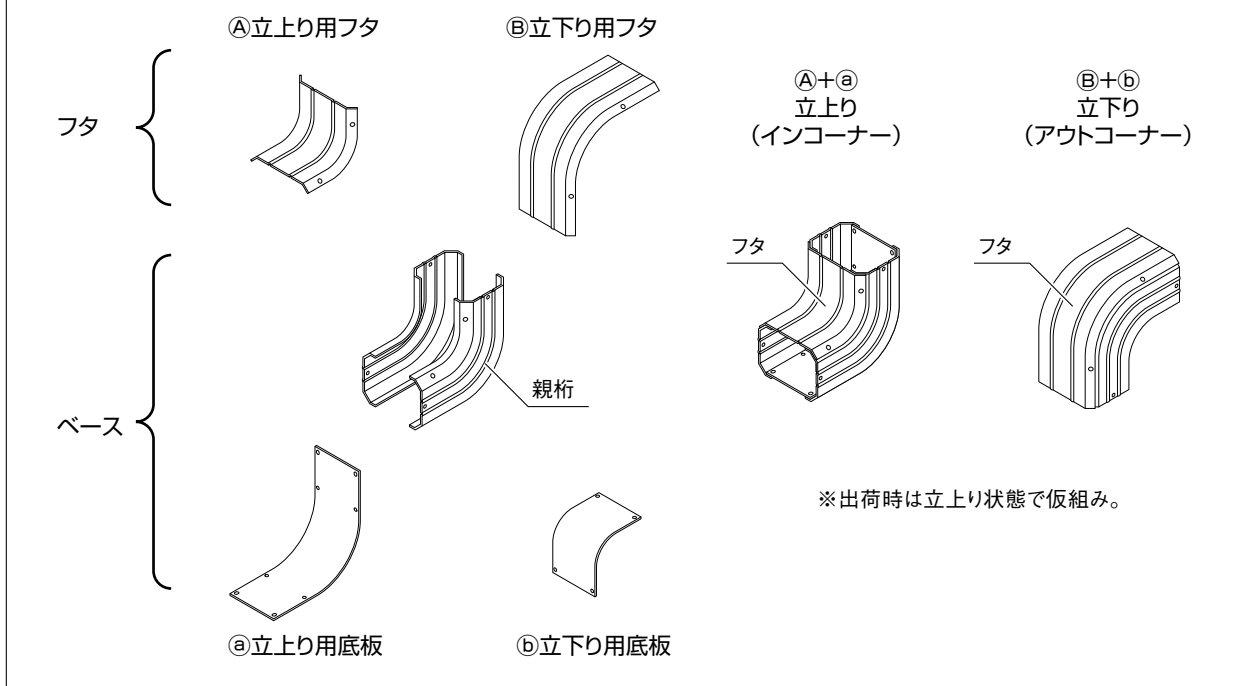
RC-150

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.6.14-1 製品構成

<図4.6.14-1.1>



<表4.6.14-1.1> セット内容

タイプ	フタ	底板	親桁	フタ/底板用ビス
150	2	2	2	8

<表4.6.14-1.2> ビス仕様

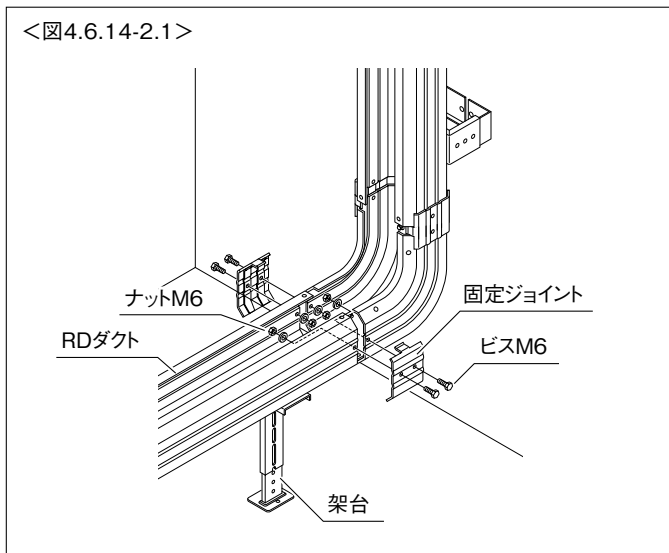
仕様	材質
セムス⊕六角 M6×15L	SUS

### 4.6.14-2 RC 組付例

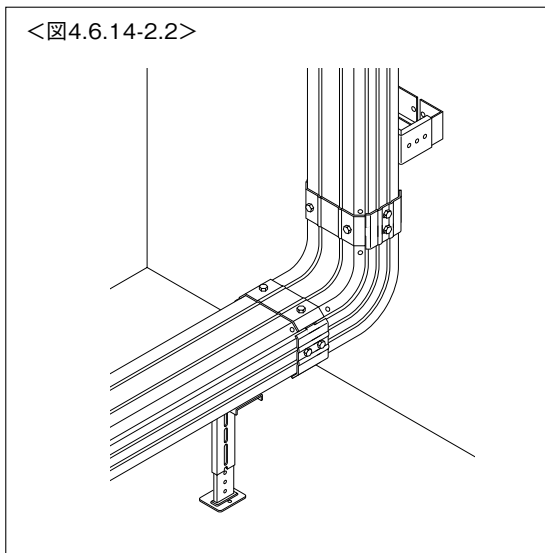
**1** ベースを組み立て、固定ジョイントでダクトに取り付けます。

**2** 配管後、フタを閉めて完了です。

<図4.6.14-2.1>



<図4.6.14-2.2>



## 4.6.15 RCF 立面コーナー45°

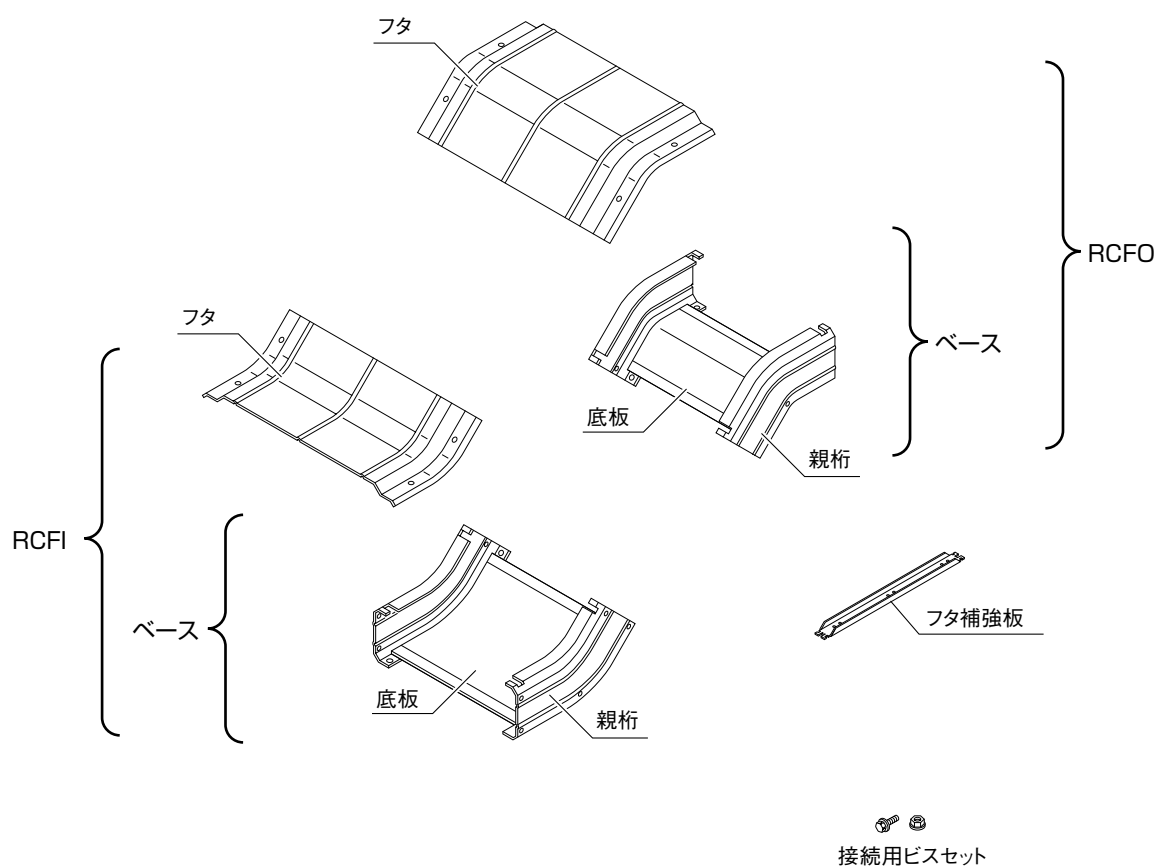
立面エルボ45°です。  
立上り用(RCFI)と立下り用(RCFO)がセットになっています。  
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.6.15-1 製品構成

<図4.6.15-1.1>



<表4.6.15-1.1> セット内容

タイプ	フタ	ベース	底板	フタビス*	接続用ビスセット	フタ補強板
150	2	2	2	8	8	0
300/300H	2	2	2	8	8	0
450/450H	2	2	2	8	8	0
600/600H	2	2	2	8	8	2
900/900H	2	2	2	8	8	2

\*本体に組付状態で出荷

<表4.6.15-1.2> ビス仕様

ビス名称	仕様	材質
フタビス	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
接続用ビスセット	セムス⊕六角 M6×15L	SUS
	フランジナット M6	SUS

施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

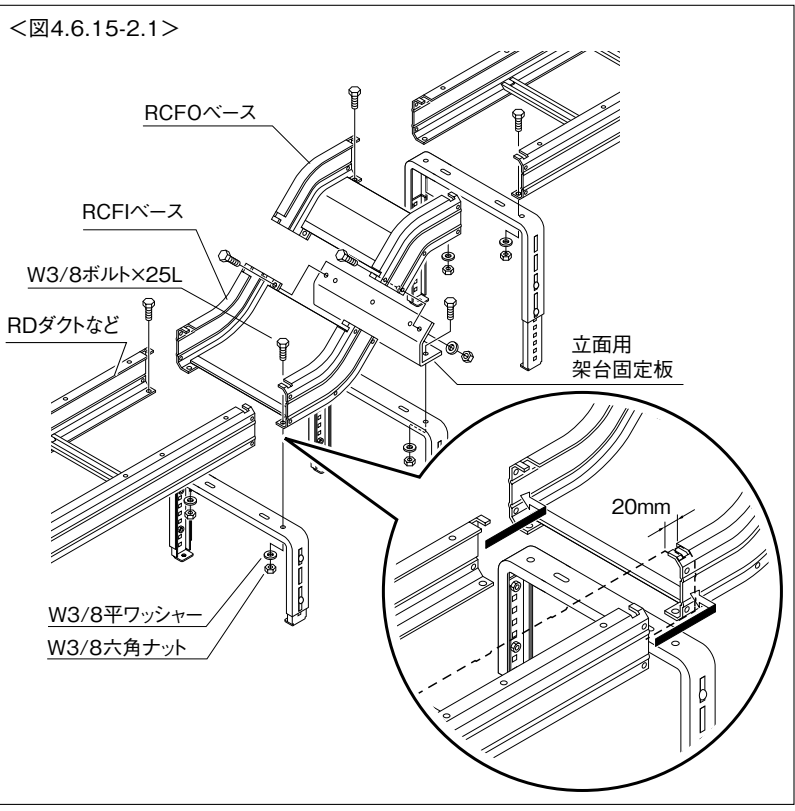
コーナーパーツ

底板

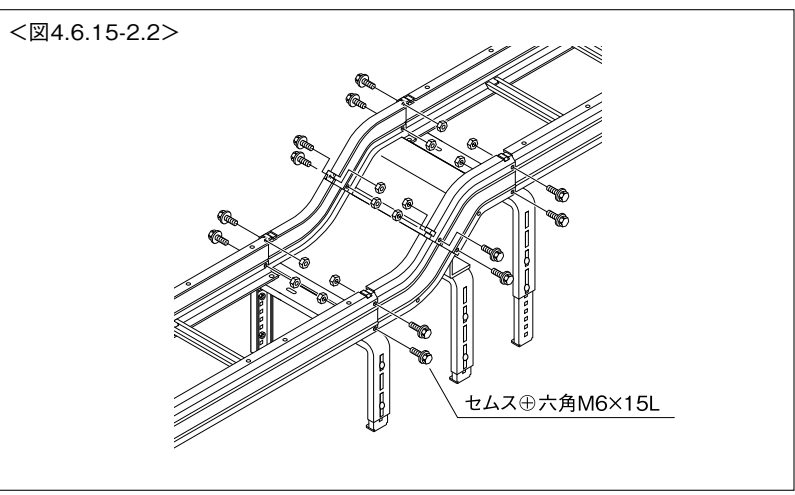
その他

## 4.6.15-2 RCF 組付例 (ジョイントレス接続)

**1** ダクトの親桁およびコーナーパーツの親桁の端部同士が20mmずつ重なるようにはめ込み、親桁底部の重なった部分をW3/8六角ボルトで架台または立面用架台固定板に固定します。

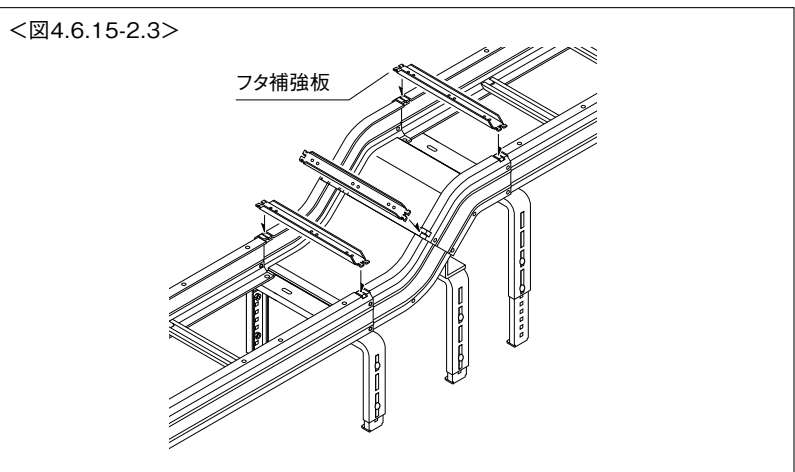


**2** 親桁端部の重なった側面部分をビス止めします。



**3** 配管後、付属のフタ補強板\*をダクトとの接続部に取り付け、低い方からフタを取り付けます。フタは20mmずつ重なるように取り付けてください。

\*600(H)/900Hのみ  
かつ、ジョイントレス接続およびフリージョイントS/Hタイプ使用時のみ使用。



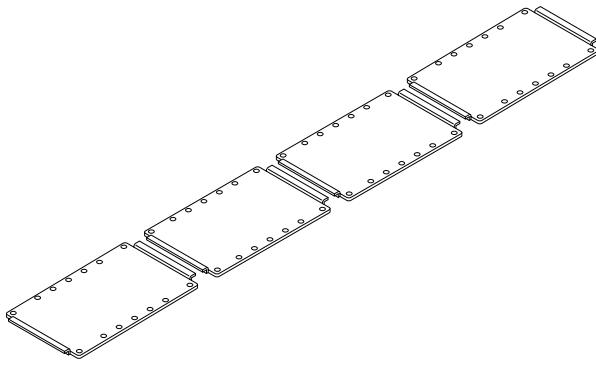
## 4.7 底板

### 目次

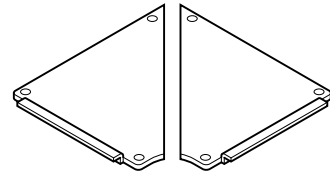
4.7.1 底板一覧 .....	135
4.7.2 RDB RDダクト底板セット .....	136
4.7.3 REB 平面コーナー90°底板セット .....	139
4.7.4 RFB 平面コーナー45°底板セット .....	140
4.7.5 RTS T型分岐ジョイント用底板セット .....	141
4.7.6 RDBJ ジョイント用底板 .....	142
4.7.7 RJB 後付け用ジョイント底板 .....	143
4.7.8 RNB ネット底板 .....	144

### 4.7.1 底板一覧

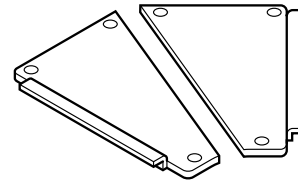
RDB RDダクト底板セット



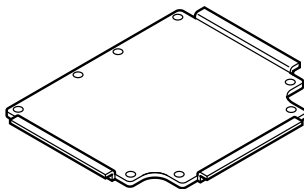
REB 平面コーナー90°底板セット



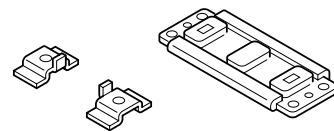
RFB 平面コーナー45°底板セット



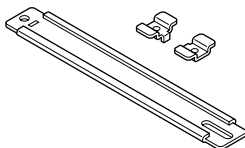
RTS T型分岐ジョイント用底板セット



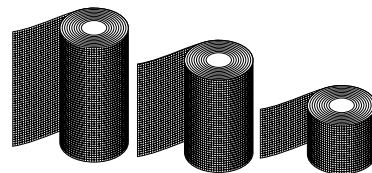
RDBJ ジョイント用底板



RJB 後付け用ジョイント底板



RNB ネット底板



## 4.7.2 RDB RDダクト底板セット

RDダクト(直管)用の底板です。  
150タイプには、接続部用底板(ジョイント用底板)もセットされています。  
別売の底板用樹脂プッシュを使うことで後付けも可能です。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

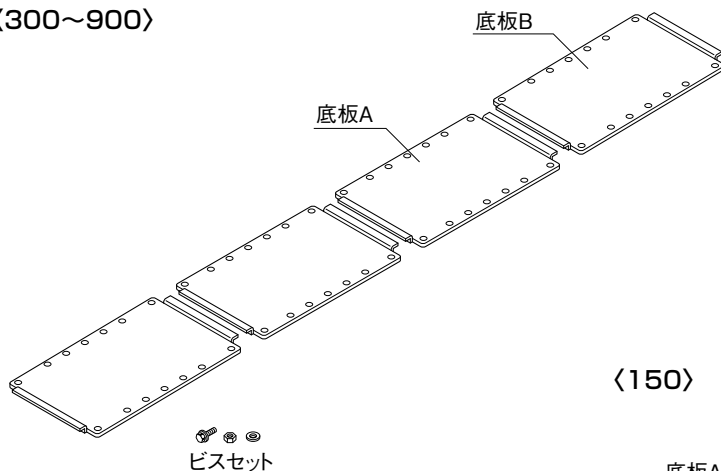
仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



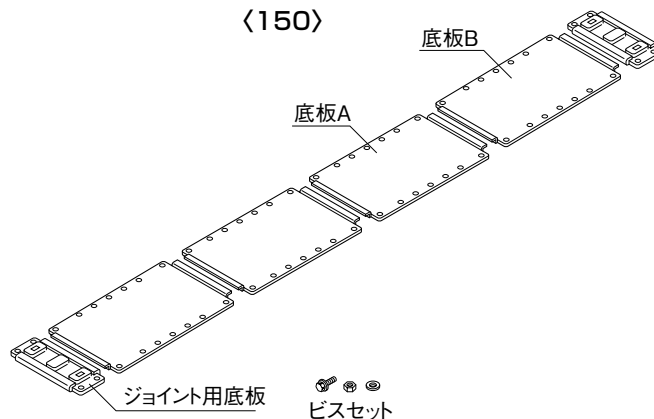
### 4.7.2-1 製品構成

<図4.7.2-1.1>

<300~900>



<150>



<表4.7.2-1.1> セット内容 (300~900)

サイズ	底板A	底板B	ビスセット
2m	2	2	16
1m	1	2	12
0.5m	1	0	4
0.3m	1	0	4

※呼称は同じでもサイズによって寸法は異なります。

<表4.7.2-1.2> セット内容 (150)

サイズ	底板A	底板B	ジョイント用底板	ビスセット
2m	2	2	2	20
1m	1	2	2	16

※RD-150-05は標準で底板が付属(取付状態)  
※呼称は同じでもサイズによって寸法は異なります。

<表4.7.2-1.3> ビス仕様

ビス名称	仕様	材質
ビスセット	セムス⊕六角ボルト M6 × 15L	SUS
	六角ナット M6	SUS
	ワッシャー M6	SUS

## 4.7.2-3 RDB 組付例

### 1 底板…先付け (ダクト2m・1m・0.5m・0.3m用底板の先付け)

ダクトの連結を行った後、ダクトベース内側から底板(A)、底板(B)、(ジョイント用底板\*)の順に図のように付属ビスで取り付けます。

\* ジョイント用底板は150タイプは標準で付属150以外は別売オプション。

\* ジョイント用底板は、固定ジョイントまたはフリージョイントAタイプを使用し、接続部に架台を設置しない場合のみ使用します。

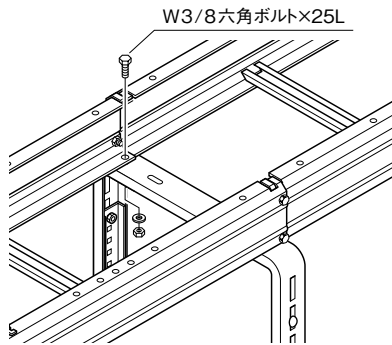
また、隣に接続される部品が、ダクト0.3m/0.5m、平面コーナー、T型分岐の場合は、取り付け方法が異なります。(【4.7.6】RDBJ参照)

- 注意**
- 底板(B)には方向性があります。
  - 接続部に架台を取り付ける場合はジョイント用底板は不要です。

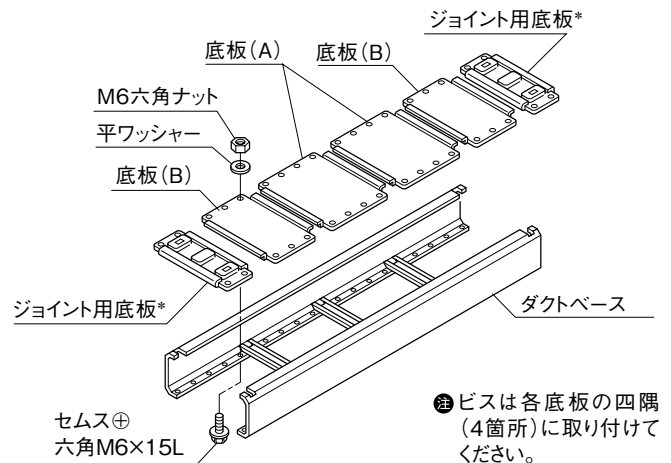
#### 接続部に架台を取り付ける場合の施工

<図4.7.2-3.1.4>

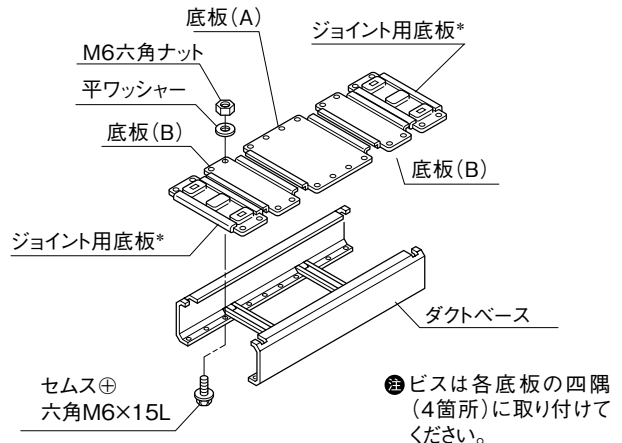
架台が底板の代わりになりますので、ジョイント用底板は必要ありません。



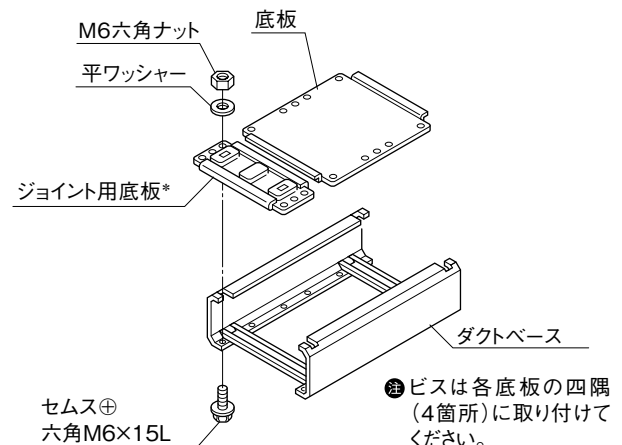
<図4.7.2-3.1.1> 2mの施工



<図4.7.2-3.1.2> 1mの施工



<図4.7.2-3.1.3> 0.3m/0.5mの施工



施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

## 2 底板…後付け (ダクト2m・1m・0.5m・0.3m用底板の後付け)

ダクト接続部に20mmの隙間をあけ、RSJ、RFJなどのジョイントベースでダクトの連結を行った後、ダクトベース底面側から、底板(A)、底板(B)、(ジョイント用底板\*)の順に底板用樹脂ブッシュにて取り付けます。

\* ジョイント用底板は150タイプは標準で付属150以外は別売オプション。

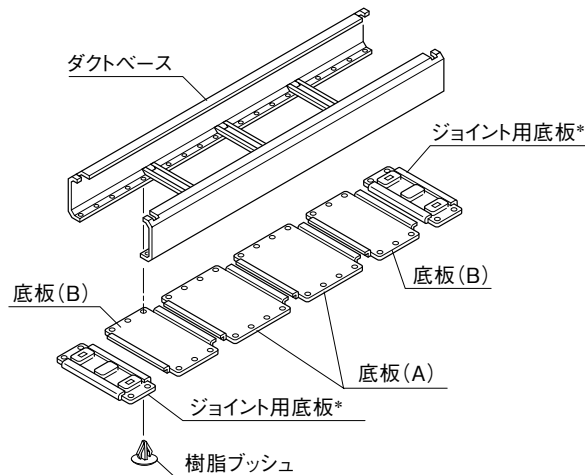
\* ジョイント用底板は、固定ジョイントまたはフリージョイントAタイプを使用し、接続部に架台を設置しない場合にのみ使用します。

また、隣に接続される部品が、ダクト0.3m/0.5m、平面コーナー、T型分岐の場合は、取り付け方法が異なります。(【4.7.6】RDBJ参照)

- 注意**
- 底板(B)には方向性があります。
  - 接続部に架台を取り付ける場合はジョイント用底板は不要です。
  - 900タイプやジョイントレス接続施工などは後付け施工はできません。

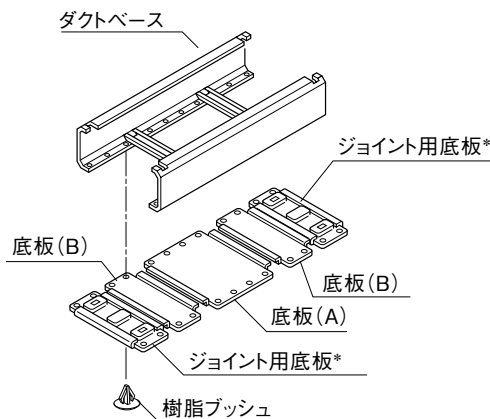
**参照** 【3.6.2】底板使用可能箇所

### <図4.7.2-3.2.1> 2mの施工



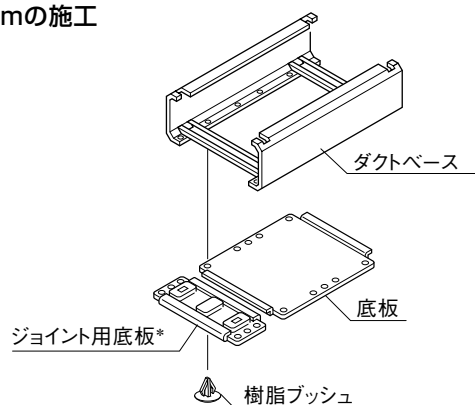
● 樹脂ブッシュの取り付けは、各底板のφ10×12Lの穴全てに行ってください。

### <図4.7.2-3.2.2> 1mの施工



● 樹脂ブッシュの取り付けは、各底板のφ10×12Lの穴全てに行ってください。

### <図4.7.2-3.2.3> 0.3m/0.5mの施工



● 樹脂ブッシュの取り付けは、各底板のφ10×12Lの穴全てに行ってください。

# 4.7 底板

## 4.7.3 REB 平面コーナー90°底板セット

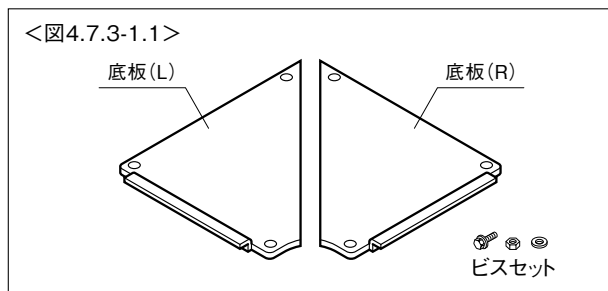
300~600H用平面コーナー90°の底板セットです。

※150タイプは底板が標準で付属。  
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.7.3-1 製品構成



<表4.7.3-1.1> セット内容

底板L	底板R	ビスセット
1	1	6

<表4.7.3-1.2> ビス仕様

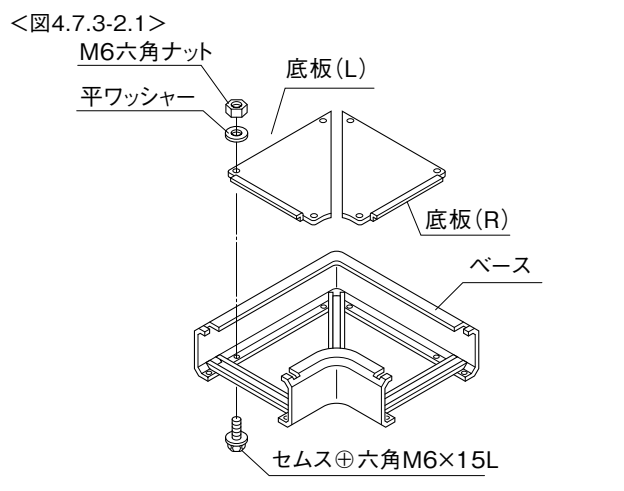
ビス名称	仕様	材質
ビスセット	セムス⊕六角ボルト M6 × 15L	SUS
	六角ナット M6	SUS
	ワッシャー M6	SUS

### 4.7.3-2 REB 組付例

#### 平面コーナー90°用底板…先付け

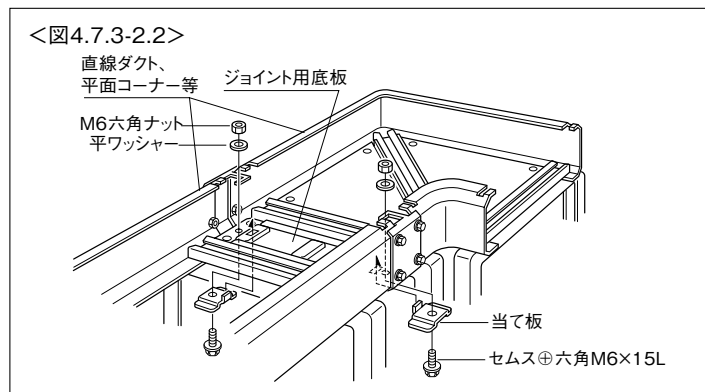
**注意** ・底板の後付はできません。

ベース開口側から底板(R)・(L)を付属のビスで取り付けてください。

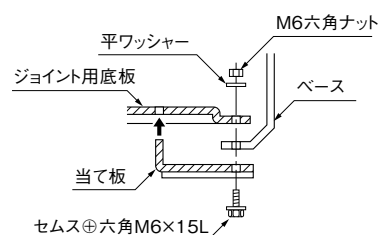


**補足** ジョイント工法で、かつ、ジョイント部に架台を設置しない場合。

ベース開口側からジョイント用底板を落とし込み、ベース底部に当て板を介して付属ビスで取り付けてください。



<図4.7.3-2.3> ジョイント用底板取り付け断面図



## 4.7.4 RFB 平面コーナー45°底板セット

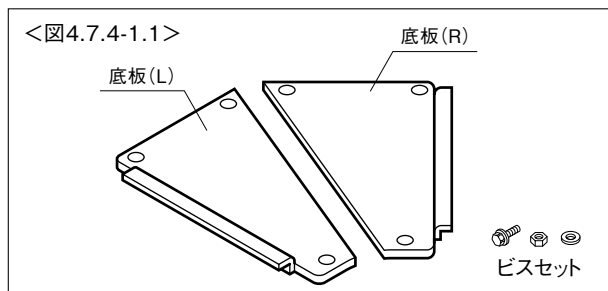
300~600H用平面コーナー45°の底板セットです。

※150タイプは底板が標準で付属。  
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.7.4-1 製品構成



<表4.7.4-1.1> セット内容

底板L	底板R	ビスセット
1	1	6

<表4.7.4-1.2> ビス仕様

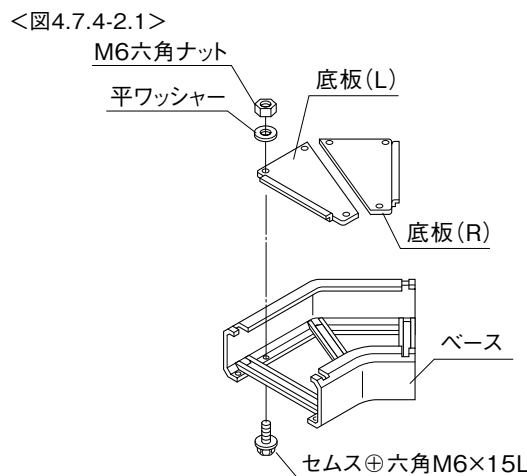
ビス名称	仕様	材質
ビスセット	セムス⊕六角ボルト M6 × 15L	SUS
	六角ナット M6	SUS
	ワッシャー M6	SUS

### 4.7.4-2 RFB 組付例

#### 平面コーナー45°用底板…先付け

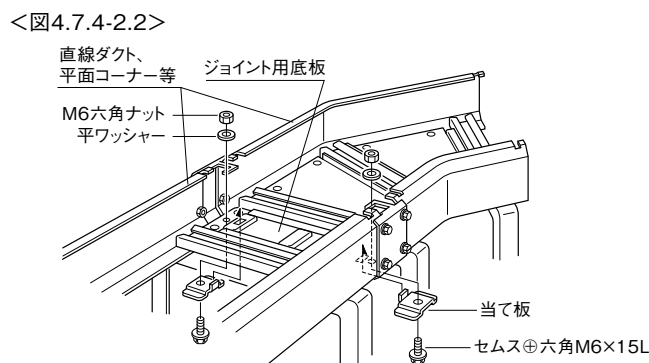
**注意** ・底板の後付はできません。

ベース開口側から底板(R)・(L)を付属のビスで取り付けてください。

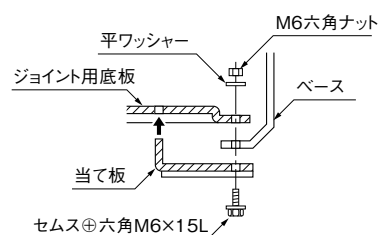


**補足** ジョイント工法で、かつ、ジョイント部に架台を設置しない場合。

ベース開口側からジョイント用底板を落とし込み、ベース底部に当て板を介して付属ビスで取り付けてください。



<図4.7.4-2.3> ジョイント用底板取り付け断面図



## 4.7.5 RTS T型分岐ジョイント用底板セット

300~600H用T型分岐ジョイントの底板セットです。

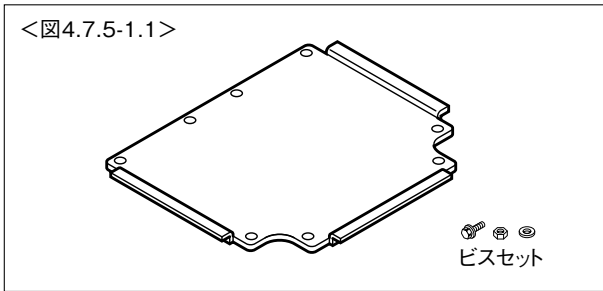
※150タイプは底板が標準で付属。  
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.7.5-1 製品構成

<図4.7.5-1.1>



<表4.7.5-1.1> セット内容

底板	ビスセット
1	8

<表4.7.5-1.2> ビス仕様

ビス名称	仕様	材質
ビスセット	セムス⊕六角ボルト M6 × 15L	SUS
	六角ナット M6	SUS
	ワッシャー M6	SUS

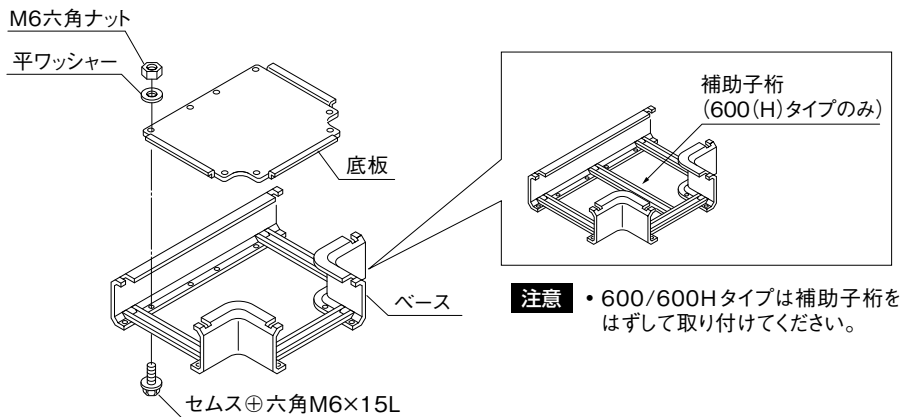
### 4.7.5-2 RTS 組付例

#### T字型分岐ジョイント用底板…先付け

**注意** ・底板の後付はできません。

ベース開口側から底板を付属のビスで取り付けてください。

<図4.7.5-2.1>

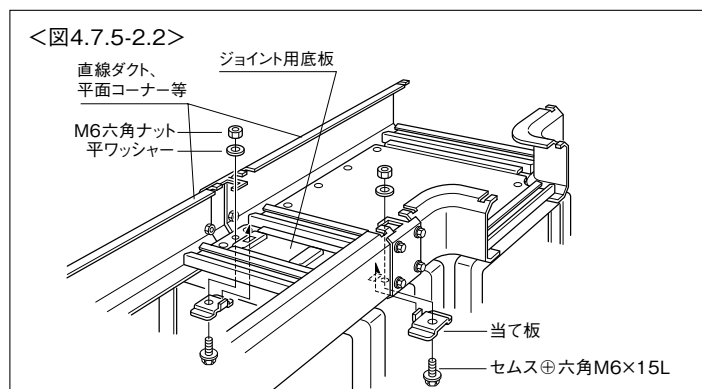


**注意** ・600/600Hタイプは補助子桁をはずして取り付けてください。

**補足** ジョイント工法で、かつ、ジョイント部に架台を設置しない場合。

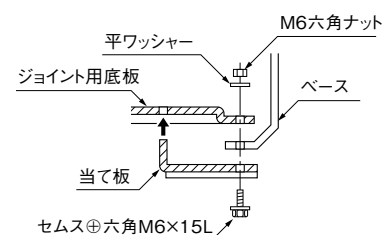
ベース開口側からジョイント用底板を落とし込み、ベース底部に当て板を介して付属ビスで取り付けてください。

<図4.7.5-2.2>



<図4.7.5-2.3>

#### ジョイント用底板取り付け断面図



## 4.7.6 RDBJ ジョイント用底板

底板を使う施工で、固定ジョイントまたはフリージョイントを使用し、ジョイント箇所には架台を設置しない場合に使用します。

※150タイプはダクト用底板に標準で2枚付属。  
 ※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

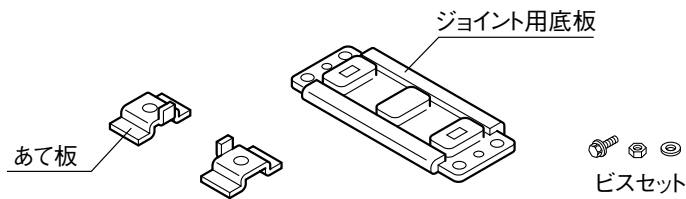
RDBJ



仕様図  
ダウンロード用  
QRコード

### 4.7.6-1 製品構成

<図4.7.6-1.1>



<表4.7.6-1.1> セット内容

底板	あて板	ビスセット
1	2	4

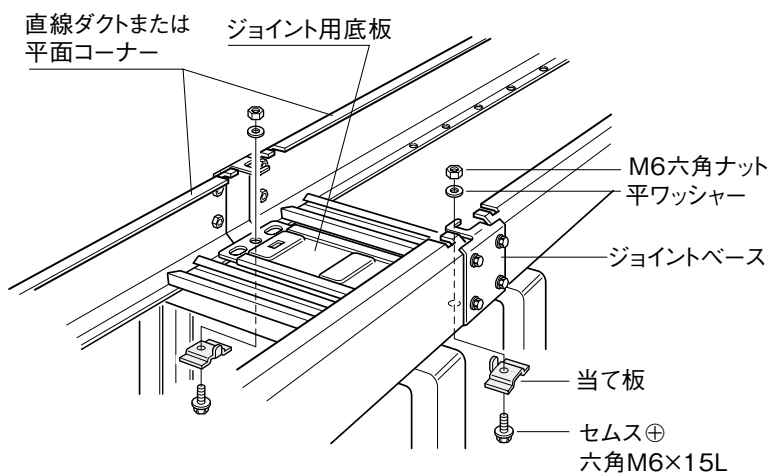
<表4.7.6-1.2> ビス仕様

ビス名称	仕様	材質
ビスセット	セムス⊕六角ボルト M6 × 15L	SUS
	六角ナット M6	SUS
	ワッシャー M6	SUS

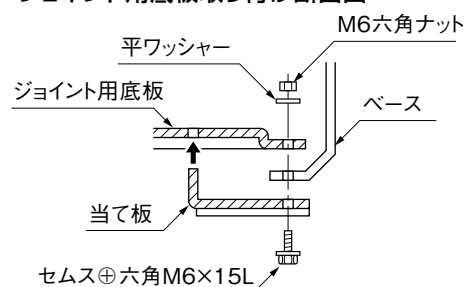
### 4.7.6-2 RDBJ 組付例

ダクト接続部に20mmの隙間をあげ、RSJのジョイントベースでダクトの連結を行った後、【4.7.2-3.1】の図を参考に底板(A)、底板(B)の順でダクトの内側から取り付けます。ダクト開口側からジョイント用底板を仮置きし、底から当て板を介して付属ビスを取り付けてください。

<図4.7.6-2.1> ジョイント用底板取付図



<図4.7.6-2.2> ジョイント用底板取り付け断面図



施工編  
 施工の進め方  
 PSおよび壁貫通  
 架台  
 ダクト(直管)  
 施工手順  
 接続  
 コーナーパーツ  
 底板  
 その他

## 4.7.7 RJB 後付け用ジョイント底板

特殊なケースで使用するジョイントパーツ(RSJ)用底板です。  
直線ダクトとコーナーパーツまたは0.3m/0.5mダクトの接続箇所に底板を付ける場合に使用します。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

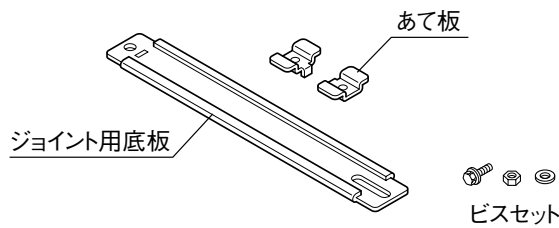
RJB

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.7.7-1 製品構成

<図4.7.7-1.1>



<表4.7.7-1.1> セット内容

底板	あて板	ビスセット
1	2	2

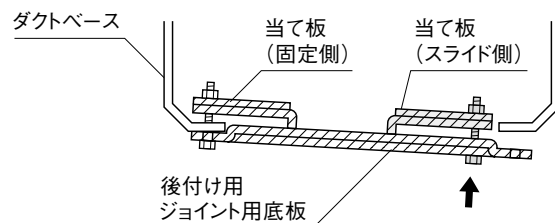
<表4.7.7-1.2> ビス仕様

ビス名称	仕様	材質
ビスセット	セムス⊕六角ボルト M6 × 15L	SUS
	六角ナット M6	SUS
	ワッシャー M6	SUS

### 4.7.7-2 RJB 組付例

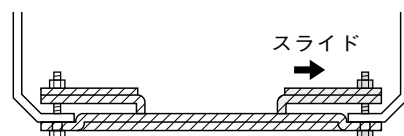
- 1 後付け用ジョイント底板をダクトベース底面から図のように挿入します。

<図4.7.7-2.1> 後付け用ジョイント底板の取り付け1



- 2 固定側のダクトベースを挟み込むように挿入し、その後、スライド側を押し入れて、当て板をスライドさせ、ビスを締め付けて完了です。

<図4.7.7-2.2> 後付け用ジョイント底板の取り付け2



## 4.7.8 RNB ネット底板

直線ダクト用の簡易底板(ネット)です。  
底板用樹脂ブッシュで取り付けます。

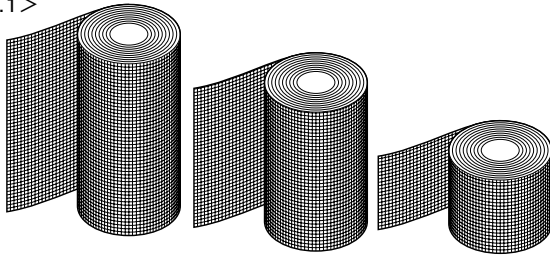
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.7.8-1 製品構成

<図4.7.8-1.1>



<表4.7.8-1.1> セット内容

底板(樹脂ネット)

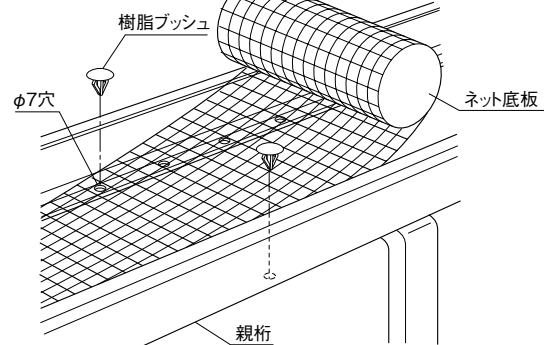
1

### 4.7.8-2 RNB 組付例(1) 先付け

**注意** ・コーナーパーツには、ネット底板の取り付けはできません。(REを除く)

ネット底板をダクトベースに転がして展開し、親桁のφ7穴に対して底板用樹脂ブッシュにて取り付けます。

<図4.7.8-2.1>



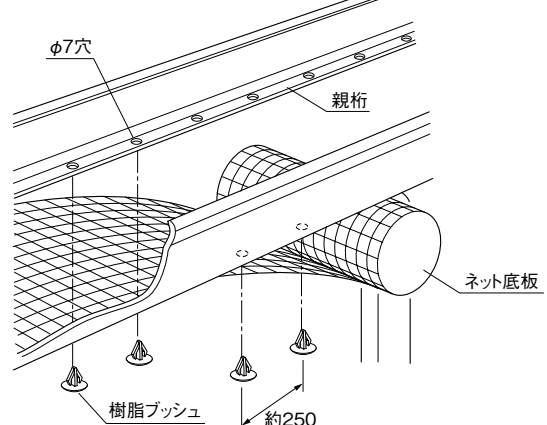
### 4.7.8-3 RNB 組付例(2) 後付け

**注意** ・900タイプのネット底板は後付けできません。  
・コーナーパーツには、ネット底板の取り付けはできません。(REを除く)

配管を行った後、親桁のφ7穴に対してネット底板を底板用樹脂ブッシュにて図のように取り付けます。

この場合、ネット底板がたれる可能性がありますので、約250mm間隔にて底板用樹脂ブッシュを取り付けてください。

<図4.7.8-3.1>

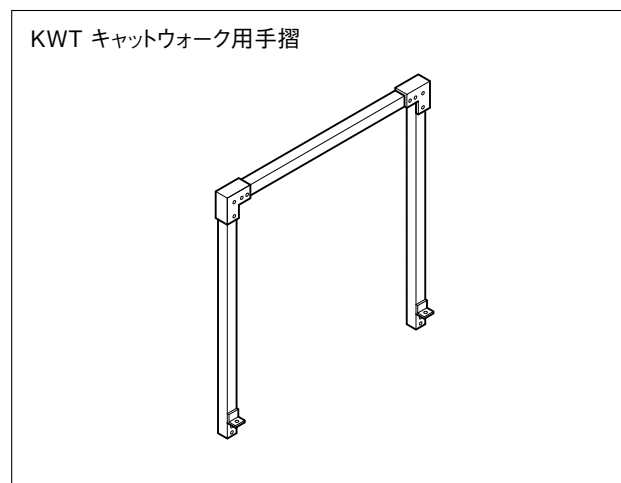
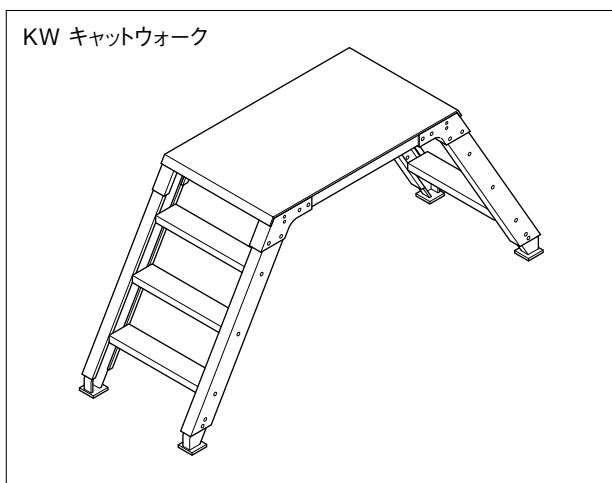
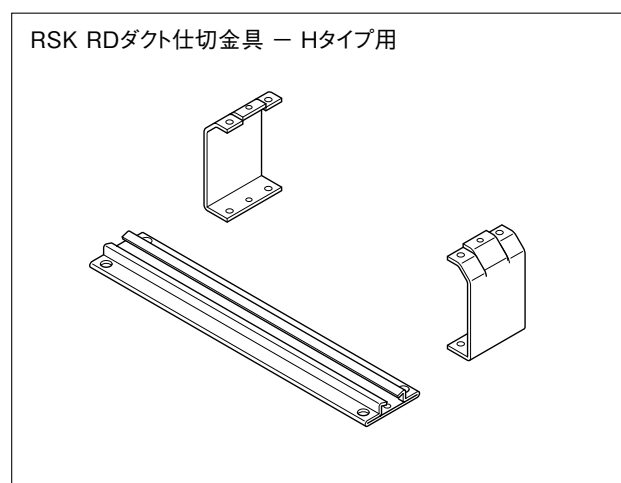
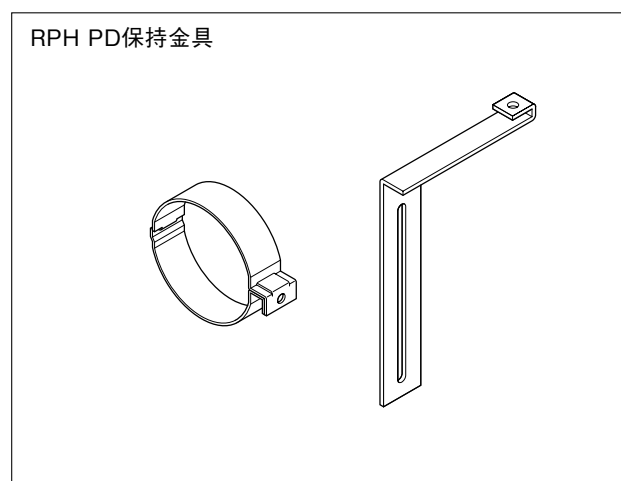
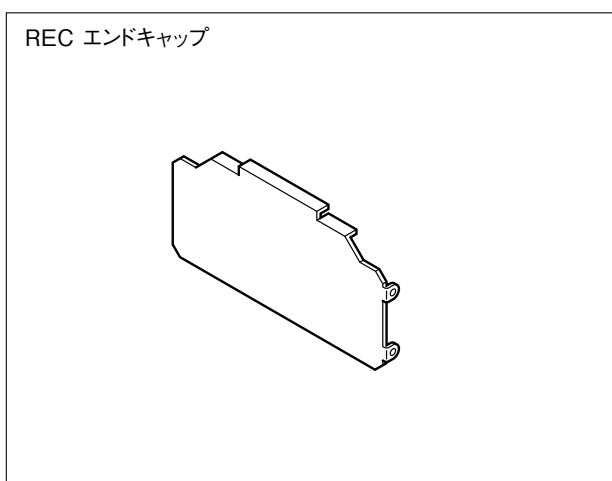


## 4.8 その他

### 目次

4.8.1 その他の部材一覧 .....	145
4.8.2 REC エンドキャップ .....	146
4.8.3 RPH PD保持金具 .....	147
4.8.4 RDK RD子桁セット .....	148
4.8.5 RSK RDダクト仕切金具 - Hタイプ用 .....	148
4.8.6 KW キャットウォーク .....	149
4.8.7 KWT キャットウォーク用手摺 .....	149

### 4.8.1 その他の部材一覧



## 4.8.2 REC エンドキャップ

直線やコーナーパーツなど(一部を除く)の開口部を塞ぐパーツです。

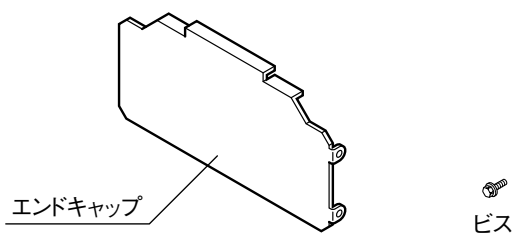
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
 ダウンロード用  
 QRコード



### 4.8.2-1 製品構成

<図4.8.2-1.1>



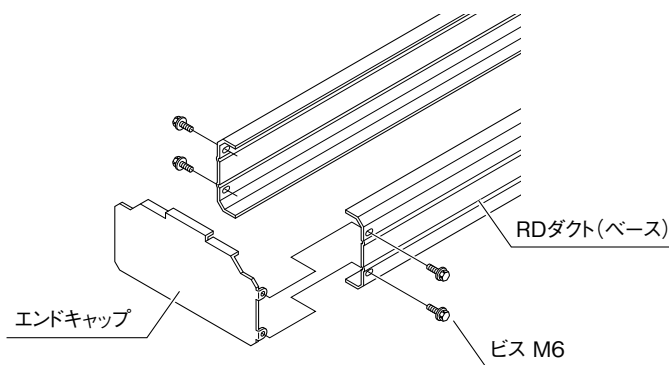
<表4.8.2-1.1> セット内容

品名	数量
エンドキャップ	1
ビス (セムス⊕六角 M6 × 15L - SUS)	4

### 4.8.2-3 REC 組付例

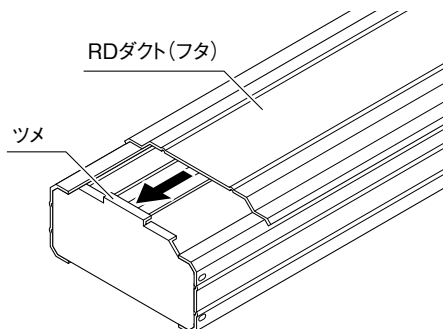
**1** RDダクトのベース(親桁)にエンドキャップを取り付けます。

<図4.8.2-3.1>



**2** 配管後、RDダクトのフタをエンドキャップのツメの間に差し込むようにして、取り付けます。

<図4.8.2-3.2>



## 4.8.3 RPH PD保持金具

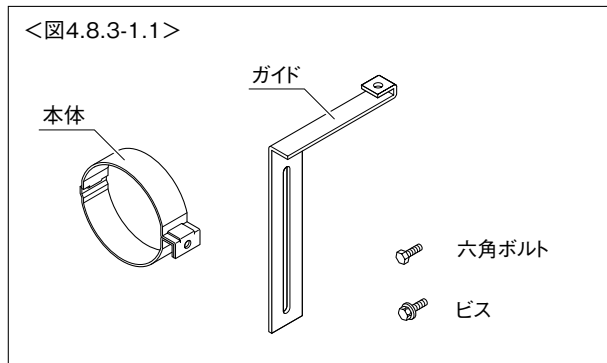
RPH PDダクトを保持する金具です。

- ※配管を支持・固定する金具ではありません。
- ※配管の支持は必要に応じて市販の支持金具とPDBなどをご利用ください。
- RDダクトの親桁にはボルト取付用の穴が数カ所(2mの場合24箇所)設けてありますので、W3/8またはM10のボルトが取付可能です。
- ※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.8.3-1 製品構成



<表4.8.3-1.1> セット内容

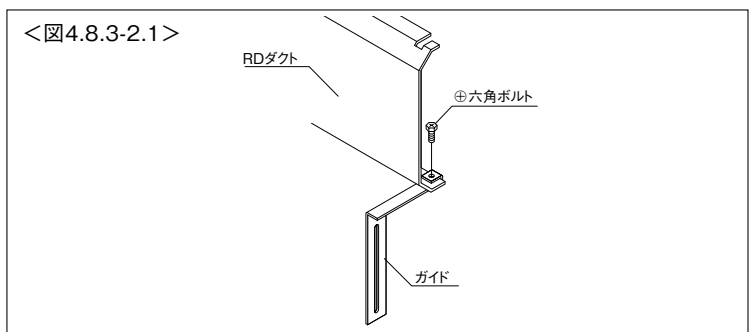
項目	数量
本体	1
ガイド	1
六角ボルト	1
ビスセット	1

<表4.8.3-1.2> ビス仕様

ビス名称	仕様	材質
六角ボルト	⊕六角ボルト M6×14L	SUS
ビス	セムス⊕六角ボルト M6×20L	SUS

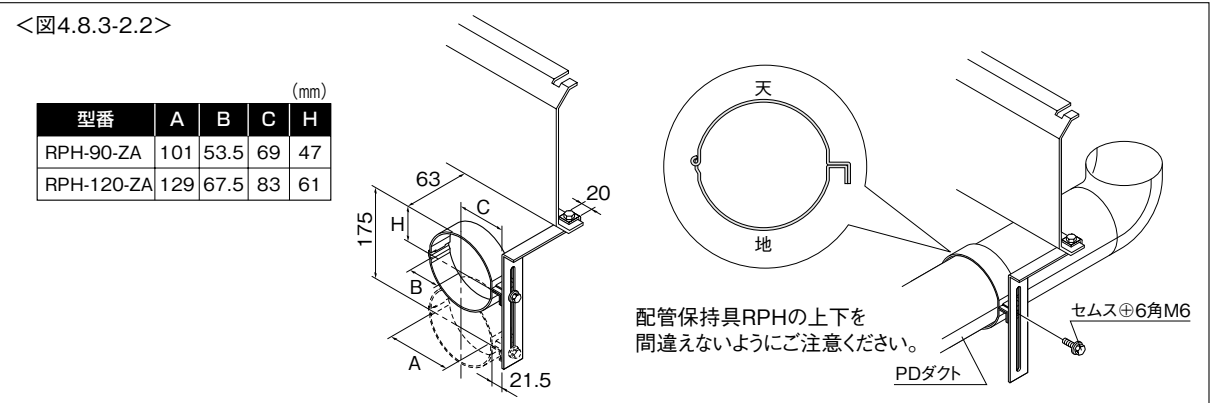
### 4.8.3-2 RPH 組付例

- 分岐位置に合わせてガイドを取り付けます。

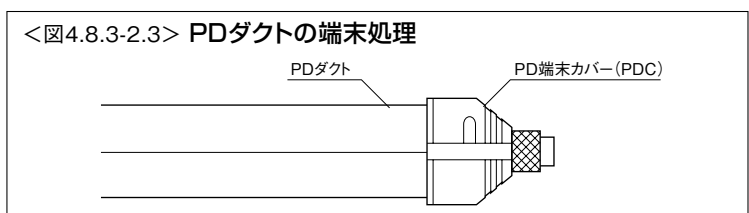


- 配管を行い、PDダクトで配管を保護し、高さを調整の上、配管保持具RPHで固定します。  
※架台固定用ボルト、ナット、ワッシャーは架台に付属しています。

**注意** ・配管保持具RPHの上下を間違えないようにご注意ください。(図参照)



- 配管端末部を処理します。  
配管端末部にはPD端末カバーを使用します。



# 4.8 その他

- 4.8.4 RDK RD子桁セット
- 4.8.5 RSK RDダクト仕切金具 – Hタイプ用

〔施工編〕

## 4.8.4 RDK RD子桁セット

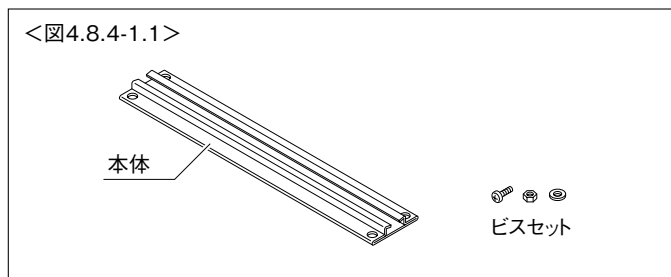
RDダクトを天吊り(フタが下向き)の状態では施工する場合には、配管受けとして使用します。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.8.4-1 製品構成



<表4.8.4-1.1> セット内容

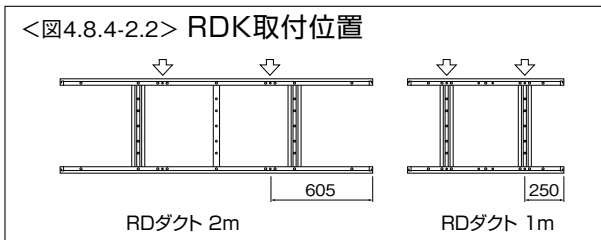
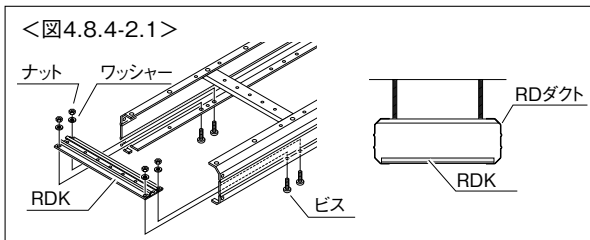
項目	数量
本体	1
ビスセット	4

<表4.8.4-1.2> ビス仕様

項目	仕様	材質
ビス	⊕皿ビス M6×12L	SUS
ワッシャー	φ6.5 × φ18	SUS
ナット	六角ナット M6	SUS

### 4.8.4-2 RDK 組付例

1 RDにRDKを付属ビスで取り付けてください。



## 4.8.5 RSK RDダクト仕切金具 – Hタイプ用

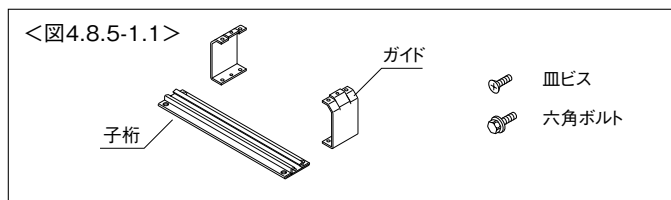
多系統配管での保温材圧縮防止金具です。  
Hタイプの2mおよび1mダクトに取り付け可能です。

※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.8.5-1 製品構成

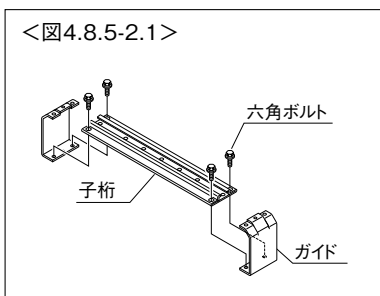


<表4.8.5-1.1> セット内容

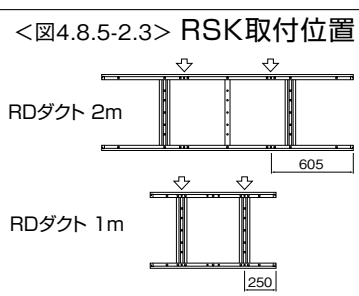
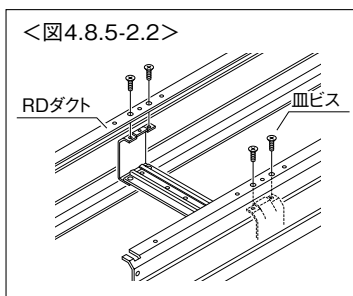
項目・仕様	数量
子桁	1
ガイド	2
皿ビス (⊕皿 M6×L12 SUS)	4
六角ボルト (セムス⊕六角ボルト M6×L15 SUS)	4

### 4.8.5-2 RSK 組付例

1 ガイドに子桁を取り付けます。



2 一部を配管後、RDダクトの親桁にRSKを取り付けます。



施工編  
施工の進め方  
PSおよび壁貫通  
架台  
ダクト(直管)  
施工手順  
接続  
コーナーパーツ  
底板  
その他

# 4.8 その他

- 4.8.6 KW キャットウォーク
- 4.8.7 KWT キャットウォーク用手摺

〔施工編〕

施工編

施工の進め方

PSおよび壁貫通

架台

ダクト(直管)

施工手順

接続

コーナーパーツ

底板

その他

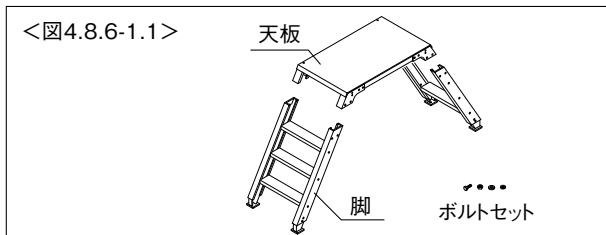
## 4.8.6 KW キャットウォーク

障害物回避用ブリッジです。  
RDダクトの上をまたぐように設置して使います。  
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.8.6-1 製品構成



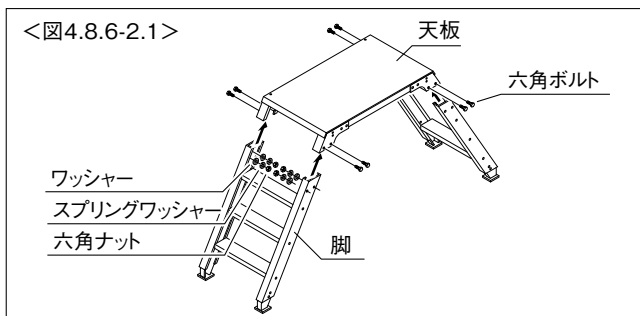
<表4.8.6-1.1> セット内容

項目	数量	材質・表面処理
天板	1	HDZ35
脚	2	SUS
六角ボルト M8 × L20	8	
六角ナット M8	8	
ワッシャー M8	8	
スプリングワッシャー M8	8	

### 4.8.6-2 KW 組付例

1 天板に脚を差し込み、ボルトで固定します。

※固定する場合  
PB-120や自作の型枠を使用し、モルタルなどで固定してください。



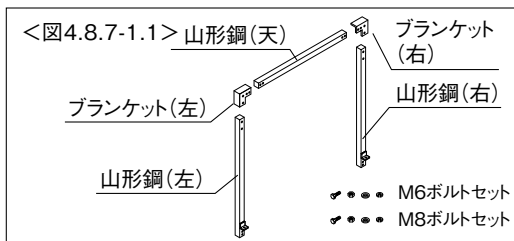
## 4.8.7 KWT キャットウォーク用手摺

キャットウォークKWをより安全に使用していただける、後付け用手摺りです。  
KWの天板の左右いずれの側でも取り付け可能です。  
※設計編も合わせてご確認の上で施工してください。

仕様図  
ダウンロード用  
QRコード



### 4.8.7-1 製品構成



<表4.8.7-1.1> セット内容

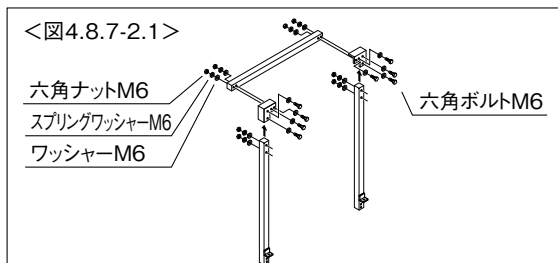
項目	数量	材質・表面処理
山形鋼(天)	1	HDZ35
山形鋼(左)	1	
山形鋼(右)	1	
M6 ボルトセット	8	SUS
M8 ボルトセット	6	

<表4.8.7-1.2> ボルトセット仕様

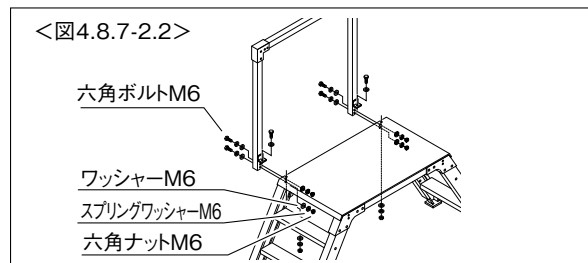
項目	セット明細
M6 ボルトセット	六角ボルト M6 × 20L スプリングワッシャー M6 ワッシャー M6 六角ナット M6
M8 ボルトセット	六角ボルト M8 × 20L スプリングワッシャー M8 ワッシャー M8 六角ナット M8

### 4.8.7-2 KWT 組付例

1 山形鋼とブラケットを組み付けます。



2 手摺をキャットウォークに組み付けます。





# 資料編

## 5 資料

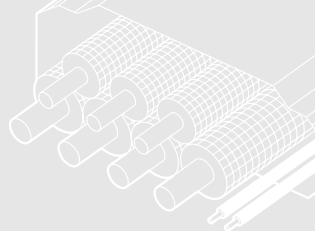
国土交通省仕様 ……P152～P153

RD-ZAタイプの  
耐食性について …… P153

積雪に関する  
考え方 ……P154～P155

銅管 …… P156

SI単位 …… P157



## 5 資料

目次	5.1 国土交通省仕様	152
	5.2 RD-ZAタイプの耐食性について	153
	5.3 積雪に関する考え方	154
	5.4 銅管	156
	5.5 SI単位	157

## 5.1 国土交通省仕様

### 5.1.1 国土交通省機械設備工事標準仕様書

保温化粧ケースは、耐候性を有する樹脂製、アルミ合金製、溶融アルミニウム-亜鉛鉄板、鋼板若しくは鋼材に溶融亜鉛めっきを施したものの、溶融亜鉛めっき鋼板製に粉体塗装仕上げをしたもの又はステンレス鋼板製等とし、樹脂製の場合は-20℃から60℃に耐えるものとする。

(平成31年版標準仕様書 P.85)

### 5.1.2 国土交通省機械設備工事監理指針

#### (9)保温化粧ケース

「標仕」では、耐候性を有する樹脂製、アルミ合金製、溶融アルミニウム-亜鉛鉄板、鋼板若しくは鋼材に溶融亜鉛めっきを施したものの、又はステンレス鋼板製とする。配管、エルボ等に成型したもので耐水性、耐候性及び施工性に優れたものとし、耐候性を有する樹脂製は-20℃から60℃以下に耐えるものとする。

(令和元年版工事監理指針 P.308)

<表5.1.2-1>

区分/冷媒管		保温厚(mm)			
保温の種類	材料及び 施工順序		冷房専用	ヒートポンプ	
1. 屋内露出 (一般居室、廊下、機械室、書庫、倉庫など) 屋外露出 (バルコニー、開放廊下を含む)	単独配管 1. 断熱材被覆銅管 2. 保温化粧ケース (必要箇所をビス止め) 3. シーリング (屋外部分)	圧縮機 屋外	ガス管	20以上	20以上
			液管	10以上	10以上
		圧縮機 屋内	ガス管	10以上	20以上
			液管	10以上	10以上
		<b>合致商品</b>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被覆銅管 (保温厚 10mm) ネオコイル ネオパイプ</li> <li>・ 被覆銅管 (保温厚 20mm) ネオコイルKHE ネオパイプKHE</li> <li>・ 保温化粧ケース スリムダクトSD スリムダクトLD スリムダクトPD</li> </ul>			

**注意** 液管の呼び径9.52以下は保温厚8mmとしてもよい。

# 5.2 RD-ZAタイプの耐食性について

〔資料編〕

資料編

国土交通省仕様

RD-ZAタイプの耐食性について

積雪に関する考え方

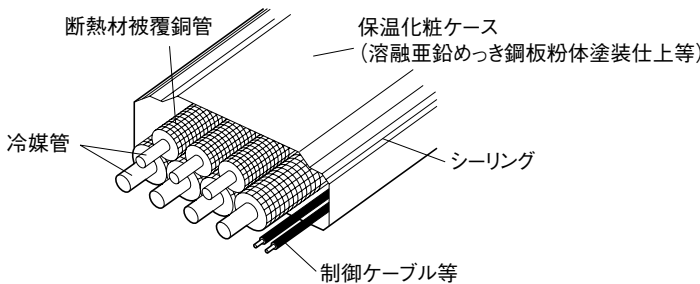
資料

銅管

S1単位

<表5.1.2-2>

保温の種別	区分/冷媒管	材料及び施工順序	保温厚(mm)		
				冷房専用	ヒートポンプ
3. 屋内露出 (一般居室、廊下、機械室、書庫、倉庫など) 屋外露出 (バルコニー、開放廊下を含む)	集合配管 1. 断熱材被覆銅管 2. 保温化粧ケース (必要箇所をビス止め) 3. シーリング (屋外部分)	圧縮機 屋外	ガス管	20以上	20以上
			液管	10以上	10以上
		圧縮機 屋内	ガス管	10以上	20以上
			液管	10以上	10以上
			合致商品		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>被覆銅管 (保温厚 10mm) ネオコイル ネオパイプ</li> <li>被覆銅管 (保温厚 20mm) ネオコイルKHE ネオパイプKHE</li> <li>保温化粧ケース スリムダクトRD</li> </ul>		



**注意** 1. 保温厚は、A種ポリエチレンフォーム保温筒 JIS A 9511 を使用した場合の値を示す。  
2. 液管の呼び径9.52以下は保温厚8mmとしてもよい。

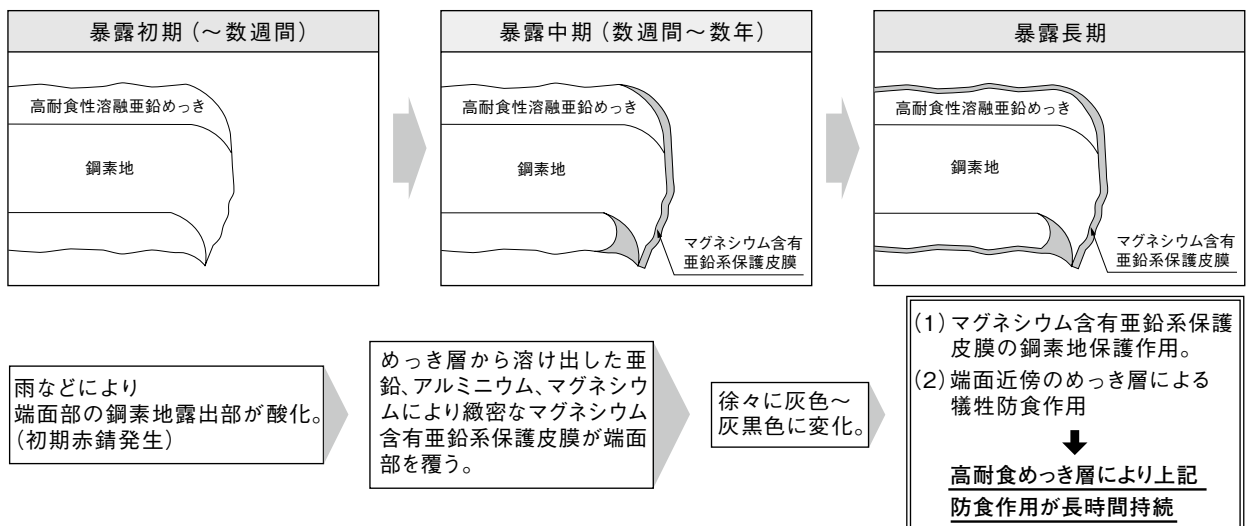
(令和元年版工事監理指針 P.325)

## 5.2 RD-ZAタイプの耐食性について

新素材「高耐食性溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G3323 適合)\*」を採用したRD-ZAシリーズは、溶融亜鉛めっき仕上げ(HDZ55)およびガルバリウム鋼板(AZ150)と比較して同等以上の耐食性を示し、一般屋外環境だけでなく、ステンレス(SUS304)が使用できない塩害・重塩害地域でも使用可能です。端面部は、鋼素地が露出しているため初期の赤錆が発生しますが、施工後数ヶ月で平面部のめっき層から溶け出したアルミニウム、マグネシウムを含む緻密な亜鉛系保護皮膜が端面部を覆うことにより、優れた耐食性を発揮すると同時に、色も徐々に灰色～灰黒色に変化していきます。

\*高耐食性溶融亜鉛めっき鋼板：亜鉛-6%アルミニウム-3%マグネシウム合金めっき鋼板

<図5.2-1> 端面部の耐食性発現機構



## 5.3 積雪に関する考え方

### 5.3.1 建築基準法

建築基準法では積雪荷重について定められています。

建築基準法施行令第86条(抜粋)

積雪荷重は、積雪の単位荷重に屋根の水平投影面積及びその地方における垂直積雪量を乗じて計算しなければならない。

- 2 前項に規定する積雪の単位荷重は、積雪量1センチメートルごとに1平方メートルにつき20ニュートン以上としなければならない。ただし、特定行政庁は、規則で、国土交通大臣が定める基準に基づいて多雪区域を指定し、その区域につきこれと異なる定めをすることができる。
- 3 第1項に規定する垂直積雪量は、国土交通大臣が定める基準に基づいて特定行政庁が規則で定める数値としなければならない。

故に、積雪の多い区域では特定行政庁が「積雪単位荷重」「垂直積雪量」などを個別に定めている場合がありますので、事前に確認が必要です。

#### 例

積雪単位荷重が別に定められている例

- 積雪量1cmごとに1m<sup>2</sup>につき30N。
- 積雪量1m超の場合は、250%を上限として1m超分10cm毎に単位荷重を10%増とする。

垂直積雪量の区分けが場所によって異なる例

- 市町村(行政区分)によって区分。
- 標高によって区分。

その他施設の設置に関して別に定められている例(堆雪場設置規定)

- 屋根部(屋上部)水平長:3m、最深積雪梁:2mの場合、壁面から2m以上を堆雪場として空間を設ける。

### 5.3.2 RDにおける積雪荷重計算(例)

想定される積雪荷重を1m<sup>3</sup>につき3,000N、垂直積雪量を2mとした場合1m<sup>2</sup>当たりの積雪荷重は6,000Nになります。

#### 1 フタの選定例

RDダクトのフタ強度から使用するダクトのタイプを選択します。

参照 【1.4.2】耐荷重および強度・フタ強度(許容荷重)

#### 例

標準タイプ = 4,903N/m<sup>2</sup> < 6,000N/m<sup>2</sup>  
歩路タイプ = 49,030N/m<sup>2</sup> > 6,000N/m<sup>2</sup>

➡ 歩路タイプを選択

#### 2 積雪荷重の算出例

使用するRDダクトのサイズから面積を求めます。

#### 例

RDW-900を使用する場合の面積(S)  
S = L 2m×W 0.9m  
S = 1.8m<sup>2</sup>

➡ ダクトの面積は1.8m<sup>2</sup>

積雪荷重にRDダクトの面積をかけてRDダクト1本当たりの荷重を求めます。

<b>例</b>	RDW-900にかかる積雪荷重(P) $P = 6,000\text{N} \times 1.8\text{m}^2$ $= 10,800\text{N}$	➔	RDW-900にかかる 積雪荷重 10,800N
----------	--	---	-----------------------------

### 3 総荷重の算出例

配管重量と製品重量を加えて総荷重(W)を求めます。

参照 [1.3] 製品重量

<b>例</b>	RDW-900の総荷重 <ul style="list-style-type: none"> <li>• RDW-900の製品重量 = 30.9kg</li> <li>• 配管(15.88×25.4×18系統)の重量  <math>= (0.45 + 0.72) \times 18 = 21.06\text{kg}</math></li> <li>• 1kgf = 9.80665N</li> </ul> $W \doteq 10,800\text{N} + (30.9 + 21.06) \times 9.8$ $\doteq 11,310\text{N}$	➔	RDW-900の総荷重 11,310N
----------	---	---	---------------------

### 4 架台数の算出例

総荷重を架台の耐荷重で割り、必要な架台の数(x)を求めます。

参照 [1.4.3] 耐荷重および強度・取付架台耐荷重(許容荷重)  
 [3.4.8] 架台・標準設置間隔

<b>例</b>	必要な架台の数(x) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 架台の耐荷重 = 6,374N</li> </ul> $x = 11,310\text{N} \div 6,374\text{N}$ $\doteq 1.77\text{本}$	➔	RDW-900 1本につき、 架台が2本必要(1mピッチ施工)
----------	--	---	------------------------------------

### 5 面荷重の算出例

総荷重を架台の足の数および足の面積で割り、1cm<sup>2</sup>当たりの荷重を算出します。

※荷重が均等にかかるとした場合

<b>例</b>	1cm <sup>2</sup> 当たりの荷重(y) <ul style="list-style-type: none"> <li>• RDW-900に取り付ける架台の足の数 = 4</li> <li>• RD取付架台の足の面積  <math>= 22\text{cm}^2</math> (ボルト部を含む)</li> </ul> $y = 11,304\text{N} \div 4 \div 22$ $\doteq 128.45$	➔	1cm <sup>2</sup> 当たりの荷重は、128.45N (参: CR-A/CR-W1015 1cm <sup>2</sup> 当たり 47.5N)
----------	---	---	---

## 5.3.3 その他の留意点

- 1 積雪量と荷重** … 積雪量および荷重は、これらの規定値に対応していれば安全と言う意味ではありません。通常(規定値)は1m<sup>3</sup>当たり3,000Nの場合でも、適切な処理(除雪など)をおこたってそのまま放置すると雪の密度が上がり、積雪単位荷重が5,000Nを超えることもあります。そうなる前に適切な処理をおこなう必要があります。
- 2 落雪** … 上層部からの落雪が考えられる場合は、RDダクトに落雪が当たらないように防雪屋根を設けたり落雪を防止する措置や堆雪場が必要となる場合があります。
- 3 残雪** … 日照条件によっては雪が融けずに残り、その上に新たに雪が積もることで想定されているよりも積雪量や単位荷重が増えることがあります。
- 4 吹きだまり** … 風向きや周囲の環境によっては通常より多い積雪量となる場合があります。

## 5.4 銅管

### 5.4.1 銅管規格表

<表5.4.1-1> 銅管規格表

種別	空調用銅管			建築(給湯・給水)用銅管			
	銅管外径 (mm)	呼び径	肉厚(mm)		呼び径	肉厚(mm)	
			汎用	監理指針		L	M
	6.35	2分	0.8	0.80			
	9.52	3分	0.8	0.80	2分	0.76	
	12.70	4分	0.8	0.80	3分	0.89	0.64
	15.88	5分	1.0	1.00	4分	1.02	0.71
	19.05	6分	1.0	1.05	5分	1.07	
	22.22	7分	1.0	1.20	6分	1.14	0.81
	25.40	1吋	1.0	1.35			
	28.58	1吋1分	1.0	1.55	1吋	1.27	0.89
	31.75	1吋2分	1.1	1.70			
	34.92	1吋3分	1.1	1.85	1吋2分	1.40	1.07
	38.10	1吋4分	1.15	2.00			
	41.28	1吋5分	1.2	2.15	1吋4分	1.52	1.24

### 5.4.2 配管重量(参考値)

<表5.4.2-1> 被覆銅管の製品重量

銅管外径	銅管仕様 銅管肉厚	製品重量 (kg/m)		
		保温材厚 10mm	保温材厚 20mm	保温材厚 15mm
6.35	0.8	0.14 <sup>*1</sup>	0.18	—
9.52	0.8	0.21 <sup>*1</sup>	0.26	0.24
12.70	0.8	0.29	0.34	0.32
15.88	1.0	0.45	0.49	0.47
19.05	1.0	0.54	—	—
	1.05	0.56	0.61	
	1.2	0.63	—	
22.22	1.0	0.63	0.68	—
	1.2	0.74	0.80	
25.40	1.0	0.72	0.78	—
	1.35	—	1.01	
28.58	1.0	0.81	0.88	—
	1.55	—	1.28	
31.75	1.1	0.99	1.05	—
	1.7	—	1.54	
34.92	1.1	1.09	1.16	—
	1.85	—	1.83	
38.10	1.35	1.46	—	—
	2.0	—	2.15	
41.28	1.45	1.68	1.75	—
	2.15	—	2.49	
44.45	1.55	1.92	2.00	—
	2.3	—	2.86	
50.80	1.4	2.04 <sup>*2</sup>	2.07	—
	2.65	—	3.73	
53.98	1.5	2.32 <sup>*2</sup>	—	—
	2.8	—	4.18	

(注1) 表中数値は理論値による計算値であり、実測値ではありません。

※1…保温材厚さは、8mmとする。

※2…保温材厚さは、15mmとする。

## 5.5 SI単位

### 5.5.1 SI単位表

SI基本単位

長さ	メートル	m
質量	キログラム	kg
時間	秒	s
電流	アンペア	A
熱力学的温度	ケルビン	K
物質質量	モル	mol
光度	カンデラ	cd

SI補助単位

平面角	ラジアン	rad
立体角	ステラジアン	sr

SI接頭語

単位に乘せられる 倍数	記号	名称	単位に乘せられる 倍数	記号	名称
10 <sup>18</sup>	E	エクサ	10 <sup>9</sup>	d	デシ
10 <sup>15</sup>	P	ペタ	10 <sup>8</sup>	c	センチ
10 <sup>12</sup>	T	テラ	10 <sup>6</sup>	m	ミリ
10 <sup>9</sup>	G	ギガ	10 <sup>3</sup>	μ	マイクロ
10 <sup>6</sup>	M	メガ	10 <sup>2</sup>	n	ナノ
10 <sup>3</sup>	k	キロ	10 <sup>-2</sup>	p	ピコ
10 <sup>2</sup>	h	ヘクト	10 <sup>-5</sup>	f	フェムト
10 <sup>1</sup>	da	デカ	10 <sup>-8</sup>	a	アト

### 5.5.2 SI単位換算表

(太線で囲んである単位が、SIによる単位です。)

力	N	dyn	kgf
	1	1 × 10 <sup>5</sup>	1.019 72 × 10 <sup>-1</sup>
	1 × 10 <sup>-5</sup>	1	1.019 72 × 10 <sup>-6</sup>
	9.806 65	9.806 65 × 10 <sup>5</sup>	1

粘度	Pa·s	cP	P
	1	1 × 10 <sup>6</sup>	1 × 10
	1 × 10 <sup>-3</sup>	1	1 × 10 <sup>-2</sup>
	1 × 10 <sup>-1</sup>	1 × 10 <sup>6</sup>	1

注 1P=1dyn·s/cm<sup>2</sup>=1g/cm·s、  
1Pa·s=1N·s/m<sup>2</sup>、1cP=1mPa·s

応力	Pa又はN/m <sup>2</sup>	MPa又はN/mm <sup>2</sup>	kgf/mm <sup>2</sup>	kgf/cm <sup>2</sup>
	1	1 × 10 <sup>-6</sup>	1.019 72 × 10 <sup>-7</sup>	1.019 72 × 10 <sup>-5</sup>
	1 × 10 <sup>6</sup>	1	1.019 72 × 10 <sup>-1</sup>	1.019 72 × 10
	9.806 65 × 10 <sup>6</sup>	9.806 65	1	1 × 10 <sup>2</sup>
	9.806 65 × 10 <sup>4</sup>	9.806 65 × 10 <sup>-2</sup>	1 × 10 <sup>-2</sup>	1

動粘度	m <sup>2</sup> /s	cSt	St
	1	1 × 10 <sup>6</sup>	1 × 10 <sup>4</sup>
	1 × 10 <sup>-6</sup>	1	1 × 10 <sup>-2</sup>
	1 × 10 <sup>-4</sup>	1 × 10 <sup>6</sup>	1

注 1St=1cm<sup>2</sup>/s、1cSt=1mm<sup>2</sup>/s

注 1Pa=1N/m<sup>2</sup>、1MPa=1N/mm<sup>2</sup>

圧力	Pa	kPa	MPa	bar	kgf/cm <sup>2</sup>	atm	mmHg	mmHg 又はTorr
	1	1 × 10 <sup>-3</sup>	1 × 10 <sup>-6</sup>	1 × 10 <sup>-5</sup>	1.019 72 × 10 <sup>-5</sup>	9.869 23 × 10 <sup>-6</sup>	1.019 72 × 10 <sup>-1</sup>	7.500 62 × 10 <sup>-3</sup>
	1 × 10 <sup>3</sup>	1	1 × 10 <sup>-3</sup>	1 × 10 <sup>-2</sup>	1.019 72 × 10 <sup>-2</sup>	9.869 23 × 10 <sup>-3</sup>	1.019 72 × 10 <sup>2</sup>	7.500 62
	1 × 10 <sup>6</sup>	1 × 10 <sup>3</sup>	1	1 × 10	1.019 72 × 10	9.869 23	1.019 72 × 10 <sup>5</sup>	7.500 62 × 10 <sup>3</sup>
	1 × 10 <sup>9</sup>	1 × 10 <sup>6</sup>	1 × 10 <sup>-1</sup>	1	1.019 72	9.869 23 × 10 <sup>-1</sup>	1.019 72 × 10 <sup>8</sup>	7.500 62 × 10 <sup>6</sup>
	9.806 65 × 10 <sup>4</sup>	9.806 65 × 10	9.806 65 × 10 <sup>-2</sup>	9.806 65 × 10 <sup>-1</sup>	1	9.678 41 × 10 <sup>-1</sup>	1 × 10 <sup>4</sup>	7.355 59 × 10 <sup>2</sup>
	1.013 25 × 10 <sup>6</sup>	1.013 25 × 10 <sup>3</sup>	1.013 25 × 10 <sup>-1</sup>	1.013 25	1.033 23	1	1.033 23 × 10 <sup>4</sup>	7.600 00 × 10 <sup>2</sup>
	9.806 65	9.806 65 × 10 <sup>-3</sup>	9.806 65 × 10 <sup>-6</sup>	9.806 65 × 10 <sup>-5</sup>	1 × 10 <sup>-4</sup>	9.678 41 × 10 <sup>-5</sup>	1	7.355 59 × 10 <sup>-2</sup>
	1.333 22 × 10 <sup>2</sup>	1.333 22 × 10 <sup>-1</sup>	1.333 22 × 10 <sup>-4</sup>	1.333 22 × 10 <sup>-3</sup>	1.359 51 × 10 <sup>-3</sup>	1.315 79 × 10 <sup>-3</sup>	1.359 51 × 10	1

注 1Pa=1N/m<sup>2</sup>

仕事・エネルギー・熱量	J	kW·h	kgf·m	kcal
	1	2.777 78 × 10 <sup>-7</sup>	1.019 72 × 10 <sup>-1</sup>	2.388 89 × 10 <sup>-4</sup>
	3.600 × 10 <sup>6</sup>	1	3.670 98 × 10 <sup>6</sup>	8.600 0 × 10 <sup>2</sup>
	9.806 65	2.724 07 × 10 <sup>-6</sup>	1	2.342 70 × 10 <sup>-3</sup>
	4.186 05 × 10 <sup>3</sup>	1.162 79 × 10 <sup>-3</sup>	4.268 58 × 10 <sup>2</sup>	1

注 1J=1W·s、1J=1N·m  
1cal=4.18605J(計算法による)

仕事率・工率・動力・熱流	W	kgf·m/s	PS	kcal/h
	1	1.019 72 × 10 <sup>-1</sup>	1.359 62 × 10 <sup>-3</sup>	8.600 0 × 10 <sup>-1</sup>
	9.806 65	1	1.333 33 × 10 <sup>-2</sup>	8.433 71
	7.355 × 10 <sup>2</sup>	7.5 × 10	1	6.325 29 × 10 <sup>2</sup>
	1.162 79	1.185 72 × 10 <sup>-1</sup>	1.580 95 × 10 <sup>-3</sup>	1

注 1W=1J/s、PS：仏馬力  
1PS=0.735kW(計算法による)  
1cal=4.18605J(計算法による)

熱伝導率	W/(m·K)	kcal/(h·m <sup>2</sup> ·°C)
	1	8.600 0 × 10 <sup>-1</sup>
	1.162 79	1

注 1cal=4.18605J(計算法による)

熱伝達係数	W/(m <sup>2</sup> ·K)	kcal/(h·m <sup>2</sup> ·°C)
	1	8.600 0 × 10 <sup>-1</sup>
	1.162 79	1

注 1cal=4.18605J(計算法による)

比熱	J/(kg·K)	kcal/(kg·°C)
	1	2.388 89 × 10 <sup>-4</sup>
	4.186 05 × 10 <sup>3</sup>	1

注 1cal=4.18605J(計算法による)

## スチムコクトRD 設計施工資料

1989年	7月	Ver 1.00	2000年	4月	Ver 4.00	2006年	10月	Ver 7.00
1993年	9月	Ver 2.00	2001年	9月	Ver 5.00	2013年	1月	Ver 8.00
1998年	9月	Ver 3.00	2004年	1月	Ver 6.00	2016年	4月	Ver 9.00
						2020年	1月	Ver 10.00

因幡電機産業株式会社 因幡電工カンパニー

Beautiful Line  
スリムタクトRD  
設計・施工資料

## 因幡電工カンパニー

因幡電機産業株式会社

<https://www.INABA-DENKO.com/>

札幌営業所 〒060-0034 北海道札幌市中央区北4条東1-2-3 札幌フコク生命ビル(2F) ☎(011)209-1784(代) FAX(011)209-1789  
仙台営業所 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-3 仙台MTビル(12F) ☎(022)293-1785(代) FAX(022)293-1802  
関東営業所 〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-10-2 GINZA YAMATO 3ビル(2F) ☎(048)642-1783(代) FAX(048)642-1756  
首都圏1課 〒108-0075 東京都港区港南4-1-8 リバージュ品川(11F) ☎(03)5783-1723(代) FAX(03)3474-1718  
首都圏2課 〒108-0075 東京都港区港南4-1-8 リバージュ品川(11F) ☎(03)5783-1724(代) FAX(03)3474-1719  
横浜営業所 〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-5-5 住友不動産新横浜ビル(10F) ☎(045)470-1780(代) FAX(045)470-1798  
名古屋営業所 〒450-6428 愛知県名古屋市中村区名駅3-28-12 大名古屋ビルヂング(28F) ☎(052)541-1780(代) FAX(052)541-1791  
金沢営業所 〒920-0853 石川県金沢市本町2-11-7 金沢フコク生命駅前ビル(6F) ☎(076)262-1783(代) FAX(076)262-1787  
近畿1課 〒550-0012 大阪府大阪市西区立売堀4-11-14(10F) ☎(06)4391-1940(代) FAX(06)4391-1945  
近畿2課 〒550-0012 大阪府大阪市西区立売堀4-11-14(10F) ☎(06)4391-1732(代) FAX(06)4391-1945  
広島営業所 〒730-0022 広島県広島市中区銀山町3-1 ひろしまハイビル21(12F) ☎(082)545-1132(代) FAX(082)545-1134  
九州1課 〒812-0026 福岡市博多区上川端町12-20 ふくぎん博多ビル(9F) ☎(092)283-1751(代) FAX(092)262-1787  
九州2課 〒812-0026 福岡市博多区上川端町12-20 ふくぎん博多ビル(9F) ☎(092)283-1785(代) FAX(092)262-1787  
広域1課(大阪) 〒550-0012 大阪府大阪市西区立売堀4-11-14(10F) ☎(06)4391-1713(代) FAX(06)4391-1945  
広域2課(東京) 〒108-0075 東京都港区港南4-1-8 リバージュ品川(11F) ☎(03)5783-1722(代) FAX(03)3474-1716  
東京推進課 〒108-0075 東京都港区港南4-1-8 リバージュ品川(11F) ☎(03)5783-1721(代) FAX(03)3474-1715  
大阪推進課 〒550-0012 大阪府大阪市西区立売堀4-11-14(10F) ☎(06)4391-1941(代) FAX(06)4391-1920  
茨城工場 〒308-0857 茨城県筑西市小川1909下館第二工業団地 ☎(0296)28-5990(代) FAX(0296)28-6998  
奈良工場 〒639-2261 奈良県御所市城山台166-23 ☎(0745)66-1780(代) FAX(0745)66-1785  
福岡工場 〒838-0112 福岡県小郡市干潟839-3 ☎(0942)72-9771(代) FAX(0942)72-0941  
関東物流センター 〒308-0857 茨城県筑西市小川1909下館第二工業団地 ☎(0296)28-5831(代) FAX(0296)28-6691  
東京物流センター 〒136-0082 東京都江東区新木場2-5-5 ☎(03)5569-1783(代) FAX(03)5569-1782  
大阪物流センター 〒554-0041 大阪市此花区北港台津1-1-38 (株)アビエイジ 大阪舞洲物流センター内 ☎(06)4804-1144(代) FAX(06)4804-1302  
九州物流センター 〒838-0112 福岡県小郡市干潟839-3 ☎(0942)72-9771(代) FAX(0942)72-0941